第10表　黒河尺目遺跡土器・土製品一覧（５）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	建　物	座　標	種　類	器　種	法量(cm)				色調(記号)	色調(和名)	時　期	詳細時期	備　考
								口径	器高	底径	高台径					
27	252	30	SX8			縄文土器	深鉢					2.5Y6/2	灰黄色	後期前葉	気屋	
	253		SX8			縄文土器	深鉢					7.5YR7/4	にぶい橙色	中期後葉	串田新Ⅰ	
	254	30	SX8			縄文土器	深鉢					7.5YR7/4	にぶい橙色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	255	30	SX8			縄文土器	深鉢					10YR6/2	灰黄褐色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	256		SX8			縄文土器	深鉢					10YR7/3	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	257		SX8			縄文土器	深鉢					7.5YR6/4	にぶい橙色	中期後葉？		
	258	30	SX8			縄文土器	深鉢					2.5Y7/3	浅黄色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	259		SX8			縄文土器	深鉢					10YR5/2	灰黄褐色	後期前葉	気屋	
	260	30	SX8			縄文土器	深鉢					7.5YR6/4	にぶい橙色	後期前葉	気屋	
	261	30	SX8			縄文土器	深鉢					10YR6/2	灰黄褐色	中期後葉？		
	262	30	SX8			縄文土器	深鉢					10YR6/2	灰黄褐色			撚糸？
	263	30	SX8			縄文土器	深鉢					10YR7/3	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅰ？	
	264	30	SX8			縄文土器	深鉢					10YR6/3	にぶい黄橙色	中期？		
	265	30	SX370			縄文土器	深鉢					10YR6/3	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅰ	
	266		SX370			縄文土器	深鉢					7.5YR6/3	にぶい褐色	中期後葉	串田新Ⅰ	
	267		SX370			縄文土器	深鉢					10YR7/3	にぶい黄橙色	中期後葉～中期末葉	串田新Ⅱ～岩峅野	
	268		SX370			縄文土器	深鉢					7.5YR7/4	にぶい橙色	中期後葉？		
	269	30	SX370			縄文土器	深鉢					10YR7/3	にぶい黄橙色	中期後葉？		
	270	30	SX370			縄文土器	深鉢					7.5YR7/4	にぶい橙色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	271	23	SX370			縄文土器	深鉢					7.5YR6/4	にぶい橙色	後期前葉	岩峅野	
	272	30	SX370			縄文土器	深鉢					10YR5/2	灰黄褐色	後期前葉	岩峅野	
	273	32	SK1412			土製品	円板状土製品	4.3	4.4	0.7	17.48	7.5YR6/6	橙色	縄文		
	274	32			X210Y86　Ⅰ	土製品	円板状土製品	5.0	4.7	0.9	22.29	10YR5/2	灰黄褐色	縄文		
	275	32			X210Y88　Ⅰ	土製品	円板状土製品	2.7	2.65	0.8	6.09	7.5YR6/3	にぶい褐色	縄文		
	276	31			X210Y86　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR6/3	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅰ	
	277				X207Y91　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR7/4	にぶい黄橙色	中期後葉？		
	278	31			X207Y94　Ⅰ	縄文土器	浅鉢					10YR6/3	にぶい黄橙色	中期後葉？		補修孔あり
	279	31			X210Y98　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR7/3	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅱ？	
	280	31			X210Y90　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR7/4	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅱ？	
	281				X207Y89　Ⅰ	縄文土器	深鉢					2.5Y5/2	暗灰黄色	中期後葉？		
	282				X210Y86　Ⅰ	縄文土器	深鉢					5YR7/6	橙色	中期後葉？		
	283	31			X210Y89　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR7/4	にぶい黄橙色	中期中葉　新		
	284				X207Y88　Ⅰ	縄文土器	深鉢					7.5YR6/6	橙色	中期後葉	串田新Ⅰ	
	285				X210Y81　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR6/4	にぶい黄橙色	中期中葉？		
28	286	31			X206Y89　Ⅰ	縄文土器	深鉢					7.5YR7/3	にぶい橙色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	287				X209Y90　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR7/4	にぶい黄橙色	中期後葉～中期末葉	串田新Ⅱ～岩峅野	
	288				X207Y85　Ⅰ	縄文土器	浅鉢					7.5YR7/6	橙色	中期中葉		
	289				X206Y81　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR6/3	にぶい黄橙色	中期？		
	290				X210Y86　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR8/3	浅黄橙色	中期？		
	291	31			X207Y92　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR7/4	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅰ	
	292				X209Y86　Ⅰ	縄文土器	深鉢					7.5YR7/4	にぶい橙色	後期？		
	293	31			X207Y83　Ⅰ	縄文土器	深鉢					7.5YR6/4	にぶい橙色	中期後葉	串田新Ⅰ	
	294	31			X207Y88　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR7/4	にぶい黄橙色	中期前葉	新保・新崎Ⅳ？	
	295	31			X207Y91　Ⅰ	縄文土器	深鉢					7.5YR6/6	橙色	中期後葉～中期末葉	串田新Ⅱ～岩峅野	
	296				X206Y84　Ⅰ	縄文土器	深鉢					7.5YR8/3	浅黄橙色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	297	31			X210Y87　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR7/4	にぶい黄橙色	中期前葉～中期中葉		
	298	31			X210Y87　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR7/4	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	299	31			X206Y92　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR7/3	にぶい黄橙色	中期後葉		
	300	31			X210Y90　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR6/3	にぶい黄橙色	中期前葉		
	301				X210Y88　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR6/4	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅰ	
	302				X207Y89　Ⅰ	縄文土器	深鉢		(2.2)	7.8		7.5YR6/6	橙色	中期？		
	303				X184Y74　Ⅰ	縄文土器	深鉢		(7.4)	11.6		10YR6/3	にぶい黄橙色	中期後葉		
	304	31			X183Y74　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR6/2	灰黄褐色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	305	31			X183Y74　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR6/3	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	306	31			X184Y74　Ⅰ	縄文土器	深鉢					7.5YR7/4	にぶい橙色	中期後葉	串田新Ⅱ？	
	307	31			X183Y74　Ⅰ	縄文土器	深鉢					7.5YR6/4	にぶい橙色	晩期中葉	中屋	
	308	31			X183Y74　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR7/3	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅰ～Ⅱ	
	309	31			X183Y74　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR7/3	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅰ？	
	310	31			X184Y74　Ⅰ	縄文土器	深鉢					10YR6/4	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅱ？	
	311	31			X183Y74　Ⅰ	縄文土器	深鉢					7.5YR6/4	にぶい橙色	中期後葉～中期末葉	串田新Ⅱ～岩峅野	

第10表　黒河尺目遺跡土器・土製品一覧（6）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	建　物	座　標	種　類	器　種	法量(cm)				色調(記号)	色調(和名)	時　期	詳細時期	備　考
								口径	器高	底径	高台径					
28	312	31			X183Y80　I	縄文土器	深鉢					10YR7/3	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅰ	
	313	31			X183Y74　I	縄文土器	深鉢					7.5YR7/4	にぶい橙色	中期後葉	串田新Ⅰ	
	314	31			X184Y74　I	縄文土器	深鉢					10YR6/3	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅱ？	
	315	31			X184Y77　I	縄文土器	深鉢					7.5YR6/3	にぶい褐色	中期後葉	串田新Ⅰ	
	316				X183Y75　I	縄文土器	深鉢					7.5YR7/4	にぶい橙色	中期後葉	串田新Ⅰ	
	317	31			X183Y74　I	縄文土器	深鉢					10YR6/4	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	318				X183Y74　I	縄文土器	深鉢					10YR6/3	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅰ？	
	319	22			KKJ14T	縄文土器	器台	15.6	(1.4)			10YR6/3	にぶい黄橙色	中期中葉		漆付着
	320				KKJ15T	縄文土器	浅鉢？	7.0	(3.7)			10YR7/3	にぶい黄橙色	中期中葉		小型・手捏
29	321	34			X189Y81　I	土製品	土偶	3.4	3.9	2.4	23.75	7.5YR7/6	橙色	中期前葉		
	322	34			X200Y81　I	土製品	土偶	3.6	3.2	1.2	18.29	10YR8/4	浅黄橙色	中期後葉～後期前葉		
	323	33			KKJ15T	土製品	土偶	5.8	5.6	1.1	40.41	10YR7/4～6/4	にぶい黄橙色	中期後葉～後期前葉		
	324	33			X205Y80　I	土製品	土偶	5.3	6.0	1.4	43.88	10YR7/4	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新	
	325	33			X184Y74　I	土製品	土偶	8.6	5.1	2.0	100.41	5YR6/6	橙色	中期後葉		
	326	32			X184Y74　I	土製品	三角壕形土製品	3.1	3.3	4.0	46.43	2.5Y7/2	灰黄色	中期中葉～後葉		
61	414		SP744	SB4		須恵器	杯A		(1.4)	8.8		2.5Y6/1	黄灰色		8C後～9C前	
	415		SP55	SB5		須恵器	杯B		(1.5)		6.9	7.5Y5/1	灰色		8C後	
	416	50	SP128	SB6		珠洲	擂鉢		(5.4)	10.2		2.5Y8/1～7/1	灰白色			外面黒変?10YR4/1褐灰色
	417		SP160	SB8		須恵器	杯B		(2.1)		7.4	5Y6/1	灰色		8C後	
	418	41	SP1447	SB11		土師器	鍋	33.4	(2.3)			7.5YR7/4	にぶい橙色		9C後	骨針
	419		SP396	SB12		須恵器	長頸瓶		(5.7)			10YR6/1	褐灰色		9C代	
	420		SP225	SB14		須恵器	杯	12.0	(2.5)			5Y6/1	灰色			
	421	41	SP454	SB17		土師器	鍋	33.4	(2.7)			10YR7/3	にぶい黄橙色		10C前	骨針
	422		SP452	SB17		土師器	皿	9.9	(2.5)			7.5YR7/4	にぶい橙色		9C後	
	423		SP435	SB19		土師器	内黒椀		(3.3)			10YR7/4	にぶい黄橙色		9C代	
	424	44	SP439	SB19		土師器	皿B		(2.0)		7.0	10YR8/4	浅黄橙色		9C第4	赤彩2.5YR5/6明赤褐色
	425		SP466	SB19		須恵器	杯A		(0.9)			7.5Y6/1	灰色		9C代	
	426	48	SP600	SB24		土師器	皿	7.8	(1.2)			10YR7/4	にぶい黄橙色		13C末	
	427	49	SP1159	SB39		白磁	椀	14.0	(2.6)			5Y7/1	灰白色		12C末～13C	釉5Y6/2灰オリーブ色
	428	50	SP1207, SP1198	SB40, SB41		珠洲	擂鉢	24.0	(9.2)			5Y6/1	灰色	Ⅱ期	13C前	
	429		SP1318	SB44		須恵器	壺蓋	11.6	(3.0)			2.5Y5/1	黄灰色		8C後	
65	430		SD2		X228Y94	須恵器	杯蓋	16.0	(1.0)			2.5Y7/1	灰白色		8C中	
	431	35	SD2		X228Y94	須恵器	杯蓋		(1.9)			2.5Y7/1	灰白色		8C後	
	432	35	SD2		X225Y88	須恵器	杯蓋		(2.2)			N6/	灰色		8C後	
	433		SD2		X228Y94	須恵器	杯A		(1.7)	7.1		7.5Y6/1	灰色		8C第3	
	434	50	SD2		X217Y83	珠洲	鉢	28.4	(3.7)			5B5/1	青灰色	Ⅴ期	14C後	
	435	36	SD10		X234Y105	須恵器	杯B		(2.7)		7.1	N6/	灰色			
	436	35	SD11			須恵器	杯蓋	17.0	(1.9)			2.5Y6/1	黄灰色		8C後	
	437	35	SD11		X153Y73	須恵器	杯蓋	11.8	(1.6)			N6/	灰色		9C前	
	438		SD11		X152Y76	須恵器	杯B		(2.1)		6.3	N6/	灰色		8C代	
	439		SD11		X150Y72	須恵器	杯B		(2.2)		8.0	7.5Y6/1	灰色		8C後	
	440		SD11		X151Y74	須恵器	杯B		(2.9)		9.6	2.5Y8/3	淡黄色		8C代	
	441	63	SD11		X149Y69	土製品	土錘	5.3	3.2	1.3	38.2	10YR7/6	明黄褐色			
	442		SD11		X152Y76	珠洲	甕					2.5Y6/1	黄灰色	Ⅱ期？	13C前	
	443	50	SD11		X152Y77	珠洲	鉢	28.0	(6.0)			5B4/1	暗青灰色	Ⅲ期	13C中	
	444	50	SD11		X149Y67	珠洲	鉢	29.0	(3.9)			N4/	灰色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	445		SD450		X180Y88	須恵器	杯蓋	12.6	(1.6)			5Y5/1	灰色		8C中	
	446	35	SD656		X201Y82	須恵器	杯蓋	16.0	(1.0)			2.5Y6/1	黄灰色		9C代	
	447	36	SD656		X203Y83	須恵器	杯	13.2	(2.8)			5Y6/1	灰色		8C後	
	448	38	SD656		X203Y83	須恵器	横瓶	11.0	(4.7)			10YR7/2	にぶい黄橙色		8C代	
	449	47	SD656		X197Y81	土師器	皿	12.0	(2.1)			10YR7/4	にぶい黄橙色		13C前	
	450	50	SD656		X201Y82	珠洲	鉢	21.6	(6.6)			10BG4/1	暗青灰色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	451	49	SD656		X200Y82	珠洲	甕					7.5Y6/1	灰色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	452		SD656		X208Y82	珠洲	甕					7.5Y6/1	灰色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	453	36	SD669		X205Y85	須恵器	杯B		(1.9)		6.4	5Y7/1	灰白色			
	454	49	SD669			灰釉陶器	瓶		(4.6)			5GY6/1	オリーブ灰色		10C～11C	
	455	35	SD795		X200Y92	須恵器	杯蓋		(1.7)			2.5Y6/1	黄灰色		8C後	
	456	35	SD795		X202Y91	須恵器	杯蓋	11.8	(1.7)			2.5Y7/1	灰白色		9C前	
	457		SD795		X207Y91	須恵器	杯蓋	17.2	(1.8)			5Y6/1	灰色		8C後	
	458		SD795		X215Y89	須恵器	壺蓋	10.8	(3.0)			7.5Y5/1	灰色		8C代	

第10表　黒河尺目遺跡土器・土製品一覧（7）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	建　物	座　標	種　類	器　種	法量(cm)				色調(記号)	色調(和名)	時　期	詳細時期	備　考
								口径	器高	底径	高台径					
65	459	36	SD795		X200Y92	須恵器	杯A	13.7	(3.0)	9.5		N6/	灰色		8C後	
	460	36	SD795		X202Y91	須恵器	杯	13.9	(3.2)			2.5Y6/2	灰黄色		8C代	
	461		SD795		X206Y91	須恵器	杯	13.6	(3.3)			2.5Y7/2	灰黄色		8C代	
	462	46	SD795		X209Y90	土師器	椀		(1.25)	4.9		10YR7/3	にぶい黄橙色		12C前	骨針
	463	36	SD795		X207Y91	須恵器	杯B		(2.1)		6.6	10Y5/1	灰色		8C後	
	464	38	SD795		X207Y91	須恵器	双耳瓶					5Y6/1	灰色		9C後	
	465		SD795		X201Y91	土師器	皿	14.4	(2.0)			2.5Y5/1	黄灰色		13C代	
	466		SD795		X213Y89	土師器	皿	11.2	(2.0)			7.5YR7/6	橙色		13C中	
	467	49	SD795		X201Y91	珠洲	甕					2.5Y5/1	黄灰色			
	468		SD795		X201Y91	珠洲	甕					5Y6/1	灰色			
	469	48	SD875			土師器	皿	7.4	(1.8)			10YR7/4	にぶい黄橙色		13C中	
	470	50	SD875			珠洲	擂鉢		(2.8)	13.0		2.5Y6/1	黄灰色	Ⅱ期	13C前	
69	476		SE43			須恵器	杯	13.0	(4.0)			5Y6/1	灰色		9C代	
	477		SE43		X160Y76	土師器	鍋	20.0	(1.8)			7.5YR8/4	浅黄橙色		9C代？	
	478		SE43			土師器	椀		(2.4)	7.3		10YR7/4	にぶい黄橙色		12C前	骨針
	479	46	SE43			土師器	椀		(1.9)	4.3		10YR7/2	にぶい黄橙色		12C前	骨針
	480	45	SE43		X160Y76	土師器	皿	8.0	1.8	4.6		10YR7/3	にぶい黄橙色		12C前	
	481	35	SE167			須恵器	杯蓋		(1.9)			5Y7/1	灰白色		8C後	
	482		SE167			須恵器	杯B		(1.8)		6.0	N6/	灰色		9C代？	
	483	38	SE167			珠洲	壺		(3.8)			N6/	灰色		～13C中	
	484	48	SE167			土師器	皿	12.6	(2.2)			10YR6/4	にぶい黄橙色		13C前	
	485		SE167			土師器	鉢 or 盤	34.2	(4.0)			7.5YR7/4	にぶい橙色		8C代？	骨針
	486		SE167			土師器	甕	23.7	(2.4)			7.5YR6/4	にぶい橙色		8C後	骨針
	487		SE167			須恵器	甕	21.0	(7.4)			2.5Y6/2	灰黄色			
	488		SE260			須恵器	杯蓋	15.6	(1.6)			5Y6/1	灰色		8C第3	
	489		SE260			土師器	椀		(1.2)	5.5		10YR7/3	にぶい黄橙色		10C～11C	骨針
	490	47	SE486			土師器	皿	8.4	2.6	4.4		7.5YR6/4	にぶい橙色		11C末～12C	
	491	46	SE486			土師器	椀		(2.0)	4.35		10YR7/3	にぶい黄橙色		12C前	骨針
	492		SE486			須恵器	甕					2.5Y6/1	黄灰色			
	493		SE575			須恵器	杯蓋		(2.3)			2.5Y6/1	黄灰色		8C後	
	494		SE781			須恵器	皿	11.2	(2.5)			5Y5/1	灰色		8C代	
	495	49	SE781			珠洲	甕					5Y4/1	灰色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	496		SE850			須恵器	杯A	11.8	2.9	8.2		7.5Y5/1	灰色		8C後	
	497	36	SE850			須恵器	杯B		(3.2)		10.3	N5/	灰色		8C後	
	498	38	SE853			須恵器	長頸瓶		(11.0)			2.5Y7/1	灰白色		8C第3	細頸瓶か
	499	46	SE1179			土師器	椀		(2.5)	6.0		10YR6/3	にぶい黄橙色		10C～11C	骨針
	500	48	SE1179			土師器	皿	9.8	(1.4)			7.5YR6/4	にぶい橙色		13C中	
	501	47	SE1179			土師器	皿	15.9	(2.2)			10YR5/2	灰黄褐色		13C前	
	502	38	SE1179			珠洲	壺		(9.1)	12.4		5Y5/1	灰色	Ⅱ期？	13C前	
	503		SE1349			土師器	皿	13.6	3.8	8.2		10YR8/3	浅黄橙色		12C～13C	
	504		SE1349			土師器	椀		(2.3)	7.6		10YR7/4	にぶい黄橙色		12C前	骨針
	505		SE1349			須恵器	壺					5Y6/1	灰色			
	506		SE1408			須恵器	杯B		(1.1)		6.6	N5/	灰色			
79	511		SK3		X218Y870	須恵器	壺		(2.0)	4.0		2.5Y6/1	黄灰色		9C後	底部糸切り
	512	46	SK3			土師器	椀		(1.9)	4.3		7.5YR7/4	にぶい橙色		12C前	骨針
	513	49	SK3		X219Y88	白磁	椀	17.4	(2.7)			7.5Y8/1	灰白色		12C末～13C	釉7.5Y7/1灰白色，Ⅳ類
	514	49	SK3			白磁	椀	16.0	(3.3)			N7/	灰白色		12C末～13C	釉5Y7/3浅黄色，Ⅱ類
	515		SK6			須恵器	杯A		(1.3)	7.3		7.5Y6/1	灰色			
	516	46	SK6			土師器	椀		(1.1)	4.9		2.5YR6/4	にぶい橙色		12C前	骨針
	517	48	SK6			土師器	皿	9.1	(1.9)			7.5YR6/6	橙色		13C前	
	518	47	SK6			土師器	皿	8.7	2.0	3.8		7.5YR6/4	にぶい橙色		11C末～12C	
	519		SX8			須恵器	杯	11.4	(2.6)			5Y6/1	灰色			
	520	36	SX8			須恵器	杯	12.0	(3.0)			5Y6/1	灰色			
	521		SX8		X85Y86	須恵器	杯B		(2.3)		8.2	7.5Y6/1	灰色		8C後	
	522		SK19			土師器	甕	19.9	(2.6)			10YR6/4	にぶい黄橙色		8C後	骨針
	523		SK44			須恵器	杯B		(1.6)		7.8	5Y6/1	灰色		8C後	
	524		SK156			須恵器	壺					2.5Y6/1	黄灰色		8C代？	
	527	35	SK159			須恵器	杯蓋	13.2	(2.2)			7.5Y6/1	灰色		9C前	
	528		SK174			土師器	甕	19.9	(2.6)			7.5YR6/4	にぶい橙色		8C後	骨針
	529		SK174			須恵器	壺	24.3	(2.9)			2.5Y6/1	黄灰色		8C代？	

第10表　黒河尺目遺跡土器・土製品一覧（8）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	建　物	座　標	種　類	器　種	法量(cm)				色調(記号)	色調(和名)	時　期	詳細時期	備　考
								口径	器高	底径	高台径					
79	530		SK184			須恵器	杯B		(1.2)		7.2	7.5Y5/1	灰色			
	531		SK371			須恵器	杯B	11.3	3.9		7.6	7.5Y5/1	灰色		8C後	
	532		SK371			須恵器	杯B		(1.7)		8.0	5Y6/1	灰色		8C後	
	533		SK371			須恵器	杯B		(1.3)		6.0	2.5Y7/3	浅黄色		8C後	
	534		SK371			須恵器	杯	13.5	(3.6)			2.5Y7/2	灰黄色		8C後	
	535		SK371			須恵器	杯	9.9	(2.9)			N6/	灰色		8C後	
	536		SK371			須恵器	杯	13.2	(2.9)			2.5Y7/2	灰黄色		8C後	
	537	35	SK371			須恵器	杯蓋	17.0	(1.9)			N6/	灰色		9C中	
	538		SK371			須恵器	杯蓋	17.8	(2.0)			2.5Y7/2	灰黄色		8C前	
	539	41	SK371			土師器	小甕	8.9	7.3	5.0		10YR7/4	にぶい黄橙色		9C前	
	540	44	SK371			土師器	甕	14.2	(12.8)	8.0		10YR6/3	にぶい黄橙色		9C中	
	541	41	SK371			土師器	甕	27.6	(16.6)			7.5YR7/6	橙色		9C前	
	542	41	SK371			土師器	甕		(11.5)			7.5YR6/4	にぶい橙色		9C代？	
80	544	36	SK315			須恵器	杯A		(1.1)	7.0		5Y5/1	灰色			
	545		SK428			須恵器	杯A		(2.8)			2.5Y8/2	灰白色			
	546		SK421			須恵器	杯	12.9	(2.3)			10YR8/3	浅黄橙色			
	547		SK421			須恵器	横瓶		(24.4)			N6/	灰色		9C前？	
	548		SK421			土師器	甕	29.0	(2.7)			10YR8/4	浅黄橙色		9C前	骨針
	549		SK421			土師器	甕	33.8	(3.0)			7.5YR7/4	にぶい橙色		9C前	骨針
	550	40	SK431			須恵器	甕					7.5YR5/2	灰褐色			
	551		SK437			土師器	甕	25.9	(2.9)			7.5YR7/4	にぶい橙色		9C前	骨針
	552		SK465			須恵器	杯A		(1.8)			N6/	灰色			
	553	35	SK732			須恵器	杯蓋	14.6	(1.3)			2.5Y6/1	黄灰色		8C第3	
	554		SK933			須恵器	杯蓋		(1.1)			2.5Y6/1	黄灰色		8C代	
	555	38	SK933			須恵器	壺		(4.0)			2.5Y6/2	灰黄色		8C代？	
	556	49	SK846			青磁	椀					2.5Y7/1	灰白色	Ⅲ～Ⅳ期	13C中	釉5Y6/3オリーブ黄色
	557		SK955			須恵器	壺		(2.4)	9.6		10YR6/2	灰黄褐色		8C代	
	558	35	SK1055			須恵器	杯蓋		(1.9)			2.5Y7/1	灰白色		8C第2	
	559		SK551			須恵器	杯	13.4	(2.8)			7.5Y6/1	灰色			
	560	46	SK562			土師器	Ⅲ？		(0.9)	5.0		10YR6/4	にぶい黄橙色		11C代	赤彩2.5YR5/8明赤褐色
	561		SK585			土師器	椀	13.6	(2.9)			10YR8/3	浅黄橙色		9C後	
	562	36	SK591			須恵器	杯B	11.6	4.1		6.9	5Y3/1	オリーブ黒色		8C代	
	563	48	SK591			土師器	Ⅲ	10.5	(3.0)			7.5YR7/6	橙色		13C前	
	564	49	SK591			珠洲	甕					2.5Y6/1	黄灰色			
	565	48	SK668			土師器	Ⅲ	7.4	(1.3)			10YR7/4	にぶい黄橙色		13C末	
	566	47	SK800			土師器	Ⅲ	11.8	(3.0)			10YR6/4	にぶい黄橙色		13C前	
	567	48	SK800			土師器	Ⅲ	11.4	(2.2)			7.5YR7/6	橙色		13C中	
	568	48	SK800			土師器	Ⅲ	11.8	(2.1)			7.5YR7/6	橙色		13C前	
	571	47	SK825			土師器	Ⅲ	13.0	(2.7)			7.5YR7/6	橙色		13C前	
81	572		SK1259			須恵器	杯蓋	14.8	(2.4)			2.5Y8/2	灰白色		8C後	
	573	35	SK1259			須恵器	杯蓋	17.0	(1.6)			7.5Y6/1	灰色		9C前	
	574	37	SK1259			須恵器	杯A	11.8	3.3	6.5		2.5Y7/2	灰黄色		8C後	
	575		SK1259			須恵器	杯A	12.7	3.3	8.0		2.5Y7/3	浅黄色		8C後	
	576		SK1259			須恵器	杯A		(2.3)			2.5Y8/2	灰白色		8C後	
	577	36	SK1259			須恵器	杯A		(1.3)	7.4		2.5Y7/2	灰黄色		9C前	
	578	36	SK1259			須恵器	杯B		(2.7)		6.2	5Y6/1	灰色		8C後	
	579	38	SK1259			須恵器	長頸瓶		(12.8)			10YR7/2	にぶい黄橙色		8C代	
	580	42	SK1259			土師器	長胴甕	21.6	(11.7)			10YR7/4	にぶい黄橙色		8C代	
	581	44	SK1259			土師器	小型甕	10.8	10.8	6.1		10YR5/3	にぶい黄褐色		8C代	
	582	41	SK1289			土師器	甕	24.0	(2.7)			7.5YR6/4	にぶい橙色		9C前	骨針
	583	47	SX1344			土師器	Ⅲ	12.0	(3.0)			10YR6/3	にぶい黄橙色		12C末～13C	
	584	47	SX1344			土師器	Ⅲ	11.2	(2.6)			7.5YR7/4	にぶい橙色		13C前	
	585	45	SX1344			土師器	Ⅲ	7.35	1.8			10YR7/4	にぶい黄橙色		13C前	骨針
	586	48	SX1344			土師器	Ⅲ	6.6	(1.35)			10YR7/4	にぶい黄橙色		13C中	
	587	47	SX1344			土師器	Ⅲ	12.2	(2.3)			10YR8/1	灰白色		14C前	
	588	47	SX1344			土師器	Ⅲ	11.6	(2.2)			10YR8/2	灰白色		14C前	
	589		SX1344			土師器	Ⅲ	10.7	(2.2)			10YR8/3	浅黄橙色		12C後	
	590	50	SX1344			珠洲	鉢	22.7	(6.5)			N4/	灰色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	591	50	SX1344			珠洲	擂鉢					2.5Y5/1	黄灰色			
	592	49	SX1344			珠洲	甕		(7.3)			2.5Y5/1	黄灰色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	

第10表　黒河尺目遺跡土器・土製品一覧（9）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	建　物	座　標	種　類	器　種	法量(cm) 口径	器高	底径	高台径	色調(記号)	色調(和名)	時　期	詳細時期	備　考
81	593	49	SX1344			珠洲	甕					N5/	灰色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	594	49	SX1344			珠洲	甕					2.5Y5/1	黄灰色	Ⅳ～Ⅴ期	14C後	
	595	49	SX1344			珠洲	甕					2.5Y6/1	黄灰色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	596	49	SX1344			珠洲	甕					N5/	灰色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	597		SX1344			珠洲	甕					10YR6/2	灰黄褐色			
	598	36	SX1486			須恵器	杯A	13.0	3.8			2.5Y7/2	灰黄色		8C第3	
	599	37	SK1545			須恵器	杯A	12.6	3.7	9.3		2.5Y8/2	灰白色		8C後	
	600	44	SK1398			土師器	Ⅲ	8.6	2.15	4.4		2.5Y6/3	にぶい黄色		12C前	
	601	48	SK1498			土師器	Ⅲ	9.9	(1.9)			10YR5/2	灰黄褐色		13C中	
82	603		SX9		X185Y88	土師器	椀		(1.8)	4.2		10YR8/2	灰白色			
	604	49	SX360			青磁	椀	15.6	(3.6)			N7/	灰白色		13C前～中	釉7.5GY6/1緑灰色
	605	35	SK513			須恵器	杯蓋	13.8	(1.4)			7.5Y6/1	灰色		8C後	
	606	35	SK513			須恵器	杯蓋	15.2	(1.8)			7.5Y6/1	灰色		8C後	
	607		SK513			須恵器	杯B		(1.5)		10.0	N6/	灰色			
	608	36	SK513			須恵器	杯	13.3	(2.8)			2.5Y7/2	灰黄色			
	609		SK513			須恵器	杯	10.9	(2.8)			10YR5/2	灰黄褐色			
	610	36	SK513			須恵器	杯A		(2.0)	9.2		5Y6/1	灰色			
	611		SK513			須恵器	杯A		(1.5)	7.0		10Y6/1	灰色			
	612	41	SK513			土師器	鍋	20.0	(2.4)			10YR7/3	にぶい黄橙色			骨針
	613		SK513			土師器	甕	26.0	(2.5)			2.5Y8/3	淡黄色		8C後	骨針
	614				X167Y85　Ⅰ	須恵器	杯蓋		(1.9)			2.5Y6/1	黄灰色		8C後	
	615				X220Y84　Ⅰ	須恵器	杯蓋	9.8	(1.4)			5Y6/1	灰色		8C第1	
	616	35			X221Y92　Ⅰ	須恵器	杯蓋		(0.7)			7.5Y6/1	灰色			転用硯？
	617	35			X221Y84　Ⅰ	須恵器	杯蓋		(2.5)			5Y6/1	灰色		8C後	
	618	35			X226Y90　Ⅰ	須恵器	杯蓋	13.6	(2.0)			2.5Y7/1	灰白色		8C第3	
	619	35			X189Y88　Ⅰ	須恵器	杯蓋	14.8	(2.8)			5Y5/1	灰色		8C第2	
	620				X231Y98　Ⅰ	須恵器	杯蓋	14.8	(1.6)			2.5Y7/4	浅黄色		8C第2	
	621	35			X210Y91　Ⅰ	須恵器	杯蓋	13.6	(1.4)			5Y6/1	灰色		8C第2	
	622	35			X208Y83　Ⅰ	須恵器	杯蓋	15.0	(2.2)			5Y6/1	灰色		8C第2	
	623	35			X206Y80　Ⅰ	須恵器	杯蓋	14.1	(1.3)			N6/	灰色		8C第1	
	624	35			X209Y92　Ⅰ	須恵器	杯蓋	14.6	(2.4)			N6/	灰色		8C第1	
	625	35			X222Y90　Ⅰ	須恵器	杯蓋	15.6	(1.6)			7.5Y6/1	灰色		8C第2	
	626	35			X214Y89　Ⅰ	須恵器	杯蓋	18.0	(2.0)			5Y6/2	灰オリーブ		8C第3	
	627	37			X215Y86　Ⅰ	須恵器	杯B	14.9	5.0		11.7	2.5Y7/1	灰白色		8C第2	
	628	37			X164Y77　Ⅰ	須恵器	杯B	9.9	4.7		5.6	5B6/1	青灰色		9C代	
	629	37			X215Y86　Ⅰ	須恵器	杯B	8.8	3.7		6.6	2.5Y6/1	黄灰色		8C前	
	630				KKJ15T	須恵器	杯B	10.6	4.4		7.0	5Y5/1	灰色		8C後	
	631				X182Y85　Ⅰ	須恵器	杯B	11.0	3.9		5.8	5Y6/1	灰色		8C後	
	632	36			X215Y84　Ⅰ	須恵器	杯B		(2.5)		10.4	2.5Y6/2	灰黄色		8C前	
	633	36			X230Y97　Ⅰ	須恵器	杯B	14.4	4.6		9.8	10YR7/4	にぶい黄橙色		8C前	
	634	36			X186Y86　Ⅰ	須恵器	杯B	14.4	4.2		7.8	7.5Y5/1	灰色		8C第2	
	635	36			X167Y85　Ⅰ	須恵器	杯B	11.6	2.8		5.4	5Y6/1	灰色		8C前	
	636				X175Y80　Ⅰ	須恵器	杯B		(3.2)		9.9	10Y5/1	灰色		8C後	
	637	37			X202Y78　Ⅰ	須恵器	杯B		(2.5)		6.2	7.5Y5/1	灰色		8C後	ヘラ記号
	638				X154Y75　Ⅰ	須恵器	杯B		(3.7)		5.6	5Y5/1	灰色		8C後	
	639	36			X216Y91　Ⅰ	須恵器	杯B		(3.5)		7.6	2.5Y6/2	灰黄色		8C後	
	640	37			X213Y92　Ⅰ	須恵器	杯A	11.4	2.9	6.0		2.5Y6/1	黄灰色		8C第1？	ヘラ記号
	641	37			X219Y92　Ⅰ	須恵器	杯A		(1.5)	6.6		2.5Y6/1	黄灰色		8C代？	ヘラ記号
83	642				X229Y93　Ⅰ	須恵器	杯A	12.8	3.9	8.4		2.5Y6/1	黄灰色		8C第3	
	643				X185Y87　Ⅰ	須恵器	杯A	12.9	3.2	8.0		10YR8/4	浅黄橙色		8C第3	
	644	36			X171Y73　Ⅰ	須恵器	杯A	12.8	3.4	7.6		10YR7/3	にぶい黄橙色		8C第3	
	645	36			X208Y81　Ⅰ	須恵器	杯A	12.0	2.6	7.0		10YR7/1	灰白色		8C後	
	646	36			X154Y76　Ⅰ	須恵器	杯B	15.2	5.0	9.2		N6/	灰色		8C後	高台剥離
	647				X213Y92　Ⅰ	須恵器	杯A	12.0	2.7	7.6		2.5Y6/2	灰黄色		8C後	
	648	36			X180Y85　Ⅰ	須恵器	杯A	11.0	3.1	6.2		7.5Y7/2	灰白色		8C後	
	649	36			X213Y92　Ⅰ	須恵器	杯	11.2	(3.2)			2.5Y7/2	灰黄色		8C代	
	650				X186Y90　Ⅰ	須恵器	杯A		(2.4)	7.4		5Y5/1	灰色		9C第1	
	651				X169Y85　Ⅰ	須恵器	杯A		(1.8)	7.8		2.5Y7/1	灰白色		8C第3	
	652				X167Y73　Ⅰ	須恵器	杯A		(2.3)	7.6		2.5Y6/1	黄灰色			
	653	36			X224Y83　Ⅰ	須恵器	杯A		(0.4)	4.8		2.5Y6/1	黄灰色		9C後	底部糸切り

第10表　黒河尺目遺跡土器・土製品一覧（10）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	建　物	座　標	種　類	器　種	法量(cm) 口径	器高	底径	高台径	色調(記号)	色調(和名)	時　期	詳細時期	備　考
83	654	39			X166Y71　I	須恵器	横瓶		(20.2)			5Y6/1	灰色		8C後	
	655	38			X217Y92　I	須恵器	瓶					5Y6/1	灰色		8C代？	
	656				X217Y87　I	須恵器	双耳瓶					7.5YR5/2	灰褐色		9C後	
	657				X189Y88　I	須恵器	双耳瓶		(5.9)			7.5Y6/1	灰色		9C代	
	658	39			X187Y88　I	須恵器	壺	19.6	(6.2)			N7/	灰白色		8C代	
	659	39			X220Y94　I	須恵器	横瓶	10.2	(3.9)			10Y6/1	灰色		8C代	
	660				X225Y86　I	須恵器	横瓶	11.4	(4.1)			10Y6/1	灰色		8C代	
	661	39			X211Y91　I	須恵器	鉢	31.8	(7.3)			7.5Y5/1	灰色		8C代	把手付鉢 or 鍋
	662	39			X223Y98　I	須恵器	甕		(4.3)			N4/	灰色		8C代	
	663	39			X239Y95　I	須恵器	甕？		(4.9)			2.5GY5/1	オリーブ灰色		8C代	
	664	40			X219Y93,X224Y90　I	須恵器	横瓶？					10Y7/1	灰白色			
	665				X185Y85　I	須恵器	長頸瓶		(6.6)			N6/	灰色		8C代	
	666	40			X188Y85　I	須恵器	甕					10YR5/4	にぶい黄褐色			
	667	40			X211Y89　I	須恵器	甕					7.5Y6/1	灰色			
	668	40			X171Y83　I	須恵器	横瓶？					N7/	灰白色			
	669	40			X230Y97　I	須恵器	甕					5Y5/1	灰色			
84	670				X180Y88　I	土師器	椀	13.0	(3.0)			7.5YR7/4	にぶい橙色		9C後	
	671				X188Y88　I	土師器	椀	13.0	(2.3)			10YR8/2	灰白色		9C後	赤彩5YR5/8明赤褐色
	672				X218Y85　I	土師器	椀		(1.3)	6.5		2.5Y8/3	淡黄色		11C～12C	
	673				X214Y83　I	土師器	椀		(1.9)	4.0		10YR7/4	にぶい黄橙色		11C～12C	赤彩5YR5/8明赤褐色
	674				X234Y101　I	土師器	椀		(1.1)	3.8		2.5Y7/2	灰黄色			
	675				X212Y88　I	土師器	椀		(1.2)	5.0		10YR6/3	にぶい黄橙色		12C前	
	676				X211Y89　I	土師器	椀		(1.8)	5.0		10YR7/3	にぶい黄橙色		12C前	
	677				X162Y80　I	土師器	小甕		(1.6)	6.0		10YR7/3	にぶい黄橙色		9C後	
	678				X154Y76　I	土師器	小甕		(2.3)	6.5		10YR6/4	にぶい黄橙色		9C後	
	679	43			X154Y74　I	土師器	甕	23.6	(4.5)			10YR7/3	にぶい黄橙色		9C前	
	680	43			X154Y80　I	土師器	甕	20.8	(4.4)			10YR7/3	にぶい黄橙色		8C後	
	681	43			X189Y88　I	土師器	甕	24.0	(3.3)			10YR7/3	にぶい黄橙色		9C前	
	682	43			X179Y72　I	土師器	甕	21.4	(2.7)			7.5YR8/4	浅黄橙色		8C後	
	683				X218Y96　I	土師器	鍋	24.4	(3.0)			7.5YR7/6	橙色		8C後	
	684	43			X181Y87　I	土師器	鍋	29.0	(3.7)			10YR8/4	浅黄橙色		8C後	
	685	43			X187Y88　I	土師器	鍋	33.0	(3.6)			10YR7/3	にぶい黄橙色		8C後	
	686	43			X187Y88　I	土師器	鍋	33.0	(5.2)			10YR8/3	浅黄橙色		8C後	
	687	43			X179Y83　I	土師器	鍋	33.4	(4.7)			10YR7/4	にぶい黄橙色		8C後～9C前	
	688	63			X220Y81　I	土製品	土錘	3.9	7.3	1.5	112.8	2.5Y7/2	灰黄色	古代		
	689	63			X220Y81　I	土製品	土錘	3.9	6.5	1.5	98.3	10YR8/4	浅黄橙色	古代		
	690				X224Y86　I	土製品	土錘	6.0	2.8	1.1	40.48	10YR7/2	にぶい黄橙色	古代		
	691				X212Y85　I	土製品	土錘	5.0	2.6	0.5	31.46	10YR7/4	にぶい黄橙色	古代		
	692				X217Y95　I	土製品	土錘	5.0	2.65	1.0	11.76	5YR6/6	橙色	古代		
	693				X225Y91　I	土製品	土錘	4.5	2.5	1.0	12.50	10YR7/3	にぶい黄橙色	古代		
85	695	46			X229Y95　I	土師器	皿	9.0	2.0	2.8		7.5YR7/3	にぶい橙色		16C代	
	696	46			X221Y94　I	土師器	皿	8.0	1.95	2.0		2.5Y7/2	灰黄色		16C代	
	697	46			X167Y85　I	土師器	皿	7.0	(1.5)			10YR7/3	にぶい黄橙色		13C後	
	698	46			X204Y79　I	土師器	皿	8.0	2.9			2.5Y7/3	浅黄色		13C後	
	699	46			X221Y90　I	土師器	皿	7.8	(2.0)			2.5Y7/1	灰白色		16C代	
	700	46			X168Y85　I	土師器	皿	8.0	(2.1)			7.5Y4/1	灰色		13C後	
	701	46			X167Y84　I	土師器	皿	8.0	(1.9)			7.5YR7/4	にぶい橙色		16C代	
	702				X220Y93　I	土師器	皿	9.8	2.0	4.0		7.5YR7/4	にぶい橙色		11C～12C	
	703	46			X212Y82　I	土師器	皿	7.8	1.9	3.1		7.5YR5/2	灰褐色		11C～12C	
	704	46			X167Y85　I	土師器	皿	11.0	(2.2)			7.5YR7/2	明褐灰色		13C前	
	705	47			X200Y81　I	土師器	皿	12.1	(2.7)			10YR7/4	にぶい黄橙色		12C末～13C	
	706	46			X169Y85　I	土師器	皿	11.0	(2.5)			7.5Y7/3	浅黄色		13C前	
	707	46			X226Y92　I	土師器	皿	9.8	(2.6)			2.5Y7/2	灰黄色		13C中	
	708	46			X167Y85　I	土師器	皿	12.4	1.9	5.6		10YR8/3	浅黄橙色		13C前	
	709	46			X168Y85　I	土師器	皿	11.2	(3.0)			5YR7/3	にぶい橙色		13C前	
	710	46			X167Y85　I	土師器	皿	11.4	(2.6)			10YR7/3	にぶい黄橙色		13C中	
	711	48			X227Y91　I	土師器	皿	10.4	(1.7)			10YR7/4	にぶい黄橙色		13C中	
	712	46			X169Y85　I	土師器	皿	11.0	(2.2)			10YR7/3	にぶい黄橙色		13C中	
	713	46			X205Y85　I	土師器	皿	12.0	(2.5)			10YR6/2	灰黄褐色		12C末～13C	
	714	49			X227Y96　I	白磁	椀	11.2	(1.5)			10YR8/3	浅黄橙色		12C末～13C	釉2.5Y8/2灰白色

第10表　黒河尺目遺跡土器・土製品一覧（11）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	建　物	座　標	種　類	器　種	法量(cm) 口径	器高	底径	高台径	色調(記号)	色調(和名)	時　期	詳細時期	備　考
85	715	49			X236Y93　I	白磁	椀		(2.0)		5.0	7.5Y8/1	灰白色		12C末～13C	釉10Y8/1灰白色
	716	49			X227Y91,X224Y92　I	青磁	椀	15.4	(1.8)			2.5GY8/1	灰白色		13C中	釉2.5GY6/1オリーブ灰色
	717	49			X208Y91　I	青磁	椀	12.9	(4.4)			5Y6/1	灰色		13C中	釉5GY7/1明オリーブ灰色
	718	49			X223Y95　I	青磁	椀	14.4	(3.6)			2.5Y6/1	黄灰色		12C末～13C	釉2.5Y6/4にぶい黄色
	719				X226Y95　I	珠洲	壺		(4.9)			N6/	灰色	Ⅱ～Ⅲ期	13C前～中	
	720				X200Y81　I	珠洲	壺？		(3.7)	11.7		2.5Y7/2	灰黄色			
	721	51			X166Y85　I	珠洲	擂鉢	19.6	(5.3)			5Y5/1	灰色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	722	51			X217Y92　I	珠洲	擂鉢					2.5Y7/1	灰白色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	723	51			X215Y82　I	珠洲	擂鉢	24.0	(4.9)			2.5Y6/1	黄灰色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	724	51			X226Y91　I	珠洲	擂鉢					N5/	灰色	Ⅳ期	13C後	
	725	51			X221Y94　I	珠洲	擂鉢					7.5Y7/1	灰白色	Ⅵ期	15C前	
	726	51			X225Y98　I	珠洲	擂鉢	29.8	(4.3)			10Y5/1	灰色	Ⅵ期	15C前	
	727	51			X228Y94　I	珠洲	擂鉢	29.0	(4.2)			5Y7/1	灰白色	Ⅳ期	13C後	
	728	51			X215Y81　I	珠洲	擂鉢		(3.3)	13.4		7.5Y5/1	灰色	Ⅱ～Ⅲ期	13C前～中	
	729	51			X207Y89　I	珠洲	擂鉢		(5.0)	11.0		N5/	灰色	Ⅱ～Ⅲ期	13C前～中	
	730	51			X198Y92　I	珠洲	擂鉢		(2.8)	13.2		7.5Y6/1	灰色	Ⅳ期	13C後	
86	731	49			X205Y83　I	珠洲	甕					10Y6/1	灰色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	732				KKJ14T	珠洲	甕					2.5Y5/1	黄灰色	Ⅳ期？	13C後～14C	
	733				X199Y90　I	珠洲	甕					10Y6/1	灰色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	734				X226Y88　I	珠洲	甕					7.5Y7/1	灰白色	Ⅰ～Ⅱ期	12C末～13C	
	735				X222Y92　I	珠洲	甕					2.5Y6/1	黄灰色	Ⅳ～Ⅴ期	13C後～14C	
	736				X228Y96　I	瀬戸	折縁皿	10.0	2.5		5.0	2.5Y7/3	浅黄色		16C初	釉7.5Y6/3オリーブ黄色
	737				X222Y90　I	越中瀬戸	皿	10.2	2.3		4.4	7.5YR7/3	にぶい橙色		17C	釉7.5YR3/1黒褐色
	738				X223Y93　I	越中瀬戸	皿	9.6	2.2		4.8	2.5Y8/3	淡黄色		17C	釉2.5Y6/6明黄褐色
	739				X234Y99　I	越中瀬戸	皿		(1.4)		6.0	7.5YR6/4	にぶい橙色		17C	釉7.5YR3/1黒褐色
	740				X222Y92　I	越中瀬戸	皿	10.7	2.2		4.2	10YR8/4	浅黄橙色		17C	釉5Y7/2灰白色
	741				X228Y98　I	瀬戸	椀	10.8	(4.3)			7.5YR8/4	浅黄橙色		16C	釉7.5YR4/3褐色

※法量・器高欄の（　）付数値は現存高を計測したものを示す。
土製品の法量の数値は左から長さ・幅・厚さ・重さ（g）を示す。

第11表　黒河尺目遺跡石製品一覧（１）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	石材	規格（cm・g）				備考
							長さ	幅	厚み	重さ	
26	240	52	SX9		打製石斧	安山岩	15.85	5.13	2.46	260.3	
	241	52	SX9	X185Y87	打製石斧	凝灰岩	6.79	4.75	2.71	97.6	
	242	52	SX9		打製石斧	凝灰岩	7.01	5.37	2.08	76.3	
	243	52	SK1253		打製石斧	凝灰岩	10.54	5.59	2.51	192.4	
	244	59	SX1146		石錘	凝灰岩	7.14	6.28	1.47	79.6	
	245	55	SX1528	X210Y87	磨製石斧	蛇紋岩	4.16	3.33	1.20	19.9	
	246	55	SK1529	X208Y90	磨製石斧	閃緑岩	8.74	5.84	2.72	237.2	
	247	55	SK1529		打製石斧	ホルンフェルス	12.82	4.91	2.19	167.4	使用痕分析No.6
	248	55	SK1529		打製石斧	砂岩	13.62	5.87	2.20	188.5	
	249	55	SK1532		打製石斧	安山岩	9.67	5.70	2.29	53.9	
	250	55	SK1533		打製石斧	安山岩	12.94	5.73	2.79	212.1	
30	327	52	SK1188		打製石斧	流紋岩	15.96	8.18	2.97	400.6	
	328	55	SX1344		打製石斧	砂岩	12.82	5.55	2.40	163.6	
	329	55	SX1344		打製石斧	凝灰岩	7.80	4.86	1.28	63.8	
	330	55	SX1344		打製石斧	砂岩	10.25	4.61	1.84	96.9	
	331	53		X173Y80 I	打製石斧	安山岩	13.71	8.50	3.37	410.0	
	332	53		X216Y88 I	打製石斧	安山岩	14.09	7.23	2.89	256.1	
	333	54		X203Y84 I	打製石斧	安山岩	10.97	7.49	1.57	120.6	
	334	53		X221Y96 I	打製石斧	安山岩	15.79	5.60	2.89	343.5	
31	335	54		X208Y84 I	打製石斧	安山岩	10.01	5.83	1.74	91.5	
	336	54		X173Y75 I	打製石斧	凝灰岩	10.99	5.02	1.93	108.5	
	337	53		X167Y85 I	打製石斧	安山岩	14.12	5.78	2.83	299.2	
	338	53		X172Y73 I	打製石斧	砂岩	15.25	5.88	2.42	281.1	
	339	53		X217Y89 I	打製石斧	流紋岩	8.82	4.73	1.75	84.8	使用痕分析No.3
	340	54		X200Y82 I	打製石斧	砂岩	10.76	5.41	1.69	116.0	
	341	54		X198Y85 I	打製石斧	凝灰岩	10.83	5.19	2.08	123.0	
	342	54		X195Y88 I	打製石斧	結晶片岩	10.96	4.58	2.08	117.2	
	343	53		X202Y80 I	打製石斧	安山岩	8.60	4.23	1.32	63.0	
	344	54		X159Y69 I	打製石斧	安山岩	9.90	5.04	2.33	186.6	
	345	52	SX8		打製石斧	安山岩	10.69	4.33	1.71	94.6	
	346	52	SK368		打製石斧	凝灰岩	10.47	4.76	2.44	115.0	使用痕分析No.4
32	347	52	SD415	X187Y84	打製石斧	安山岩	5.70	6.15	2.17	88.6	使用痕分析No.5
	348	52	SE486		打製石斧	安山岩	8.52	8.81	2.71	172.5	
	349	52	SK800		打製石斧	凝灰岩	8.76	5.58	2.65	97.5	
	350	52	SK414		打製石斧	安山岩	6.49	4.74	2.08	82.5	
	351	55	SX1486		打製石斧	凝灰岩	6.37	4.32	2.54	77.4	
	352	52	SK1078		打製石斧	安山岩	6.73	4.62	2.92	106.2	使用痕分析
	353	55	SK1498		打製石斧	閃緑岩	7.64	5.65	3.09	157.7	使用痕分析
	354	55	SX1344		打製石斧	班糲岩	5.99	4.89	1.92	51.7	
	355	55	SX1344		打製石斧	凝灰岩	6.84	3.56	2.10	75.0	
	356	53		X167Y84 I	打製石斧	閃緑岩	6.20	4.32	1.88	72.6	
	357	53		X181Y83 I	打製石斧	凝灰岩	9.07	6.05	1.34	87.6	
	358	54		X200Y92 I	打製石斧	安山岩	8.73	6.13	3.11	226.8	
	359	54		X215Y94 I	打製石斧	安山岩	8.21	5.52	2.25	124.2	
	360	54		X212Y83 I	打製石斧	凝灰岩	11.38	5.09	2.55	182.0	
	361	53		X210Y91 I	打製石斧	凝灰岩	6.75	5.18	2.01	87.7	
33	362	55	SK800		打製石斧	蛇紋岩	7.50	4.80	2.33	120.2	磨製石斧を打斧に作り替え
	363	55	SK800		磨製石斧	蛇紋岩	2.55	3.45	1.09	10.7	
	364	55	SK212		磨製石斧	蛇紋岩	4.95	3.70	1.16	34.1	
	365	55	SX8		磨製石斧	蛇紋岩	5.22	2.12	0.65	12.7	
	366	55	SD11	X152Y78	磨製石斧	凝灰岩	12.01	5.26	2.68	227.0	
	367	55	SD656	X201Y82	磨製石斧	蛇紋岩	12.40	7.05	2.89	449.7	
	368	55	SK1196		磨製石斧	安山岩	9.28	4.34	2.51	165.1	
	369	56,57		X168Y85 I	磨製石斧	斑糲岩	10.97	4.77	2.56	203.9	
	370	56,57		X216Y94 I	磨製石斧	蛇紋岩	8.29	3.51	1.23	64.7	
	371	56,57		X192Y80 I	磨製石斧	珪化凝灰岩	4.72	3.50	1.11	33.2	
	372	56,57		X204Y79 I	磨製石斧	蛇紋岩	10.51	5.38	2.33	253.4	
	373	56,57		X194Y76 I	磨製石斧	安山岩	11.92	6.44	2.50	323.8	
	374	56,57		X204Y79 I	磨製石斧	蛇紋岩	11.96	5.53	2.55	264.6	
	375	55	SK499		磨製石斧	蛇紋岩	12.18	5.80	2.65	304.9	
34	376	56,57		X228Y95 I	磨製石斧	凝灰岩	8.58	5.10	1.94	126.9	
	377	56,57		X220Y83 I	磨製石斧	蛇紋岩	8.95	5.00	1.87	122.3	
	378	56,57		X205Y84 I	磨製石斧	蛇紋岩	3.53	4.78	2.11	60.3	
	379	56,57		X222Y84 I	磨製石斧	蛇紋岩	3.22	5.51	1.57	39.2	
	380	56,57		X179Y87 I	磨製石斧	蛇紋岩	9.23	5.27	2.21	168.7	
	381	56,57		X167Y85 I	磨製石斧	凝灰岩	7.51	5.72	1.47	95.0	
	382	56,57		X183Y74 I	磨製石斧	蛇紋岩	9.09	5.33	2.80	230.1	
	383	56,57		X200Y85 I	磨製石斧	蛇紋岩	6.60	4.91	1.98	95.9	
	384	56,57		X156Y82 I	磨製石斧	蛇紋岩	11.53	6.74	2.60	316.7	
35	385	61	SX8		石鏃	チャート	2.20	1.40	0.40	1.1	
	386	60		X200Y86 I	石鏃	不明	1.08	1.37	0.60	0.8	
	387	61		X211Y91 I	石匙	頁岩	4.60	2.70	0.80	4.3	
	388	60		X216Y82 I	両極石器	鉄石英	3.48	3.26	1.51	14.6	
	389	60	SK431		石核	鉄石英	4.73	3.68	2.67	47.2	玉の素材？
	390	60	SX1344		剥片	玉髄質頁岩	5.64	4.24	2.23	41.1	断片同士が接合
	391	55	SX1344		篦状石器	安山岩	11.07	5.03	2.85	161.8	
36	392	58		X179Y88 I	凹石	安山岩	9.45	10.50	7.55	860.0	
	393	58		X187Y90 I	凹石	砂岩	9.10	7.40	3.09	292.2	
	394	58		X212Y93 I	凹石＋敲石	流紋岩	8.59	7.15	4.17	322.9	
	395	58		X173Y80 I	磨石	安山岩	8.59	9.17	4.75	492.2	
	396	58		X218Y86 I	敲石	安山岩	13.57	5.54	3.98	341.7	
	397	58	SD330	X179Y73	敲石	砂岩	6.47	5.57	2.91	136.3	
	398	58	SE43		敲石＋磨石	砂岩	5.60	3.90	3.18	95.6	

第11表　黒河尺目遺跡石製品一覧（２）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	石材	規格(cm・g)				備考
							長さ	幅	厚み	重さ	
37	*399*	59	SD450		石錘	ホルンフェルス	7.38	5.94	1.99	118.0	
	400	59	SK591		石錘	安山岩	8.41	5.92	2.04	146.9	
	401	59		X207Y81 Ⅰ	石錘	安山岩	7.09	5.82	1.70	113.8	
	402	59		X205Y84 Ⅰ	石錘	安山岩	7.75	5.38	1.68	113.9	
	403	59		X220Y83 Ⅰ	石錘	安山岩	8.19	6.62	1.78	91.3	
	404	59		X208Y81 Ⅰ	石錘	砂岩	7.12	6.02	1.27	62.4	
	405	59		X214Y80 Ⅰ	石錘	片麻岩	7.79	5.74	2.67	155.3	
	406	59		X215Y82 Ⅰ	石錘	流紋岩	7.84	6.44	2.88	177.9	
	407	59		排土	石錘	安山岩	6.59	4.32	1.73	68.8	
	408	59		X233Y101 Ⅰ	石錘	凝灰岩	6.59	6.59	1.90	114.6	
	409	59		X186Y87 Ⅰ	石錘	凝灰岩	5.62	4.87	1.58	36.1	
	410	59		X222Y84 Ⅰ	石錘	砂岩	6.36	4.32	1.63	63.0	
	411	59		X222Y94 Ⅰ	石錘	安山岩	4.15	8.78	1.97	64.8	
	412	59	SK800		自然礫	砂岩	5.58	5.83	0.99	44.7	石錘の素材？
	413	58		X170Y71 Ⅰ	自然礫	砂岩	10.62	7.56	2.00	227.0	石錘の素材？
70	*507*	61	SE165		砥石	凝灰岩	7.84	5.43	2.37	92.5	中砥
	508	61	SE260		砥石	砂岩	9.64	13.41	4.42	850.0	荒砥
84	*694*	61		X226Y95 Ⅰ	石帯	蛋白石	3.70	3.30	0.90	15.3	
86	*742*	61		X223Y91 Ⅰ	砥石	凝灰岩	8.22	5.46	2.67	126.7	中砥
	743	61		X226Y91 Ⅰ	砥石	凝灰岩	7.55	4.48	3.12	102.4	中砥，手持ちに転用
	744	61		X220Y83 Ⅰ	砥石	凝灰岩	2.93	3.13	1.92	15.3	中砥
	745	61		X222Y90 Ⅰ	砥石	凝灰岩	3.99	2.08	1.22	13.0	仕上砥

第12表　黒河尺目遺跡金属製品一覧

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	規格(cm・g)				備考
						長さ	幅	厚み	重さ	
66	*471*	63	SD656	X201Y82	椀形滓	6.9	9.1	3.8	275.8	他１点
	472		SD656	X200Y82	椀形滓	7.4	10.8	3.4	244.8	他３点
	473	62	SD656	X200Y82	鉄滓	5.2	7.0	2.8	104.9	
	474	63	SD795	X202Y91	椀形滓	8.9	11.1	5.6	352.3	他鉄滓１点
	475		SD795	X210Y90	椀形滓	5.6	6.8	2.8	128.8	
70	*509*	63	SE167		椀形滓	10.6	13.1	7.2	658.0	他１点
	510	63	SE853		椀形滓	10.2	16.4	8.7	947.5	ダブル
79	*525*	62	SK70		鉄滓	2.7	3.7	1.8	15.4	
	526	62	SK136		鉄滓	2.8	3.1	1.2	15.9	
	543	62	SK371		鉄滓	1.8	4.1	2.5	9.4	
80	*569*	62	SK800		鉄滓	2.5	3.7	2.0	35.3	
	570	62	SK800		鉄滓	3.4	5.9	1.6	36.4	
81	*602*	62	SK1193		鉄滓	5.5	7.8	3.7	138.0	
87	*746*	63		X216Y88 Ⅰ	椀形滓	8.4	9.3	3.5	312.9	
	747			X218Y91 Ⅰ	椀形滓	5.1	8.0	2.1	99.2	
	748			X175Y84 Ⅰ	椀形滓	5.8	8.1	3.9	182.9	
	749	63		X181Y87 Ⅰ	椀形滓	7.0	8.0	3.2	195.3	
	750	63		X211Y89 Ⅰ	椀形滓	7.1	7.7	3.1	179.0	
	751	62		X211Y96 Ⅰ	鉱滓？	4.3	5.9	2.3	54.3	板状＋鉄滓か
	752	62		X207Y81 Ⅰ	鉱滓	3.7	4.5	1.7	43.8	
	753			X219Y93 Ⅰ	不明	4.1	5.0	3.3	61.6	
	754	62		X227Y95 Ⅰ	鉱滓	4.6	6.3	2.5	115.4	
	755	62		X217Y86 Ⅰ	鉱滓	4.4	5.3	3.1	96.4	
	756	62		X224Y84 Ⅰ	鉱滓	2.8	3.4	1.7	24.6	
	757	62		X208Y84 Ⅰ	流動滓	3.3	4.8	2.3	59.7	
				X201Y81 Ⅰ	鉄滓	7.5	4.8	3.6	164.9	分析資料１
				X201Y82 Ⅰ	流動滓	7.8	4.0	3.5	165.3	分析資料２，他１点
			SD2	X227Y93	鉱滓	6.4	5.7	3.8	105.8	分析資料３
			SD2	X220Y87	鉱滓	5.8	4.1	1.5	40.1	分析資料４
			SX8		流動滓	7.4	7.3	3.7	262.9	分析資料５，他１点
			SK19		椀形滓	8.0	5.6	3.9	242.3	分析資料６
			SK127		椀形滓	7.3	5.0	2.6	137.2	分析資料７，他鉄滓８点
			SE167		鉄滓	4.6	3.8	2.4	34.8	分析資料８，他１点
			SK389		鉄滓	6.8	5.2	3.4	126.3	分析資料９，他47点，重さは全点分
			SK389		鉄滓	9.2	7.4	4.4	300.1	分析資料10，他１点
			SE575		鉄滓	5.6	3.4	1.8	39.0	分析資料11，他１点
			SD656	X207Y83	鉄滓	11.2	9.5	7.0	650.0	分析資料12
			SD656	X203Y83	流動滓	3.2	2.4	1.5	17.2	分析資料13
			SD795	X203Y91	椀形滓	10.3	7.4	4.0	419.1	分析資料14
			SK800		鉄滓	5.5	4.4	3.1	92.8	分析資料15
			SK825		鉄滓	3.9	2.5	2.4	30.1	分析資料16
			SK852		鉄滓	7.8	5.8	4.2	136.6	分析資料17
			SK1097		鉄滓	3.1	2.5	1.9	14.3	分析資料18
			SX1344		鉄滓	7.6	5.4	5.1	296.0	分析資料19
			SE1349		椀形滓	10.0	6.5	2.6	161.5	分析資料20
				X226Y90 Ⅰ	羽口	5.2	4.4	2.5	40.2	分析資料21
			SX8		羽口	4.0	2.8	1.9	15.2	分析資料22
			SE167		羽口	8.1	5.5	2.0	66.4	分析資料23
			SK389		羽口	4.5	4.4	2.4	41.3	分析資料24
			SX1344		炉壁？	4.9	3.0	1.5	16.2	分析資料25

第Ⅳ章　黒河中老田遺跡

1　遺跡の概要

A　概要

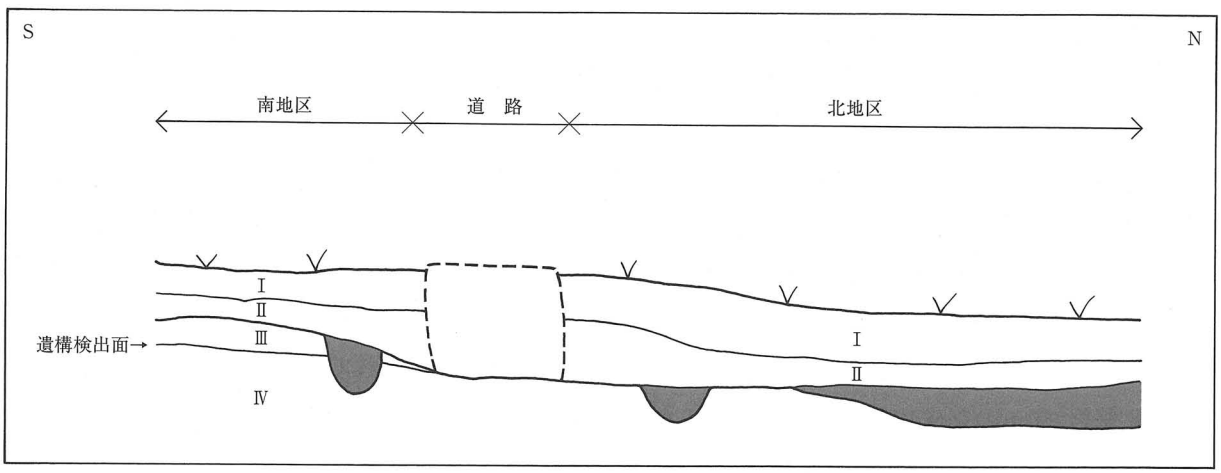
黒河中老田遺跡は射水丘陵北端の裾部に位置しており，黒河尺目遺跡の北側に隣接する。現況は水田で，道路を挟んで南側を南地区，北側を北地区とした。試掘調査の結果からは旧河道の左岸及び河道内に位置すると推測された。標高は5.5m～4.5mを測る。古墳時代及び古代の遺構を検出している。以下，各時代の様相を概観したい。

古墳時代　南地区及び北地区の南側で溝３条・土坑115基を検出した。遺構の大半は粘土採掘坑と考えられる土坑群で，試掘調査において予測された旧河道を中心に激しく重複した状態で検出している。これらの土坑群からは，床面から若干浮いた位置で一個体がそのまま潰れたような状態の土器が出土している。遺物の検出状態や遺構埋土が同じであることなどから，比較的短期間に形成されたものと考えられ，遺物の時期から古墳時代前期のものと考える。

古代　北地区中央から西にかけて，旧河道左岸のやや高くなった自然堤防上を中心に，溝１条・井戸１基・土坑54基を検出した。遺構は北に向かって希薄になる。古代においても粘土採掘を行っていると思われ，これらの土坑の中からは須恵器・叩き板等が出土しており，須恵器制作に伴うものと推定している。また，柱根を有する土坑が検出されているが，建物の平面プランは確認できず，集落というよりは作業場的な性格を有していたと推測される。出土遺物には８世紀前半～９世紀前半，10世紀～11世紀，12世紀～13世紀後半の古代から中世前半にかけてのものがみられるが，主体は８世紀後半～９世紀にある。このことから遺構の時期は概ね８世紀後半～９世紀代と考えている。

B　土層

基本層序はⅠ層：耕作土，Ⅱ層：黒色粘質土（遺物包含層），Ⅲ層：灰黄色粘質土，Ⅳ層：灰白色粘土または褐色シルト・にぶい黄色粘質シルト（遺構検出面）となる。Ⅲ層は南地区の南側でみられ，北へ向かって減じている。Ⅲ層上面での遺構検出は可能であるが，不明瞭である。Ⅳ層は北地区中央部から北にかけては褐色シルト・にぶい黄色粘質シルトとなり，旧河道を挟み南側とは様相を異にする。古墳時代及び古代の粘土採掘坑は主にⅣ層の灰白色粘土を採取していたものと考えられる。



第89図　黒河中老田遺跡基本層序模式図

2．遺構・遺物

A　古墳時代

古墳時代の遺構は溝３条・土坑115基が検出されている。３条の溝はいずれも自然流路で，南地区・北地区の間の道路付近で合流して，旧河道に流れ込んでいる。土坑は粘土採掘に伴うもので，旧河道内及び肩部に帯状に連なっている。この旧河道部分については土坑の重複が激しく，湧水もあったため，土坑の平面プランを抽出することができずＳＸ160として一括で扱った。遺物は遺構内出土のものがほとんどで，遺構埋土の下位から一個体がそのまま潰れたような状態で出土する場合が多く，甕・壺に限られその他の器種は含まれない。埋土の状況は人為的に埋め戻されたと思われるものも含め，一気に埋まった様相を呈するものが多く，壁面を掘り崩しながら連続的に掘り広げられたと推察される。出土土器群には若干の時期幅があると思われるが，一度採掘した坑を再び掘り下げたと思われるものがないことから，比較的短期間のうちに営まれたもので，古墳時代前期前半頃と考える。

溝

65号溝（ＳＤ65，第90・92・116図，図版70・76・78・80・82・100）

南地区の中央北よりに位置する幅約８ｍ，深さ0.4ｍを測る溝である。ＳＤ65は北地区のＳＤ103と同一の溝で，ＳＸ160に流れ込む自然流路である。南端部分は第90図にトーンで図示した範囲が浅い落ち込み状となって終わっているが，等高線からは帯状に連なる土坑をたどるラインを流路と推定することが可能である。ＳＤ65内及び肩部には粘土採掘坑と考えられる土坑が重複しており，土坑のプランを確認できたものとの切り合い関係からは，流路がある程度埋まった後に土坑が掘られていると思われる。土層断面からは複数の土坑が切り合っている状態が観察でき，遺物の大半はこれらの土坑部分から出土している。遺物は土師器（１～８），木製品（117）で，２は試掘トレンチ（18Ｔ）から出土した下半分と接合して完形になった。７・８は，口縁端部が肥厚したいわゆる布留系甕である。117は重複する土坑の底面付近から出土したもので，粘土採掘時の足場板の可能性がある。

102号溝（ＳＤ102，第91・93図）

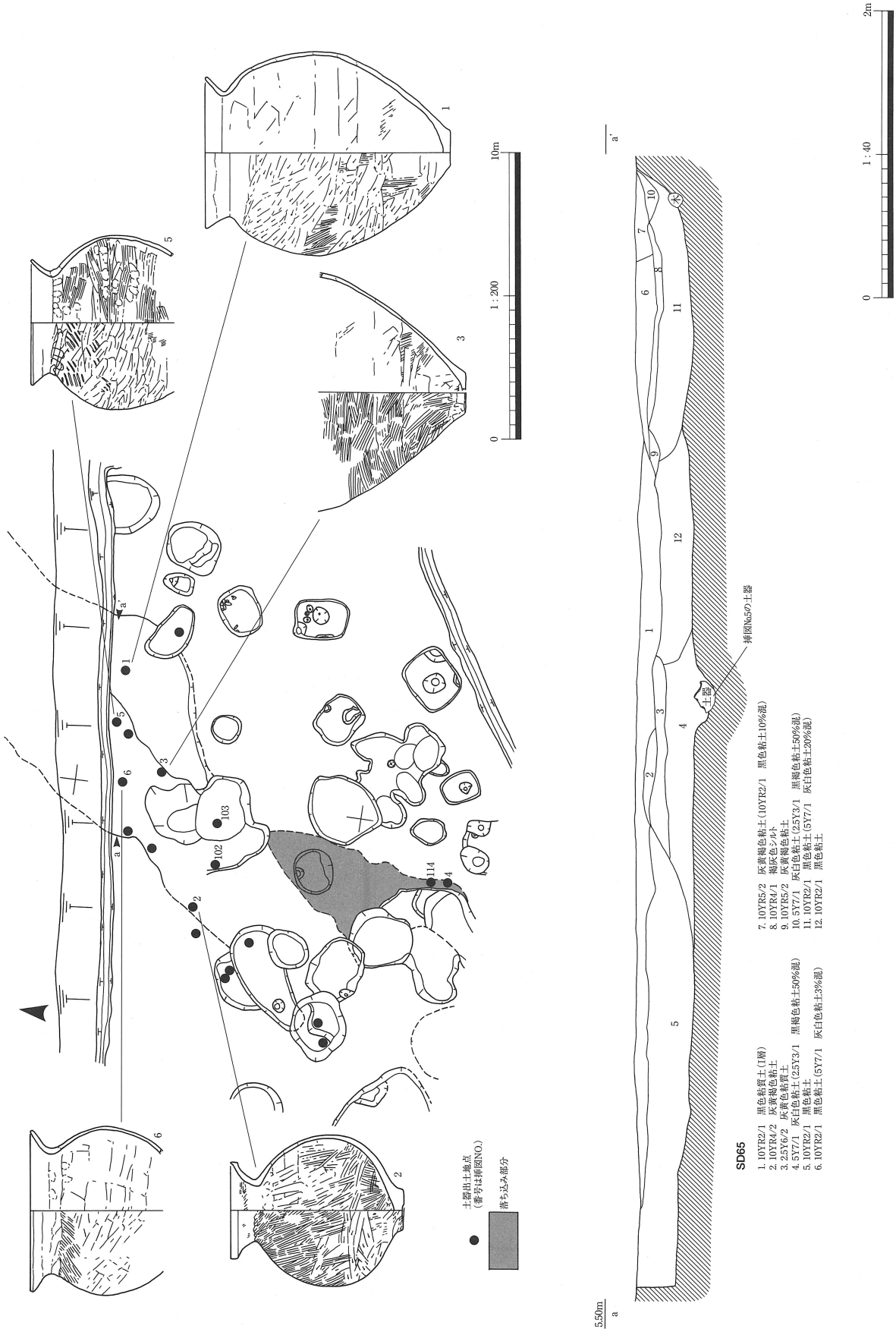
北地区の南東角に位置する溝で，ＳＤ103と合流し，ＳＸ160に流れ込む自然流路である。幅約2.3m，深さ0.2ｍを測る。埋土は黒色粘土の単層で，植物遺体を多く含むことから澱み状であったと思われる。遺物は土師器甕（９）がある。

103号溝（ＳＤ103，第91・93・116図，図版70・82・99・100）

北地区の南東角に位置する溝で，南地区ＳＤ65と一続きになる溝で，ＳＤ102と合流しＳＸ160に流れ込む自然流路である。幅約6.5m，深さ0.3ｍを測る。流路内には複数の粘土採掘坑と思われる土坑が重複している。遺物は土師器（10～12）と木製品（118・119）である。10は複合口縁で，外面ミガキ調整の赤彩された壺である。

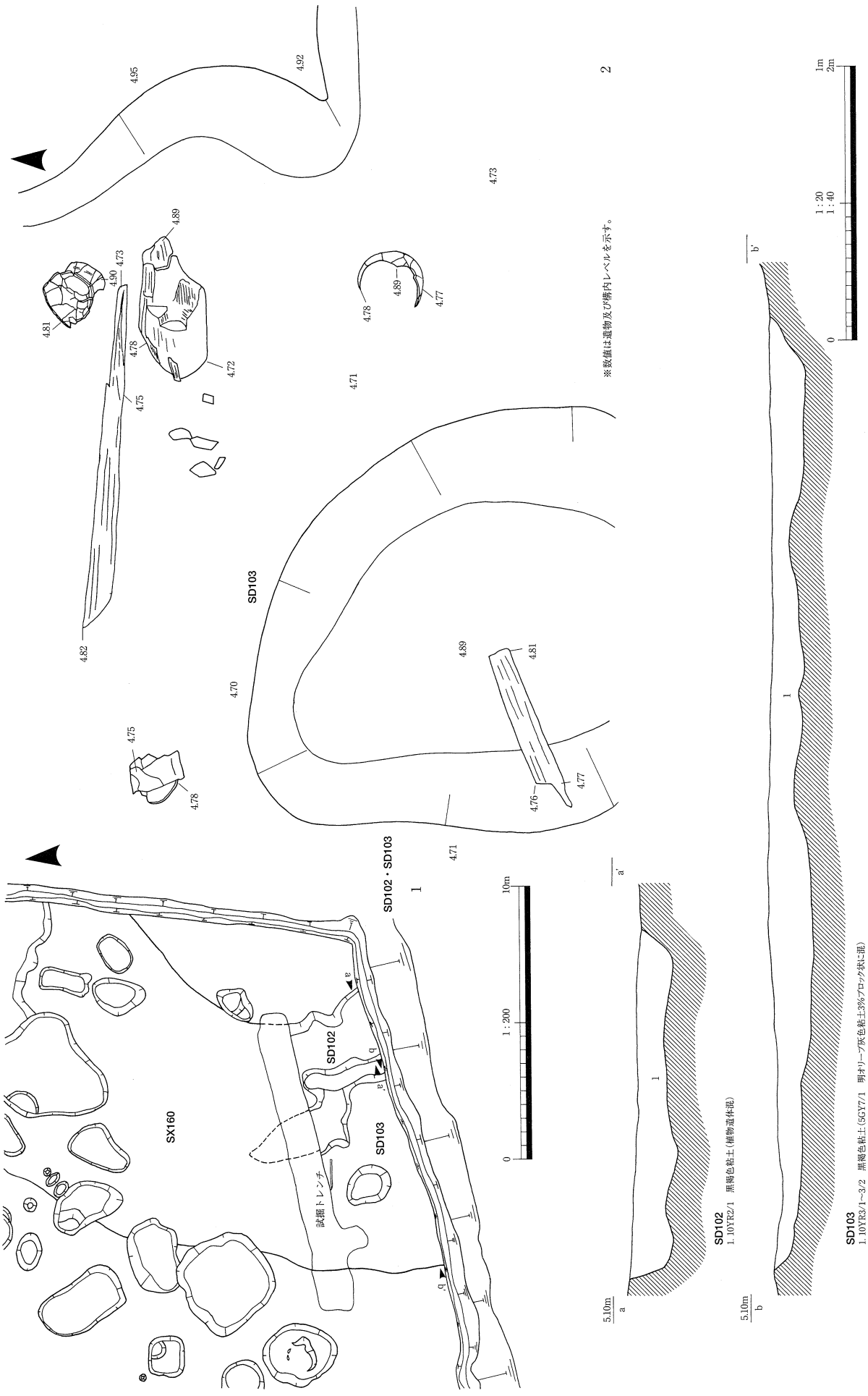
160号遺構（ＳＸ160，第93～99・116図，図版71～75・77～79・81・82・100）

ＳＸ160は北地区南東角に位置している。幅約10m，深さ0.4～１ｍを測る。埋土は黒色粘土を主体とし，Ⅳ層に相当する灰色粘土をブロック状に含む。調査当初は複数の土坑が重複した土坑群として捉えたが，ＳＤ65及びＳＤ102・ＳＤ103とは一連の遺構で，埋没した旧河道と考えられる。南地区の南西角から北地区の南東角へぬける流路で，南から北へ蛇行気味に流れていたと推測される。調査地区の北側約250ｍの平成13年度調査地区[注1]において確認された縄文中期以降に埋没したと考えられる河道（ＳＤ３）と同一の河道の可能性がある。ＳＸ160は河道内及び肩部において粘土採掘を行って



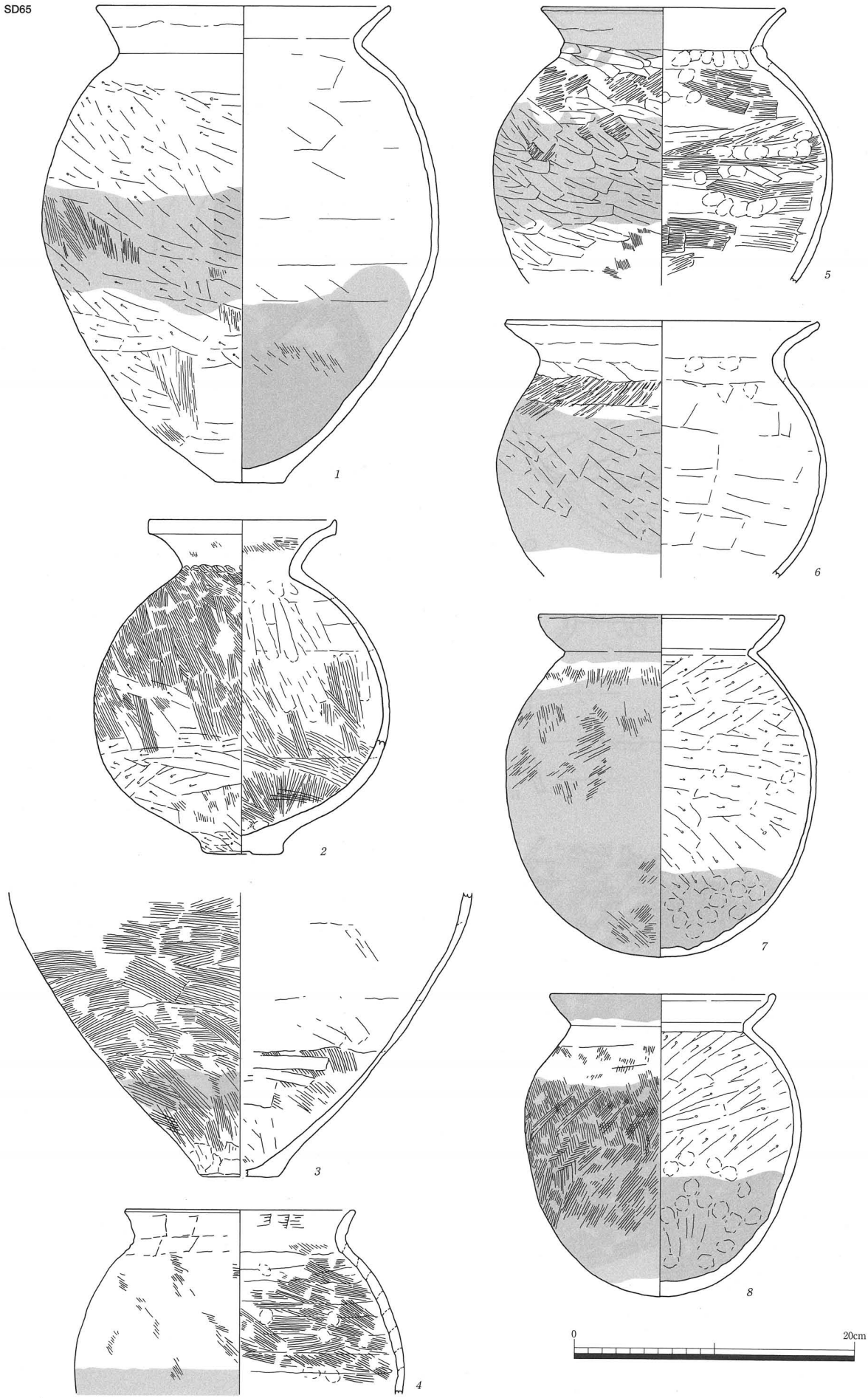
第90図　遺構実測図

SD65



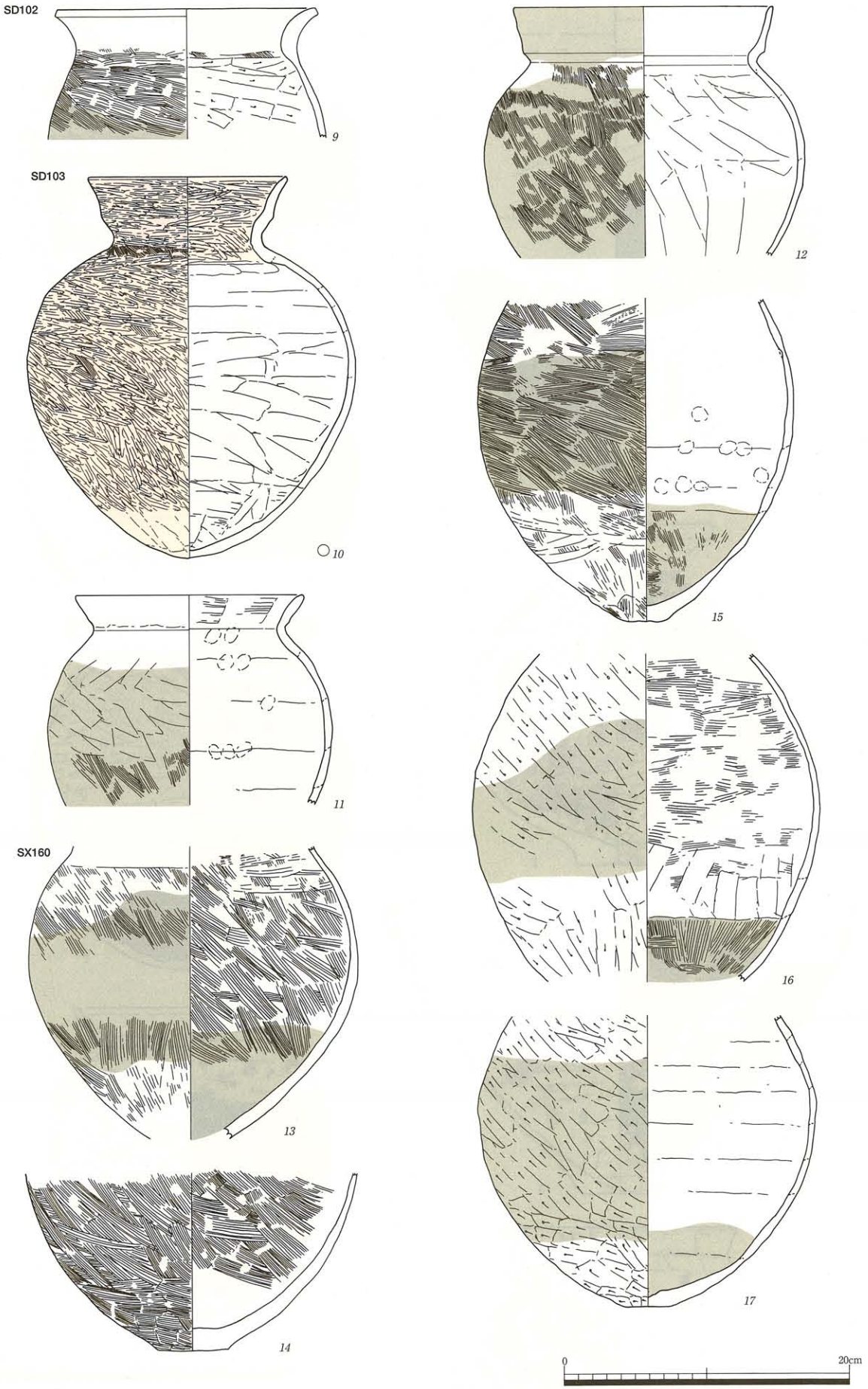
第91図　遺構実測図

1. SD102・SD103　2. SD103遺物出土状況



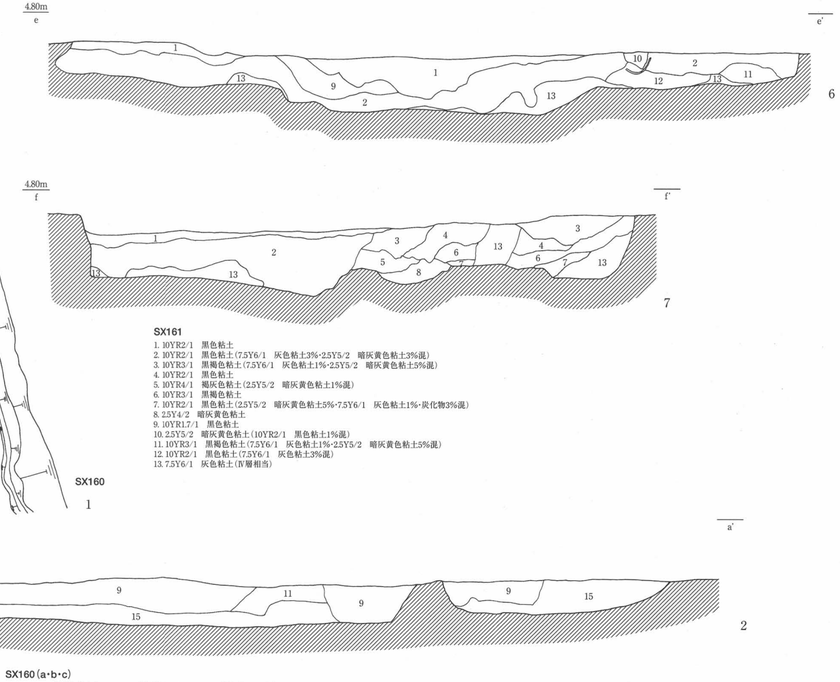
第92図　遺物実測図　(1/4)

SD65(*1*～*8*)



第93図　遺物実測図　(1/4)

SD102(*9*)　SD103(*10*～*12*)　SX160(*13*～*17*)



SX161

1. 10YR2/1　黒色粘土
2. 10YR2/1　黒色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土3%-2.5Y5/2　暗灰黄色粘土3%混)
3. 10YR3/1　黒褐色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土1%-2.5Y5/2　暗灰黄色粘土5%混)
4. 10YR2/1　黒色粘土
5. 10YR4/1　褐灰色粘土(2.5Y5/2　暗灰黄色粘土1%混)
6. 10YR3/1　黒褐色粘土
7. 10YR2/1　黒色粘土(2.5Y5/2　暗灰黄色粘土5%-7.5Y6/1　灰色粘土1%-炭化物3%混)
8. 2.5Y4/2　暗灰黄色粘土
9. 10YR1.7/1　黒色粘土
10. 2.5Y5/2　暗灰黄色粘土(10YR2/1　黒色粘土1%混)
11. 10YR3/1　黒褐色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土1%-2.5Y5/2　暗灰黄色粘土5%混)
12. 10YR2/1　黒色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土3%混)
13. 7.5Y6/1　灰色粘土(Ⅳ層相当)

SX160(a・b・c)

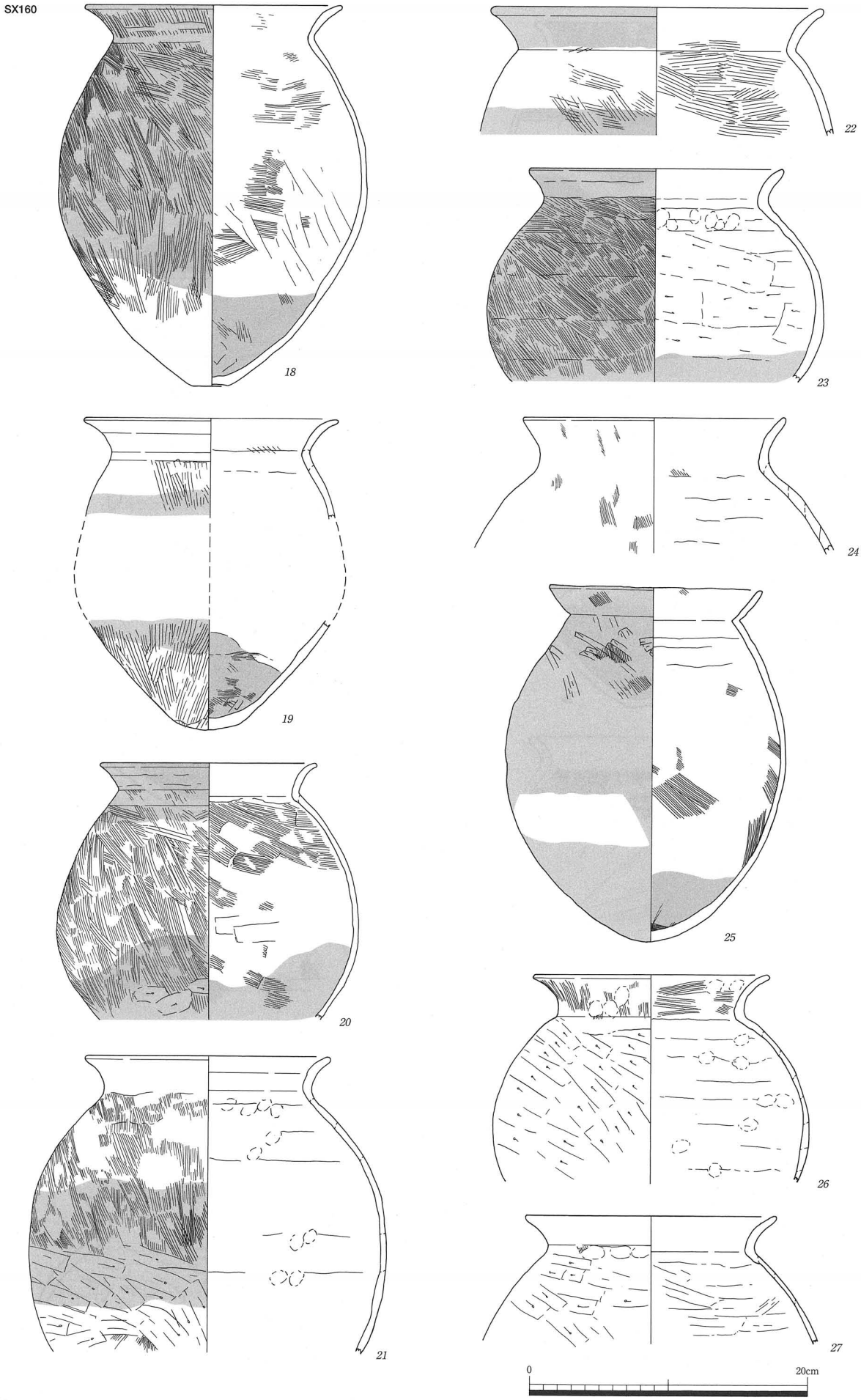
1. 10YR3/2　黒褐色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土3%-10YR2/1　黒色粘土5%混)
2. 10YR3/1　黒褐色粘土(2.5Y6/2　灰黄色粘土10%-7.5Y6/1灰色粘土7%-10YR2/1　黒色粘土5%ブロック状に混)
3. 10YR2/1　黒色粘土(2.5Y6/2　灰黄色粘土1%混)
4. 2.5Y5/2　暗灰黄色粘土質シルト(10YR3/1　黒褐色粘土10%混)
5. 10YR2/1　黒色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土7%混)
6. 10YR2/1　黒色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土10%-10YR2/1　黒色粘土10%混)
7. 2.5Y5/2　暗灰黄色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土1%混)
8. 10YR3/1　黒褐色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土20%-2.5Y5/2　暗灰黄色粘土1%混)
9. 10YR2/1　黒色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土3%混)
10. 2.5Y5/2　暗灰黄色粘土
11. 10YR2/1　黒色粘土(2.5Y5/2　暗灰黄色粘土20%-7.5Y6/1　灰色粘土3%混)
12. 10YR3/1　黒褐色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土20%-2.5Y5/2　暗灰黄色粘土10%混)
13. 10YR1.7/1　黒色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土5%混)
14. 7.5Y6/1　灰色粘土
15. 10YR3/1　黒褐色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土20%混)
16. 10YR2/1　黒色粘土
17. 10YR2/1　黒色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土5%混,2.5Y5/2　暗灰黄色粘土20%ブロック状に混)
18. 10YR3/1　黒褐色粘土(2.5Y5/2　暗灰黄色粘土30%混)
19. 2.5Y5/2　暗灰黄色粘土(10YR3/1　黒褐色粘土5%混)
20. 7.5Y7/1　灰白色粘土(10YR3/1　黒褐色粘土10%混)
21. 10YR3/1　黒褐色粘土
22. 10YR2/1　黒色粘土
23. 2.5Y5/2　暗灰黄色粘土
24. 10YR3/1　黒褐色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土20%混)
25. 10YR2/1　黒色粘土

SX160(d)

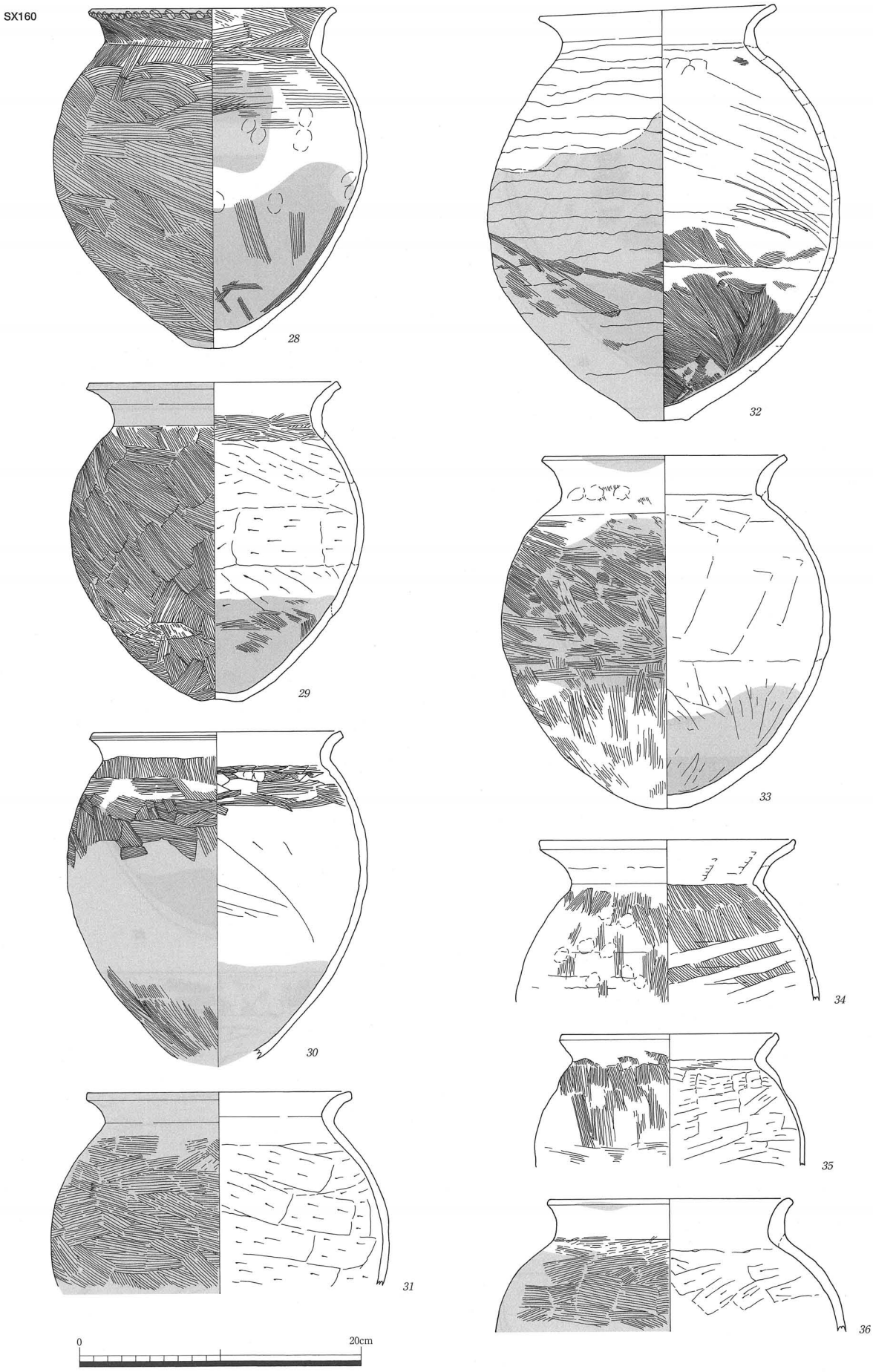
1. 10YR3/1　黒褐色粘土(炭化物3%混)
2. 10YR2/1　黒色粘土
3. 10YR3/1　黒褐色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土7%ブロック状に混)
4. 10YR3/1　黒褐色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土20%ブロック状に混)
5. 10YR2/1　黒色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土5%混)
6. 10YR2/1　黒色粘土
7. 10YR3/1　黒褐色粘土
8. 2.5Y5/2　暗灰黄色粘土
9. 10YR5/1　褐灰色粘土
10. 2.5Y5/2　暗灰黄色粘土(10YR3/1　黒褐色粘土10%混)

第94図　遺構実測図

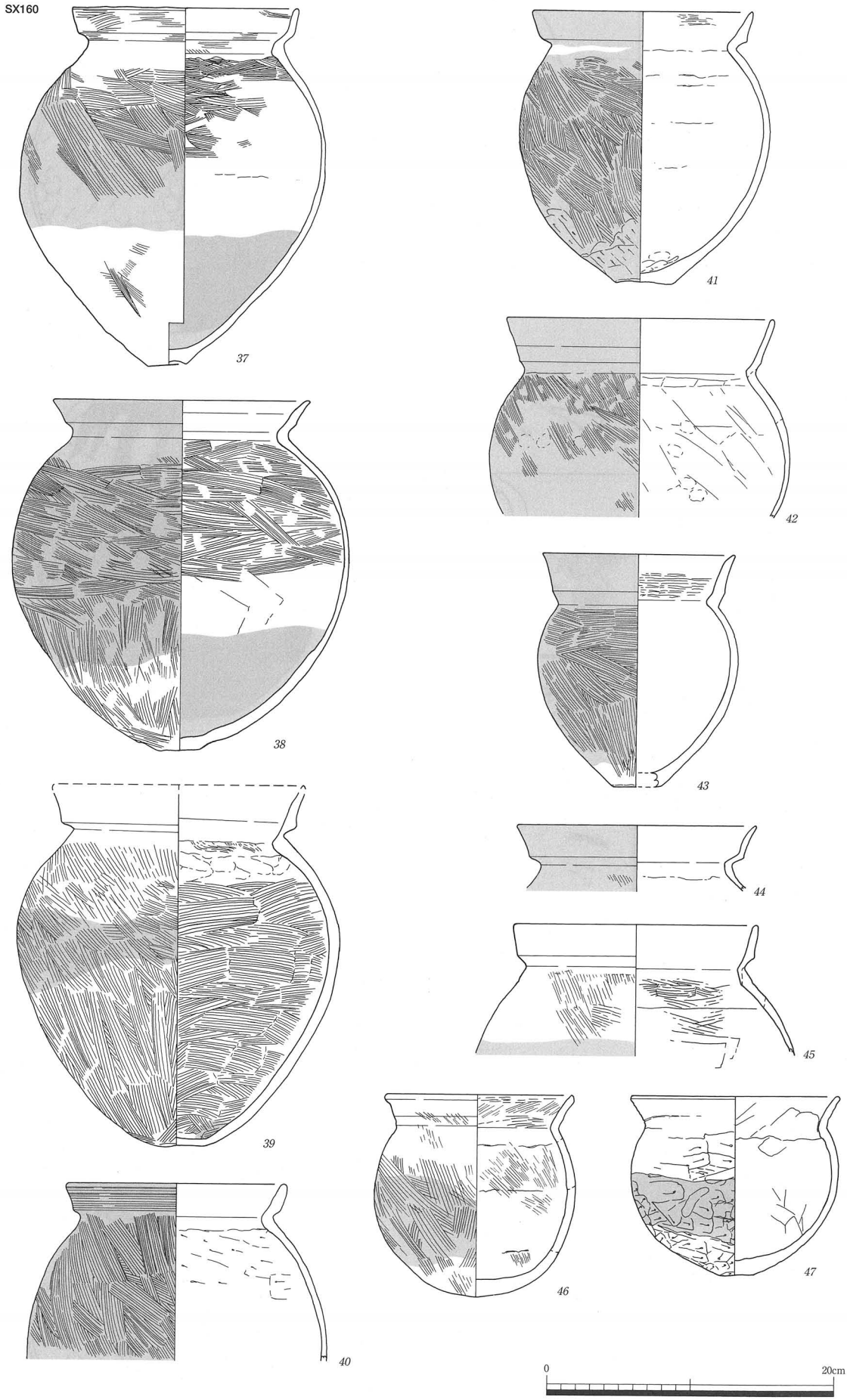
1．SX160遺物出土状況　2～5．SX160　6～7．SX161



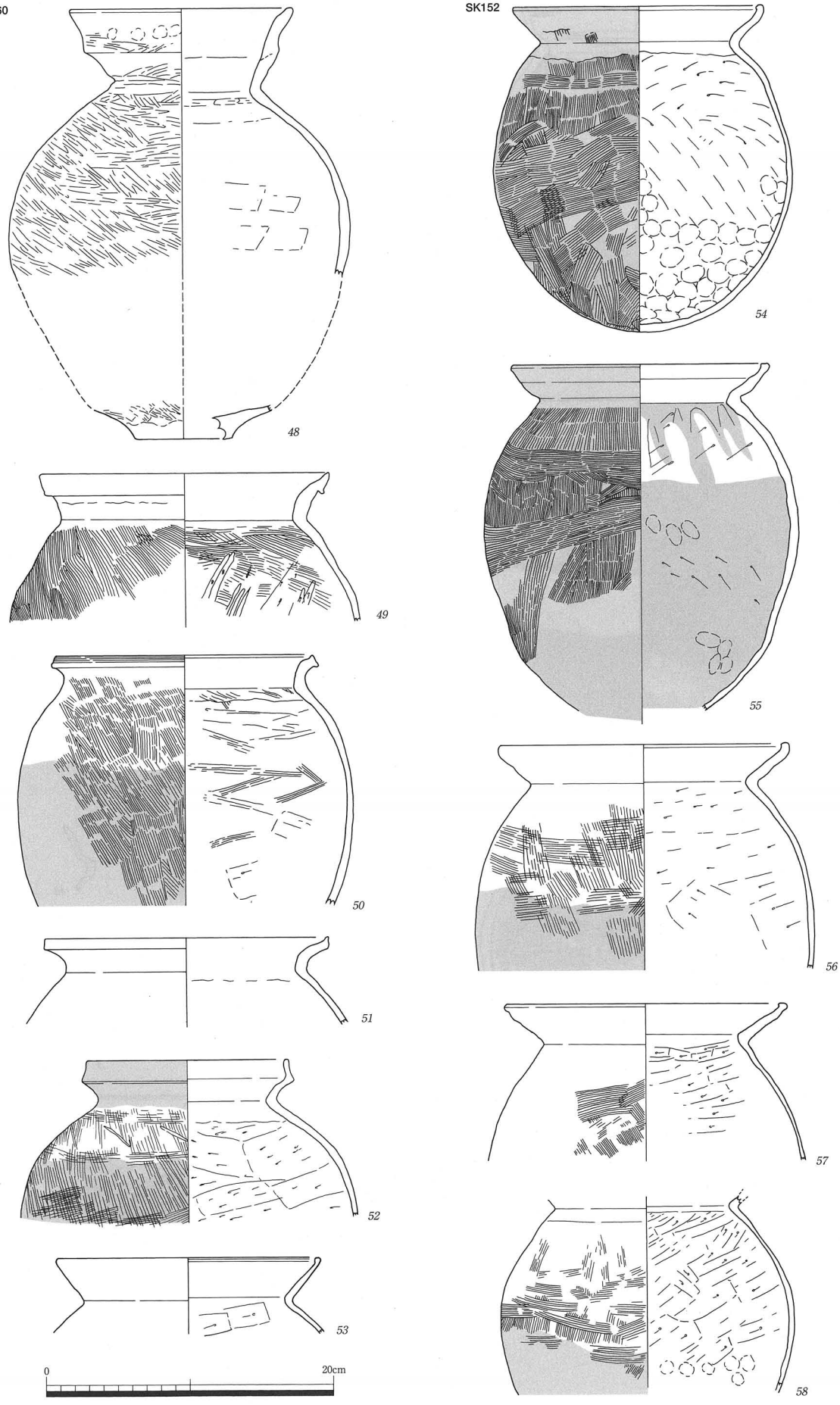
第95図　遺物実測図　(1/4)
SX160(*18*～*27*)



第96図　遺物実測図（1/4）
SX160（*28*～*36*）

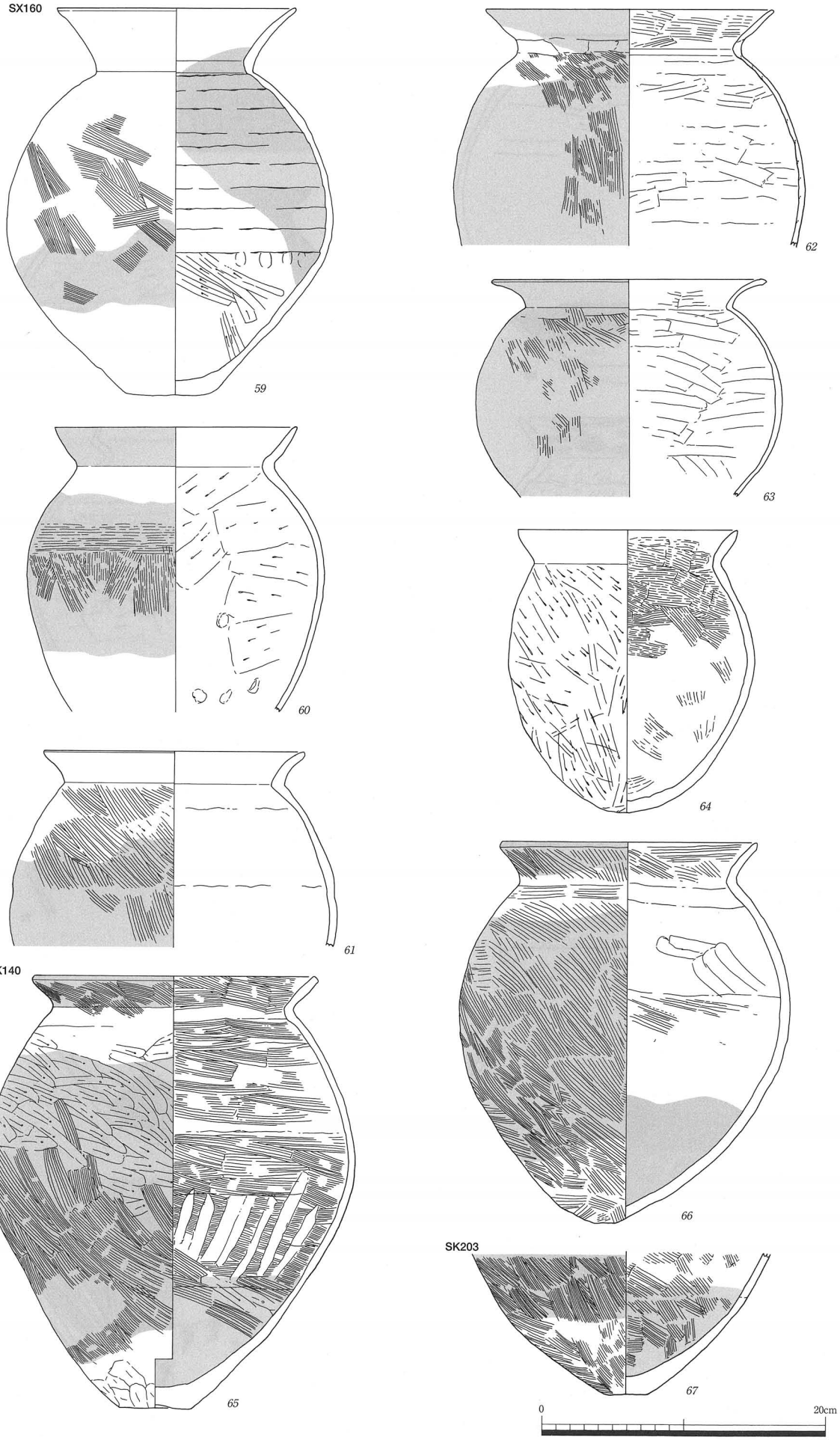


第97図　遺物実測図（1/4）
SX160（*37*～*47*）



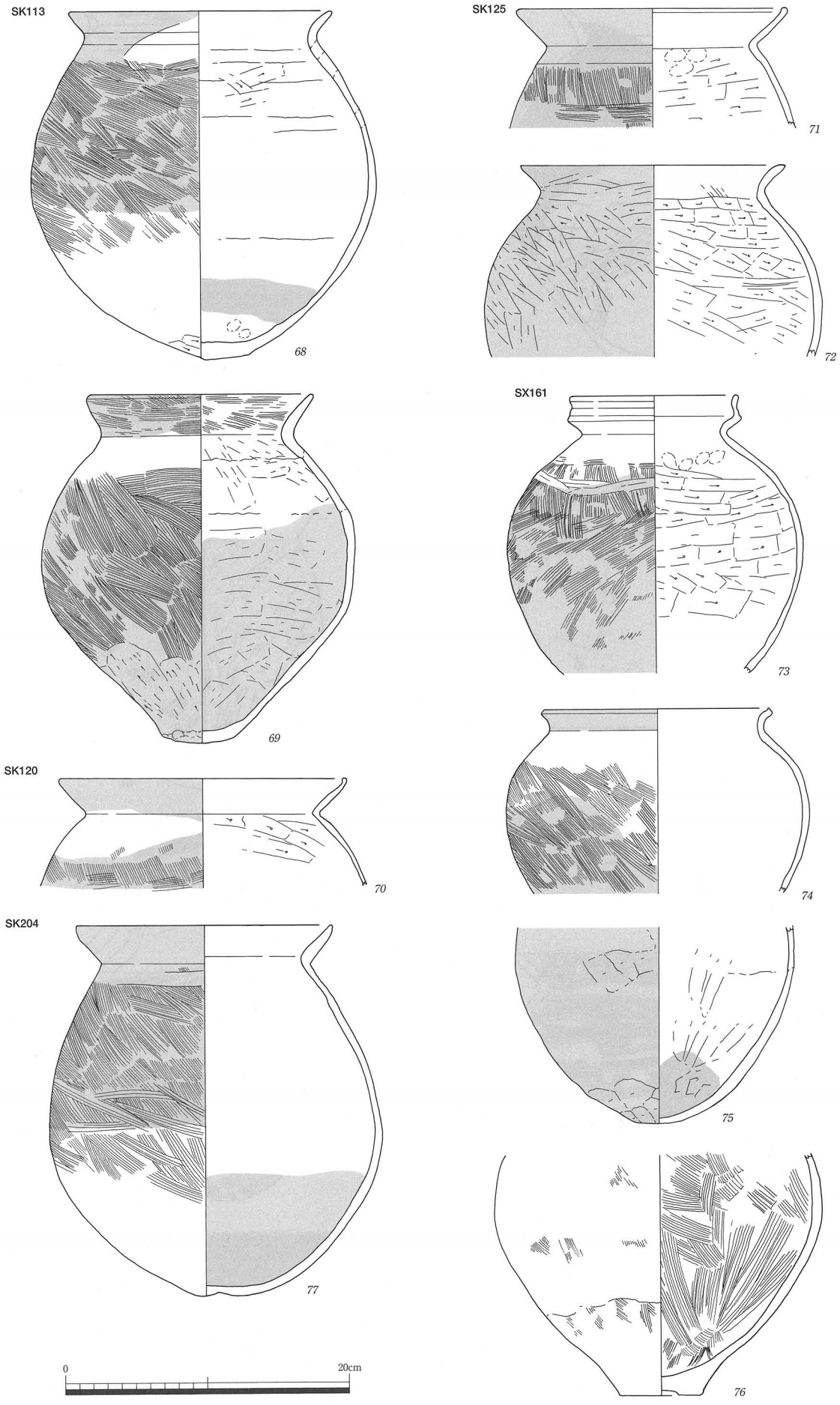
第98図　遺物実測図　(1/4)

SK152(*54*)　SX160(*48*～*53*・*55*～*58*)



第99図　遺物実測図　(1/4)

SK140(*65・66*)　SX160(*59～64*)　SK203(*67*)



第100図　遺物実測図　(1/4)

SK113(*68*・*69*)　SK120(*70*)　SK125(*71*・*72*)　SX161(*73*～*76*)　SK204(*77*)

いたと考えられ，その結果土坑が重複しながら帯状に連なったものと思われる。遺構完掘後に土坑底面の穴状に窪んだプランから各土坑を抽出できたものもあるが，掘削前に平面的に分離して検出することは困難であった。このためＳＸ160として一括して扱ったが，抽出できた土坑には遺構番号を付して，各々記述した。遺物には縄文土器，土師器，須恵器，木製品がある。縄文土器と須恵器については小破片が多く，混入したものと思われる。土師器（13～64及び各土坑出土遺物65～77）は完形または半完形で，一個体が潰れたような状態で出土したものが多く，約100ヶ所で検出している（第94図の出土状況図）。くの字口縁甕を主体とし，有段口縁甕（37～45），小型甕（46・47），布留系甕（53～58），山陰系の甕（52），複合口縁の壺（48）等がある。概ね古墳時代前期前半のものである。木製品（120～123）はいずれもスギの板材である。

土坑

１号土坑（ＳＫ１，第101・112図）

南地区南西角に位置する不整形の土坑で，調査区外へ伸びる。幅2.48m，深さ0.61mを測る。埋土は灰黄色粘土をブロック状に含む黒色粘土である。土坑底面はほぼ平坦で，北側は階段状に，南側は直線的に真っ直ぐ掘り下げている。粘土採掘坑と考える。遺物は土師器甕（78）がある。

２号土坑（ＳＫ２，第101・118図）

南地区南西角に位置する楕円形の土坑。長軸2.10m，短軸1.18m，深さ0.48mを測る。土坑底面はほぼ平坦で，西側は階段状，東側は直線的に掘り下げている。埋土は中位に灰オリーブ色砂が帯状に堆積しており，粘土採掘後に粘土を溜めて置き，必要な量を掘り採る「粘土土坑」と思われ，さらに水簸を行った可能性もあると思われる[注2]。遺物は縄文土器，土師器甕がある。

３号土坑（ＳＫ３，第101・118図）

南地区南西角に位置する。長さ1.96m，幅1.66m，深さ0.42mを測る不整形の土坑で，ＳＫ４と重複する。埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土で，底面はほぼ平坦である。遺物には土師器甕，磨製石斧（129）がある。粘土採掘坑と考える。

４号土坑（ＳＫ４，第101・112図，図版74）

南地区南西角に位置し，調査区外へ伸びる。幅2.04m，深さ0.57mを測る不整形の土坑で，ＳＫ３と重複する。東側は下部がオーバーハングしてＳＫ３側へ入り込んでおり，ＳＫ４掘削後にＳＫ３を掘り広げたと思われる。埋土は黒色粘土で，中位に灰色粘土が帯状に堆積しており，粘土採掘後はＳＫ２と同様な粘土土坑として利用されたと思われる。遺物は土師器甕（79～81）がある。

６号土坑（ＳＫ６，第101・112図，図版78）

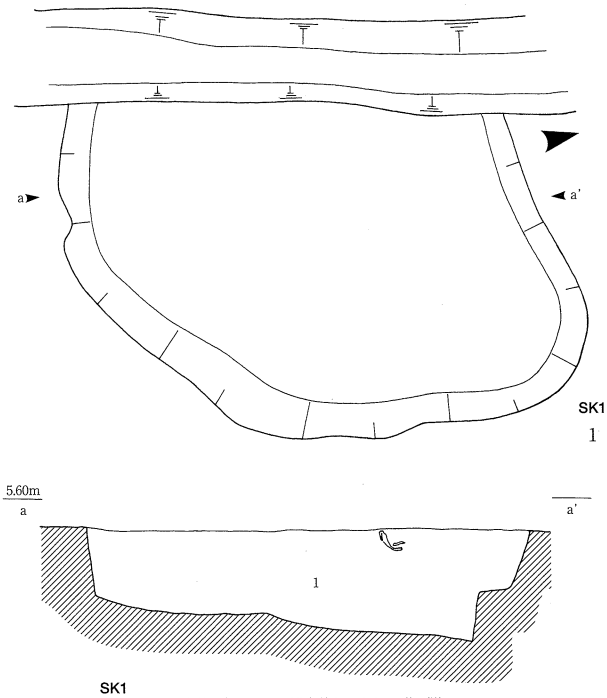
南地区南西角に位置する楕円形土坑。長軸1.60m，短軸1.38m，深さ0.49mを測る。埋土は灰色粘土混じりの黒褐色粘土で，直線的に掘り下げる。粘土採掘坑と考える。遺物は土師器甕（82）がある。

９号土坑（ＳＫ９，第101図）

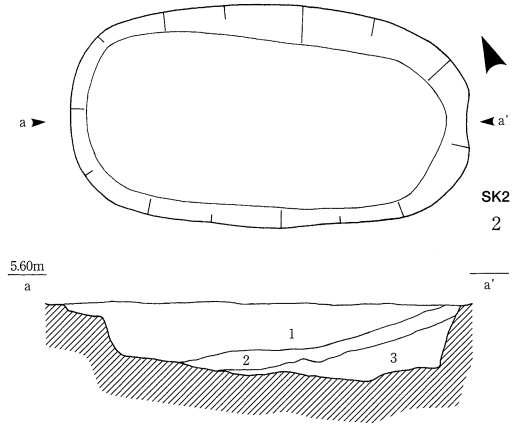
南地区西側に位置する。長さ1.74m，幅1.60m，深さ0.36mを測り，平面不整形を呈する。埋土は黒色粘土，黒色粘土混じりの灰白色粘土で，下位の灰白色粘土は粘土採掘後に溜めて置いた粘土がそのまま放置された可能性があり，粘土土坑と思われる。

10号土坑（ＳＫ10，第102・112図，図版73）

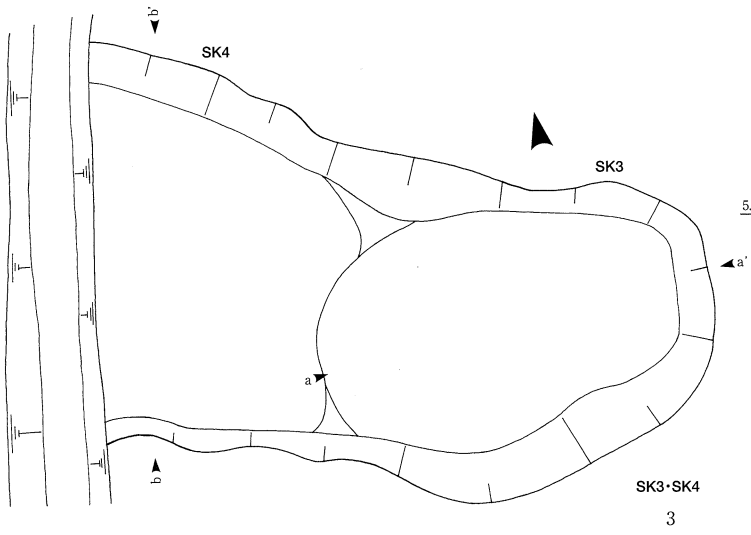
南地区西側に位置する楕円形の土坑。長軸1.96m，短軸1.40m，深さ0.46mを測る。底面は南側に向かって傾斜しており，南壁は階段状になる。埋土は灰白色をブロック状に含む黒色粘土で，底面から若干浮いた位置で土師器甕（84）が一個体分潰れた状態で出土している。粘土採掘坑と考える。遺物

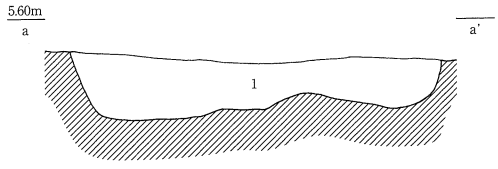


SK1
1. 10YR2/1　黒色粘土(2.5Y7/2　灰黄色粘土20%ブロック状に混)

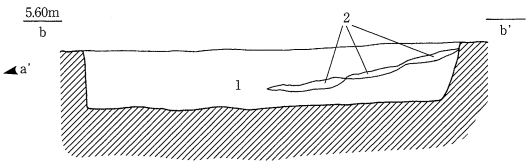


SK2
1. 10YR2/1　黒色粘土(5Y7/1　灰白色粘土10%ブロック状に混)
2. 5Y6/2　灰オリーブ色砂
2. 5Y2/2　オリーブ黒色シルト(5Y7/1　灰白色粘土10%混)

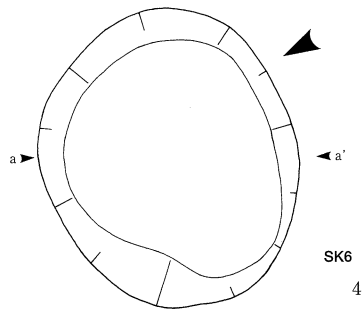


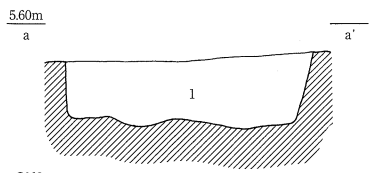


SK3
1. 10YR2/1　黒色粘土(5Y7/1　灰白色粘土30%混,植物遺体混)

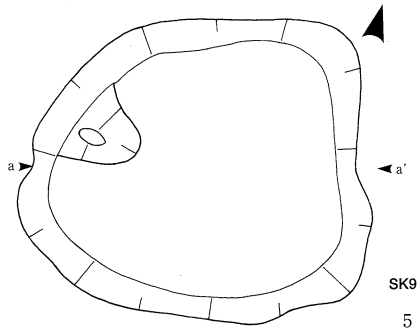


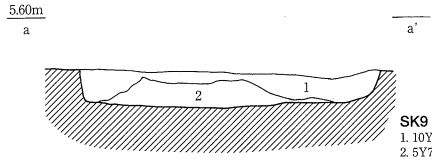
SK4
1. 10YR2/1　黒色粘土
2. 5Y5/1　灰色粘土



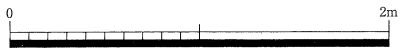


SK6
1. 10YR2/2　黒褐色粘土(5Y6/1　灰色粘土3%混)





SK9
1. 10YR2/1　黒色粘土
2. 5Y7/1　灰白色粘土(10YR2/1　黒色粘土30%混)



第101図　遺構実測図

1. SK1　2. SK2　3. SK3・SK4　4. SK6　5. SK9

は土師器甕（83・84）があり，84は受け口状の口縁の甕で，外面上半は粗いハケ調整である。

12号土坑（ＳＫ12，第102図）

南地区西側に位置する。ＳＫ14に切られる不整形の土坑で，長さ1.90m，幅1.42m，深さ0.47mを測る。埋土は灰白色粘土混じりの黒褐色粘土である。底面は棒で突いたような凸凹があり，北側下部はＳＫ14側にオーバーハングしており，完掘時につながった。粘土採掘坑と考える。

13号土坑（ＳＫ13，第102図）

南地区西側に位置し，ＳＫ14に切られている。長軸1.06m，短軸0.70m，深さ0.29mを測る楕円形の土坑である。埋土は灰色粘土混じりの黒色粘土である。粘土採掘坑と考える。

14号土坑（ＳＫ14，第102・112図）

南地区西側に位置する。長軸1.70m，短軸1.08m，深さ0.34mを測る楕円形の土坑で，ＳＫ12・ＳＫ13を切る。埋土は黒褐色粘土の単層である。ＳＫ14はＳＫ12及びＳＫ13掘削後に横に掘り広げたものと思われ，粘土採掘坑と考える。遺物は土師器甕（85）がある。

16号土坑（ＳＫ16，第102・117図，図版69・100）

南地区西側に位置する。長さ2.07m，幅1.56m，深さ0.53mを測る楕円形に近い隅丸方形の土坑である。埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土である。底面は平坦で，底面中央部からスギの板材（124・125）が２枚重なった状態で出土している。粘土採掘の足場にした板材の可能性が考えられ，粘土採掘坑と思われる。遺物はこの他に土師器甕がある。

17号土坑（ＳＫ17，図版67）

南地区南側に位置する楕円形土坑。長軸1.22m，短軸0.94m，深さ0.43mを測る。埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土の単層である。床面はほぼ平坦で，南側にむかってゆるく傾斜している。粘土採掘坑と考える。

21号土坑（ＳＫ21，第102・112図，図版69・76）

南地区南側に位置する不整形の土坑。長さ2.30m，幅1.64m，深さ0.55mを測る。埋土は黒色粘土に灰白色粘土が帯状に堆積する。南側は緩やかな階段状を呈し，北側は直線的に掘られている。ＳＫ２と同様な粘土土坑と思われる。底面ははぼ平坦で，南側の段直下で土師器甕（86）が一個体そのまま潰れたような状態で出土している。

22号土坑（ＳＫ22，第103図）

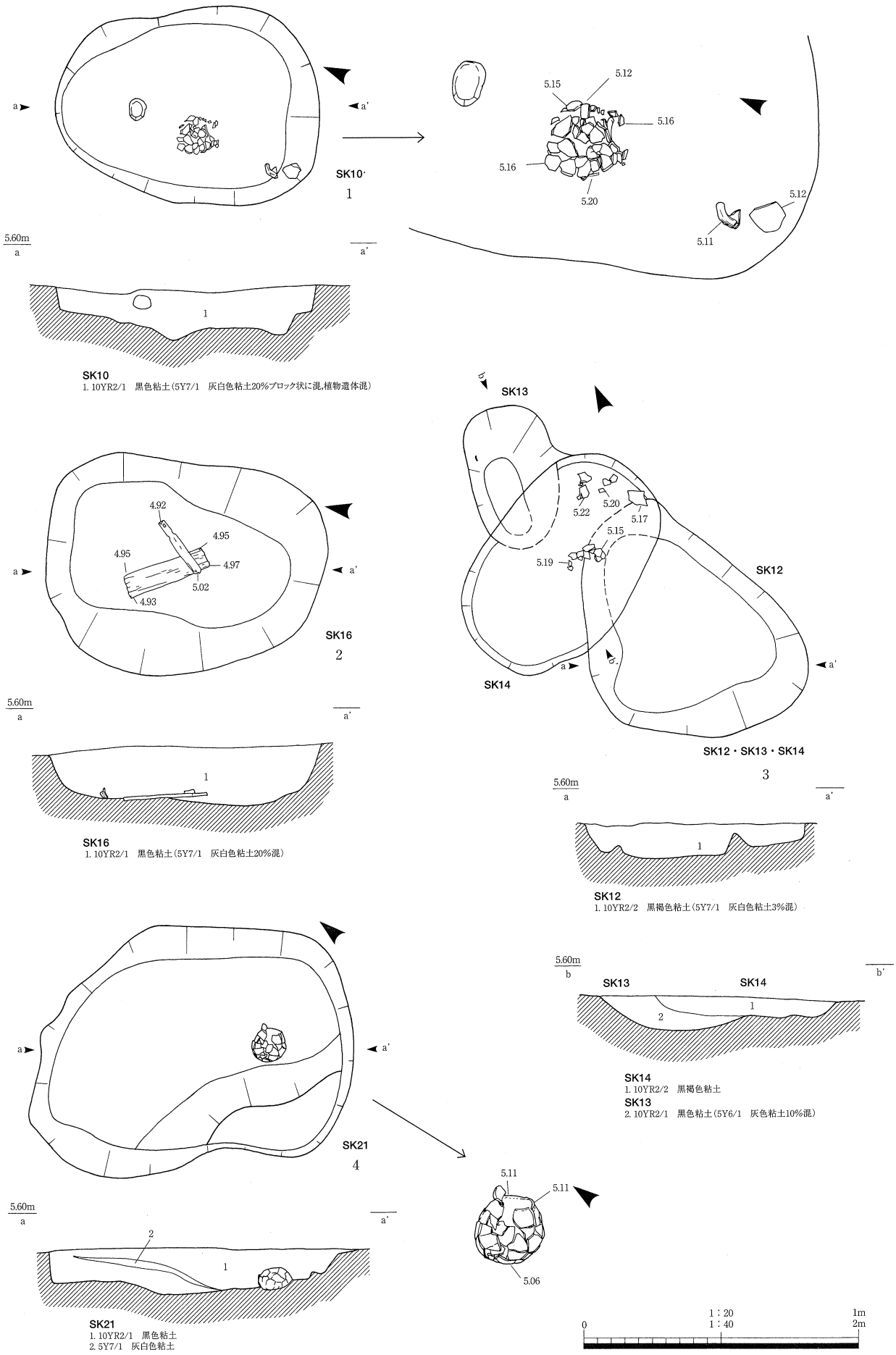
南地区中央やや南よりに位置する。長軸1.62m，短軸1.05m，深さ0.35mを測る楕円形の土坑である。埋土は灰白色混じりの黒色粘土である。ＳＫ23に切られているが，ＳＫ24を切っており，ＳＫ24→ＳＫ22→ＳＫ23の順で掘り広げていったと思われる。粘土採掘坑と考える。

24号土坑（ＳＫ24，第103・112図）

南地区中央やや南よりに位置する。長さ2.04m，深さ0.08mを測る不整形土坑で，ＳＫ22及びＳＫ28・ＳＫ30に切られている。ＳＫ24は浅い皿状に掘り窪めた土坑で，ＳＫ24→ＳＫ30→ＳＫ28，ＳＫ24→ＳＫ22と掘り広げた粘土採掘坑と考える。遺物は土師器甕（87）がある。

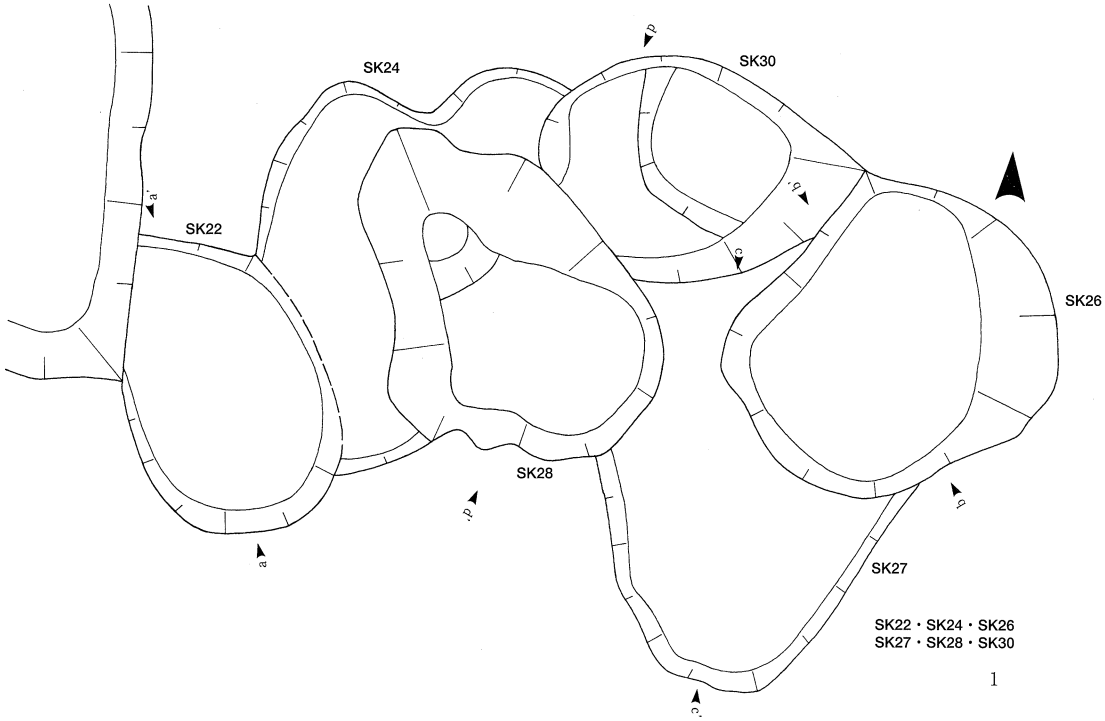
26号土坑（ＳＫ26，第103図）

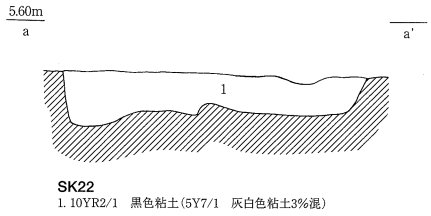
南地区中央やや南よりに位置する。長さ1.70m，幅1.44m，深さ0.41mを測る円形土坑である。埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘質シルトで，底面は凹凸がある。ＳＫ27と重複しており，ＳＫ27掘削後に掘り広げたと思われる。粘土採掘坑と考える。遺物は土師器甕がある。



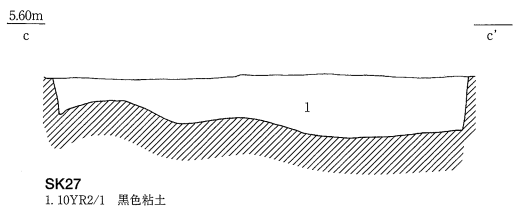
第102図　遺構実測図

1. SK10　2. SK16　3. SK12・SK13・SK14　4. SK21

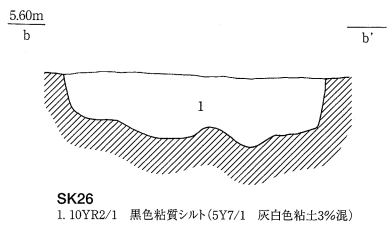




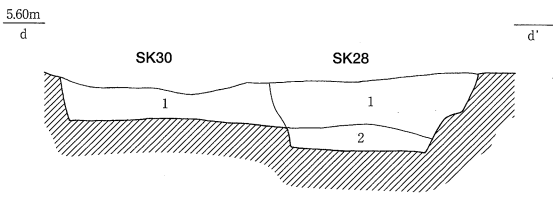
SK22
1. 10YR2/1　黒色粘土(5Y7/1　灰白色粘土3%混)



SK27
1. 10YR2/1　黒色粘土

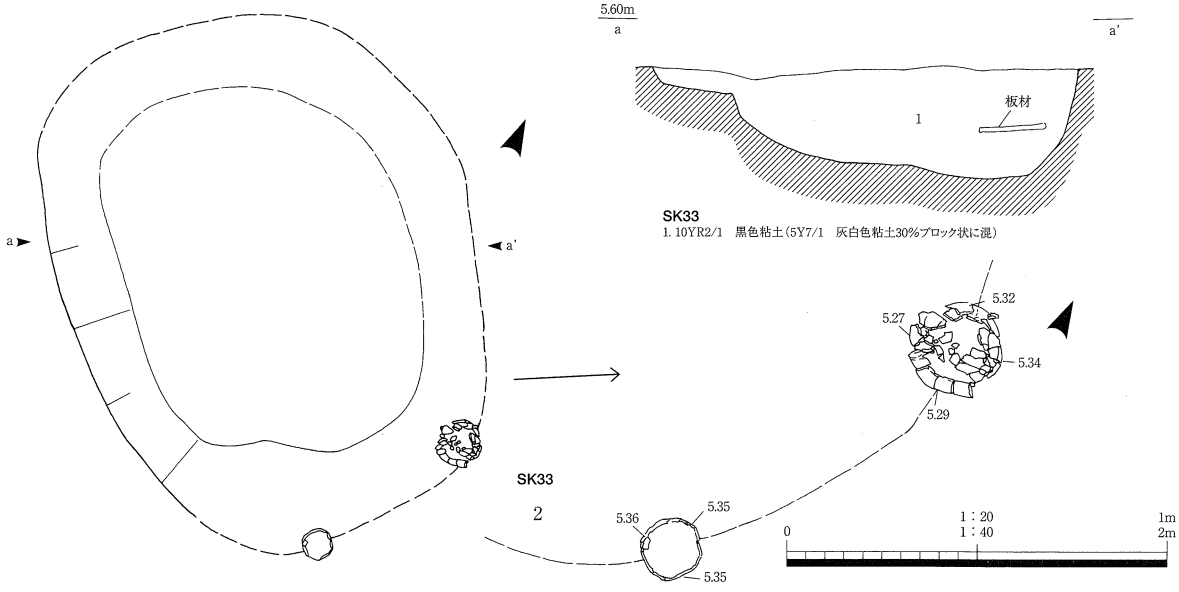


SK26
1. 10YR2/1　黒色粘質シルト(5Y7/1　灰白色粘土3%混)



SK30
1. 10YR2/1　黒色粘土(5Y7/1　灰白色粘土10%混)

SK28
1. 10YR2/1　黒色粘土(5Y7/1　灰白色粘土10%混)
2. 2.5Y6/2　灰黄色粘土(10YR2/1　黒色粘土50%ブロック状に混)



SK33
1. 10YR2/1　黒色粘土(5Y7/1　灰白色粘土30%ブロック状に混)

第103図　遺構実測図

1. SK22・SK24・SK26・SK27・SK28・SK30　2. SK33

27号土坑（ＳＫ27，第103図，図版67）

南地区中央やや南よりに位置する。長さ1.66m，深さ0.40mを測る不整形土坑で，ＳＫ26・ＳＫ28・ＳＫ30と重複している。埋土は黒色粘土の単層で，底面はほぼ平坦である。ＳＫ27→ＳＫ26，ＳＫ27→ＳＫ30→ＳＫ28と掘り広げたと思われ，粘土採掘坑と考える。

28号土坑（ＳＫ28，第103・113図）

南地区中央やや南よりに位置する不整形土坑。長さ2.06m，幅1.32m，深さ0.60mを測る。ＳＫ24・ＳＫ27・ＳＫ30と重複しており，ＳＫ24→ＳＫ27→ＳＫ30→ＳＫ28と掘り広げられた最終段階で，徐々に深く掘り下げられている。埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土，黒色粘土がブロック状に混じる灰白色粘土の二層である。遺物は土師器甕（88）がある。

30号土坑（ＳＫ30，第103図）

南地区中央やや南よりに位置する。長さ1.72m，幅1.26m，深さ0.53mを測る不整形土坑である。ＳＫ24・ＳＫ27→ＳＫ30→ＳＫ28と掘り広げたと思われる。埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土で，東側が一段深く掘削されている。粘土採掘坑と考える。

33号土坑（ＳＫ33，第103・113・117・118図，図版77・100）

南地区中央部に位置する。長さ2.60m，幅2.40m，深さ0.67mを測る不整形土坑である。西側は階段状に浅くなるが，底面はほぼ平坦で，埋土は灰白色粘土をブロック状に含む黒色粘土である。埋土中位からスギの板材（126），南側肩から一個体が潰れたような状態の土師器甕（94）と土師器甕の下半分が正位で出土している。粘土採掘坑と考える。

34号土坑（ＳＫ34，第104・113・118図，図版69・101・102）

南地区中央やや西よりに位置する不整形土坑。長さ3.68m，幅3.32m，深さ0.52mを測る。底面は凹凸が激しく，埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土の単層で，断面観察からも分離は困難であったが，複数の土坑が重複しているものと思われる。粘土採掘坑と考える。遺物は縄文土器，須恵器，土師器甕（89・90），打製石斧（132・133）がある。133は大型の撥形のもので石鍬の可能性がある。

36号土坑（ＳＫ36，第104・113図，図版69・79）

南地区中央やや西よりに位置する楕円形土坑。長軸1.64m，短軸1.06m，深さ0.66mを測る。ＳＫ37と重複しており，ＳＫ37→ＳＫ36の順で掘削したと考えられる粘土採掘坑である。埋土は灰白色粘土をブロック状に含む黒色粘土で，中位から上位にかけて土師器甕（91～93），木製品が出土する。土師器甕（93）はＳＫ37の埋土出土の破片と接合しており，両者に時間的な差はないものと思われる。また，木製品は遺存状態が悪く図化していないが，先端の尖った棒状のもので掘り棒の可能性がある。

37号土坑（ＳＫ37，第104・113図，図版69）

南地区中央やや西よりに位置する楕円形土坑。ＳＫ36に切られており，残存部短軸1.13m，深さ0.42mを測る。埋土は黒褐色粘土で，底面はほぼ平坦である。粘土採掘坑と考える。

38号土坑（ＳＫ38，第105・106・113・117図，図版69・99）

南地区中央部に位置する。長軸2.46m，短軸1.93m，深さ0.58mを測る楕円形土坑である。ＳＫ40・ＳＫ42を切っている。埋土は灰白色粘土混じりの黒褐色粘土で，南側が一段深くなる。北側の段上からスギの板材（127），南側の段下から土師器甕（95）が出土している。粘土採掘坑と考える。

39号土坑（ＳＫ39，第105・106図）

南地区中央部に位置する不整形土坑で，長さ1.57m，幅1.30m，深さ0.42mを測る。ＳＫ40を切っている。埋土は灰白色粘土をブロック状に含む黒色粘土で，北側は直線的に掘り下げるが，南側は緩や

かな傾斜になっている。粘土採掘坑と考える。

40号土坑（ＳＫ40，第105・106・114図）

南地区中央部に位置する不整形土坑。長さ3.88m，幅1.62m，深さ0.30mを測る。ＳＫ38・ＳＫ39・ＳＫ41と重複しており，ＳＫ41→ＳＫ40→ＳＫ39の順で掘り広げたと思われる。底面は西側でやや凹凸になるが，ほぼ平坦で，埋土は灰白色粘土をブロック状に含む黒褐色粘土である。埋土下位から土師器甕（105）が出土している。

41号土坑（ＳＫ41，第105・106・113図，図版69・77）

南地区中央部に位置する。長さ2.07m，深さ0.23mを測る不整形土坑で，ＳＫ40に切られている。埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土で，底面から若干浮いた状態で土師器甕（96）が出土している。粘土採掘坑と考える。

42号土坑（ＳＫ42，第105・106・114図）

南地区中央部に位置する不整形土坑。長さ2.24m，幅1.83m，深さ0.50mを測る。ＳＫ38・ＳＫ50と重複している。底面はほぼ平坦だが，北側で若干凹凸になる。埋土は灰色粘土混じりの黒褐色粘土である。粘土採掘坑と考える。遺物は土師器甕（97）がある。

44号土坑（ＳＫ44，第105・106・114図，図版80）

南地区中央部に位置する不整形土坑で，長さ4.30m，深さ0.47mを測る。ＳＫ45・ＳＫ50に切られており，ＳＫ44→ＳＫ45→ＳＫ50→ＳＫ42→ＳＫ38の順で掘り広げた粘土採掘坑と考えられる。ＳＫ44は北から南に向かって階段状に掘り下げており，下段部分では底面に黒色粘土がブロック状に混じる灰黄色粘土が堆積している。この灰黄色粘土は採掘した粘土を溜め置いたものの可能性もあるが，黒褐色粘土の混入が多いことから，ＳＫ45等を掘り広がる際に掻き出した排土と思われる。遺物は土師器甕（99）があり，99はＳＫ45出土の破片と接合している。

45号土坑（ＳＫ45，第105・106・114図，図版80）

南地区中央部に位置する不整形土坑。長さ1.80m，深さ0.46mを測る。ＳＫ44を切り，ＳＫ50に切られている。底面はほぼ平坦で，埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土である。粘土採掘坑と考える。遺物は土師器甕（98・99）がある。

49号土坑（ＳＫ49，第107図）

南地区中央部に位置する不整形土坑。長さ3.64m，幅2.00m，深さ0.40mを測る。ＳＫ51・ＳＫ52と重複しているが，ＳＫ51との新旧関係は不明である。ＳＫ49は複数の土坑が切り合っているが，断面観察からも分離することが出来なかった。ＳＫ49・ＳＫ51→ＳＫ52と掘り広げた粘土採掘坑と考える。埋土は灰白色粘土がブロック状に混じる黒色粘土である。遺物は土師器甕がある。

50号土坑（ＳＫ50，第105・106図）

南地区中央部に位置する円形土坑で，長さ2.24m，幅2.04m，深さ0.62mを測る。ＳＫ42に切られ，ＳＫ44・ＳＫ45を切る粘土採掘坑である。埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土，黒色粘土がブロック状に混じる灰黄色粘土で，下位の灰黄色粘土はＳＫ44下層と同様な排土の可能性がある。

51号土坑（ＳＫ51，第107・114図）

南地区中央部に位置する不整形土坑。ＳＫ49と重複しており，残存部長1.74m，深さ0.24mを測る粘土採掘坑。ＳＫ49との新旧関係は不明である。埋土は灰白色粘土・灰色粘土がブロック状に混じる黒色粘土である。遺物は土師器甕（100）がある。

52号土坑（ＳＫ52，第107・114図）

南地区中央部に位置する。長さ2.40m，幅2.24m，深さ0.47mを測る不整形土坑である。ＳＫ49・ＳＫ51→ＳＫ52と掘り広げたと考えられる粘土採掘坑である。底面は平坦で，直線的に掘り下げている。埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土，黒褐色粘土混じりの灰白色粘土で，下位の灰白色粘土は採掘した粘土を溜め置いたものがそのまま検出された可能性があり，ＳＫ52は掘削後は粘土土坑として利用されたと思われる。底面に置かれたように板材と土師器甕（101）が出土している。

53号土坑（ＳＫ53，第104図）

南地区中央部に位置する円形土坑。長さ1.56m，幅1.35m，深さ0.46mを測る。埋土は灰白色粘土がブロック状に混じる黒色粘土で，底面に黒色粘土がブロック状に混じる灰白色粘土が塊で置かれたような状態で検出されており，粘土を溜め置いた粘土土坑と考えられる。

54号土坑（ＳＫ54，第104・114・118図，図版61）

南地区中央やや北よりに位置する不整形土坑。長さ1.52m，深さ0.58mを測る粘土採掘坑である。ＳＫ55に切られており，ＳＤ65の肩部を切る。埋土は灰白色粘土がブロック状に混じる黒色粘土，黒色粘土混じりの暗灰黄色粘土で，二層とも混入が多く，ＳＫ55を掘り広げた際の排土の可能性がある。遺物は埋土中位から土師器甕（102）が一個体そのまま潰れたような状態で出土している。

55号土坑（ＳＫ55，第104・114・118図，図版61）

南地区中央やや北よりに位置する。長さ2.28m，幅1.90m，深さ0.61mを測る不整形土坑で，底面はほぼ平坦である。埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土である。ＳＫ54→ＳＫ55の順で掘り広げたと考えられる粘土採掘坑で，北側に向かってさらに掘り広げたと思われる窪みがＳＤ65内に伸びている。底面から若干浮いた状態で土師器甕（103）が出土している。また，ＳＫ54との境目付近から打製石斧の素材と考えられる剥片（134）が出土している。

56号土坑（ＳＫ56，第104図）

南地区中央やや北よりに位置する円形土坑。径1.03m，深さ0.49mを測る。底面はほぼ平坦で，直線的に掘り下げる。埋土は灰白色粘土がブロック状に混じる黒色粘土の単層である。

58号土坑（ＳＫ58，第106図）

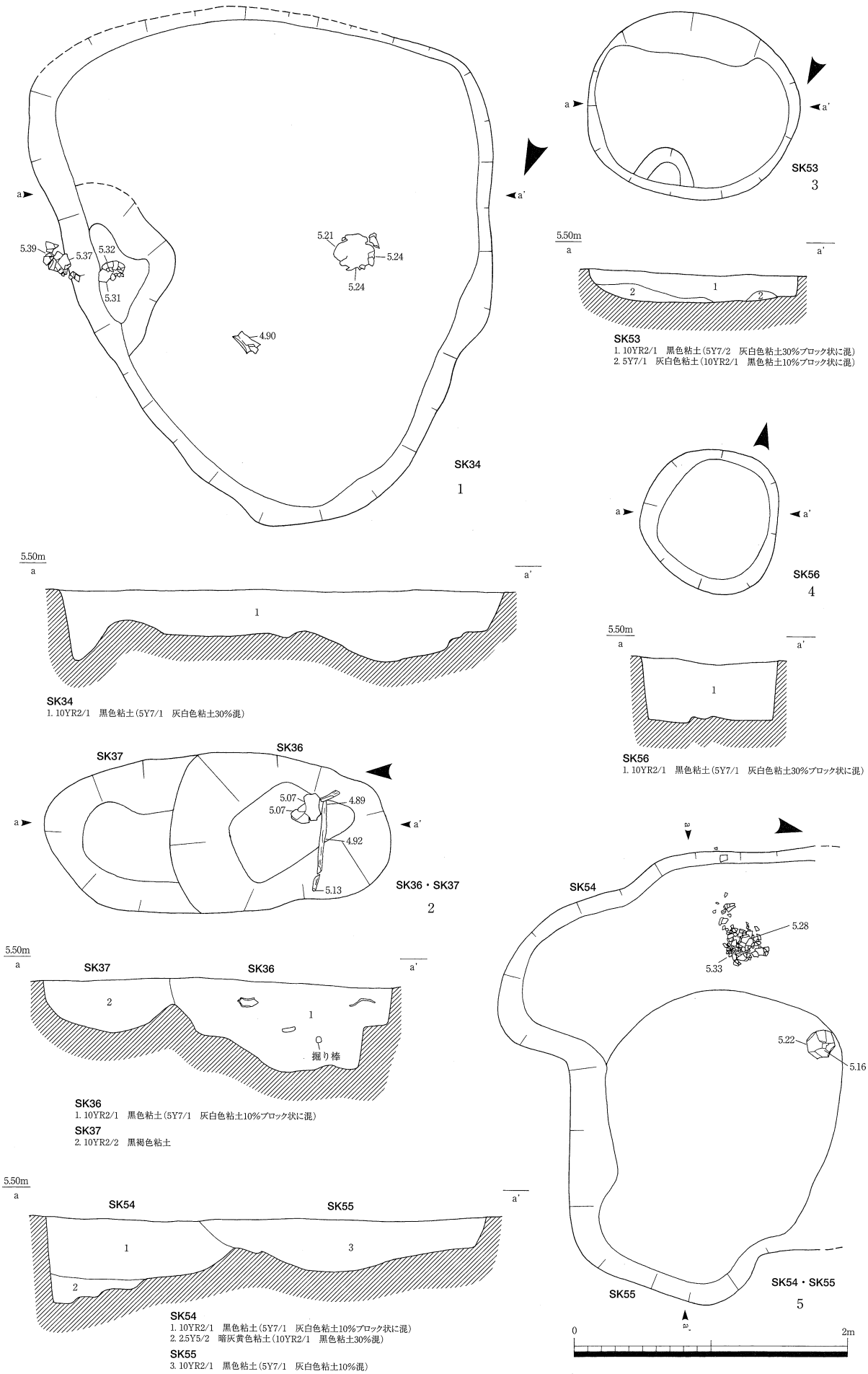
南地区中央やや南よりに位置する方形土坑で，長さ1.97m，幅1.69m，深さ0.18mを測る。底面はほぼ平坦で中央部と南側角がやや窪んでいる。埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土の単層である。ＳＫ58と同様に掘り込みが浅く，方形を呈する土坑で，底面中央部またはコーナー付近が窪むものにＳＫ46・ＳＫ48・ＳＫ59があり，これらはいずれもＳＤ65の南東側に弧状に並んでいる。掘り込みが浅いことや底面の様相が異なることから，粘土採掘坑とは性格を異にすると思われ，水簸を行った土坑の可能性がある。

59号土坑（ＳＫ59，第106図）

南地区東側に位置する方形土坑。長さ1.83m，幅1.40m，深さ0.10mを測る。底面中央部及び北西角が窪み，壁下に溝状の窪みが巡る。埋土は黒色粘土の単層で，底面に灰白色粘土塊が置かれたような状態で検出されている。これらのことから，採掘した粘土を均質化させるために水簸を行ったと推測される。

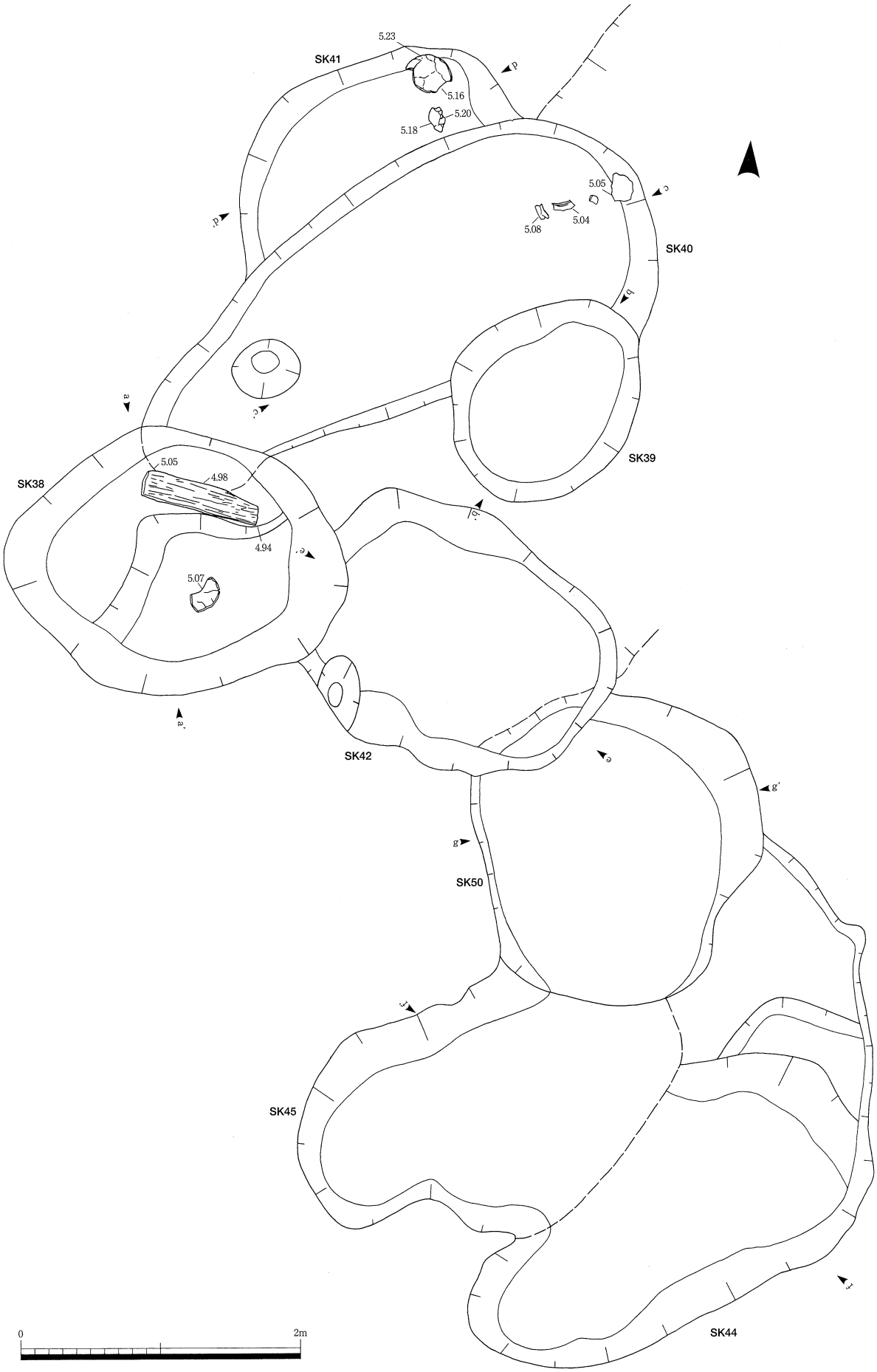
60号土坑（ＳＫ60，第106図，図版67）

南地区北東角に位置する方形土坑で，長さ1.69m，幅1.40m，深さ0.20mを測る。底面は北東角に向かって緩く傾斜しており，北東角には10～20㎝台の扁平な礫が集積されている。性格は不明であるが，



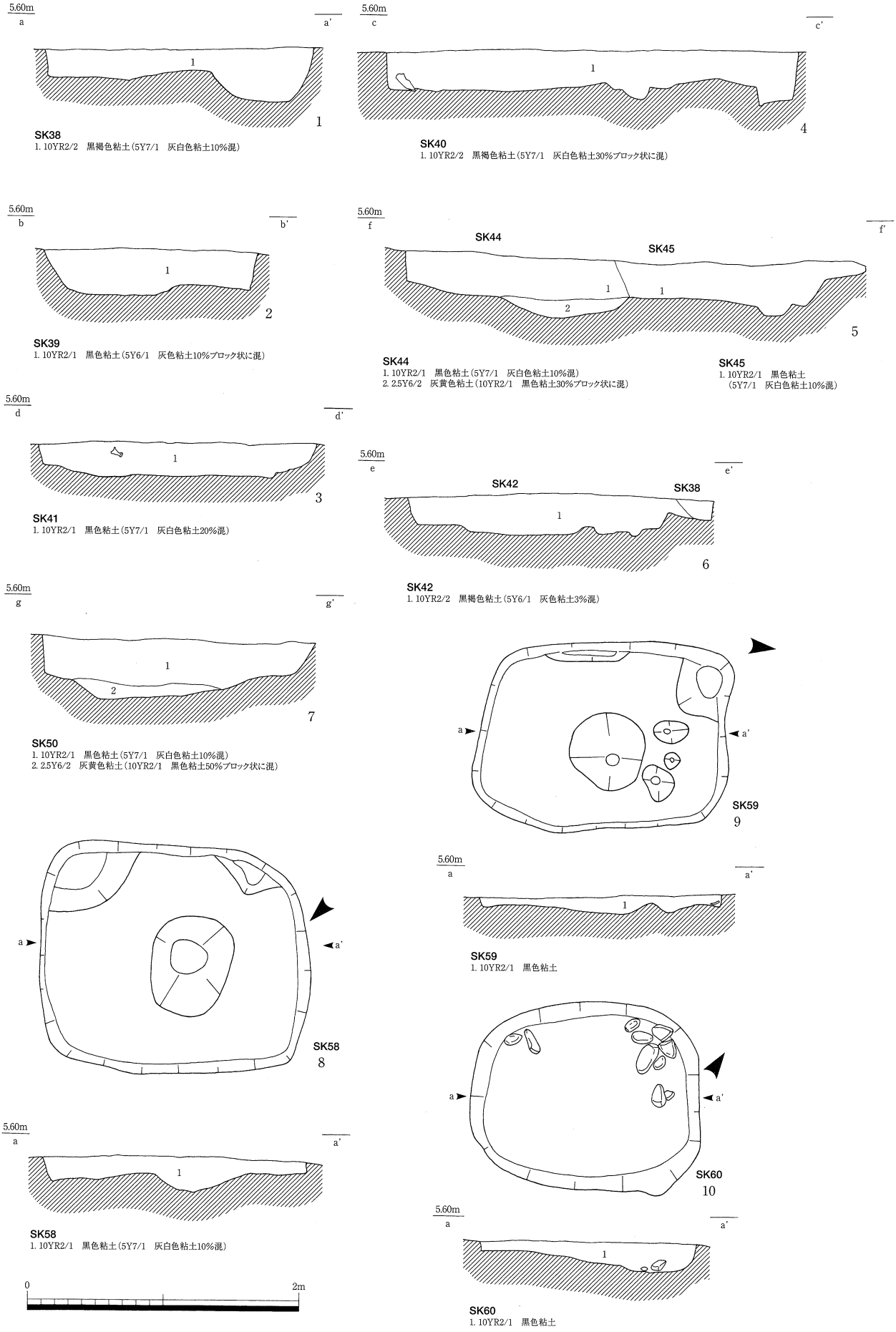
第104図　遺構実測図

1. SK34　2. SK36・SK37　3. SK53　4. SK56　5. SK54・SK55



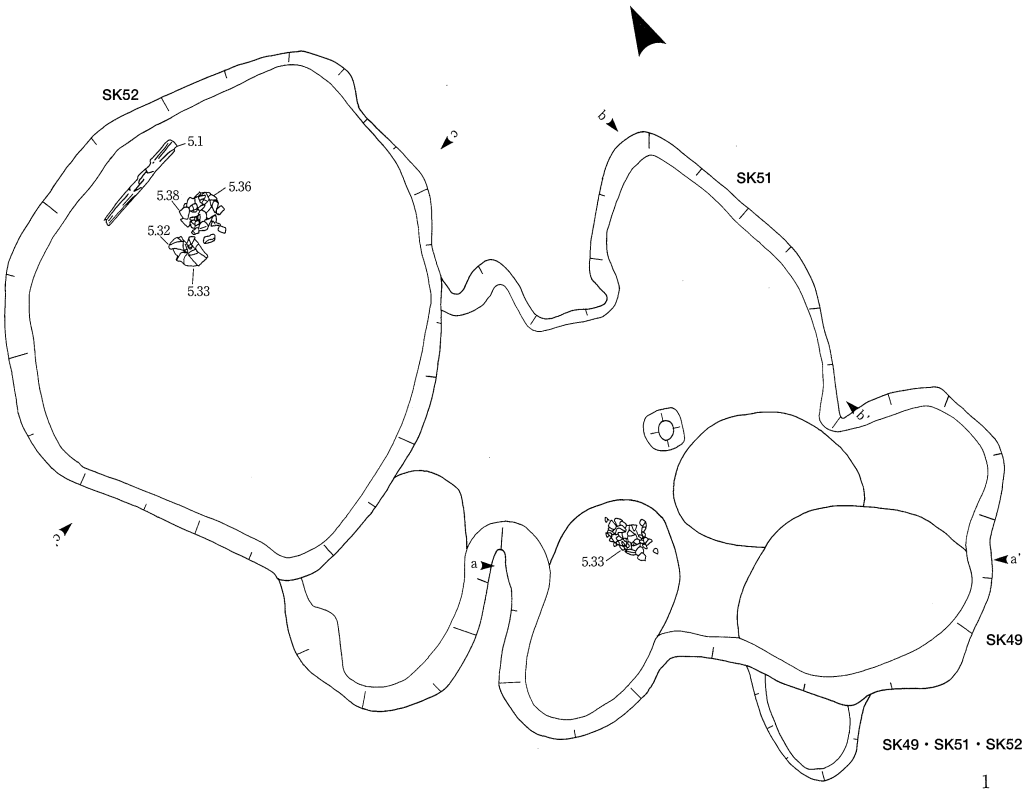
第105図　遺構実測図

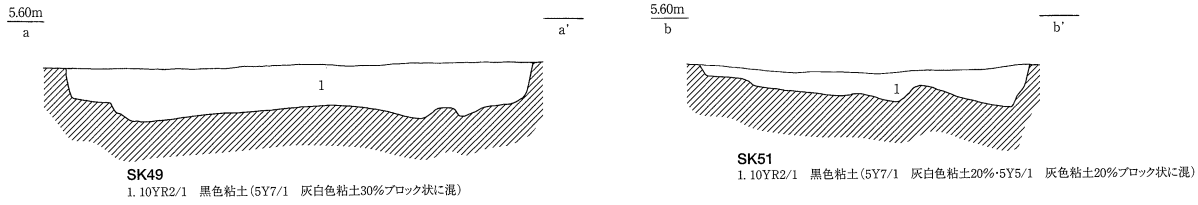
SK38・SK39・SK40・SK41・SK42・SK44・SK45・SK50

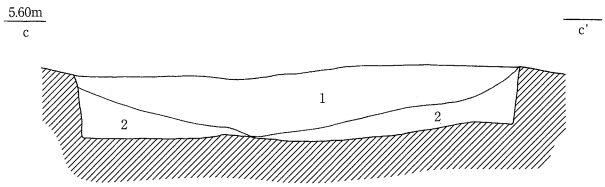


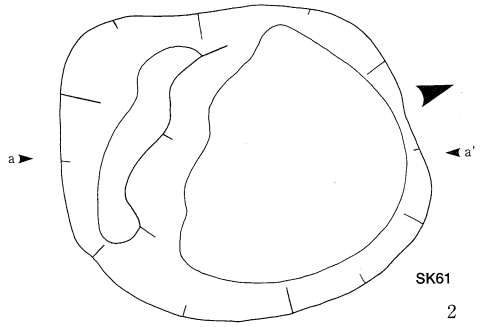
第106図　遺構実測図

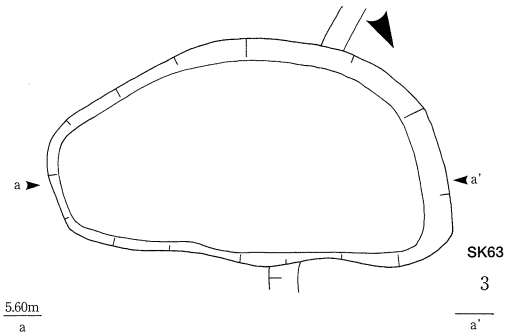
1. SK38　2. SK39　3. SK41　4. SK40　5. SK44・SK45　6. SK42　7. SK50　8. SK58　9. SK59　10. SK60

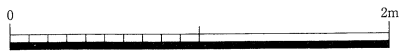












第107図　遺構実測図

1. SK49・SK51・SK52　2. SK61　3. SK63

ＳＫ58・ＳＫ59と同様な水簸等に関わる土坑の可能性が考えられる。

61号土坑（ＳＫ61，第107図）

南地区北東角に位置する不整形土坑。長さ1.93m，幅1.64m，深さ0.31mを測る。南側は緩やかな階段状となり，北側は直線的に掘り下げる。埋土は黒色粘土で，上位から下位にかけて灰白色粘土が帯状に堆積しており，ＳＫ２と同様な粘土土坑と考えられる。

63号土坑（ＳＫ63，第107・114図）

南地区北東角に位置する楕円形土坑で，長軸2.10m，幅1.22m，深さ0.46mを測る。ＳＤ65の肩部にあり，底面は北側に緩く傾斜する。埋土は灰白色混じりの黒色粘土で，底面に黒色粘土混じりの灰白色粘土塊が置かれたような状態で検出されている。粘土土坑と考える。遺物は土師器甕の口縁（104）がある。

105号土坑（ＳＫ105，第108・115図，図版68・76）

北地区南側中央で，旧河道（ＳＸ160）左岸に位置する円形土坑。長さ2.68m，幅2.28m，深さ0.53mを測る。底面はほぼ平坦で，中央がやや窪んでいる。埋土は明オリーブ灰色粘土混じりの黒色粘土で，中位から底部を下にそのまま潰れたような状態の土師器甕（107）が出土している。粘土採掘坑と考える。

111号土坑（ＳＫ111，第108図）

北地区南側中央，ＳＸ160左岸に位置する長方形の土坑で，長さ3.18m，幅1.74m，深さ0.40mを測る。底面は平坦で，直線的に掘り下げる。埋土は黒色粘土，灰黄色粘土混じりの黒色粘土，黒褐色粘土で，３層が一気に堆積した後，窪み状の所に１・２層が堆積したものと思われ，完全に埋まりきらない状態で一定期間オープンな状態であったと思われる。

112号土坑（ＳＫ112，第108・114図）

北地区南側中央，ＳＸ160左岸に位置する。長軸1.40m，短軸0.90m，深さ0.43mを測る楕円形土坑である。埋土は灰黄色粘土混じりの黒褐色粘土で，中位から底面にかけて土師器甕（106）が出土している。粘土採掘坑と考える。

113号土坑（ＳＫ113，第100図，図版70・76）

北地区南側中央，ＳＸ160左岸に位置する楕円形土坑である。ＳＸ160肩部に位置し，ＳＸ160内に向かって深く掘り下げている。埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土で，底面に伏せて置いた様な状態で土師器甕（68・69）が出土している。粘土採掘坑と考える。

120号土坑（ＳＫ120，第100・108図，図版79）

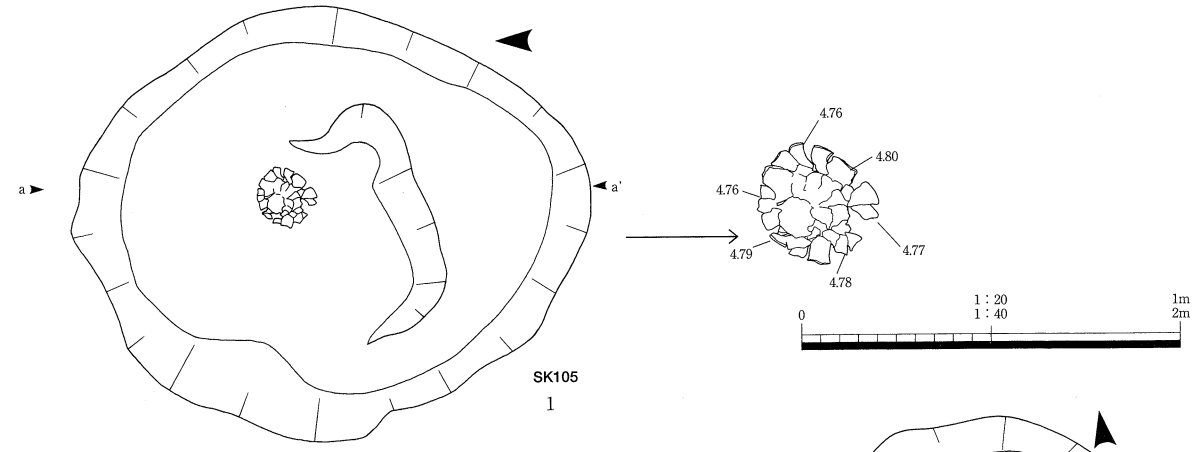
北地区南側中央，ＳＸ160内に位置する。長さ2.26m，幅1.40m，深さ0.32mを測る不整形土坑である。埋土は黒色粘土，灰色粘土混じりの黒色粘土で，両者がブロック状に堆積しており，人為的に埋め戻されたと思われる。粘土採掘坑と考える。遺物は土師器甕（70）がある。70は口縁部が肥厚した布留系甕である。

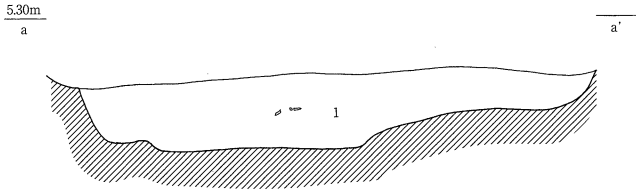
123号土坑（ＳＫ123，図版67）

北地区中央南よりのＳＸ160左岸に位置する円形土坑。長さ1.0m，幅0.9m，深さ0.46mを測り，埋土は黒褐色粘土の単層である。床面は東側がやや深くなるが概ね平坦である。粘土採掘坑と考える。

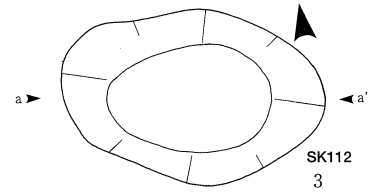
124号土坑（ＳＫ124，第108図，図版67）

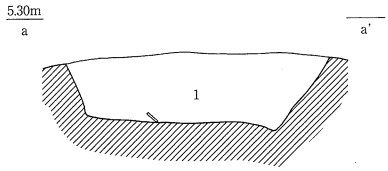
北地区中央南よりのＳＸ160左岸に位置する不整形土坑。長さ1.16m，幅0.98m，深さ0.45mを測る。埋土は黒色粘土，灰色粘土混じりの黒褐色粘土で，南側に階段状の段を持つ。粘土採掘坑と考える。



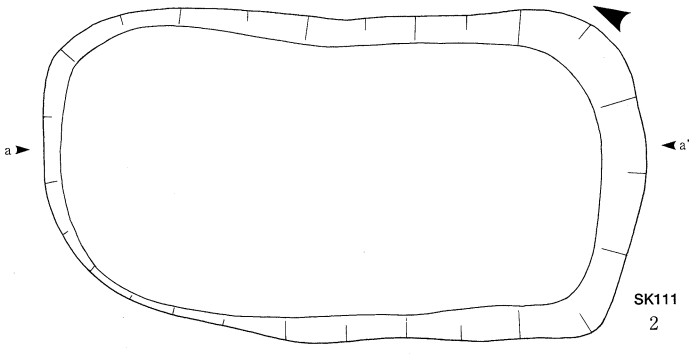


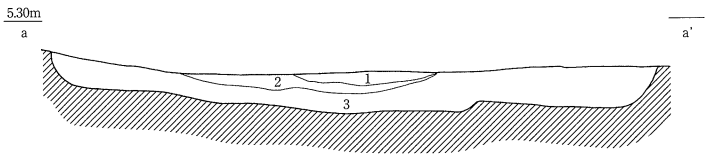
SK105
1. 10YR2/1　黒色粘土(5GY7/1　明オリーブ灰色粘土5%混)



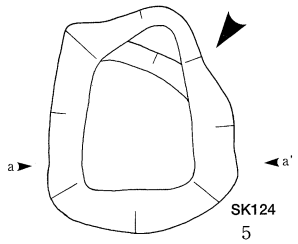


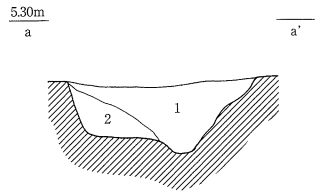
SK112
1. 2.5Y3/1　黒褐色粘土(2.5Y6/2　灰黄色粘土10%混)



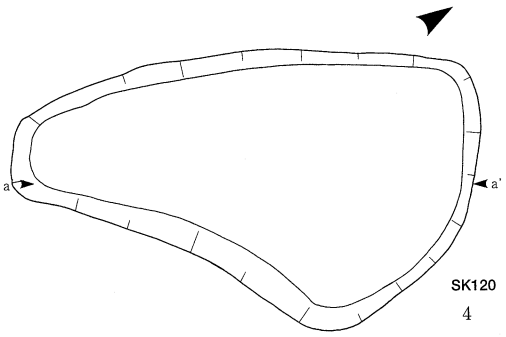


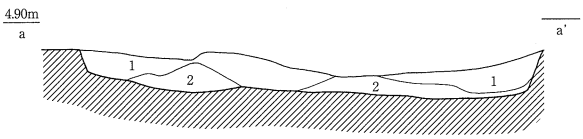
SK111
1. 2.5Y2/1　黒色粘土
2. 2.5Y2/1　黒色粘土(2.5Y6/2　灰黄色粘土10%混)
3. 10YR3/1　黒褐色粘土



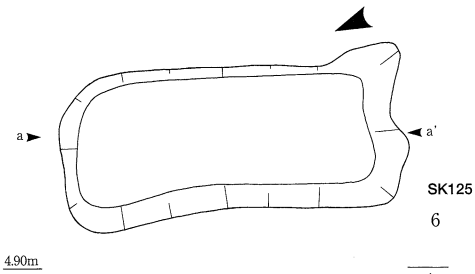


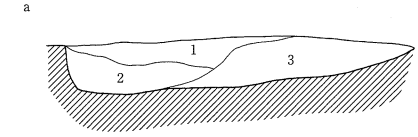
SK124
1. 2.5Y2/1　黒色粘土
2. 10YR3/1　黒褐色粘土





SK120
1. 10YR2/1　黒色粘土
2. 10YR2/1　黒色粘土(7.5Y6/1　灰色粘土10%混)

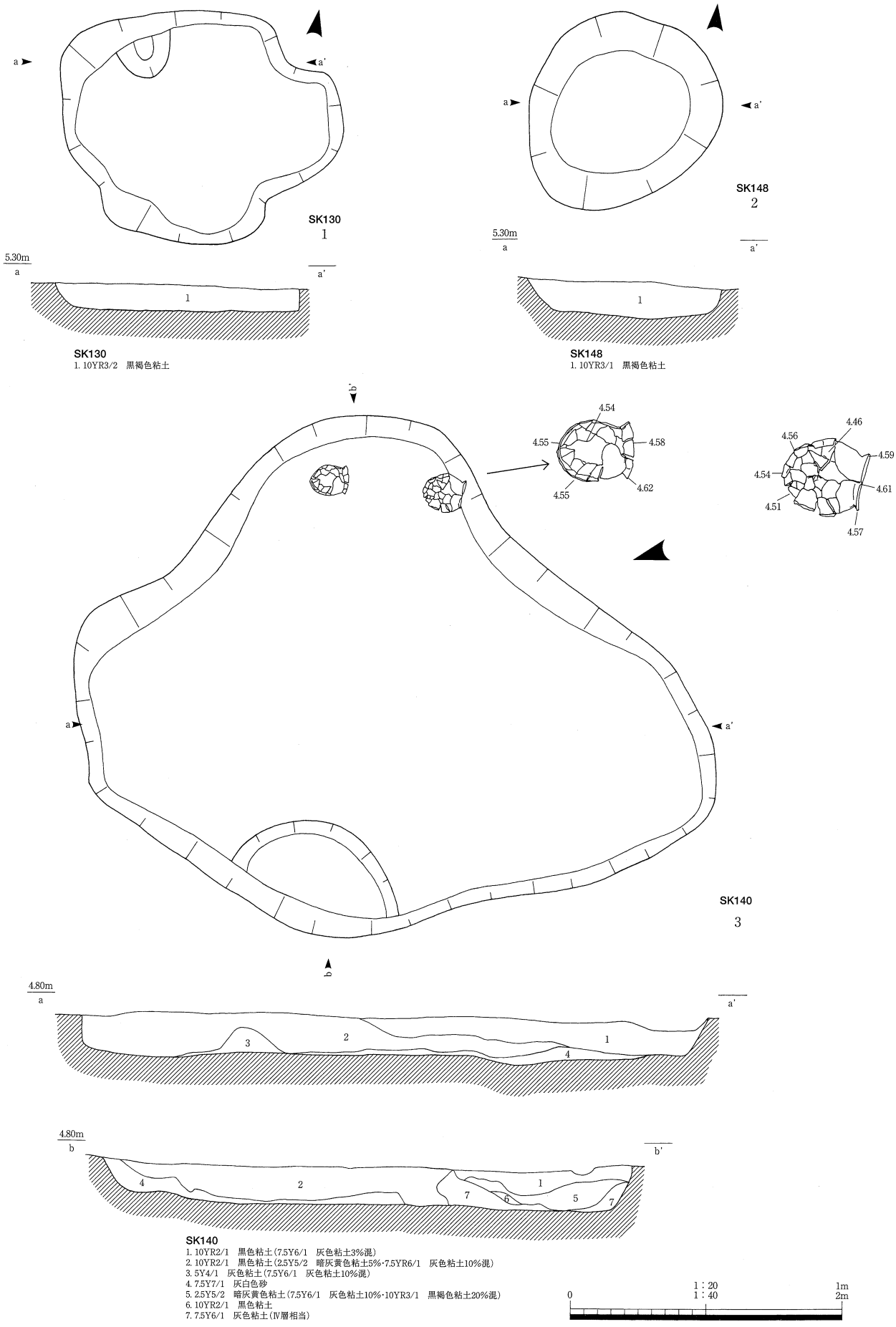




SK125
1. 10YR3/2　黒褐色粘質シルト
2. 2.5Y2/1　黒色粘質シルト(7.5Y7/1　灰白色粘土20%混)
3. 7.5Y7/1　灰白色粘土(10YR3/2　黒褐色粘質シルト40%混)

第108図　遺構実測図

1. SK105　2. SK111　3. SK112　4. SK120　5. SK124　6. SK125



第109図　遺構実測図

1. SK130　2. SK148　3. SK140

遺物は土師器甕がある。

125号土坑（ＳＫ125，第100・108図，図版79）

北地区南東角，ＳＸ160内に位置する長方形土坑。長さ1.85m，幅0.76m，深さ0.30mを測る。埋土は黒褐色粘質シルト，灰白色粘土混じりの黒色粘質シルト，黒褐色粘質シルト混じりの灰白色粘土で，灰白色粘土は溜め置かれた粘土と思われ，粘土土坑と考えられる。遺物は灰白色粘土中から土師器甕（71・72）が出土している。

130号土坑（ＳＫ130，第109図）

北地区中央やや南よりのＳＸ160左岸に位置する。長さ2.10m，幅1.74m，深さ0.30mを測る不整形土坑。埋土は黒褐色粘土の単層で，底面は平坦である。粘土採掘坑と考えられる。

140号土坑（ＳＫ140，第99・109図，図版75・76）

北地区南東角，ＳＸ160内に位置する不整形土坑。複数の土坑が重複していると思われるが，分離は困難であったのでＳＫ140に一括している。長さ4.60m，幅3.60m，深さ0.48mを測る。埋土は暗灰黄色粘土・灰色粘土混じりの黒色粘土が主体で，灰色粘土等がブロック状に堆積しており，人為的に埋め戻されたと思われる。粘土採掘坑と考えるが，底面から灰色粘土塊が置かれたような状態で検出されており，粘土土坑としても利用されていたと思われる。また，底面直上に灰白色砂が堆積しており，水簸を行った可能性も考えられる。東側に張り出した部分の底面からやや浮いた位置から，土師器甕（65・66）がそのまま潰れたような状態で出土している。

142号土坑（ＳＫ142，第110・115図，図版77）

北地区中央南よりのＳＸ160左岸に位置する不整形土坑。複数の土坑が重複しており，長さ3.88m，幅1.52m，深さ0.57mを測る。埋土は黒褐色粘質土を主体とし，東側の一段深くなる部分はブロック状の堆積をなすことから，人為的に埋め戻されたと思われる。底面付近には灰黄褐色粘質シルト，その直上に黄灰色粘土が帯状に堆積しており，水簸等を行った可能性が考えられ，ＳＫ２と同様な粘土土坑と思われる。遺物は埋土中位から土師器甕（108）が潰れたような状態で出土している。

144号土坑（ＳＸ144，第110・115図）

北地区中央南よりのＳＸ160左岸に位置する。複数の土坑が重複しており，長さ3.76m，幅1.14m，深さ0.47mを測る。不整形の北西側を円形の南東側が切っており，西から東へ掘り広げたと思われる。埋土は西側は黒褐色粘土の単層で，東側は黒褐色粘土を主体とし中位に黄灰色粘土が帯状に堆積する。ＳＸ144では西から東へ掘り広げた後，東側はＳＫ２のような粘土土坑として利用していたと考える。遺物は西側の平坦な底面上から土師器甕（109）が出土している。

148号土坑（ＳＫ148，第109図，図版67）

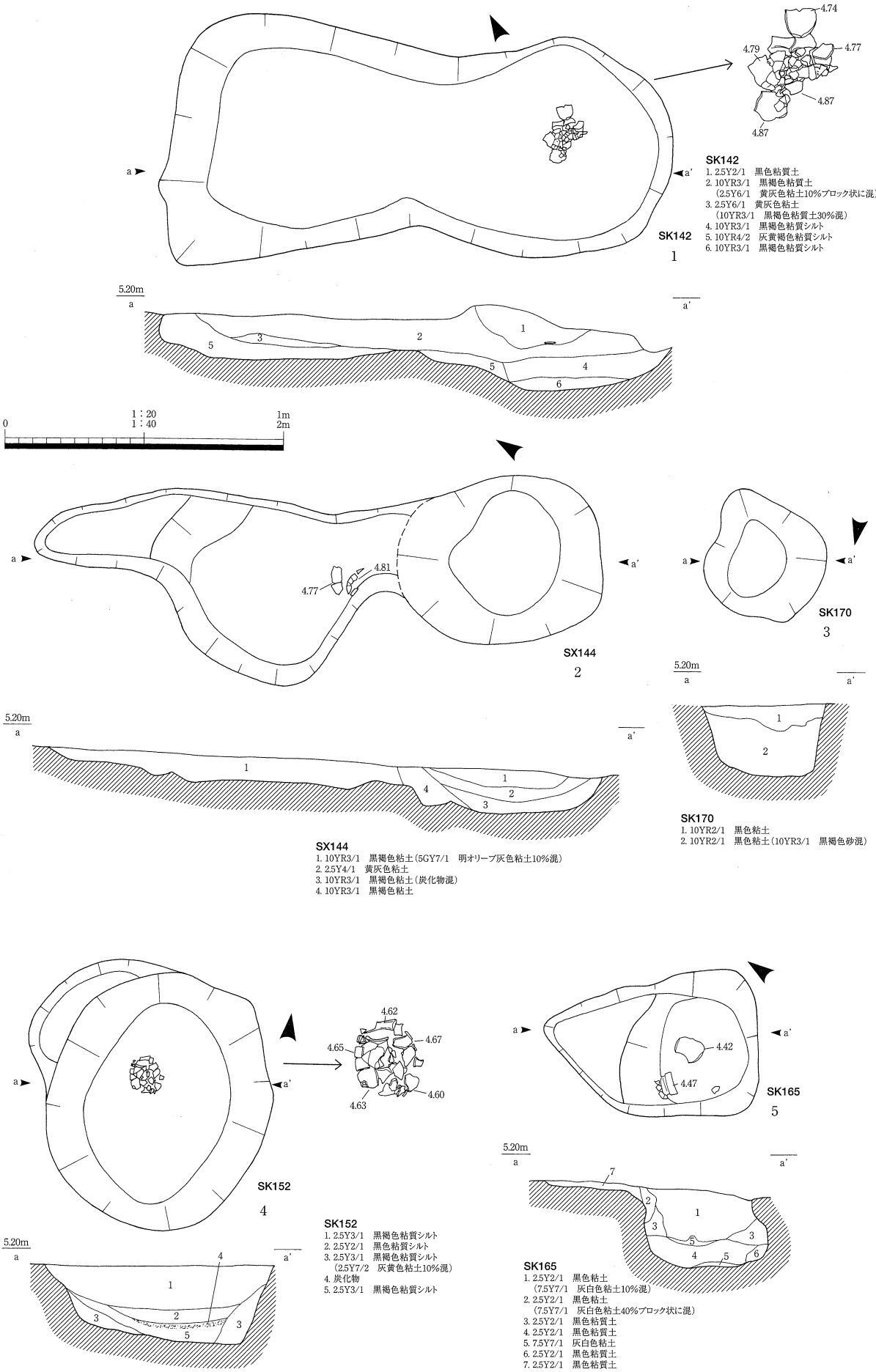
北地区中央部，ＳＸ160左岸に位置する円形土坑。長さ1.44m，幅1.42m，深さ0.49mを測る。埋土は黒褐色粘土の単層である。粘土採掘坑と考える。遺物は土師器甕が出土している。

152号土坑（ＳＫ152，第98・110図，図版67・69・78）

北地区中央部，ＳＸ160左岸に位置する円形土坑。長さ1.84m，幅1.66m，深さ0.61mを測る。直線的に掘り下げているが，北西側に階段状の段がある。埋土は黒褐色粘質シルトを主体とするレンズ状堆積で，２層と４層の間に炭化物が薄い層状に堆積している。粘土採掘坑と考えられる。遺物は底面から土師器甕（54）が一個体そのまま潰れたような状態で出土している。

161号土坑（ＳＸ161，第94・100図，図版68・81）

北地区中央東側，ＳＸ160内に位置する不整形土坑。複数の土坑が重複しており，長さ2.80m，幅



第110図　遺構実測図

1. SK142　2. SX144　3. SK170　4. SK152　5. SK165

2.44m，深さ0.48mを測る。埋土は灰色粘土混じりの黒色粘土が主体で，ブロック状の堆積をしており，人為的に埋め戻されたと考える。底面には灰色粘土塊が置かれたような状態で検出されているが，埋め戻されたと仮定すると，採掘時の排土あるいは廃棄された粘土と考えられ，掘削時にある程度の選別を行っていたと想定される。粘土採掘坑と考える。遺物は埋土中位から底面にかけて土師器甕（73～76）が出土している。

162号土坑（ＳＫ162，第118図，図版101・102）

北地区中央部，ＳＸ160左岸に位置する不整形土坑。ＳＫ163を切っており，ＳＫ163→ＳＫ162の順で掘り広げられたと思われる粘土採掘坑である。埋土は黒色粘質土で，底面に黒色粘質土混じりの灰黄色粘土塊が検出されており，粘土土坑と考えられる。遺物は打製石斧（135）があり，ＳＫ34出土の打製石斧（133）と同様な石鍬の可能性がある。

165号土坑（ＳＫ165，第110・115図，図版68・70・81）

北地区中央部，ＳＸ160左岸に位置する不整形土坑で，長さ1.54m，幅1.00m，深さ0.64mを測る。北側は階段状に一段浅く，南側はオーバーハングして下方に入り込んでいる。埋土は黒色粘質土を主体とし，壁際にブロック土が堆積していることから壁が崩落したものと思われる。また，底面と埋土中位に灰白色粘土が層状に堆積しており，ある程度埋まった後にＳＫ２のような粘土土坑として利用されたと思われる。遺物は北側の段下から土師器甕（110）が出土している。

167号土坑（ＳＫ167，第111図）

北地区中央部，ＳＸ160左岸に位置する不整形土坑。複数の土坑が重複しており，長さ3.72m，幅2.48m，深さ0.67mを測る。埋土は黄灰色粘土混じりの黒褐色粘土が主体で，ブロック状に堆積しており，人為的に埋め戻されたと思われる。粘土採掘坑と考える。遺物は埋土中位から土師器甕が出土している。

170号土坑（ＳＫ170，第110・115図，図版68）

北地区中央部，ＳＸ160左岸に位置する不整形土坑で，長さ1.02m，幅0.88m，深さ0.56mを測る。底面は平坦で，直線的に掘り下げている。埋土は黒色粘土，黒褐色砂混じりの黒色粘土で，粘土採掘坑と考える。遺物は土師器甕（111）がある。

182号土坑（ＳＫ182，第111図）

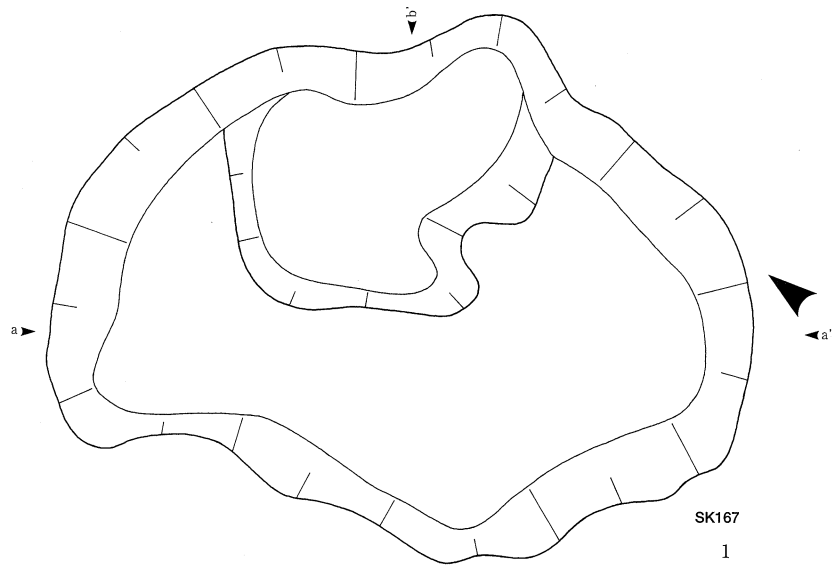
北地区中央部，ＳＸ160左岸に位置する円形土坑。長さ1.00m，幅0.96m，深さ0.51mを測る。埋土は灰白色粘土混じりの黒褐色粘質土が主体で，西側はややオーバーハング気味に下方に入り込んでいる。粘土採掘坑と考える。遺物は土師器甕が出土している。

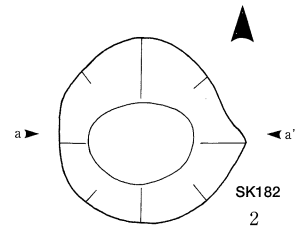
185号土坑（ＳＫ185，第111図）

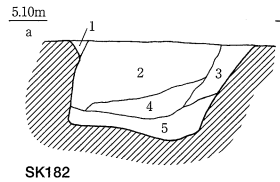
北地区中央やや東よりのＳＸ160左岸，ＳＸ160に緩やかに傾斜する斜面に位置する円形土坑。径1.92m，深さ0.68mを測る。埋土は黒色粘質シルト，黒色粘質シルトがブロック状に混じる灰白色粘土で，下位の灰白色粘土は溜め置かれた粘土がそのまま検出されたと思われ，粘土土坑と考える。遺物は土師器甕がある。

186号土坑（ＳＫ186，第111・115・117図，図版99）

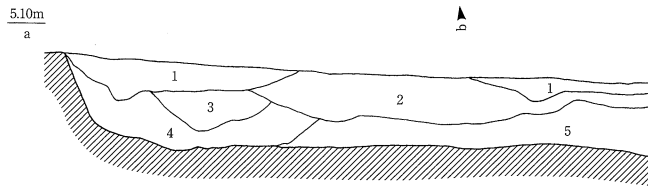
北地区中央やや東よりのＳＸ160左岸，ＳＫ185の東側に位置している。長さ2.04m，幅1.36m，深さ0.59mを測る不整形土坑である。埋土は黒色粘質シルト，灰黄褐色粘土，灰色粘土混じりの黒色粘質土で，中位に灰黄褐色粘土が帯状に堆積しており，ＳＫ２のような粘土土坑と思われる。底面中央が窪んでおり，ここから土師器甕（112・113）と木製品（128）が出土している。128は鍬と考えられ

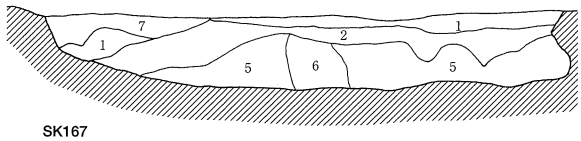




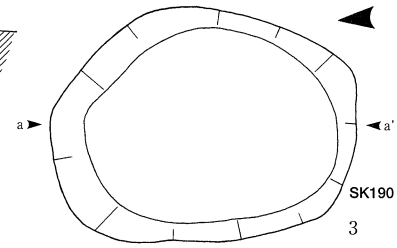


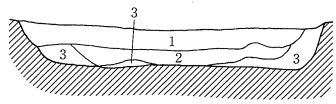
SK182
1. 10YR3/1　黒褐色粘質土(7.5Y7/1　灰白色粘土40%混)
2. 10YR3/1　黒褐色粘質土(炭化物混)
3. 10YR3/1　黒褐色粘質土(2.5Y7/1　灰白色粘土10%混)
4. 2.5Y2/1　黒色粘質シルト
5. 2.5Y2/1　黒色粘質土(2.5Y7/1　灰白色粘土20%混)



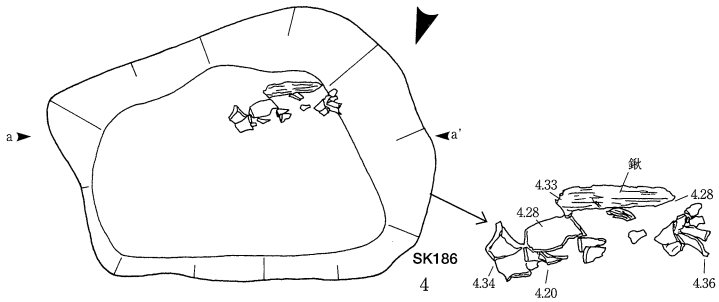


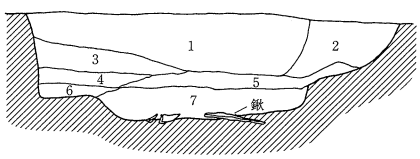
SK167
1. 10YR2/1　黒色粘土
2. 10YR3/1　黒褐色粘土(10YR5/4　にぶい黄褐色粘土10%・2.5Y6/2　灰黄色粘土10%混)
3. 10YR3/1　黒褐色粘土(2.5Y5/1　黄灰色粘土5%混)
4. 10YR3/1　黒褐色粘土(2.5Y5/1　黄灰色粘土40%ブロック状に混)
5. 10YR2/1　黒色粘土(2.5Y5/1　黄灰色粘土3%混)
6. 10YR3/1　黒褐色粘土(2.5Y5/1　黄灰色粘土10%混)
7. 10YR3/1　黒褐色粘土(2.5Y5/2　暗灰黄色粘土10%混)



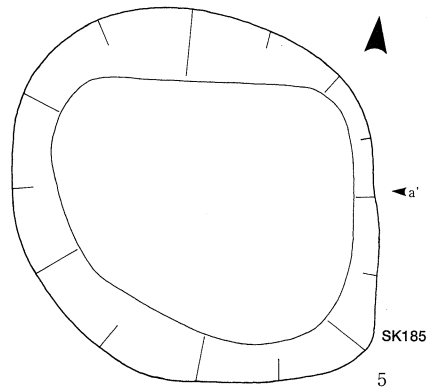


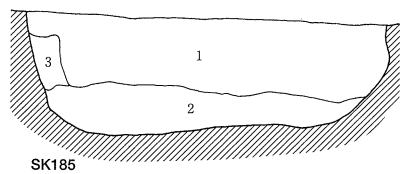
SK190
1. 2.5Y2/1　黒色粘質シルト
2. 7.5Y6/1　灰色粘土(2.5Y2/1　黒色粘質シルト10%混)
3. 10YR3/2　黒褐色粘質シルト



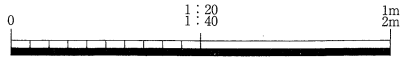


SK186
1. 2.5Y2/1　黒色粘質シルト
2. 7.5Y6/1　灰色粘土(2.5Y2/1　黒色粘質シルト20%混)
3. 10YR3/1　黒褐色粘質シルト(7.5Y6/1　灰色粘土30%混)
4. 10YR4/2　灰黄褐色粘質シルト(7.5Y6/1　灰色粘土20%混)
5. 10YR4/2　灰黄褐色粘土
6. 10YR4/2　灰黄褐色粘質シルト(植物遺体混)
7. 2.5Y2/1　黒色粘質シルト(7.5Y6/1　灰色粘土30%混)





SK185
1. 2.5Y2/1　黒色粘質シルト
2. 7.5Y7/1　灰白色粘土(2.5Y2/1　黒色粘質シルト40%ブロック状に混)
3. 2.5Y6/4　にぶい黄色粘土(2.5Y2/1　黒色粘土60%混)



第111図　遺構実測図

1. SK167　2. SK182　3. SK190　4. SK186　5. SK185

るもので，刃先は薄く削り出されており，樹種はクヌギ節である。

190号土坑（ＳＫ190，第111図）

北地区中央東側のＳＸ160左岸に位置する円形土坑。長さ1.64m，幅1.26m，深さ0.31mを測る。底面は平坦で，埋土は黒色粘質シルトを主体とし，中位に黒色粘質シルト混じりの灰色粘土が帯状に堆積する。ＳＫ２と同様な粘土土坑と思われる。

203号土坑（ＳＫ203，第99図）

北地区南東角，ＳＸ160内に位置する。Ⅳ層上面でのプラン検出が困難で，ＳＸ160をある程度掘り下げた段階で，円形の穴として残った底部付近を確認した。規模は長さ1.60m，幅1.42m，深さ0.11mを測る。埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土で，底面はほぼ平坦である。遺物は底面から若干浮いた状態で土師器甕（67）が出土している。粘土採掘坑と考える。

204号土坑（ＳＫ204，第100図）

北地区東側のＳＸ160内に位置する。ＳＫ203と同様にプラン検出が困難で，底部付近のみを確認した。規模は長さ1.66m，幅1.60m，深さ0.26mを測る。埋土は灰白色粘土混じりの黒色粘土である。遺物は底面から土師器甕（77）が一個体そのまま潰れたような状態で出土している。粘土採掘坑と考える。

293号土坑（ＳＫ293）

北地区中央東側，ＳＸ160左岸に位置する不整形土坑。長さ2.20m，幅0.70m，深さ0.33mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトを主体とし，中位に灰白色粘質シルトが帯状に堆積しており，ＳＫ２のような粘土土坑と思われる。

包含層出土遺物

土師器（第115図）

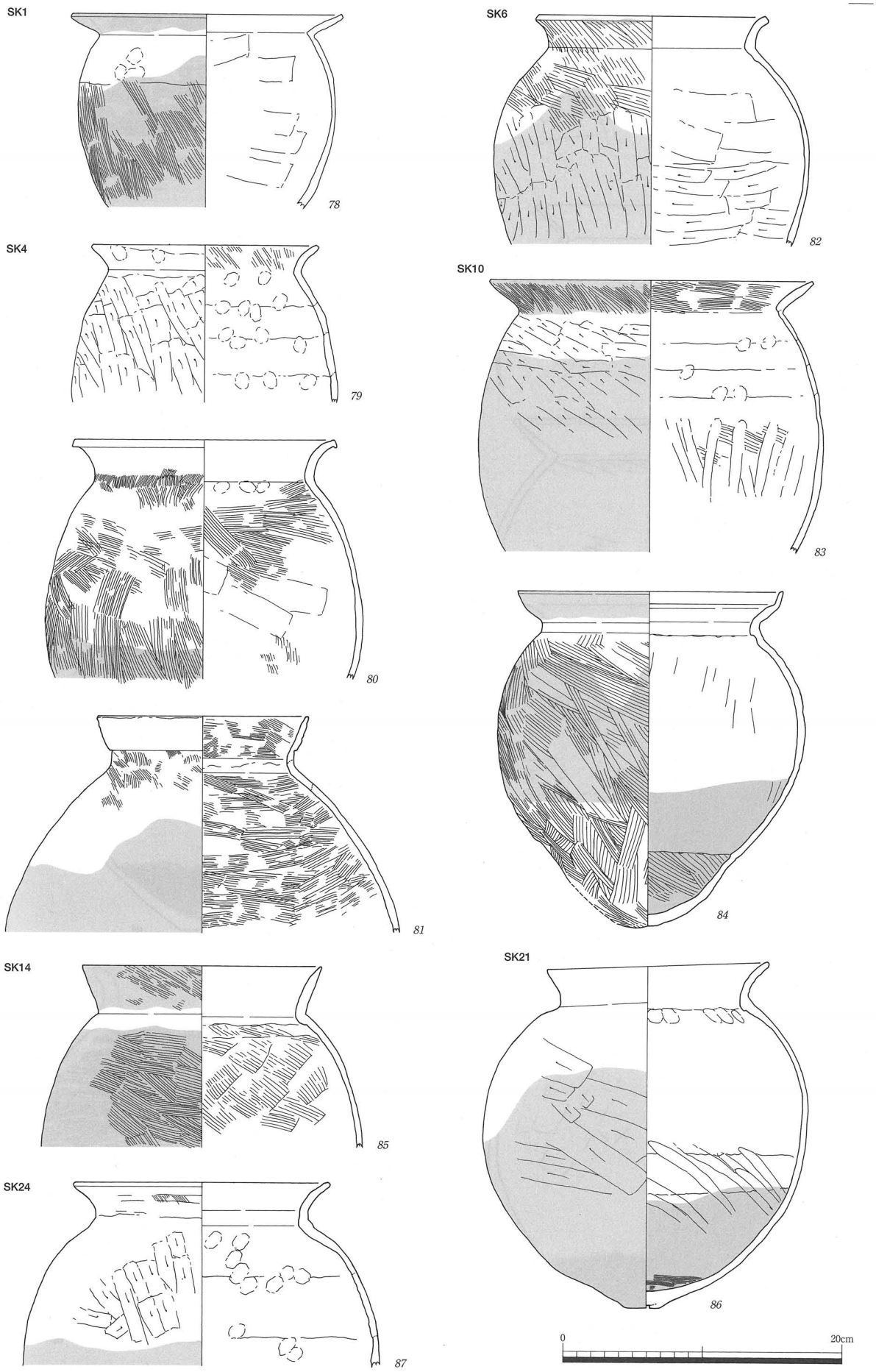
包含層出土遺物は南地区及び，北地区のＸ260以南については当該時期の遺物がみられるが，量的には少なく，遺構出土遺物との接合関係はない。これに対し遺構出土遺物は完形または半完形で出土しており，遺構間での接合も若干みられる。遺構出土も含め出土遺物の大半は甕・壺で，他の器種については古代のＳＫ296出土として扱っている高坏（179）が古墳時代のものである可能性があり，唯一である。出土分布については遺構の分布と一致しており，Ｘ270以北については出土が認められない。また，南側に隣接する黒河尺目遺跡においても当該時期の遺物は確認されておらず，古墳時代の遺物は粘土採掘に伴うものに限られる。

包含層出土の遺物で，実測可能な形に復原できたのは図示した114～116である。

注１　稲垣尚美他　2002　『黒河・中老田遺跡発掘調査報告』主要地方道小杉婦中線臨時道路交付金事業（Ｂ）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　小杉町教育委員会

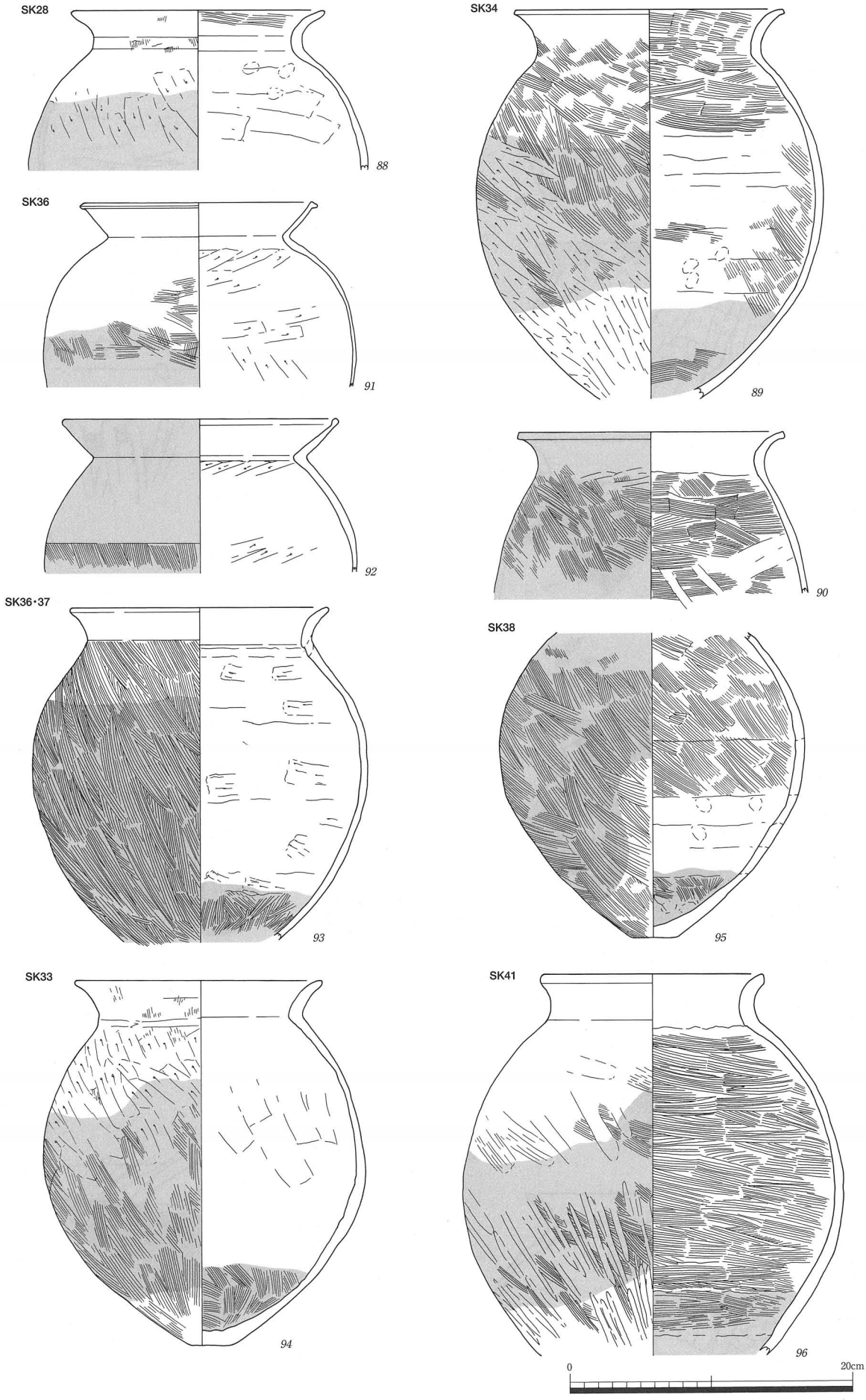
注２　多摩ニュータウンNo.146遺跡で粘土採掘跡・粘土土坑の特徴について検討している。採取粘土（白色粘土）が溜め置かれたような状態で堆積していること，白色粘土が分層されること，土坑内の粘土が均質であること等から粘土の均質化と水簸を行ったものと理解されている。

斉藤　進他　1982　『多摩ニュータウン遺跡－昭和56年度－（第１分冊）』東京都埋蔵文化財センター調査報告第２集　(財)東京都埋蔵文化財センター



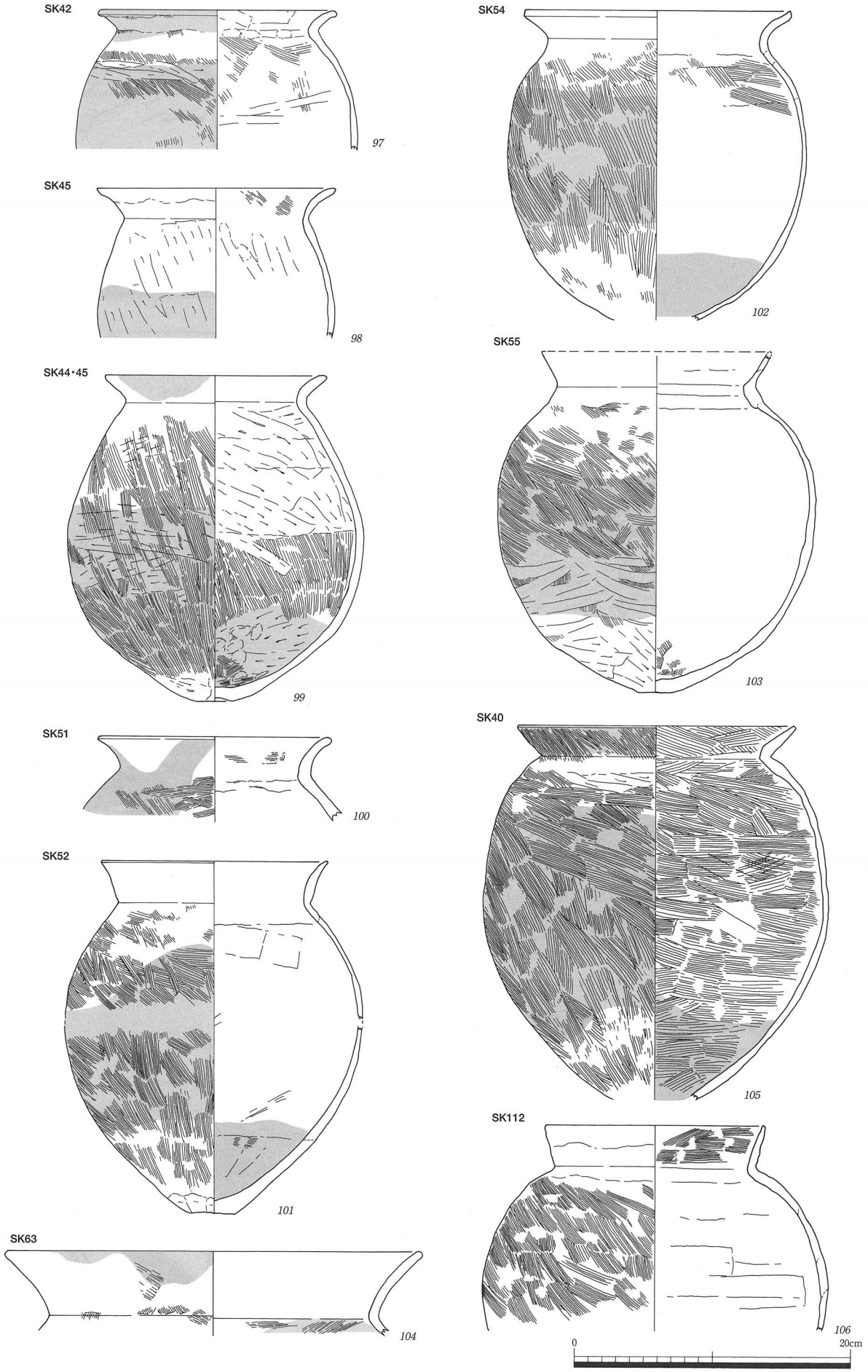
第112図　遺物実測図　(1/4)

SK1(*78*)　SK4(*79*～*81*)　SK6(*82*)　SK10(*83*・*84*)　SK14(*85*)　SK21(*86*)　SK24(*87*)



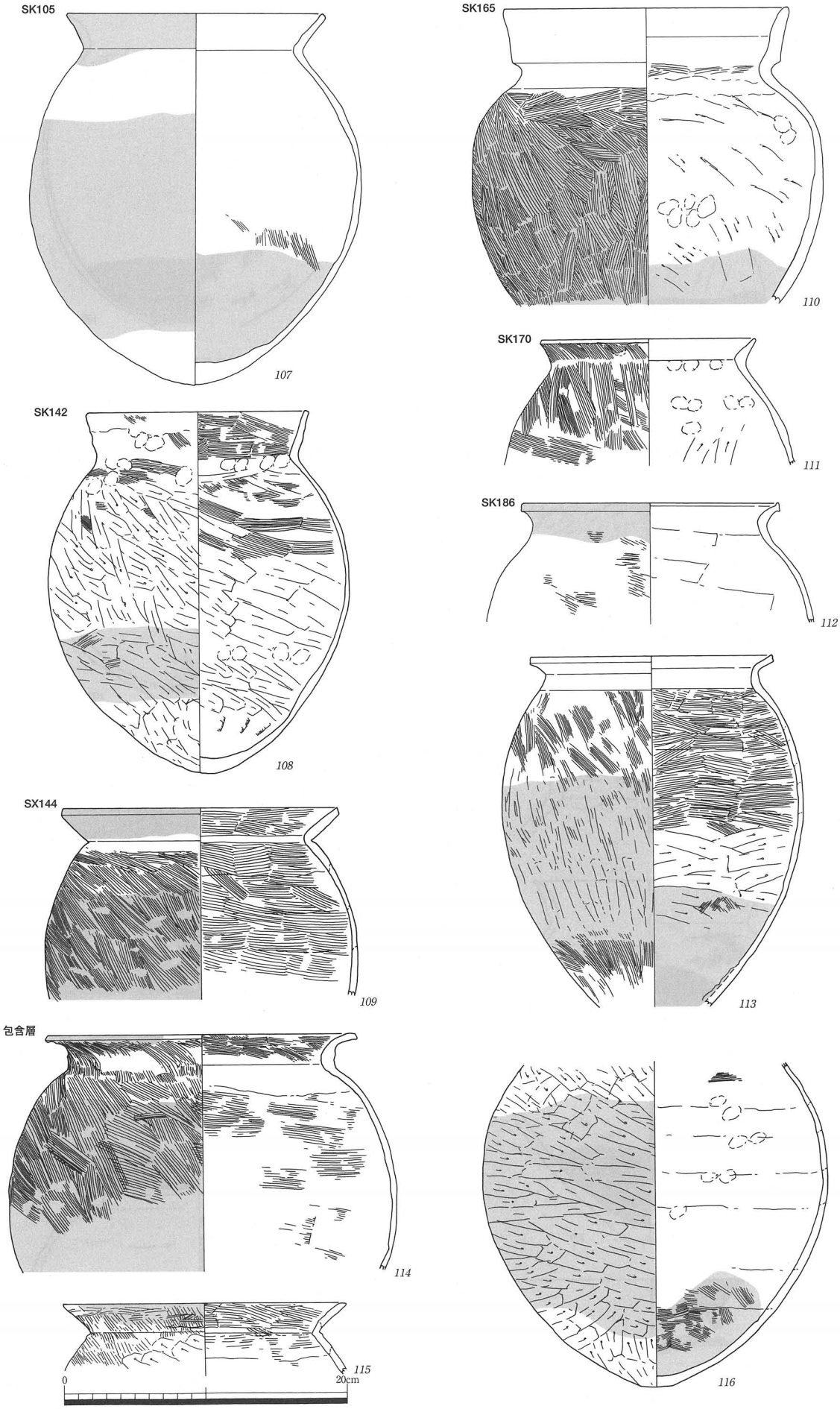
第113図　遺物実測図　(1/4)

SK28(*88*)　SK33(*94*)　SK34(*89・90*)　SK36(*91・92*)　SK36・SK37(*93*)　SK38(*95*)　SK41(*96*)



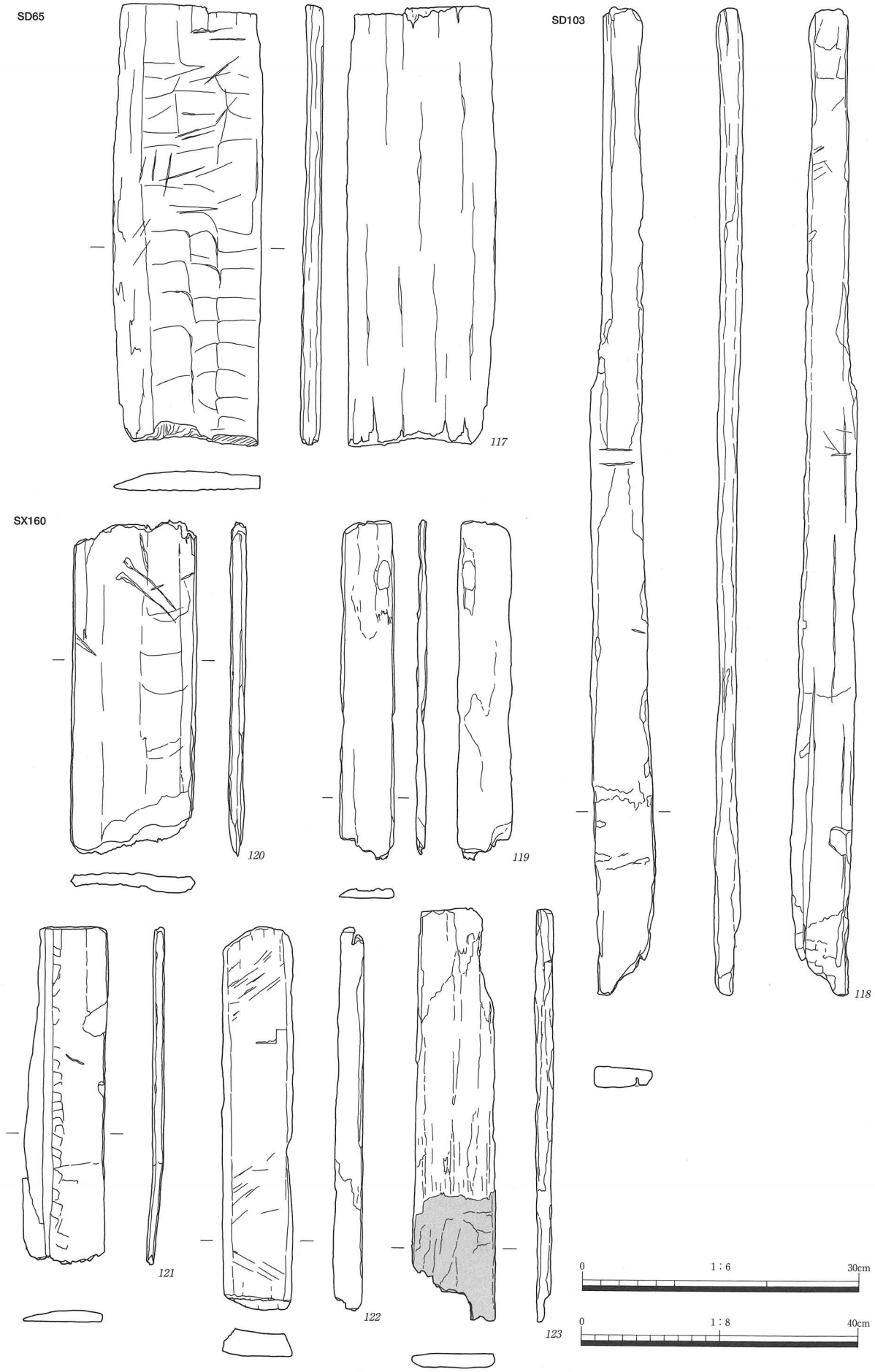
第114図　遺物実測図　(1/4)

SK40(*105*)　SK42(*97*)　SK45(*98*)　SK44・SK45(*99*)　SK51(*100*)　SK52(*101*)　SK54(*102*)　SK55(*103*)　SK63(*104*)
SK112(*106*)



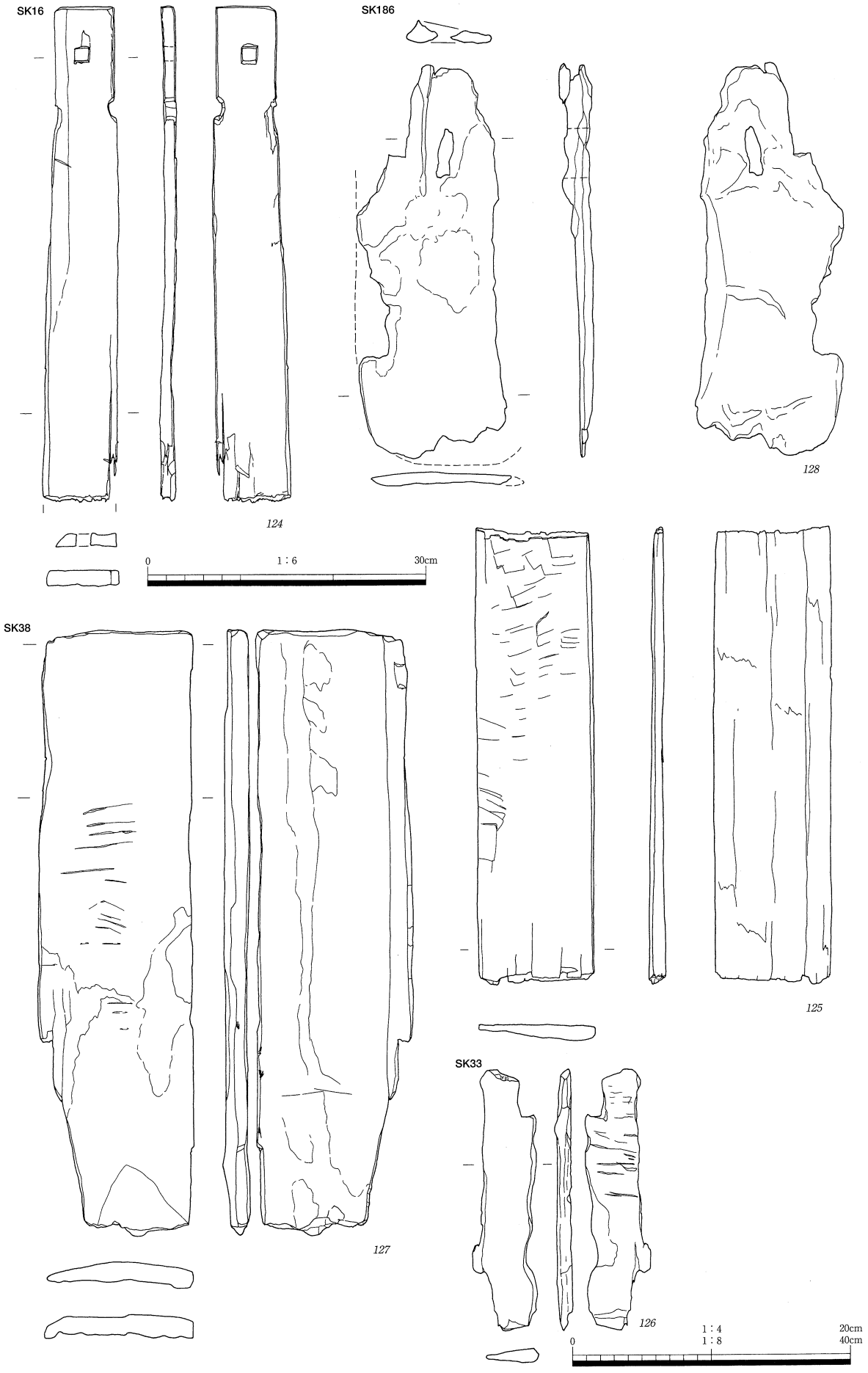
第115図　遺物実測図　(1/4)

SK105(*107*)　SK142(*108*)　SX144(*109*)　SK165(*110*)　SK170(*111*)　SK186(*112・113*)　包含層

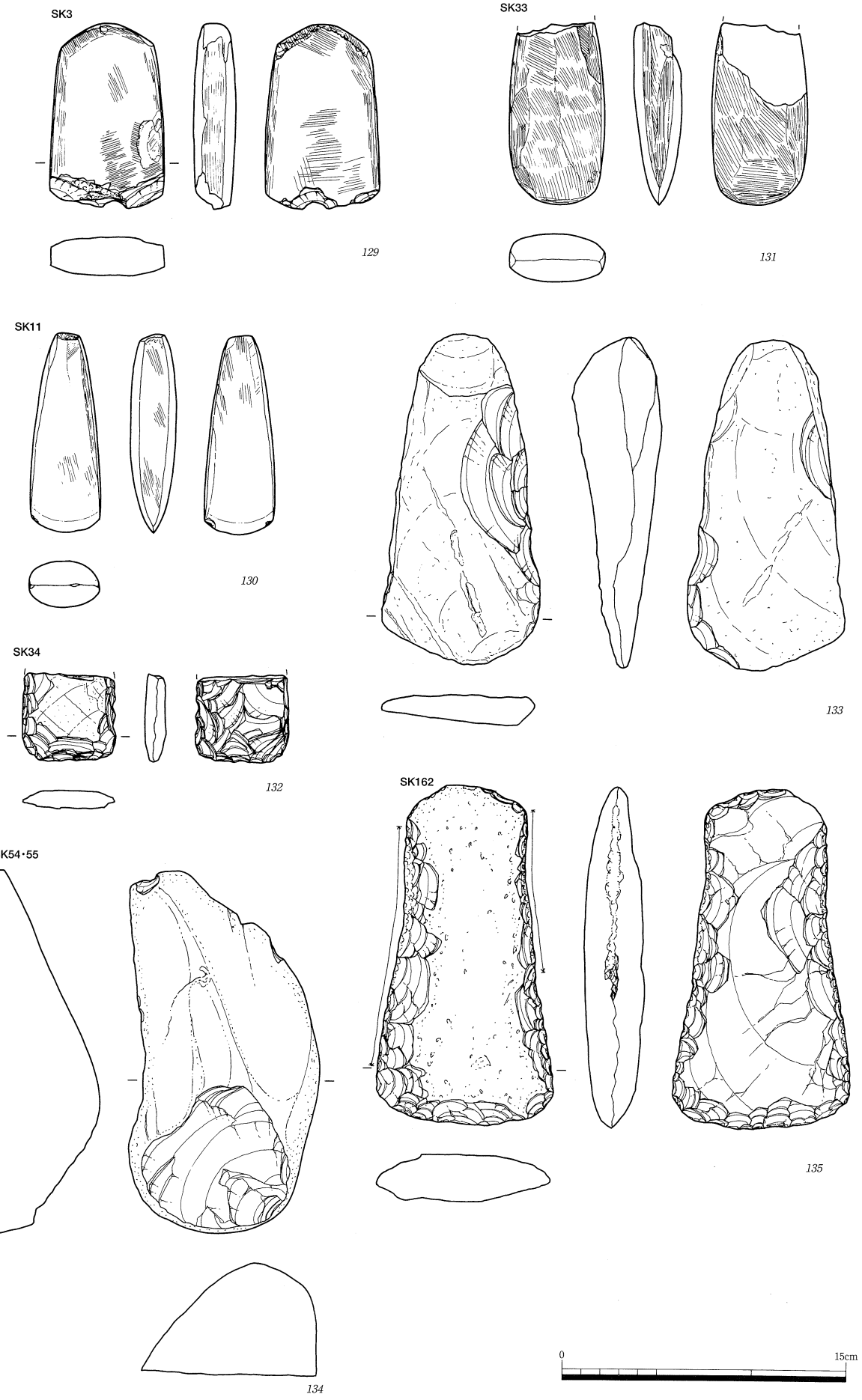


第116図　遺物実測図（*120・123*　1/6，*117～119・121・122*　1/8）

SD65（*117*）　SD103（*118・119*）　SX160（*120～123*）



第117図　遺物実測図（*128*　1/4，*124*　1/6，*125*～*127*　1/8）
SK16（*124*・*125*）　SK33（*126*）　SK38（*127*）　SK186（*128*）



第118図　遺物実測図　(1/3)

SK3(*129*)　SK11(*130*)　SK33(*131*)　SK34(*132・133*)　SK54・55(*134*)　SK162(*135*)

B　古代

古代の遺構は溝１条・井戸１基・土坑54基がある。北地区の西半分から北にかけて分布しており，旧河道（ＳＸ160）左岸の自然堤防上に立地する。柱根の残る土坑が検出されているが，建物としてのプランを確認することはできておらず，集落の縁辺にあたると想定される。古代においても粘土採掘坑と思しき土坑があり，ここから須恵器制作に関わったと思われる叩き板が出土している。このことからも作業場的な性格の強い遺跡と考える。遺物は８世紀後半～９世紀前半を主体とする須恵器がまとまって出土しており，遺跡の時期も概ねこの時期と考えられる。

溝

131号溝（ＳＤ131，第119・120図，図版88）

北地区西側に位置し，蛇行しながら北流する溝。最大幅1.6m，深さ0.30～0.46mを測る。遺物には縄文土器から近世陶磁器まで多様なものがあるが，主体は須恵器（136～141）である。また，須恵器を多量に出土したＳＫ193を切っていることから，古代以降の溝と考えられる。

井戸

304号井戸（ＳＥ304，第121・122図，図版72・83・88）

北地区中央部に位置する素掘り井戸。径1.30m，深さ0.78mを測る。ＳＸ168が埋まった後に掘り込まれている。断面擂鉢状を呈し，埋土は黒色粘土，にぶい黄色粘土混じりの黒褐色粘土である。遺物は埋土中位から完形の須恵器杯（163～165）と高杯（166）が投げ入れられたような状態で出土しており，井戸祭祀の可能性も考えられる。163は平坦な底部でやや新しい様相を持つが，概ね８世紀第３四半期のものである。164の底部外面にはヘラ記号が刻まれる。166は内外面赤彩の高杯で，器形や調整は須恵器制作の技法によるものである。

土坑

104号土坑（ＳＫ104，第119図）

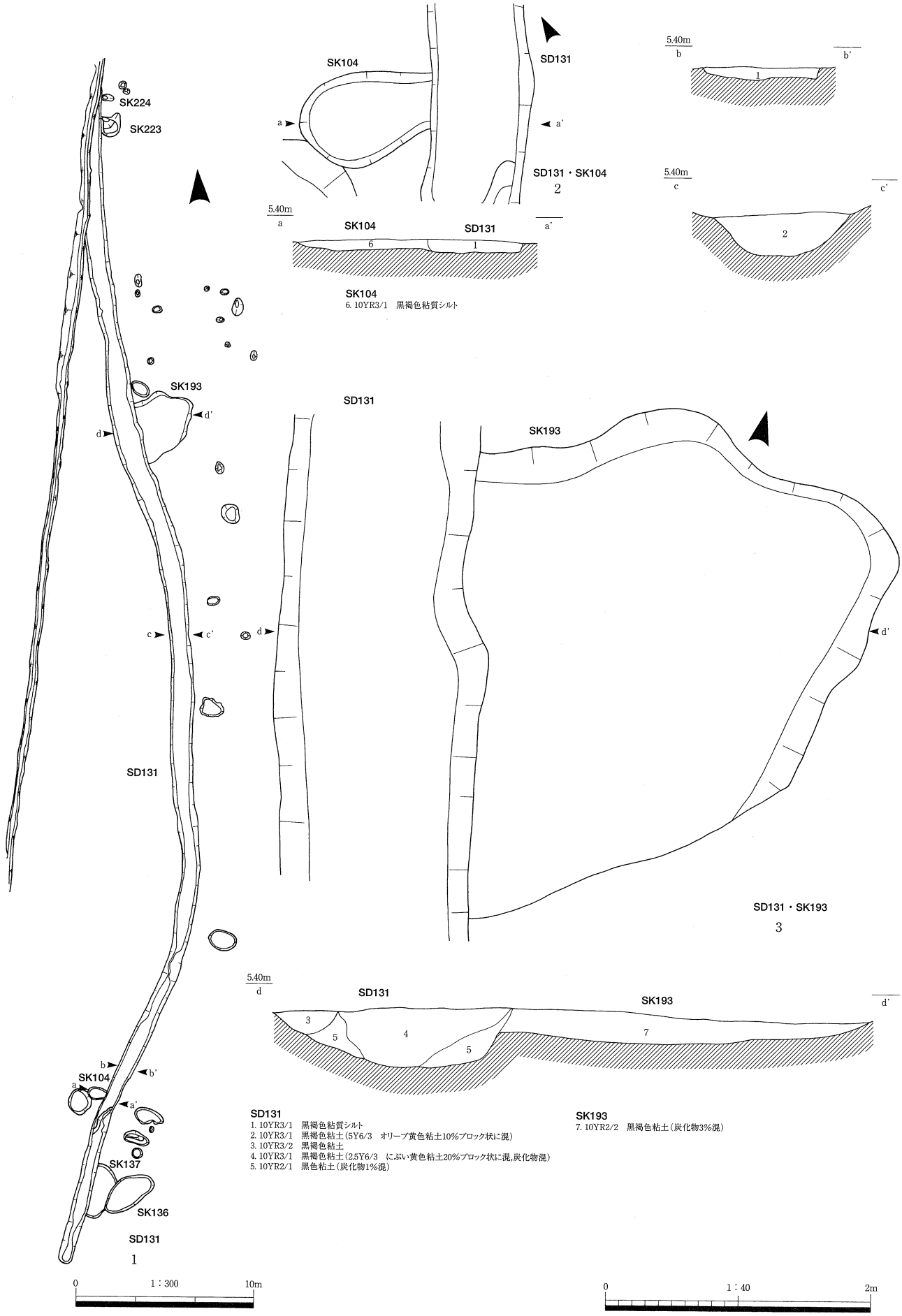
北地区南よりに位置する。ＳＤ131に切られる楕円形土坑で，幅0.58m，深さ0.16mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトで，浅い皿状に堆積する。遺物はなく，時期，性格ともに不明である。

168号土坑（ＳＸ168，第121・122図，図版90・93）

北地区中央部に位置する不整形土坑。長さ3.04m，幅2.64m，深さ0.39mを測る。ＳＸ168は粘土採掘坑と考えられ，複数の土坑が重複している。埋土は黒色粘土，にぶい黄色粘土がブロック状に混じる黒褐色粘土がブロック状に堆積しており，人為的に埋め戻されたと思われ，埋め戻された後に北端にＳＥ304が掘り込まれている。遺物は埋土中から土師器鍋（167），土師器高杯（168）が出土している。168は内外面赤彩で，内面に放射状及び螺旋状暗文が施され，８世紀前半のものである。

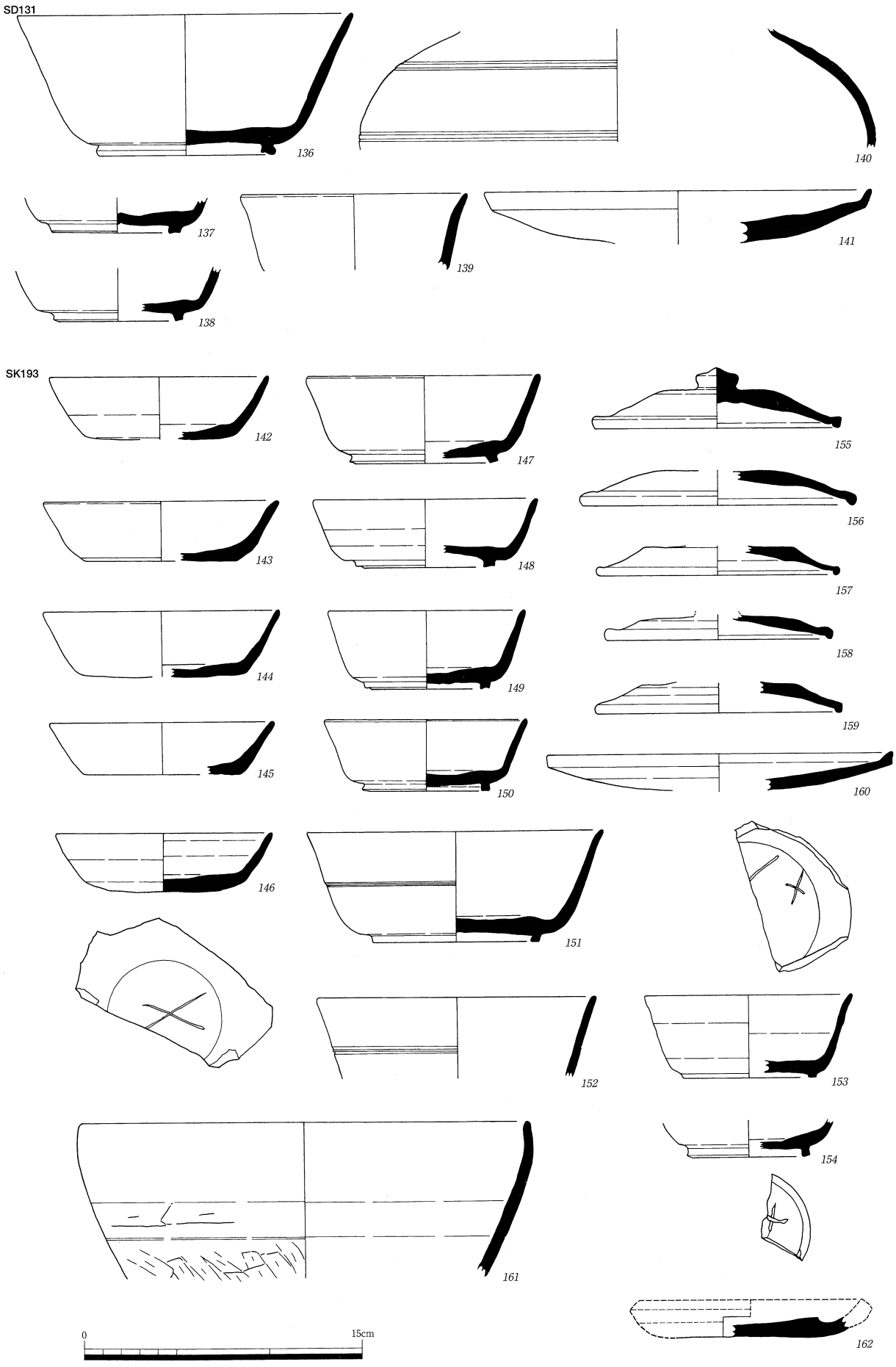
180号土坑（ＳＫ180，第121～123図，図版68・72・84・88・90・93・98・99）

北地区中央東よりに位置する不整形土坑。長さ3.36m，幅1.88m，深さ0.69mを測る。ＳＫ180は粘土採掘坑として掘られた後，再び掘り込まれ，一気に埋められている。南側の埋土４層部分は再度掘り込まれた箇所である。４層は黒褐色粘質シルトの単層で，遺物は須恵器（169～176）と土師器（177），叩き板（181），掘り棒（182）と考えられる木製品が出土しており，いずれも４層中からである。177は内外面赤彩の高杯または皿（盤？）の破片で内面に螺旋状暗文がみられる。181の叩き板は扁平な匙形の木製品で，身部分の両面に木目と直交する0.4～0.6㎜幅の平行線を刻む。樹種はクリである。叩き板の出土例は少なく，刻線のあるものは全国でも５例しかなく，両面に刻線のあるものは初例となる[注1]。181は182の掘り棒と考える先端の尖った棒状製品と共に，169・176の須恵器と出土し



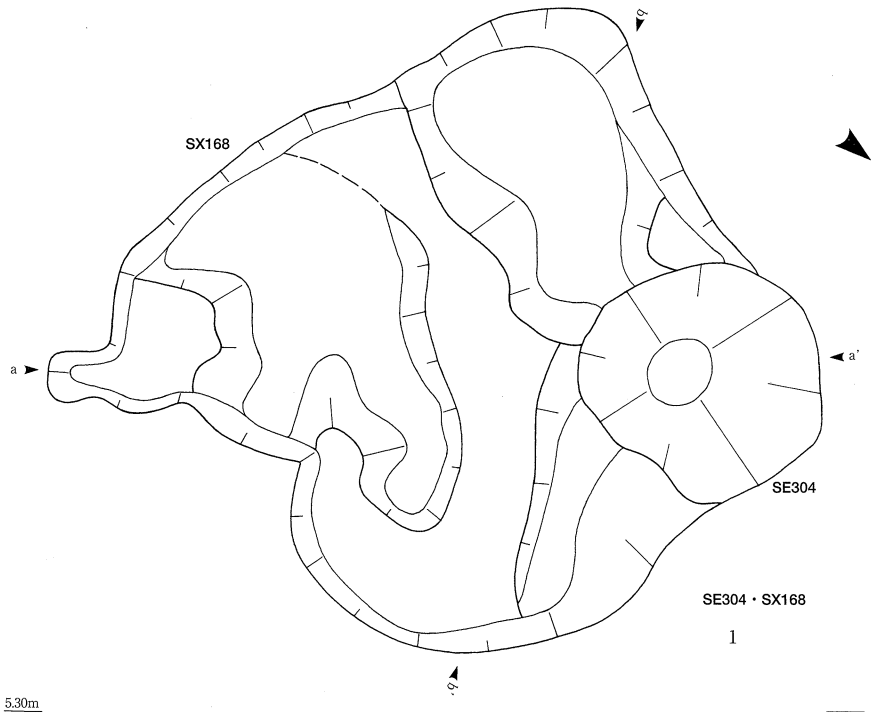
第119図　遺構実測図

1. SD131　2. SD131・SK104　3. SD131・SK193



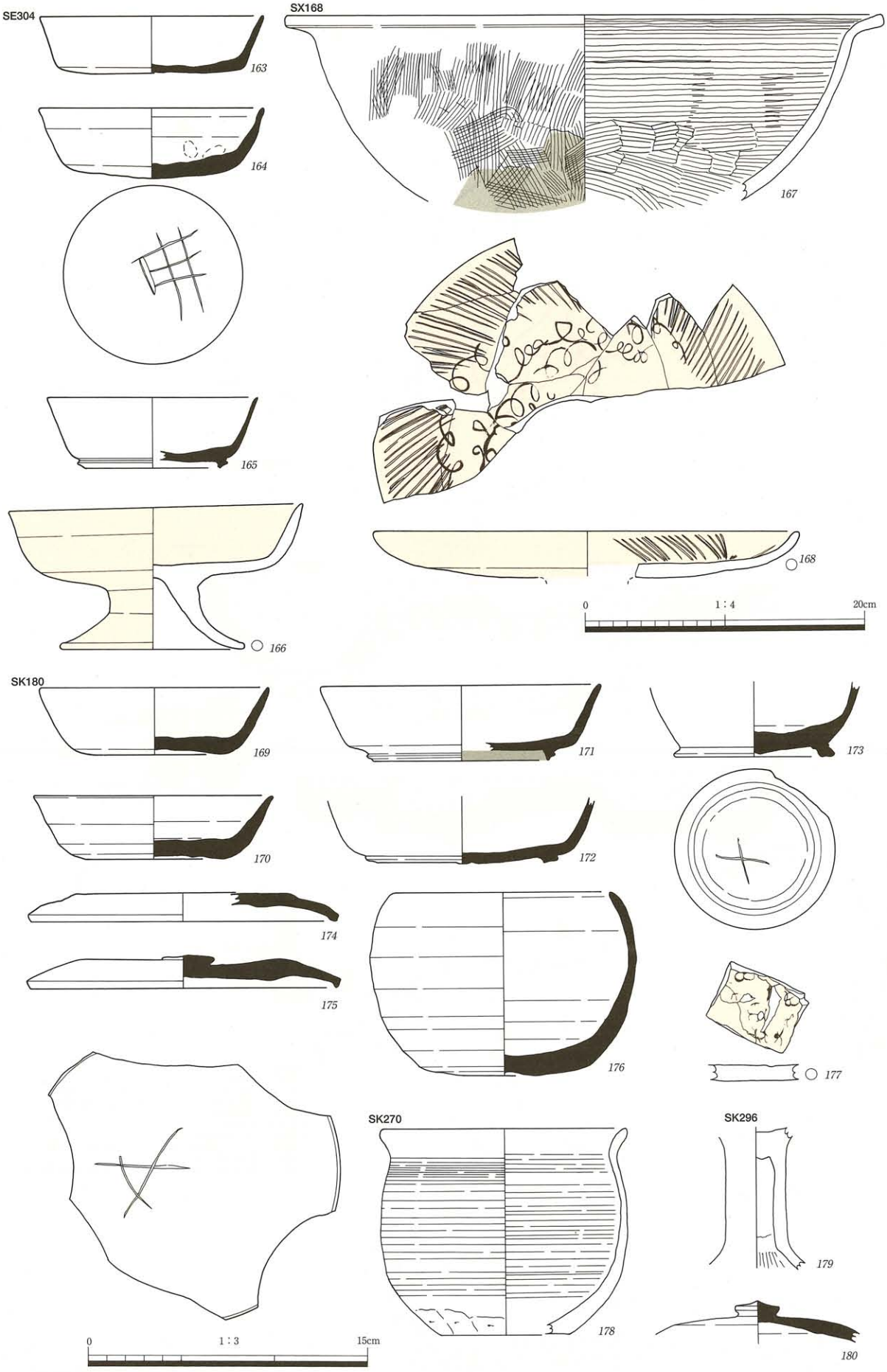
第120図　遺物実測図　(1/3)

SD131(*136～141*)　SK193(*142～162*)



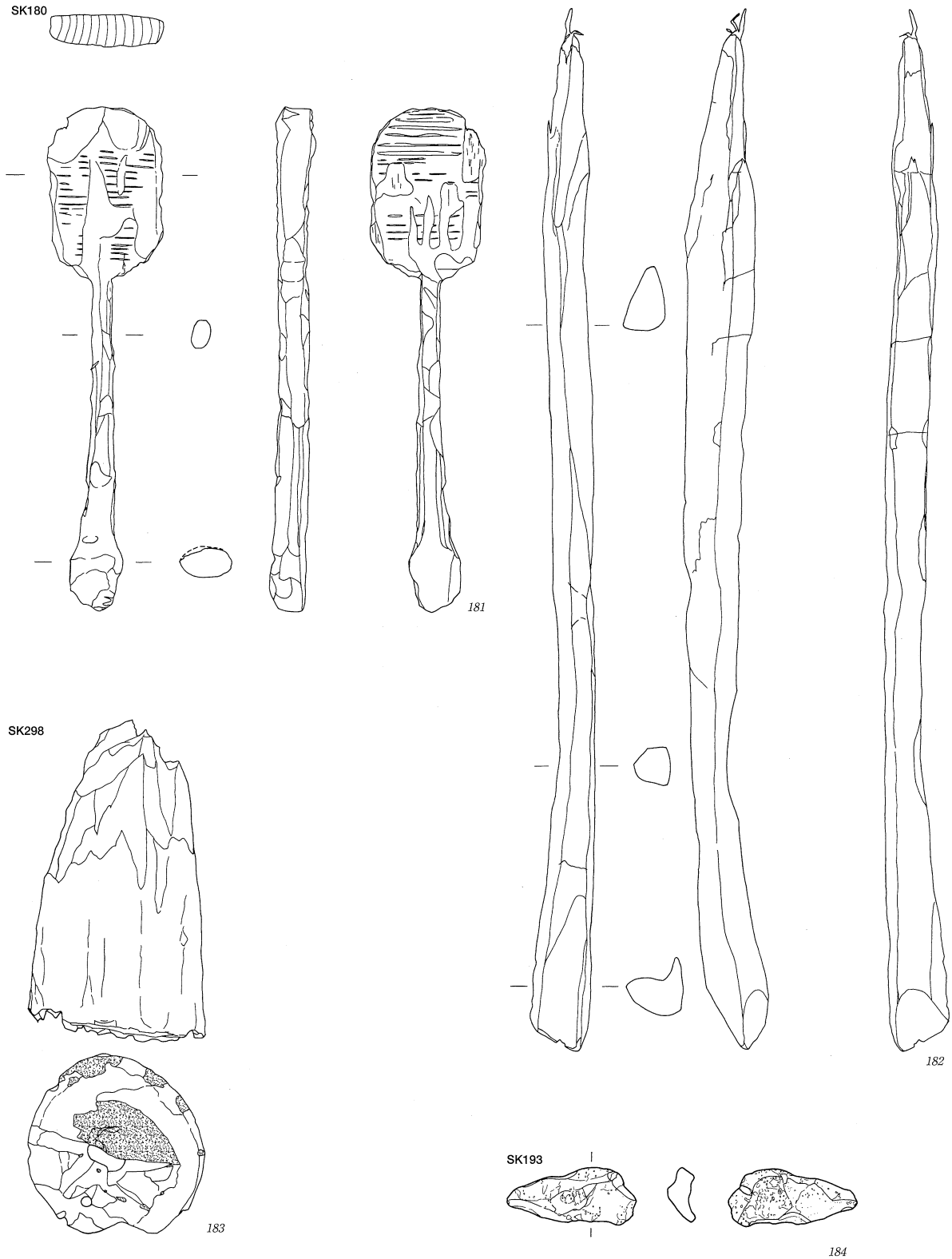
第121図　遺構実測図

1. SE304・SX168　2. SK180



第122図　遺物実測図（*163～166・168～180*　1/3，*167*　1/4）

SE304（*163～166*）　SX168（*167・168*）　SK180（*169～177*）　SK270（*178*）　SK296（*179・180*）



第123図　遺物実測図（*184*　1/3，*181*・*182*　1/4，*183*　1/6）
SK180（*181*・*182*）　SK298（*183*）　SK193（*184*）

ており，須恵器の年代は8世紀第2四半期とみられ，須恵器制作に係わるものと思われる。

193号土坑（ＳＫ193，第119・120・123図，図版62・84・85・88・89）

北地区中央西側に位置する。ＳＤ131に切られており，長さ3.50m，深さ0.23mを測る浅い皿状の土坑である。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘土で，埋土中から多量の須恵器が出土している。遺物は須恵器以外に土師器，円面硯，鉄滓（184），縄文土器があるが，142～161の須恵器が主体である。146・153・154には底部または見込みに「×」状のヘラ記号がある。162は無脚円面硯の一部と思われ，群馬県上渕名遺跡に類例がある[注2]。陸部はよく使い込まれてツルツルに摩耗している。出土須恵器の概ねの時期は8世紀後半～9世紀前半とみられ，ＳＫ193も同時期に営まれたと考える。

212号土坑（ＳＫ212，第124図）

北地区中央部に位置する円形土坑。長さ0.38m，幅0.28m，深さ0.14mを測る。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘土で，底面中央が凹字状に窪んでおり，柱痕の可能性がある。

215号土坑（ＳＫ215，第124図）

北地区中央部に位置する不整形土坑。長さ4.04m，幅1.58m，深さ0.71mを測る。東側に階段状の段を持ち，底面はほぼ平坦である。埋土は黒色粘質シルトの単層である。

220号土坑（ＳＫ220，第124図）

北地区中央北よりに位置する円形土坑。ＳＫ309に切られているが，長さ0.56m，深さ0.23mを測る。埋土は黒色粘土で，柱根が検出され，柱穴になる可能性がある。

224号土坑（ＳＫ224，第124図）

北地区北より西側に位置する楕円形土坑。長軸0.69m，短軸0.34m，深さ0.32mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトで，中位に黄灰色粘土が帯状に堆積する。柱穴になる可能性がある。

227号土坑（ＳＫ227，第124図）

北地区北より西側に位置する楕円形土坑。長軸0.80m，短軸0.42m，深さ0.23mを測る。埋土は炭化物混じりの黒褐色粘土で，北側が一段深くなる。柱穴になる可能性もある。遺物は土師器がある。

239号土坑（ＳＫ239，第124図）

北地区北より西側に位置する円形土坑。径0.50m，深さ0.24mを測り，埋土は炭化物混じりの黒色粘土である。柱穴になる可能性がある。遺物は土師器甕または鍋の胴部破片がある。

240号土坑（ＳＫ240，第124図）

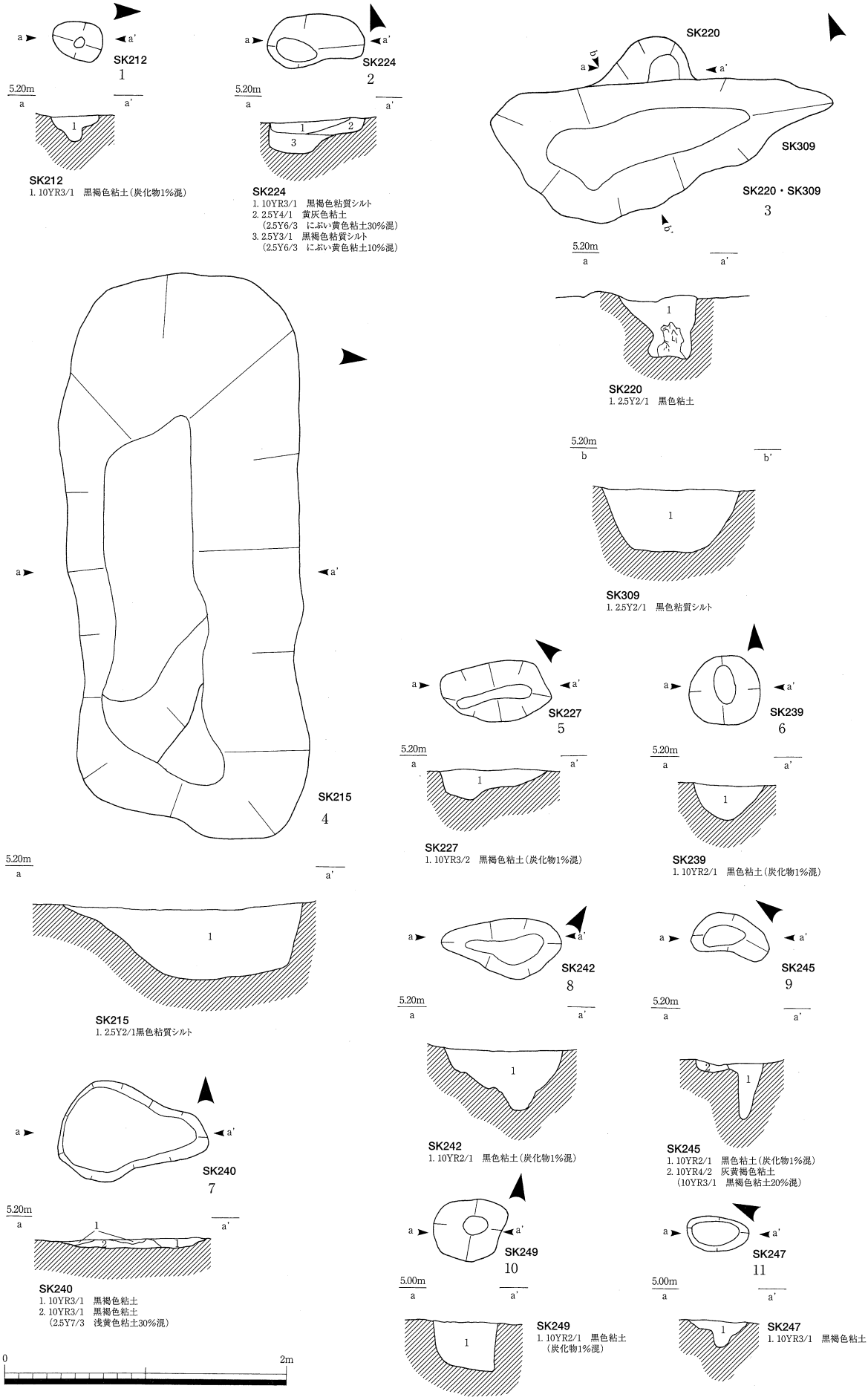
北地区北より西側に位置する不整形土坑。長さ1.06m，幅0.60m，深さ0.07mを測る。埋土は黒褐色粘土，浅黄色粘土混じりの黒褐色粘土で，浅い皿状の堆積をしている。遺物は土師器，須恵器の小片がある。

241号土坑（ＳＫ241，第125・127図，図版88）

北地区北より西側に位置する不整形土坑で，調査区外に伸びている。長さ2.96m，深さ0.40mを測る。北側が階段状に一段深くなっており，埋土は黄灰色粘土またはにぶい黄色粘土がブロック状に混じる黒褐色粘質シルトである。遺物は須恵器杯（185）が出土している。185はやや丸味を持つ底部で，8世紀中頃のものと思われる。

242号土坑（ＳＫ242，第124図）

北地区北より中央に位置する不整形土坑。長さ0.86m，幅0.43m，深さ0.24mを測る。埋土は炭化物混じりの黒色粘土で，底面中央が凹字状に窪んでおり，柱穴になる可能性がある。遺物は土師器，須恵器，珠洲がある。



第124図　遺構実測図

1. SK212　2. SK224　3. SK220・SK309　4. SK215　5. SK227　6. SK239　7. SK240　8. SK242　9. SK245
10. SK249　11. SK247

245号土坑（ＳＫ245，第124図）

北地区北より中央に位置する不整形土坑で，長さ0.56m，幅0.26m，深さ0.38mを測る。埋土は炭化物混じりの黒色粘土，黒褐色粘土混じりの灰黄褐色粘土で，黒色粘土は柱痕と考えられ，柱穴になる可能性がある。

247号土坑（ＳＫ247，第124図）

北地区北より東側に位置する楕円形土坑。長軸0.46m，短軸0.23m，深さ0.15mを測る。埋土は黒褐色粘土の単層で，断面は漏斗状を呈する。柱穴になる可能性がある。

249号土坑（ＳＫ249，第124図）

北地区北より東側に位置する円形土坑。径0.48m，深さ0.30mを測り，埋土は炭化物混じりの黒色粘土の単層である。

254号土坑（ＳＫ254）

北地区中央部に位置する不整形土坑で，長さ1.94m，幅1.54m，深さ0.28mを測る。埋土は灰黄褐色粘土の単層で，底面は平坦で浅い皿状に堆積している。ＳＫ288・ＳＫ308に切られており，ＳＫ289を切っている。遺物は土師器，須恵器の小片がある。

260号土坑（ＳＫ260，第125図）

北地区北より中央に位置する円形土坑で，径0.18m，深さ0.07mを測る。埋土は黒色粘質シルトである。埋土中から砥石が出土している。

261号土坑（ＳＫ261，第125図）

北地区北より東側に位置する楕円形土坑。長軸0.55m，短軸0.35m，深さ0.27mを測る。埋土は褐灰色粘質シルト，黒色粘質シルト，黄褐色粘土で，北側が深く南側は浅くなっている。

262号土坑（ＳＫ262，第125図）

北地区北より東側に位置する円形土坑で，径0.30m，深さ0.32mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトで，東側が一段深くなっており柱痕と思われ，柱穴になると考えられる。

263号土坑（ＳＫ263，第125図）

北地区北より東側に位置する楕円形土坑。長軸0.62m，短軸0.49m，深さ0.19mを測る。埋土はにぶい黄褐色粘土混じりの黒褐色粘質シルトである。北側が一段深くなっている。

264号土坑（ＳＫ264，第125・127図，図版72・83）

北地区北より東側に位置する不整形土坑。長さ0.88m，幅0.82m，深さ0.79mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトの単層で，検出面から0.20m程掘り下げた位置から完形の須恵器杯（186）や木製品，20cm台の礫等が出土している。遺物は須恵器（186～188），土師器，木製品があり，ある程度埋まった後に投げ込まれたような状態である。素掘りの井戸の可能性がある。186は身の浅い扁平な器形で，概ね８世紀第１四半期に収まると考えられる。

270号土坑（ＳＫ270，第122・125図，図版93）

北地区北側に位置する楕円形土坑。長軸0.91m，短軸0.48m，深さ0.20mを測る。埋土は灰黄色粘土混じりの黒褐色粘質シルトで，南側が一段深くなる。遺物は土師器甕（178）がある。178は回転台を用いて成形された小型甕で，底部外面を手持ちヘラ削りしており，８世紀代のものと思われる。

271号土坑（ＳＫ271，第125図）

北地区北側に位置する円形土坑。長さ0.40m，幅0.35m，深さ0.36mを測る。埋土は黒色粘質シルトの単層で，東側が一段深くなっており柱痕と思われ，柱穴になると考えられる。

275号土坑（ＳＫ275，第125図）

北地区北側に位置する不整形土坑。長さ0.62m，幅0.44m，深さ0.36mを測る。埋土はにぶい黄色粘土混じりの灰黄褐色粘質シルトで，北側が一段深くなり，柱痕と思われ，柱穴の可能性がある。

276号土坑（ＳＫ276，第126図）

北地区北側に位置する楕円形土坑。長軸0.64m，短軸0.47m，深さ0.17mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトで，北側が一段深くなっており，柱痕の可能性があり，柱穴になると考えられる。

280号土坑（ＳＫ280，第126図）

北地区北側に位置する楕円形土坑。長軸0.50m，短軸0.25m，深さ0.13mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトの単層で，東側下部がややオーバーハング気味に下方に入り込む。

282号土坑（ＳＫ282，第125図）

北地区北側に位置する不整形土坑。長さ2.72m，幅1.28m，深さ0.57mを測る。埋土は褐灰色粘質シルト，黒褐色粘質シルト，にぶい黄色粘質シルトで，北側が一段深くなる。遺物は土師器がある。

287号土坑（ＳＫ287，第126図）

北地区中央東側に位置する楕円形土坑。長軸1.40m，短軸0.46m，深さ0.33mを測る。埋土は黒色粘質シルト，黒褐色シルト混じりのにぶい黄色粘質シルトで，１層は柱痕と思われ，柱穴になると考える。

295号土坑（ＳＫ295，図版68）

北地区北端に位置する不整形土坑。長さ0.70m，幅0.42m，深さ0.23mを測る。埋土はにぶい黄色粘土混じりの黒褐色年質シルトの単層である。南側が深く，北側は緩やかな傾斜になっている。

296号土坑（ＳＫ296，第122・126図，図版68・91）

北地区中央やや北よりに位置する不整形土坑。長さ2.10m，幅1.60m，深さ0.23mを測る。埋土は炭化物混じりの黒色粘質シルト，明オリーブ色粘土がブロック状に混じる黒色粘質シルトで，埋土中から土師器高杯（179）・須恵器杯蓋（180）が出土している。粘土採掘坑と思われる。179は高杯の脚で，屈曲して開く裾がつくタイプと思われ，杯部との接合部は絞り込むように成形されており，古墳時代の遺物の可能性が高い。しかしながら，180の須恵器杯蓋の方が下位から出土しており，ＳＫ296の埋土はブロック状の堆積で人為的に埋め戻されたと思われることから，ＳＫ296の時期は古代と考えたい。

298号土坑（ＳＫ298，第123・126図，図版70・99）

北地区北より東側に位置する円形土坑で，ＳＫ299を切る。長さ0.44m，幅0.36m，深さ0.30mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトで，南側で柱根が検出されている。柱根（183）は，直径20cmのクリ材で，底部は平坦に削られ，腐敗防止のため焼かれている。柱穴になると考える。

300号土坑（ＳＫ300，第126図）

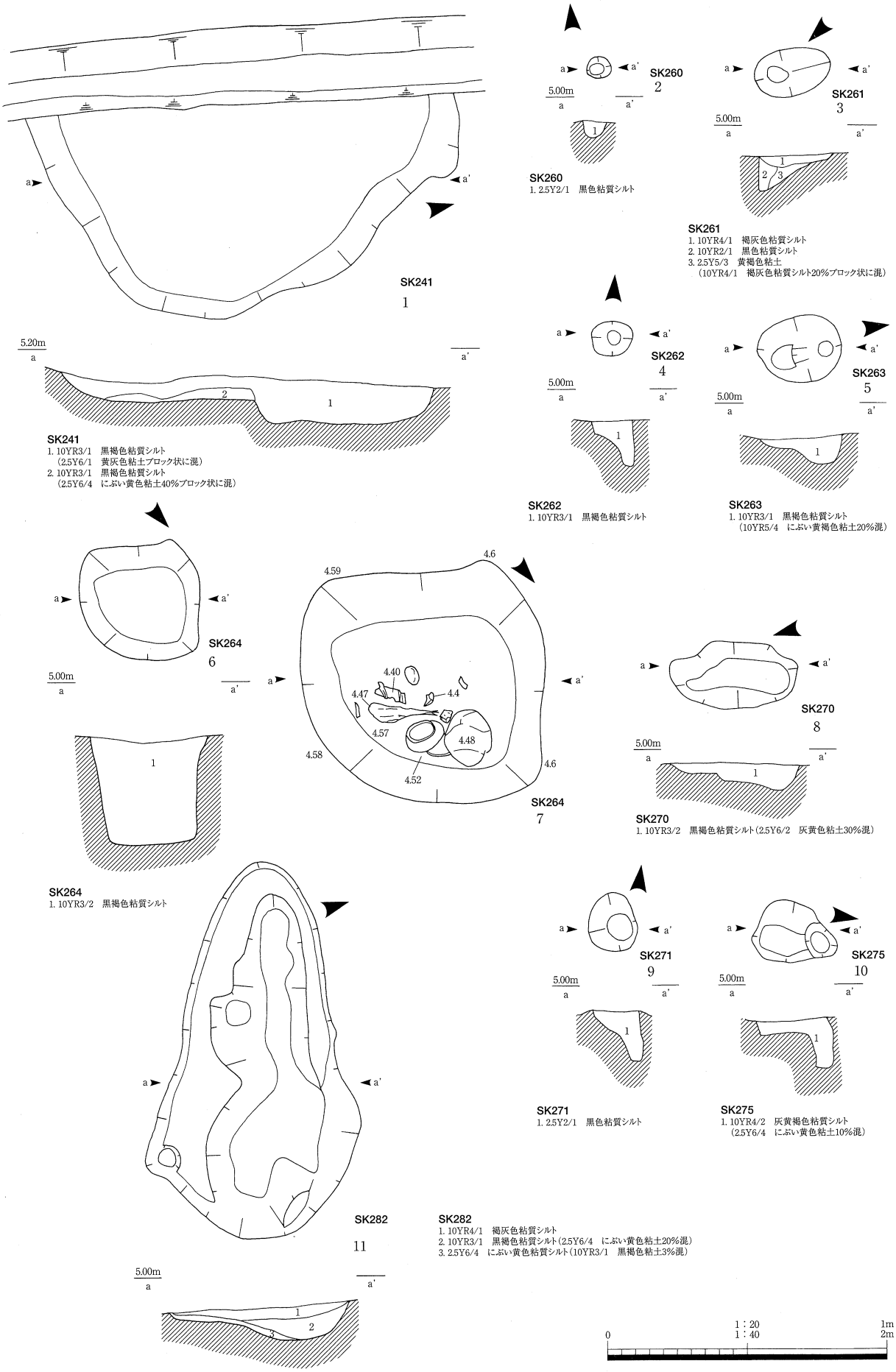
北地区やや北より東側に位置する円形土坑。長さ0.30m，幅0.26m，深さ0.15mを測る。埋土は黒色粘質シルトの単層である。

301号土坑（ＳＫ301，第126図）

北地区やや北より東側に位置する楕円形土坑。長軸0.50m，短軸0.35m，深さ0.36mを測る。埋土は黒色粘質シルトで，東側が一段深くなっており，柱痕の可能性があり，柱穴になると思われる。

302号土坑（ＳＫ302，第126図）

北地区やや北より東側に位置する楕円形土坑。長軸0.50m，短軸0.31m，深さ0.12mを測る。埋土は



第125図　遺構実測図

1. SK241　2. SK260　3. SK261　4. SK262　5. SK263　6.. SK264　7. SK264遺物出土状況　8. SK270
9. SK271　10. SK275　11. SK282

黒色粘質シルトの単層である。ＳＫ302は柱穴の可能性があるＳＫ298，ＳＫ301と直線上に並ぶことから，柱穴となる可能性が高く，この周辺に掘立柱建物があったと想定できる。

303号土坑（ＳＫ303，第126図）

北地区やや北より東側に位置する円形土坑。径0.28m，深さ0.12mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトの単層である。

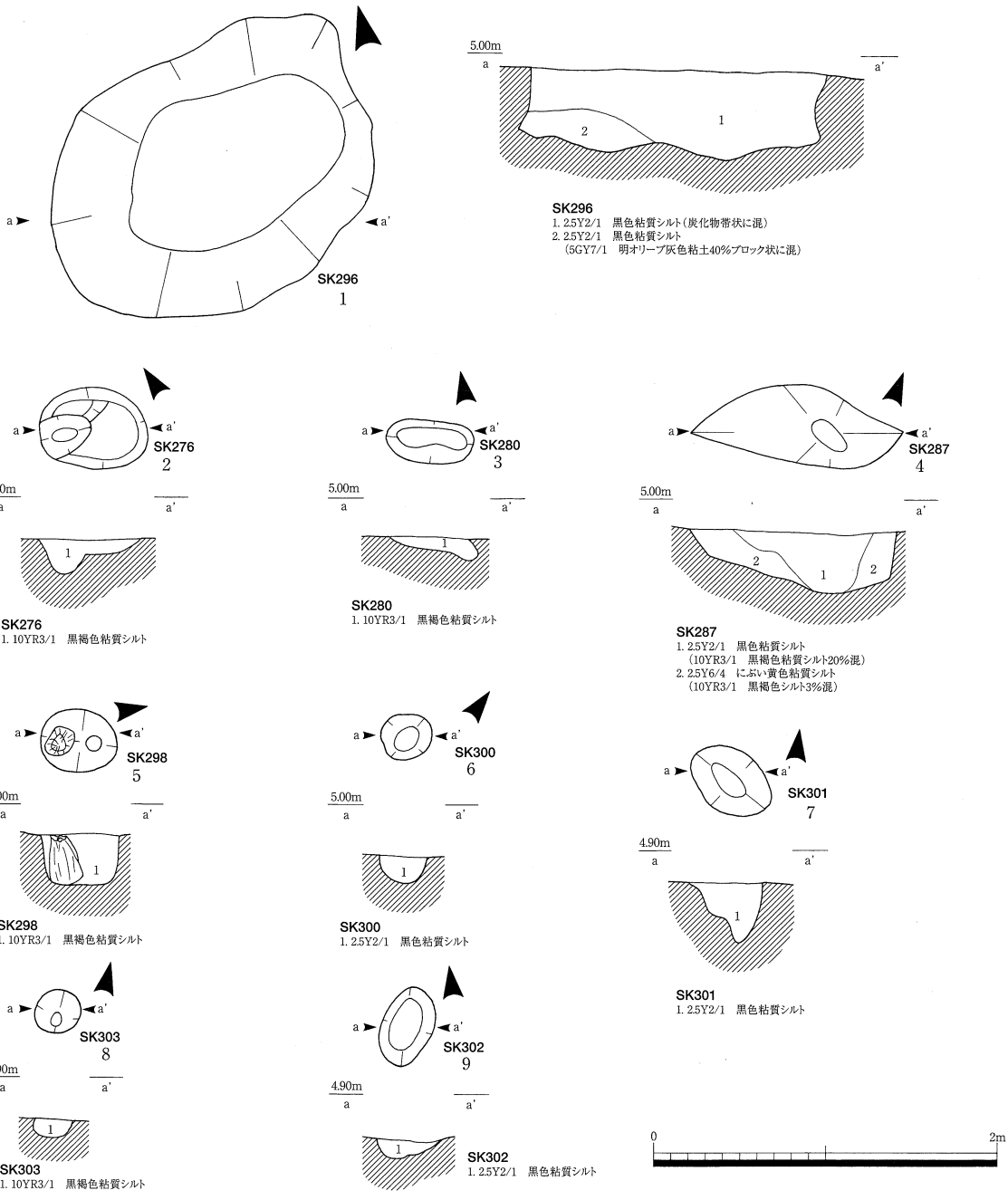
306号土坑（ＳＫ306，第127図，図版88）

北地区やや北よりに位置する不整形土坑。長さ1.62m，幅0.82m，深さ0.58mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトで，北側が階段状に一段深くなる。埋土中から189・190の須恵器が出土している。

包含層出土遺物

須恵器（第127～129図，図版83～89）

須恵器の出土量は多く，食膳具に限っては須恵器：土師器は９：１となる。Ｘ260以北～Ｘ290以南



第126図　遺構実測図

1. SK296　2. SK276　3. SK280　4. SK287　5. SK298　6. SK300　7. SK301　8. SK303　9. SK302

については特に出土量が多く，北に行くに従い遺物量が減り，破片も小片になる傾向がある。また，須恵器には生焼け（焼成不良）で，胎土が白黄色，赤褐色のものが一定量みられる。時期は若干古い様相のものを含むが，8世紀後半～9世紀代が主体となり，一部10世紀代のものがみられる。

杯（191～234），杯蓋（235～274），鉢（275～280），壺・甕（281～289）がある。230は杯Bの高台部分のみで，高台裏に茶褐色の漆と思われる付着物がある。231は底部糸切り調整の皿で10世紀代のものか。232～235は墨書があり，232は杯底部外面に「弟主」とあり，人名と思われる[注3]。233は体部に横方向に「大□」とあり，二文字目は「和」，「飯」とも読めるが，判読できない。234は杯体部に横方向，235は杯蓋頂部に「黒川」とあり，「くろかわ」の地名は現在は黒河と書くが，黒川とも記したとされ，地名と思われる。文献では律宗関係史料の明徳2年（1391）9月28日書改の「西大寺諸国末寺帳」（西大寺文書）に，黒河に真言律宗寺院が所在したことが記されており，鎌倉時代～南北朝前後には黒河の記述がみられる[注4]。234・235は8世紀後半のもので，「くろかわ」は文字資料としては500年近く遡るものとなる。また，黒河尺目遺跡でも「黒川」，「弟主」かと思われる墨書土器が出土している[注5]。253は「×」状のヘラ記号のある杯蓋である。268は壺蓋，269・274は環状つまみの杯蓋と思われるが，269は上下逆になり浅い皿になる可能性もある。273は内面に墨痕がみられ，転用硯と思われる杯蓋である。279・280は甑の可能性のある把手付の鉢で，把手部分に沈線が施され，下位はケズリ調整である。285は算盤玉状の胴部を持つ長頸瓶で，8世紀後半のもの。286～289は甕で，289は内面放射状当て具を使用しており，9世紀代のもの。

土師器（第130図，図版90～92・94）

土師器の出土量は少なく，甕・鍋等の煮沸具が中心で，椀・皿類はごく僅かである。時期は8世紀代，10世紀～11世紀，12世紀～13世紀，14世紀代と時期幅があるが，8世紀代，10世紀～11世紀代のものが主体となる。

盤（290），高杯（291～294），椀・皿（295～305・308～314），甕・鍋（306・307・317～323）がある。290は内外面赤彩で，内面に螺旋状暗文が施される盤あるいは皿である。291・293は赤彩された高杯で，8世紀代のもの。309は口縁端部が外反する皿で，内面は丁寧にミガキが施される。310・311は内面黒色処理された椀で，10世紀後半頃のもの。314は糸切りされた柱状高台で，12世紀後半代のもの。307は小型甕の底部で，底部は回転糸切り痕が残る。323は鍋で，8世紀代のもの。

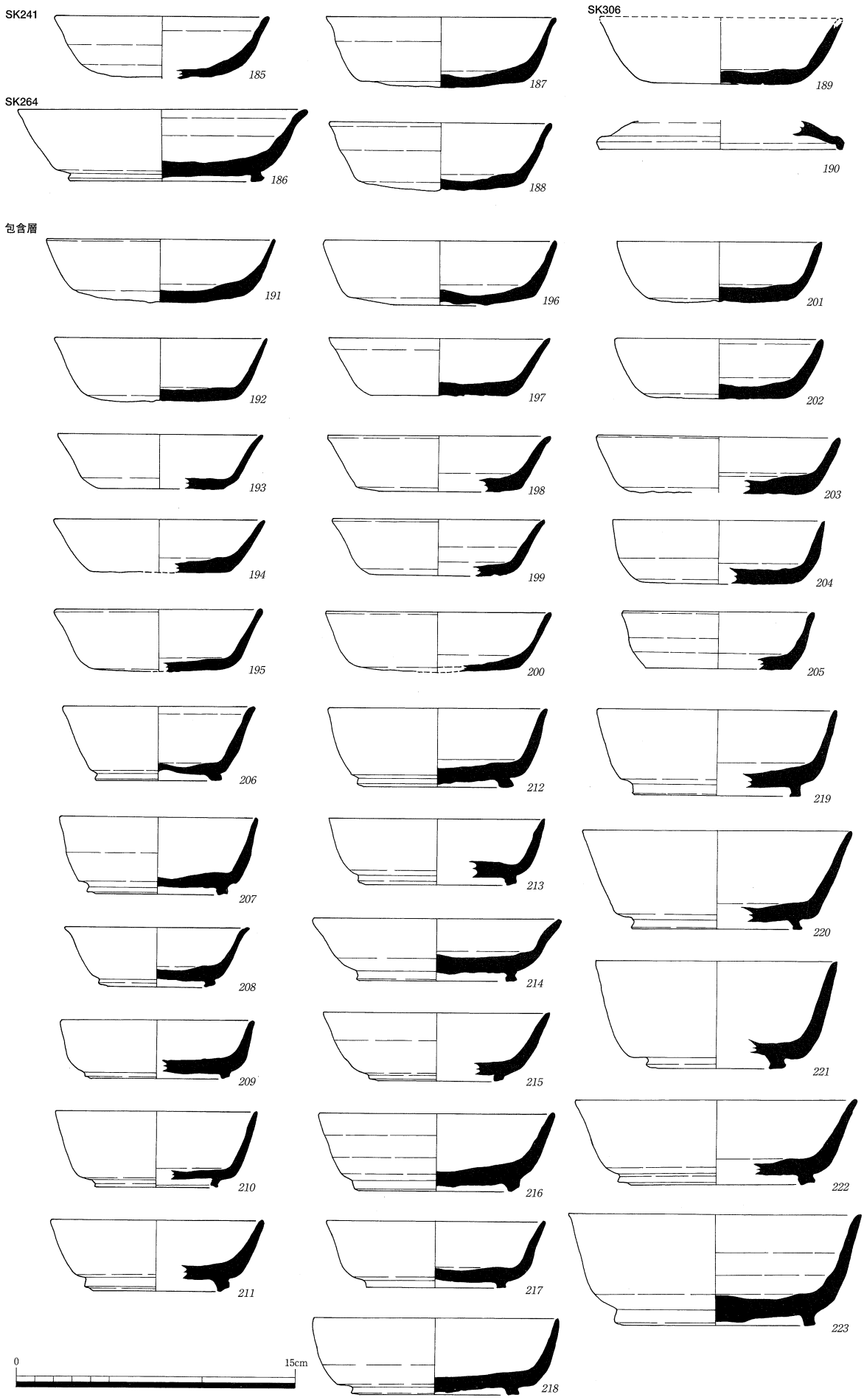
灰釉陶器（第130図，図版85・97）

315・316があり，釉を浸し掛けによって口縁内外面に施釉する椀で，10世紀後半～11世紀のものか。

土製品（第130図，図版63・93）

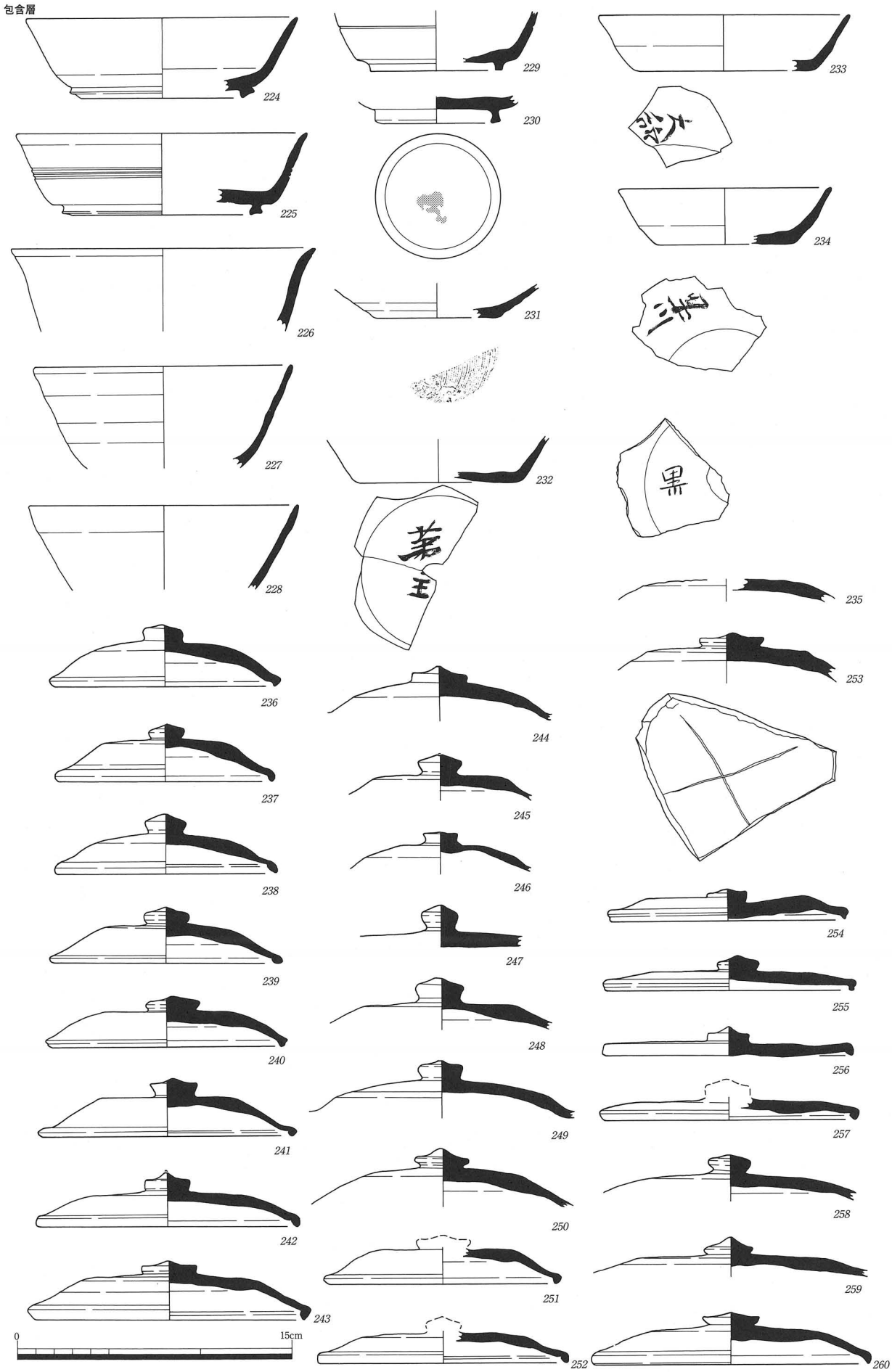
土錘（325・326），不明土製品（324）がある。325・326はいずれも樽型で，外面に成形時についたと思われる指押さえの痕が残る。324は寸胴の土錘状の外見に上及び側面からの穿孔があり，L字状に孔が貫通しており，不明土製品とした。成形は指ナデによって行われ，かすかな稜を持つ。

注1　上田尚美　2001　「土器制作の道具－黒河中老田遺跡出土資料の紹介－」『富山考古学研究　第4号』
　　（財）富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
注2　吉田恵二　1985　「日本古代陶硯の特質と系譜」『國學院大學考古学資料館紀要　第1輯』國學院大學考古学資料館
　　境町教育委員会　1975　『明神遺跡発掘調査報告書　附上渕名出土古瓦，硯調査報告』
注3　平川　南氏にご教授いただいた。
注4　楠瀬　勝　1997　『小杉町史　通史編』小杉町役場
注5　稲垣尚美他　2002　『黒河尺目遺跡発掘調査報告』小杉町教育委員会



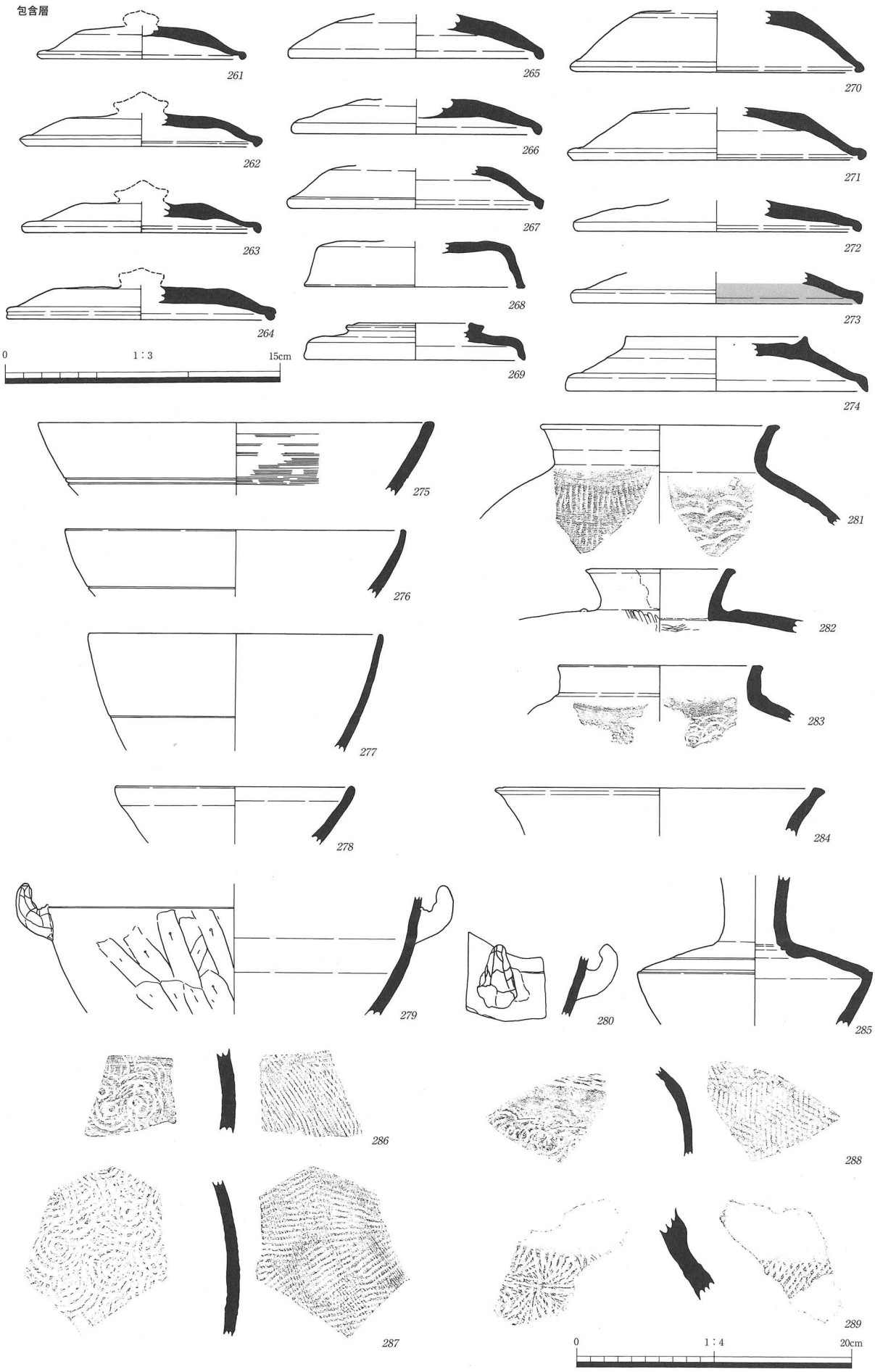
第127図　遺物実測図　(1/3)

SK241(*185*)　SK264(*186*～*188*)　SK306(*189*・*190*)　包含層(*191*～*223*)

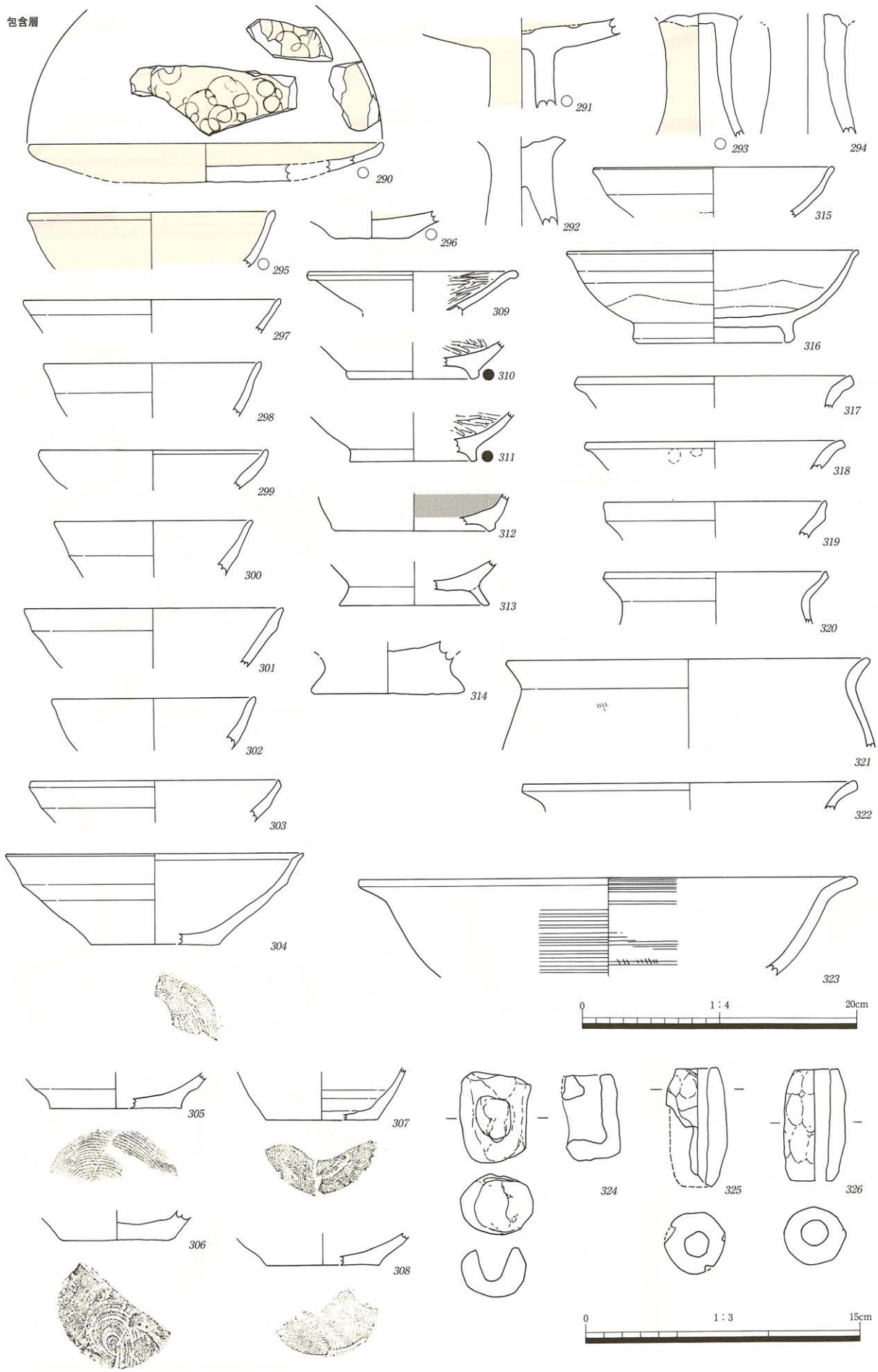


第128図　遺物実測図　(1/3)

包含層



第129図　遺物実測図　（*261～274*　1/3，*275～289*　1/4）
包含層



第130図　遺物実測図（*290～316・324～326*　1/3，*317～323*　1/4）
包含層

C　包含層出土遺物

縄文土器，土師器，青磁，白磁，石器，鉄滓などがある。これらの多くは遺構に伴わず，調査区周辺に当該時期の遺跡の存在が想定される。ここでは各々，まとめて記述する。

縄文土器[注1]（第131図，図版95・96）

黒河中老田遺跡においては縄文時代の明確な遺構はなく，出土量も少ない。時期は327～336・357は中期前葉，337～349は中期中葉，350～355は中期後葉，356は後期前葉のものと思われ，中期中葉が主体となると思われる。334は深鉢の底部で，スダレ状圧痕がある。341・343は半隆起線施文で，末端が渦を巻く斜行する隆帯を中心に，半隆起線でほぼくまなく器面を飾るのを特徴とする中期中葉のものでる。350は波状口縁の深鉢で，口縁部に2条の平行沈線を巡らせ，その間に縦方向の短線を引いた串田新Ⅱ式のものである。353・354も串田新Ⅱ式のもので，葉脈状文を施している。356は口縁部に波状沈線を巡らせた気屋式のもの。358は土偶の脚部で，側面左側に黒斑があり，脚部の内側で生焼け状になった部分と思われることから，右脚部と考える。円錐形の上面には剥離面と，深さ1.4cmほどの孔があり，ここに棒状のものをさして接合する木芯接合法[注2]を用いていたと思われる。八尾町長山遺跡にみられるような有脚土偶（Ⅰ群）[注3]で，中期前葉のものと思われる。

石器（第132～134図，図版58～60・101～104）

打製石斧（359～366），磨製石斧（367～382），石錘（386～389），礫核石器（383），両極剥片（384），多孔石（385）がある。磨製石斧は刃部が折れた後に敲いて成形し直し，刃部の再生を試みたと思われるもの（375）や，刃部の研ぎ直しが顕著なもの（380～382）等，使い込まれているものがみられる。石器の大半は周辺の縄文時代の遺跡からの流れ込みと思われるが，打製石斧のうち，362・364～366は遺構出土の133・135と同様な石鍬と思われ，古墳時代に属す可能性がある。これら石鍬と思われる打製石斧は，円礫を敲いて素材とし，刃部はそのままで，側辺だけ敲いて成形している。裏面に刃こぼれはみられるが，摩耗痕などの使用痕は顕著でない[注4]。制作技術は縄文時代の打製石斧とさほど変わらないが，古墳時代のものと考えられるものは撥型で，黒河尺目遺跡の縄文時代の遺構出土のものより相対的に大型である。粘土採掘に使用した掘削具の可能性が考えられる。

土師器（第135図，図版94）

いわゆる中世土師皿で出土量は少なく，小片が多い。390は底部に糸切り痕が残る皿で，12世紀前半のものとみられ，若干古い様相を呈する。391～399は13世紀～14世紀と思われ，391～395の口径8.0cm～9.8cmの小型のものと，396～399の口径13.0cm～16.1cmの大型の2タイプがみられる。

白磁・青磁（第135図，図版97）

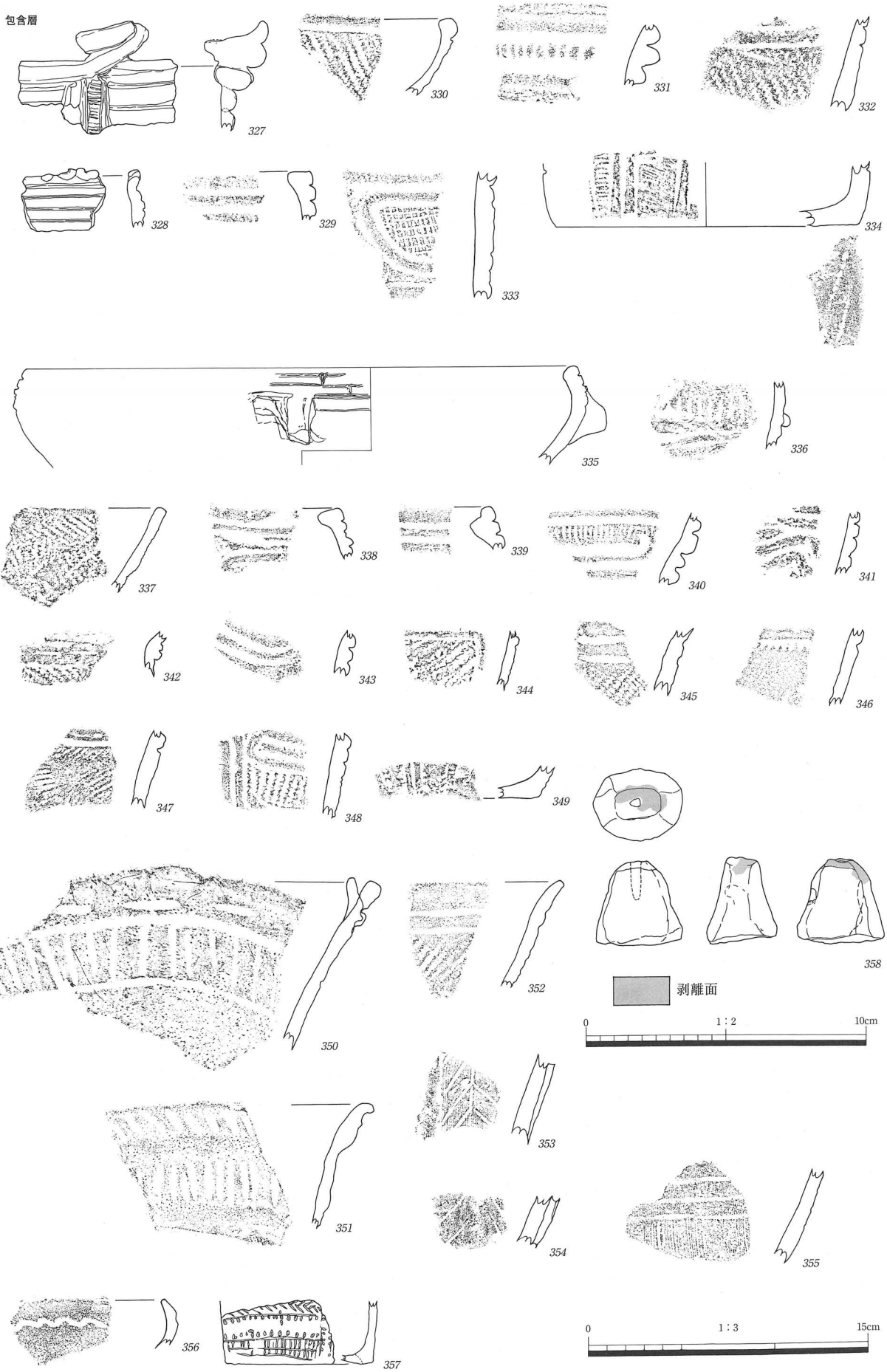
白磁椀（400～402），青磁皿，椀（403～405）がある。いずれも12世紀～13世紀の頃のものと思われる。402は太宰府分類[注5]のⅤ類とされるものと思われる。403は体部下方に段を持つ白磁皿。404・405は龍泉窯系の青磁椀で，内面に片切彫りで蓮華文を施し，外面は無文である。太宰府分類Ⅰ類2に相当すると思われる。

木製品（第135図，図版98）

北地区の西側，Ⅰ層（表土）から出土している。406は表裏両面とも黒色漆塗りの折敷で，樹種はヒノキ亜科。407は雲形？の部材で，中央部に孔があいており，樹種はスギである。時期は不明。

石製品（第135図，図版61）

砥石（408）がある。石材は凝灰岩である。時期は不明。

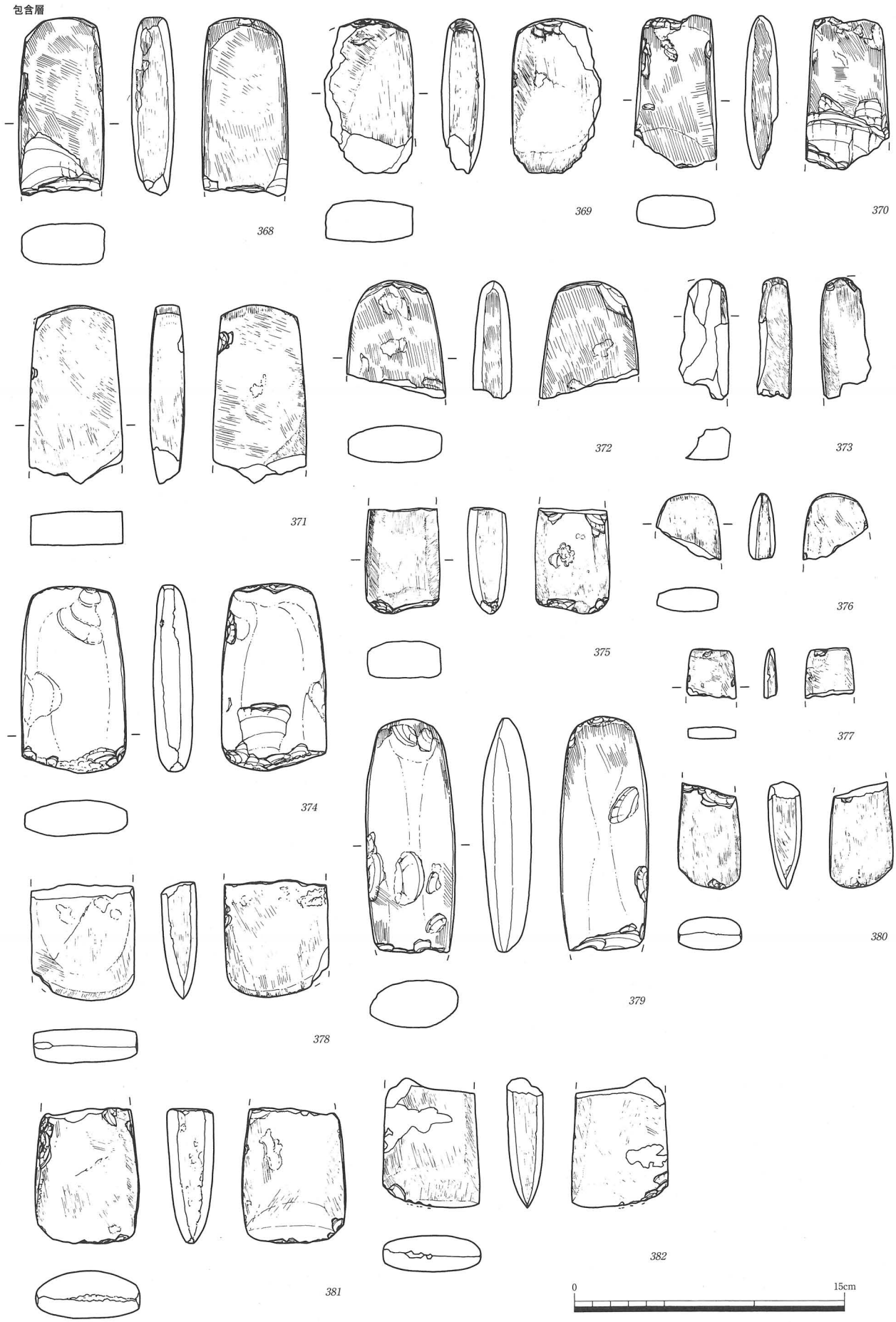


第131図　遺物実測図（*358*　1/2，*327～357*　1/3）
包含層

包含層

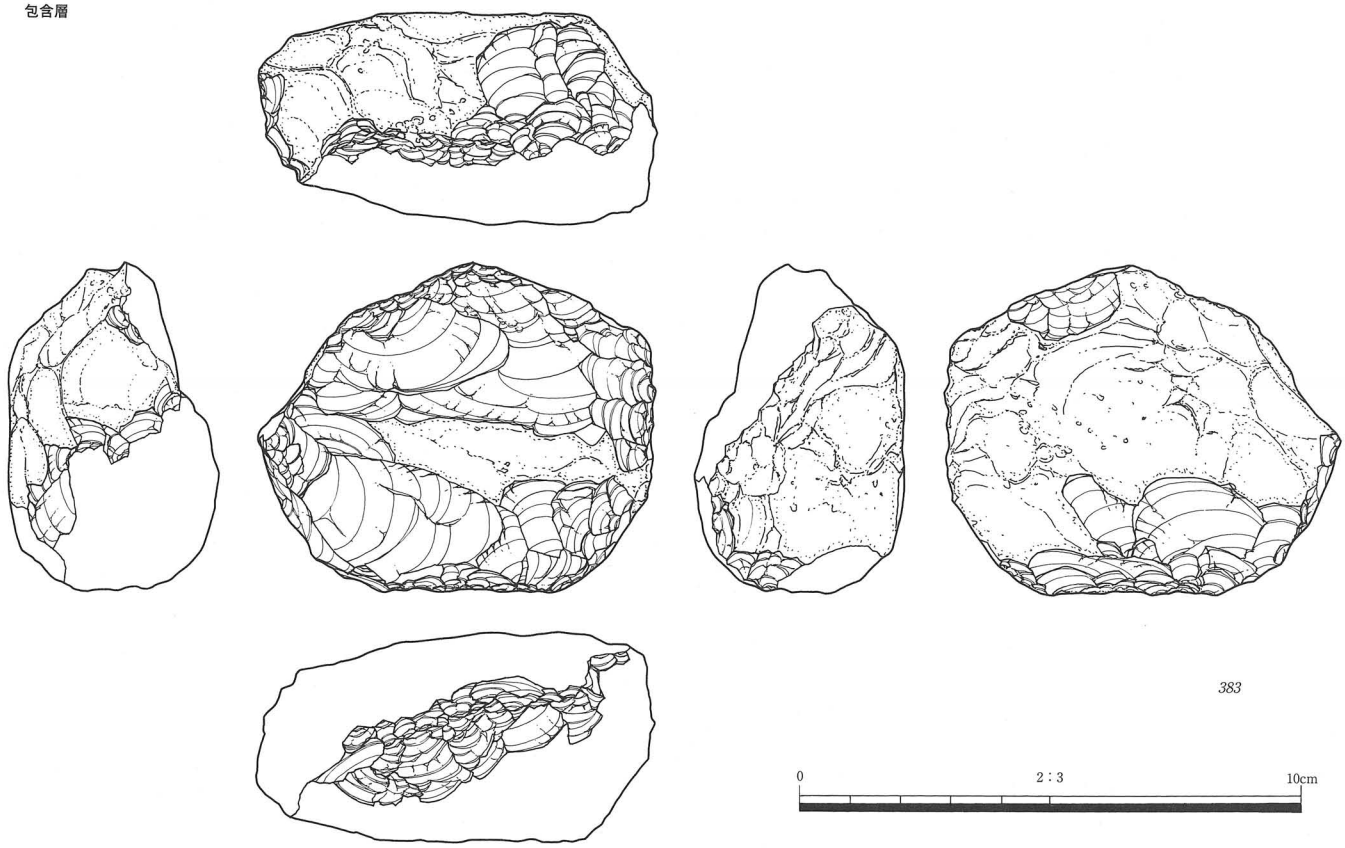
第132図　遺物実測図（1/3）

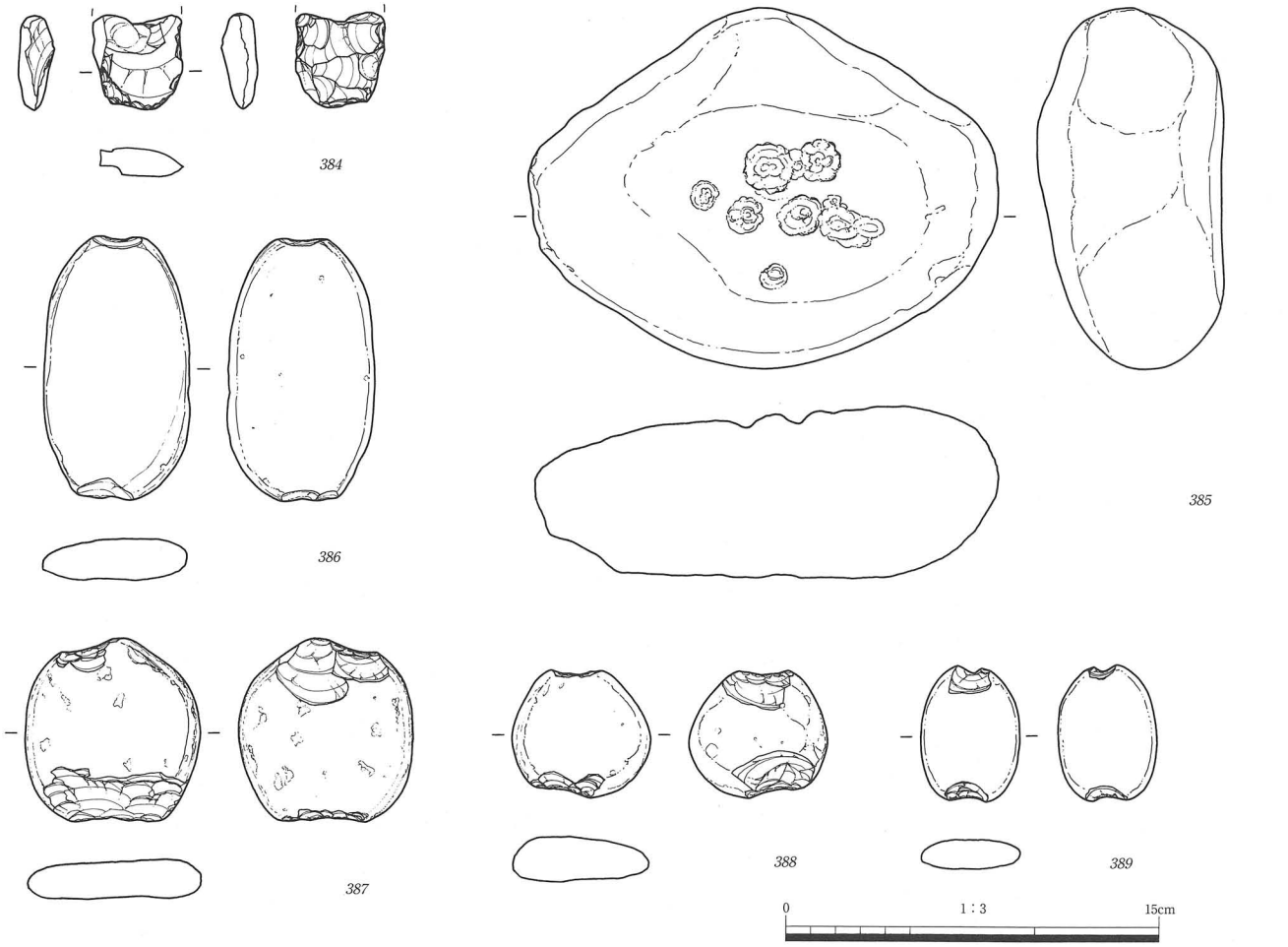
包含層



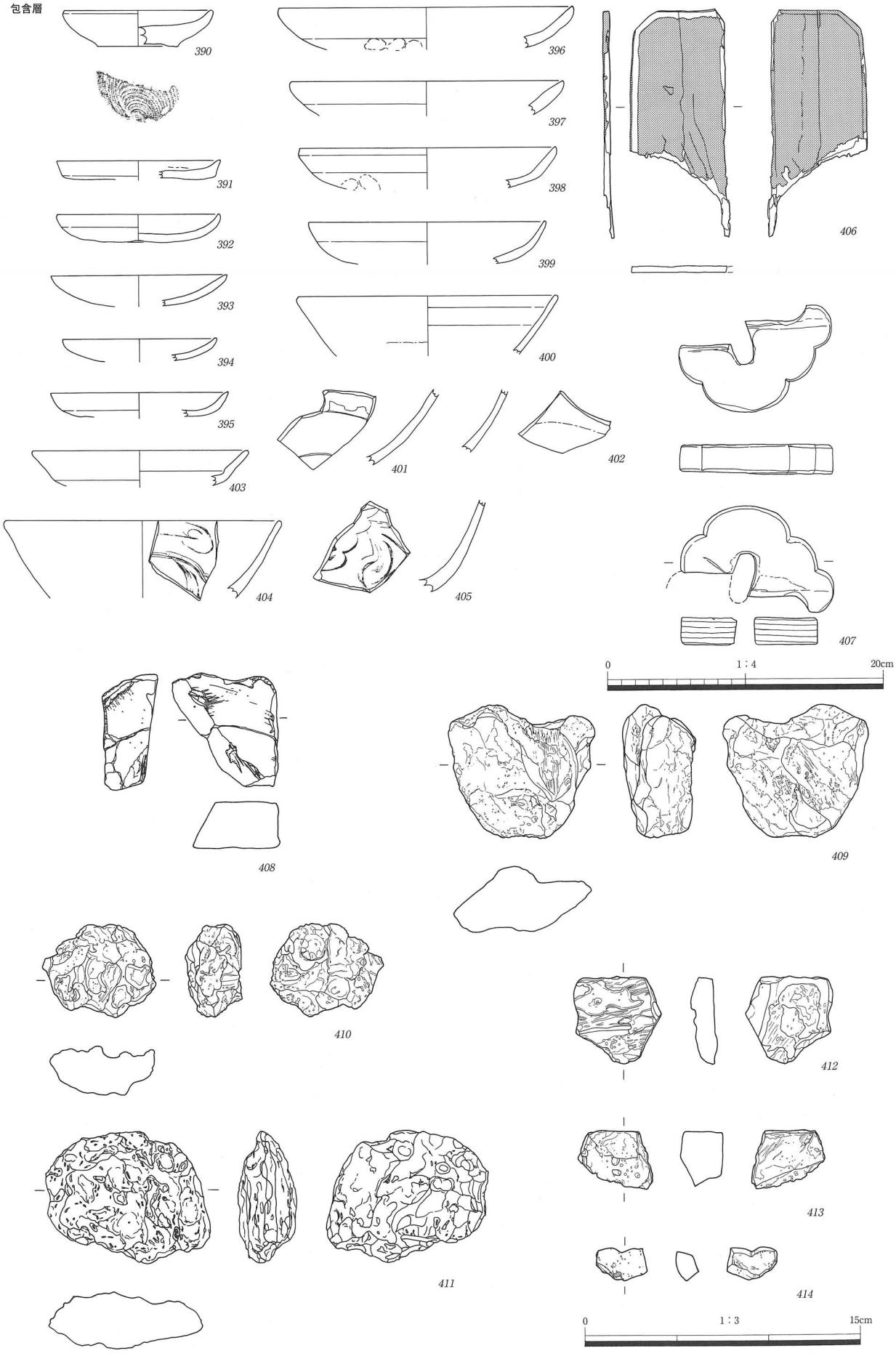
第133図　遺物実測図　(1/3)
包含層

包含層





第134図　遺物実測図（*383・384*　2/3，*384～389*　1/3）
包含層



第135図　遺物実測図　（*390～405・408～414*　1/3，*406・407*　1/4）
包含層

金属製品（第135図，図版62・63）

鉄滓・椀形滓があり，北地区北半で多く出土している。鉄滓としたものには鉱滓・流動滓等も含み一括して鉄滓としている。409～411は椀形滓，412～414は鉄滓である。遺跡のある射水丘陵一帯では多くの製鉄関連遺跡の存在が知られており，これらの遺物は周辺遺跡からの流れ込みと思われる。

注1　縄文土器の器種分類・時期等については酒井重洋氏から御教示いただいた。

注2　小野正文　1984　「土偶の分割塊制作法資料研究（1）ー東京都神谷原遺跡の土偶ー」
『甲斐丘陵考古学研究会会報　丘陵　第11号』甲斐丘陵考古学研究会

注3　神保孝造他　1985　『長山遺跡発掘調査報告』八尾町教育委員会

注4　自然科学的分析　「Ⅴ　黒河中老田遺跡・黒河尺目遺跡から出土した打製石斧の低倍率使用痕分析」に詳しい。
池谷勝典・馬場伸一郎　2003　「弥生時代飯田盆地における打製石鍬の用途について」『第6回例会発表要旨集　生業』
中部弥生時代研究会

注5　横田賢次郎・森田　勉　1978　「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集　4』九州歴史資料館

3　まとめ

A　遺構

今回の調査では古墳時代・古代の二時期があり，溝4条・井戸1基・土坑169基が確認されている。

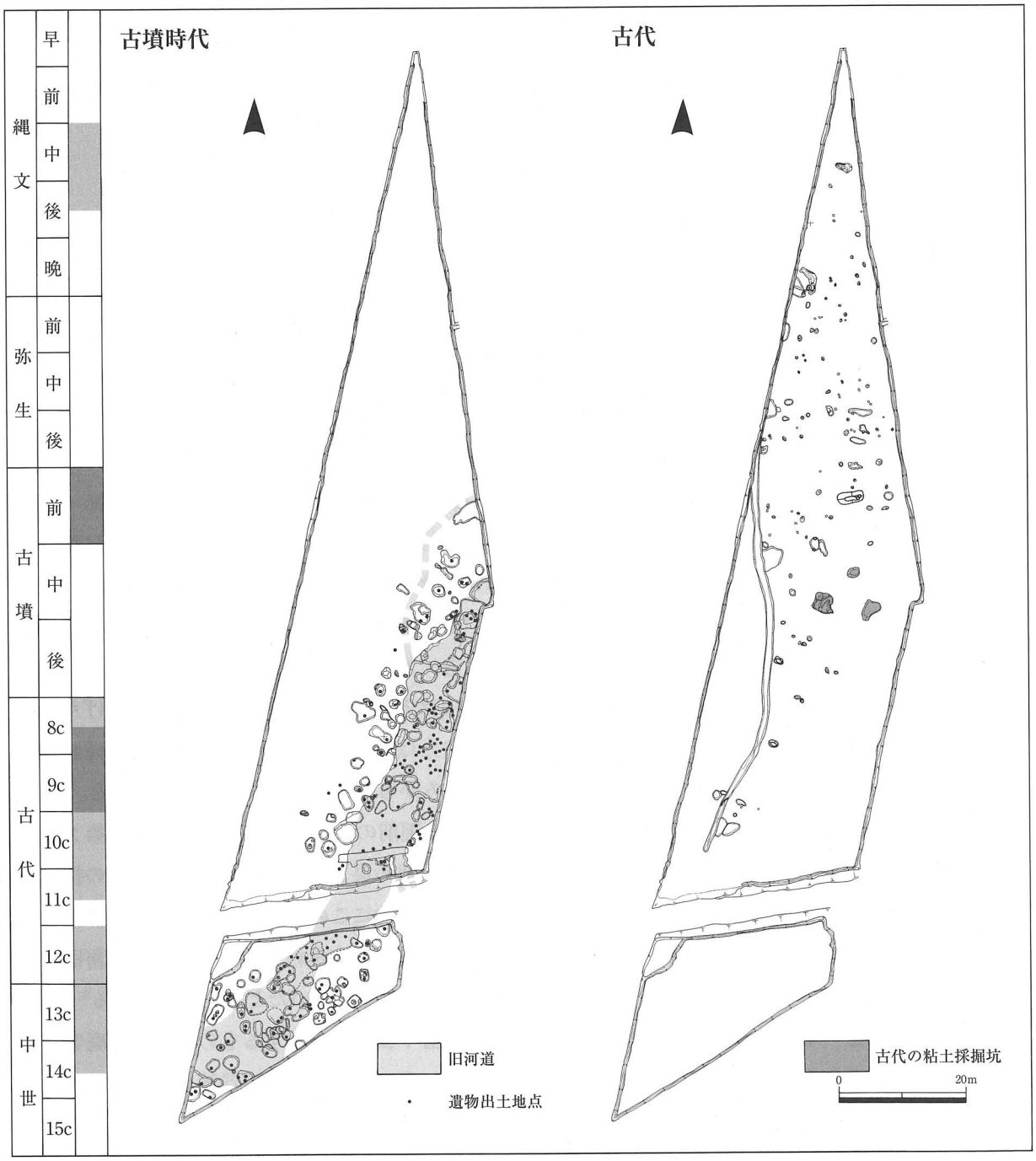
古墳時代の遺構の大半は粘土採掘坑で，生活痕跡は認められず，「作業場」的な遺跡である。粘土採掘坑は南地区南西角から北地区東半の約90mの間，標高5.4m～4.2mにかけて検出されている。Ⅳ層の灰白色粘土を採取しており，採掘坑の底面は平坦である。重複しながら連続して掘り込まれるものと，単独のものがあり，旧河道内及び肩部に帯状に連なって分布している。前者は河道内，後者は河道肩に多くみられる。旧河道は縄文時代中期以降に埋没したと考えられる河道で，ＳＤ65・ＳＤ102・ＳＤ103・ＳＸ160をその痕跡として想定している。ＳＤ65以南，ＳＸ160以北については浅い落ち込み状となって終わっているが，等高線からは帯状に連なる土坑群をたどるラインを流路と推定復原した。粘土採掘坑としたものには，粘土を溜め置き（仮置き？）したもの，粘土の均質化のため水簸を行っていたと思われるもの等を含んでいる。このうち，水簸を行っていたと思われる土坑には方形で浅い皿状のものがあり，南地区に多くみられる。埋土は人為的に埋め戻しながら掘り広げたと考えられるものが多く，灰白色粘土（Ⅳ層）がブロック状または霜降り状に混入している層が確認できる。連続する採掘坑は4～5基を一単位として，浅いところから深いところへ掘り進めている。

粘土の採掘方法は，藪田東遺跡[注1]で，「第1段階　縦壙の掘削の後，底部の粘土の採掘。第2段階　壁部分の粘土の採掘。第3段階　採掘壙の拡張及び旧壙の埋め戻し。第4段階　拡張部分の採掘。」の4段階が示されている。黒河中老田遺跡の採掘坑群は，基本的にこの4段階と同じ手順で採掘されていると思われ，比較的短期間に営まれたものと考える。調査区の南西約2kmの小杉流通業務団地内の遺跡群でみつかっている粘土採掘坑群でも，同様の手順で採掘されていたと考えられている[注2]。

遺物は埋土中位～下位にかけて，完形または半完形の土器や板材が出土するものが多く，廃棄されたというよりは置き去られたような状態である。器種は甕・壺に限られ，他の器種は全くみられない。このような出土状況は，調査区の南約500mに位置する小杉町塚越Ａ遺跡[注3]の弥生時代の粘土採掘坑でもみられ，粘土採掘における共通した「慣習」のようなものがあったと思われる[注4]。

古代の遺構は，北地区の西半に分布し，旧河道左岸の自然堤防上に立地している。柱穴と思われる土坑が検出されているが，建物のプランは確認できず，調査区は集落の縁辺に位置すると考えられる。

古代においても粘土採掘を行っていたと考えられる土坑が3基確認されているが，いずれも単独で存在している。標高は5.0m～4.8mを測り，古墳時代のＳＸ160（旧河道）以北の浅い落ち込み状になった部分に位置している。埋土は古墳時代の粘土採掘坑と同様に人為的に埋め戻されたものと考えられ，8世紀後半～9世紀前半にかけての土師器，須恵器の他，ＳＫ180からは掘り棒や須恵器制作に使用したと思われる叩き板が出土している。にぶい黄色粘土（Ⅳ層）を採取しているが，Ｘ267付近を境にⅣ層は粘土から粘質シルトに変化している。古代の粘土採掘坑はちょうどこの土質の変換点付近に立地しており，古墳時代とは別種の粘土を必要としたか，あるいは良質な粘土を求め採掘場を移動させたと想定される。



第136図　黒河中老田遺跡　時期別遺構分布図（1：1000）

B　遺物

古墳時代の粘土採掘坑からは完形・半完形の状態で土器や板材が出土しており，これらの土器の位置付けを行いたい。出土土器について，全体的な特徴を示すと以下のようになる。

①器種は甕・壺に限られ，9割以上が甕である。

②ほぼ全てに日常的に使用されていたと思われる煤・コゲの付着がみられる。

③完形が多く，半分や大型の破片で出土する。

④出土位置は採掘坑の埋土中位～下位にかけてである。

土器の多くは粘土採掘坑内からの出土である。採掘坑の埋土は人為的に埋め戻されたと思われるものが多くあり，一度掘った坑を再度掘るといった重複例はなく，土器はパックされたような状態である。これらの土器は粘土採掘に伴い甕が選択され，意図的に埋められたものと考えられる。

土器の口径は15cm～20cm台がほとんどで，17cm～18.5cm台ものは43%をしめており，法量においても意図的な選択が行われていると想定できる。粘土採掘坑と考えられ，甕の出土率の高い遺跡は，弥生時代後期～庄内式期・布留式期に他地域において確認されており，共通した慣習・思考・行動パターンが存在した可能性が指摘されている[注5]。

接合・復原して図示した土器のうち，甕は96.6%をしめており，完形・半完形のものは43%となる。口縁形態を主とした分類は次のようになる。

（1）甕　A：有段口縁甕　口縁部が段をもつもの。受口状も含む。

B１：くの字口縁甕　口縁端部を面取りするもの，能登形甕とその影響がみられるもの。

B２：くの字口縁甕　口縁端部を丸く収めるもの。

C：布留系甕　口縁端部を肥厚させたもの[注6]。

D：タタキ甕　口縁～肩部にタタキが施されるもの。

E：山陰系甕　内傾する有段口縁をもつもの。または，有段口縁の口縁帯下端がやや突出したもの。山陰の影響が強くみられるもの。

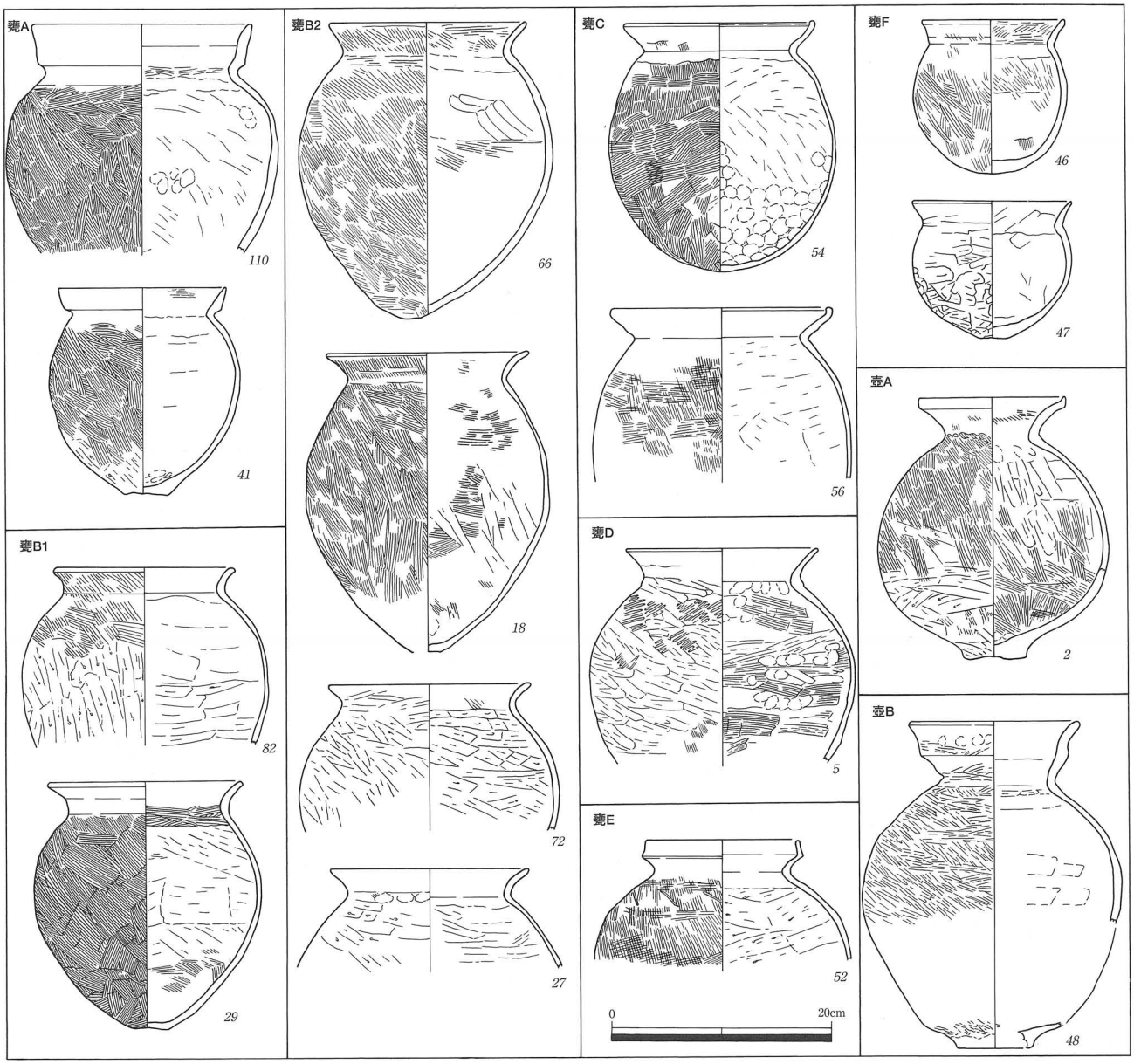
F：小型甕　くの字口縁に，球胴のもの。

（2）壺　A：広口壺　口縁部が短く，段を持たず，外反するもの。

B：複合口縁壺　A類の口縁端部をさらに外反・伸張させたもの。

甕Aは口縁帯に雑な擬凹線が施されるもの（40），口縁帯が直立し，端部をやや鋭く収めるもの（39・41）等，若干古い様相を呈するものがある。短い口縁帯に端部押さえ気味の口縁で，胴部最大径が中位にあり，上げ底状の小さな平底をもつもの（37）は近江系の受口状口縁甕の影響を受けていると思われる。甕B１はいわゆる「能登形甕[注7]」といわれる「くの字（面取り主体），内外ハケ（ハケ的ケズリ），厚手，接合痕，分割成形痕，平底・尖底」の甕，及びその影響を受けていると思われるもので，22%みられる。倒卵形の胴部に小さな平底を持つものが主体だが，丸底を持つもの（33）もみられる。甕B２（46%）はくの字口縁甕で端部を丸く収めるものを主体とするが，つまみ上げるもの，直立気味のもの，やや中膨らみするもの等，バラエティがあり，さらに細分可能と思われるが，ここではB２類として一括して扱う。胴部は長胴・平底が主体であるが，球胴・丸底をもつもの（103）もあり，肩部が張り出して球形気味になるもの（26・63）が若干みられる。

甕C～Eは畿内・山陰の外来の影響が窺えるものである。甕Cは布留系の甕で，13個体（12%）ある。口縁端部が内面または上方に肥厚し，器壁はうすい。球形胴部・丸底で，調整外面は縦ハケの後，肩部に横ハケを施し，内面はケズリで，胴下半から底部にかけて指頭圧痕を残す典型的な布留甕



第137図　古墳時代土器器種分類図（1/6）

分類		個数(%)	調整a	調整b	調整c	調整d	調整e	底部1	底部2	挿図No.
			外ハケ内ハケ	外ハケ内ケズリ	外ケズリ内ケズリ	外ケズリ内ハケ	不明・その他	平底	丸底	
甕A	有段口縁	12(12%)	5	6			1	3	3	12, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 81, 84
甕B1	くの字口縁（口縁面取）	22(22%)	10	9	2		1	4	1	9, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 49, 50, 51, 65, 78, 80, 90, 102, 105, 109, 112, 113, 114
甕B2	くの字口縁（口縁丸縁）	46(46%)	6	20	15	3	2	9	6	1, 4, 11, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 36, 61, 62, 63, 64, 66, 68, 69, 72, 74, 77, 79, 83, 85, 86, 87, 88, 89, 93, 94, 96, 97, 98, 99, 100, 101, 103, 104, 106, 107, 108, 111, 115
甕C	布留系	13(12%)		13						7, 8, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 60, 70, 71, 91, 92
甕D	タタキ甕	3(3%)					3			5, 6, 82
甕E	山陰系	3(3%)		3						52, 73, 110
甕F	小型	2	1		1			1	1	46, 47
不明(底のみ)		11	5	2	4			7	2	3, 13, 14, 15, 16, 17, 67, 75, 76, 95, 116
壺A	広口	2								2, 59
壺B	複合口縁	2								10, 48

※個数の%は,口縁形態がわかるもの100個体を対象とした時の%である。

第13表　土器分類一覧

（7・8・54）が比較的まとまってみられる。器壁がやや厚く，長胴化した胴部を有するもの（55）はやや新しい様相を呈する。甕Dはタタキ甕で，3個体（3%）あり，肩部のみにタタキが施されるもの（5・6）と，口縁から肩部にかけてタタキが施されるもの（82）があり，いずれもタタキの後にケズリを行っている。甕Eは山陰の影響が窺えるもので，有段口縁を持ち，口縁形態から2類に大別できる。1類は内傾する短い口縁帯で，胴部外面は縦または斜めのハケで，肩部に横ハケを施す（52・73）。肩部にヘラ状工具による線状の刺突を施すもの（52）がある。2類は口縁帯下端がやや突出し，端部は押さえ気味で，口縁帯内面に二段ナデを施す（110）。甕Eは福井・石川の北陸南西部では，布留式並行の時期には組成に取り入れられているのが確認されている[注8]。

壺Aは広口壺で，2個体ある。胴部最大径がやや下位にあり下膨れ気味の球形の胴部を持ち，口縁部は面取りされて，端部は上方につまみ上げられているもの（2）と，胴部最大径が中位にあり，口縁部は外反して延び，端部は丸く収めるもの（59）がある。壺Bは複合口縁壺で，短く直立する頸部に大きく外反して開く口縁部がつく。2個体あり，倒卵形の胴部に丸底のもの（10）と，平底のもの（48）がある。調整は外面ミガキに，内面ヘラ状工具によるナデで，10は外面と口縁部内面に赤彩が施される。壺は4個体のみで，甕に比べていずれも丁寧な調整が行われている。

器種が甕・壺に限られ，土器組成を把握するに至っていないが，①くの字口縁甕B2が46%と高率で，甕全体に占める割合が高い。②有段口縁甕（13%）が残る。③布留系甕（12%）が一定量みられる。④胴部は倒卵形で小さな平底のものが主体となり，球形胴部，丸底はみられるが出土量は少ない，という様相を呈する。布留系甕については県内では受容する遺跡としない遺跡があり，地域差または遺跡の格の違いによる可能性が指摘されている[注9]。前者には大門町二口油免遺跡[注10]，立山町利田横枕遺跡[注11]，後者には婦中町南部Ⅰ遺跡[注12]，鍛冶町遺跡[注13]があり，黒河中老田遺跡はこれらの遺跡とほぼ同時期と考える。県内の弥生時代終末期から古墳時代前期前半を対象とする編年[注14]は第14表のように様々な研究成果が提示されている。黒河中老田遺跡は土器組成的には不十分ではあるが，県西部（呉西地域）の編年を提示された岡本氏の案[注15]によれば，4期・5期に位置付けられると考える。くの字口縁甕を主体とするが，有段口縁甕が残ることや，くの字口縁の端部を丸く収めるものが多いこと，布留系甕がみられること等から，主体となるのは4期・5期を包括したものと考える。しかしながら，有段口縁甕には擬凹線文を施すものや，口縁帯が直立気味に立ち上がるもの等に古い様相がみられる。また，布留系甕の中に口縁がやや直立気味で長く延び，端部上方に面を持つ肥厚の甘いもので，長胴化した胴部を持つものがあり，布留Ⅱ式にくだると思われる新しい様相を呈するものもある。若干の時期幅を有すると思われるが，遺構の状態からは比較的短期間の間に営まれたと考えられ，大きな差にはならない範疇のものと考える。

（金三津道子）

時期区分		谷内尾（1983）	田嶋（1986）	楠（1996）		上野（1972）	久々（1999）	高橋（2000）	田中・中谷（2003）		大野（2003）	岡本（2003）	黒河中老田遺跡
弥生	後期後半	法仏Ⅱ						後期Ⅳ古					
								後期Ⅳ新	Ⅱ	3	Ⅰ	1	
	終末	月影Ⅰ	3群	4期	1	第Ⅰ様式	1	庄内並行Ⅰ古			Ⅱ－1		
					2		2	庄内並行Ⅰ新		4	Ⅱ－2		
		月影Ⅱ	4群		3		3	庄内並行Ⅱ古			Ⅱ－3	2	
					4		4	庄内並行Ⅱ新			Ⅱ－4		
			5群	5期	1		5	庄内並行Ⅲ古	Ⅲ	5	Ⅲ	3	
古墳	前期前半	古府クルビ	6群		2	第Ⅱ様式	6	庄内並行Ⅲ新					
			7群		3		7	布留並行Ⅰ古	Ⅳ	6	Ⅳ	4	
		高　畠	8群		4		8	布留並行Ⅰ新		7	Ⅴ	5	
			9群					布留並行Ⅱ		8		6	

第14表　県内土器編年の並行関係

注1　原　雅信他　1983　『藪田東遺跡』群馬県考古資料普及会

注2　斉藤　隆他　1985　『小杉流通業務団地内遺跡群　第7次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会

斉藤　隆他　1986　『小杉流通業務団地内遺跡群　第8次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会

注3　越前慶祐他　1992　『古沢バイパス関連遺跡発掘調査報告　中老田C遺跡・塚越A遺跡』富山県埋蔵文化財センター

注4　荒木幸治　2001　「古墳時代初頭における粘土採掘坑とそれに伴う具体的活動－兵庫県朝来郡和田山町筒江浦石遺跡の調査－」『兵庫県埋蔵文化財調査紀要　創刊号』兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

注5　注4に同じ。

京都府上中遺跡，鳥取県福岡遺跡などで粘土採掘坑の類例がみられる。

増田孝彦　1986　『上中遺跡第3次発掘調査概要』京都府遺跡調査概要第20冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

西川　徹他　1992　『福岡遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書27　(財)鳥取県教育文化財団

注6　布留甕・布留傾向甕と，それらの影響を受けていると思われるものを一括した。ここでは布留系甕としておく。

注7　安　英樹　2003　「能登甕と千種甕」『庄内式土器研究』27　庄内式土器研究会

注8　田嶋明人　1986　「Ⅳ考察　漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター

青木元邦・赤澤徳明　1995　「第5章　調査の成果」『長泉寺遺跡』福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

注9　注14の田中・中谷論文において，布留系甕の出土と遺跡の格とが結びつく可能性が推察されている。

注10　尾野寺克実・中井英策　1998　『二口油免遺跡発掘調査概報－庄川右岸改修関連住宅団地事業に係る調査－』大門町埋蔵文化財調査報告13　大門町教育委員会

注11　三鍋秀典・田中幸生　2001　『利田横枕遺跡－主要地方道富山立山魚津線地方特定道路事業に伴う調査報告書－』立山町文化財調査報告書第31冊　立山町教育委員会

注12　堀内大介　1998　『富山県婦中町　南部Ⅰ遺跡発掘調査報告』婦中町教育委員会

注13　大野英子他　2003　『富山県婦中町　鍛冶町遺跡発掘調査報告』婦中町教育委員会

注14　多数の編年研究がある。近年の研究は以下のようなものがある。

上野　章　1973　「弥生時代　附，古式土師器」『富山県史』考古編　富山県教育委員会

久々忠義　1999　「古墳出現期の土器について」『富山平野の出現期古墳』富山考古学会

高橋浩二　2000　「古墳出現期における越中の土器様相－弥生時代後期から古墳時代前期前半土器の編年的位置付け－」『庄内式土器研究』22　庄内式土器研究会

田中幸生・中谷正和　2003　「越中における古墳出現前後の地域別編年－甕形土器を中心に－」『富山大学考古学研究室論集　蜃気楼－秋山進午先生古稀記念－』六一書房

大野英子　2003　「越中中央部における古墳出現期の土器様相－千坊山遺跡群を中心として－」『庄内式土器研究』26　庄内式土器研究会

注15　岡本淳一郎　2003　「越中西部地域における古墳出現期の土器様相」『庄内式土器研究』26　庄内式土器研究会

第15表　黒河中老田遺跡溝一覧

遺構番号	規　模(m)		出土遺物	時期	備　考	挿図番号	図版番号
	幅	深さ					
SD65	7.70	0.65	縄文土器，土師器，板材	古墳	SD103に続く	90	70
SD102	2.62	0.30	土師器	古墳	SD103に合流	91	
SD103	4.60	0.54	土師器，板材	古墳	SD65に続く	91	70
SD131	1.60	0.39	縄文土器，土師器，須恵器，伊万里，常滑，不明陶器，両極石器，剥片，珠洲，越中瀬戸	古代以降	SD131＞SK104・137・193・223	119	
SX160	10.40	0.66	縄文土器，土師器，須恵器，板材	古墳	旧河道，複数の土坑が重複したものの総称	94	71，72

第16表　黒河中老田遺跡井戸一覧

遺構番号	平面形	規　模(m)			出土遺物	備　考	挿図番号	図版番号
		長さ	幅	深さ				
SE304	円	1.30	1.30	0.78	須恵器，土師器	SE304＞SX168	121	72

第17表　黒河中老田遺跡古墳時代土坑一覧（1）

遺構番号	平面形	規　模(m)			出土遺物	備　考	挿図番号	図版番号
		長さ	幅	深さ				
SK1	不整	2.48		0.61	土師器，縄文土器		101	
SK2	楕円	2.10	1.18	0.48	土師器，縄文土器		101	
SK3	不整	1.96	1.66	0.42	土師器，磨製石斧	SK3>SK4	101	
SK4	不整	2.04		0.57	土師器，縄文土器	SK4<SK3	101	
SK5	隅丸	2.15	1.68	0.64	土師器，縄文土器			
SK6	楕円	1.60	1.38	0.49	土師器，縄文土器		101	
SK7	円	2.55	2.30	0.59	土師器，縄文土器			
SK8	円	1.31	1.06	0.47	土師器，縄文土器			
SK9	不整	1.74	1.60	0.36	縄文土器		101	
SK10	楕円	1.96	1.40	0.46	土師器，縄文土器		102	
SK11	長方	3.48	1.68	0.40	土師器，須恵器，縄文土器，磨製石斧，台石			
SK12	不整	1.90	1.42	0.47	土師器，縄文土器	SK12<SK14	102	
SK13	楕円	1.06	0.70	0.29		SK13<SK14	102	
SK14	楕円	1.70	1.08	0.34	土師器，縄文土器	SK14>SK12・13	102	
SK15	円	1.26	1.24	0.35	土師器，縄文土器			
SK16	隅丸	2.07	1.56	0.53	板材，土師器，縄文土器		102	69
SK17	楕円	1.22	0.94	0.43				67
SK18	円	0.58	0.52	0.11				
SK19	不整	2.42		0.55	土師器，縄文土器			
SK21	不整	2.30	1.64	0.55	土師器		102	69
SK22	楕円	1.62	1.05	0.35		SK22<SK23,SK22>SK24	103	
SK23	長方	2.60	1.38	0.54	土師器，縄文土器	SK23>SK22		
SK24	不整	2.04		0.08	土師器，縄文土器	SK24<SK22・28・30	103	
SK26	円	1.70	1.44	0.41	土師器，縄文土器	SK26>SK27	103	
SK27	不整	1.66		0.40		SK27<SK26・28・30	103	67
SK28	不整	2.06	1.32	0.60	土師器	SK28>SK24・27・30	103	
SK30	不整	1.72	1.26	0.53		SK30>SK24・27,SK30<SK28	103	
SK32	楕円	1.67	0.56	0.37	土師器，縄文土器			
SK33	不整	2.60	2.40	0.67	土師器，板材，縄文土器，磨製石斧		103	
SK34	不整	3.68	3.32	0.52	土師器，須恵器，縄文土器，打製石斧		104	69
SK35	円	1.88	1.78	0.37	土師器，縄文土器			
SK36	楕円	1.64	1.06	0.66	土師器，棒材，縄文土器	SK36>SK37	104	69
SK37	楕円	1.13		0.42	土師器	SK37<SK36	104	69
SK38	楕円	2.46	1.93	0.58	土師器，板材，縄文土器	SK38>SK40・42	105,106	69
SK39	不整	1.57	1.30	0.42		SK39>SK40	105,106	
SK40	不整	3.88	1.62	0.30	土師器，縄文土器	SK40<SK38・39,SK40>SK41	105,106	
SK41	不整	2.07		0.23	土師器	SK41<SK40	105,106	69
SK42	不整	2.24	1.83	0.50	土師器，縄文土器	SK42<SK38,SK42>SK50	105,106	
SK43	不整	1.56		0.33				
SK44	不整	4.30		0.47	土師器，須恵器，縄文土器	SK44<SK45・50	105,106	
SK45	不整	1.80		0.46	土師器	SK45>SK44,SK45<SK50	105,106	
SK46	隅丸	1.88	1.78	0.14	縄文土器			
SK47	楕円	1.20	0.89	0.35				
SK48	方	1.30	1.02	0.17				
SK49	不整	3.64	2.00	0.40	土師器，縄文土器	SK49<SK52	107	
SK50	円	2.24	2.04	0.62	土師器，縄文土器	SK50<SK42,SK50>SK44・45	105,106	
SK51	不整	1.74		0.24	土師器，縄文土器		107	
SK52	不整	2.40	2.24	0.47	土師器，板材，縄文土器，剥片	SK52>SK49	107	
SK53	円	1.56	1.35	0.46	縄文土器		104	
SK54	不整	1.52		0.58	土師器	SK54<SK55,SK54>SD65	104	
SK55	不整	2.28	1.90	0.61	土師器，縄文土器，剥片	SK55>SK54・SD65	104	
SK56	円	1.03	1.03	0.49			104	
SK57	隅丸	1.67	1.41	0.35	土師器			
SK58	方	1.97	1.69	0.18	土師器		106	
SK59	方	1.83	1.40	0.10	土師器，縄文土器		106	
SK60	方	1.69	1.40	0.20	土師器，縄文土器		106	67
SK61	不整	1.93	1.64	0.31			107	
SK62	楕円	1.14	0.69	0.23	土師器			

第17表　黒河中老田遺跡古墳時代土坑一覧（２）

遺構番号	平面形	規　模(m)			出土遺物	備　考	挿図番号	図版番号
		長さ	幅	深さ				
SK63	楕円	2.10	1.22	0.46	土師器	SK63>SD65	107	
SK64	不整	1.98		0.37				
SK101	円	3.36	3.30	0.43				
SK105	円	2.68	2.28	0.53	土師器		108	68
SK106	隅丸	1.68	1.44	0.42				
SK107	方	2.13	1.60	0.47				
SK108	不整	2.74	1.68	0.47				
SK109	隅丸	1.40	1.30	0.37	縄文土器			
SK111	長方	3.18	1.74	0.40			108	
SK112	楕円	1.40	0.90	0.43	土師器		108	
SK113	楕円	2.60	1.54	0.55	土師器	SK113<SK121		70
SK115	不整	1.58	1.36	0.27				
SK118	不整	1.60	1.00	0.28	縄文土器	SK118<SK119		
SK119	不整	1.24	1.14	0.21		SK119>SK118		
SK120	不整	2.26	1.40	0.32	土師器，縄文土器		108	
SK122	不整	1.54	1.10	0.28				
SK123	円	1.00	0.90	0.46				67
SK124	不整	1.16	0.98	0.45	土師器		108	67
SK125	不整	1.85	0.76	0.30	土師器		108	
SK126	不整	2.00	1.30	0.17				
SK127	不整	1.46	0.98	0.19				67
SK129	不整	2.30	1.32	0.53				
SK130	不整	2.10	1.74	0.30			109	
SK132	不整	1.68	0.90	0.15				
SK134	不整	1.44	0.67	0.23				
SK136	不整	3.04	1.56	0.20		SK136>SK137		
SK137	長方	3.10		0.22		SK137<SK136・SD131		
SK138	円	1.38	1.28	0.23		SK138<SK104		
SK140	不整	4.60	3.60	0.48	土師器		109	
SK142	不整	3.88	1.52	0.57	土師器		110	
SX143	不整	3.96	3.24	0.44	縄文土器，土師器			
SX144	不整	3.76	1.14	0.47	土師器		110	
SK145	不整	1.72	1.60	0.56				
SK146	円	3.26	1.80	0.45				
SK147	不整	1.67	1.36	0.47				
SK148	不整	1.44	1.42	0.49	土師器		109	67
SK152	円	1.66	1.84	0.61	土師器		110	67,69
SK153	不整	1.70	1.60	0.39				
SK156	楕円	1.87	1.80	0.35				
SX161	不整	2.80	2.44	0.48	土師器		94	68
SK162	不整	1.66	1.40	0.54	打製石斧	SK162>SK163		
SK163	不整	2.20	1.12	0.62	不明土器	SK163<SK162		
SK164	不整	1.38	1.04	0.53				
SK165	不整	1.54	1.00	0.64	土師器		110	68,70
SK166	不整	2.06	1.07	0.31				
SK167	不整	3.72	2.48	0.67	縄文土器，土師器		111	
SK169	不整	2.18	0.80	0.34				
SK170	不整	1.02	0.88	0.56	土師器		110	68
SK181	不整	0.90	0.46	0.34				
SK182	円	1.00	0.96	0.51	土師器		111	
SK183	不整	1.32	0.98	0.32				
SK185	円	1.92	1.92	0.68	土師器		111	
SK186	不整	2.04	1.36	0.59	土師器，鍬？		111	
SK187	不整	4.10		0.33				
SK189	不整	3.28	2.54	0.48	土師器			
SK190	円	1.64	1.26	0.31			111	
SK191	不整	1.90	0.80	0.60	土師器			
SK202	円	2.54	1.90	0.33				
SK203	円	1.60	1.42	0.11	土師器			
SK204	楕円	1.66	1.60	0.26	土師器			
SK286	不整	3.00		0.34				
SK293	不整	2.20	0.70	0.33				

第18表　黒河中老田遺跡古代土坑一覧

遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	備考	挿図番号	図版番号
		長さ	幅	深さ				
SK104	楕円	0.58		0.16		SK104<SD131	119	
SK110	円	0.26	0.24	0.10				
SK114	円	0.50	0.50	0.24				
SK116	楕円	0.60	0.30	0.21		SK116<SK117,SK116>SX160		
SK117	楕円	0.30	0.26	0.21		SK117>SK116		
SK121	楕円	0.69	0.40	0.15		SK121>SK113		
SK133	楕円	0.34	0.20	0.09				
SK135	円	0.60	0.56	0.14				
SX168	不整	3.04	2.64	0.39	土師器	SX168<SE304	121	
SK180	不整	3.36	1.88	0.69	縄文土器，須恵器，土師器，叩き板，掘り棒		121	68,72
SK193	不整	3.50		0.23	土師器，須恵器，円面硯，敲石，鉄滓	SK193<SD131	119	
SK212	円	0.38	0.28	0.14			124	
SK215	不整	4.04	1.58	0.71			124	
SK216	楕円	0.44	0.36	0.14				
SK220	円	0.56		0.23	柱根	SK220<SK309	124	
SK224	楕円	0.69	0.34	0.32			124	
SK225	円	0.42	0.42	0.12	土師器			
SK227	楕円	0.80	0.42	0.23	土師器		124	
SK234	円	0.48	0.33	0.36				
SK235	不整	0.37	0.20	0.17	土師器			
SK236	不整	3.78	1.00	0.26				
SK237	円	0.36	0.36	0.42				
SK239	円	0.50	0.50	0.24	縄文土器，土師器		124	
SK240	不整	1.06	0.60	0.07	土師器，須恵器		124	
SK241	不整	2.96		0.40	土師器，須恵器，珠洲		125	
SK242	不整	0.86	0.43	0.24	土師器		124	
SK245	不整	0.56	0.26	0.38			124	
SK247	楕円	0.46	0.23	0.15			124	
SK249	円	0.48	0.48	0.30			124	
SK254	不整	1.94	1.54	0.28	縄文土器，土師器，須恵器	SK254<SK308·288,SK254>SK289		
SK260	円	0.18	0.18	0.07	砥石		125	
SK261	楕円	0.55	0.35	0.27			125	
SK262	円	0.30	0.30	0.32			125	
SK263	楕円	0.62	0.49	0.19			125	
SK264	不整	0.88	0.82	0.79	土師器，須恵器，板材	井戸か？	125	72
SK268	楕円	0.30	0.24	0.15				
SK270	楕円	0.91	0.48	0.20	土師器		125	
SK271	円	0.40	0.35	0.36			125	
SK275	不整	0.62	0.44	0.36			125	
SK276	楕円	0.64	0.47	0.17			126	
SK280	楕円	0.50	0.25	0.13			126	
SK282	不整	2.72	1.28	0.57	土師器		125	
SK284	不整	0.38	0.28	0.11				
SK285	不整	0.38	0.23	0.09				
SK287	楕円	1.40	0.46	0.33			126	
SK289	不整	2.74	1.00	0.23		SK289>SK254		
SK292	円	0.36	0.25	0.24				
SK294	不整	2.82		0.17				
SK295	不整	0.70	0.42	0.23				68
SK296	不整	2.10	1.60	0.69	土師器，須恵器		126	68
SK298	円	0.44	0.36	0.30	柱根	SK298>SK299	126	70
SK299	不整	1.96	1.00	0.26		SK299<SP298		
SK300	円	0.30	0.26	0.15			126	
SK301	楕円	0.50	0.35	0.36			126	
SK302	楕円	0.50	0.31	0.12			126	
SK303	円	0.28	0.28	0.12			126	
SK306	不整	1.62	0.82	0.58	須恵器			
SK309	不整	2.42	0.96	0.45		SK309>SK220	124	

第19表　黒河中老田遺跡古墳時代土器一覧（1）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	器種	法量（cm）				胎土	色調（記号）	調整						煤		時期	備考
							口径	器高	胴径	底径		色調（和名）	外口頸	外胴上	外胴下	内口頸	内胴上	内胴下	外	内		
92	1	76	SD65		土師	甕B2c	20.6	34.0	28.3	4.9	やや粗	10YR7/3 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ケズリ	ハケ→ケズリ、ナデ	ナデ	ヘラナデ、接合痕	ハケ、不明瞭	○	○	古墳前	
	2	82	SD65		土師	壺A	13.2	23.9	21.0	5.7	やや粗	10YR7/3 にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ	ケズリ→ハケ、ケズリ	ハケ→ナデ、指おさえ	ハケ→ヘラナデ、接合痕	ハケ、指おさえ、接合痕			古墳前	試掘出土と接合
	3		SD65		土師	甕 b		(20.4)	33.1	5.8	やや粗	10YR6/2 灰黄褐色		ハケ	ハケ、ナデ、接合痕		ヘラナデ	ハケ→ヘラナデ、接合痕	○		古墳前	
	4		SD65	X239Y95	土師	甕B2d	16.2	(13.2)	23.5		粗	10YR6/2 灰黄褐色	ヘラナデ	ハケ→ナデ		ヘラナデ、ハケ、接合痕	ハケ、指おさえ、接合痕		○		古墳前	
	5	78	SD65	X245Y97	土師	甕D	17.2	(19.7)	24.1		粗	10YR6/2 灰黄褐色	ナデ	タタキ→ケズリ	ケズリ、一部ハケ	ナデ、指おさえ、接合痕	ハケ、接合痕	ハケ→ナデ、指おさえ、接合痕	○		古墳前	タタキ
	6	80	SD65 (SK54,55)		土師	甕D	22.1	(18.4)	23.5		やや粗	10YR6/3 にぶい黄橙色	ナデ、接合痕	タタキ→ケズリ	ケズリ	ナデ、指おさえ、接合痕	ヘラナデ、指おさえ	ヘラナデ	○		古墳前	タタキ
	7	78	SD65	KKJ3区18T	土師	甕Cb	17.4	24.5	20.1		やや粗	10YR7/4 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ、不明瞭	ハケ	ナデ	ケズリ	ケズリ、指おさえ	○	○	古墳前	試掘出土
	8	78	SD65	KKJ3区18T	土師	甕Cb	15.8	21.6	19.7		やや粗	10YR7/3 にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ	ハケ、ナデ	ナデ	ケズリ	指おさえ	○	○	古墳前	試掘出土
93	9		SD102	X250Y102	土師	甕B1b	18.0	(9.1)			粗	10YR7/3 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ		ナデ、ハケ→ケズリ	ケズリ		○		古墳前	
	10	82	SD103		土師	壺B	13.7	26.8	22.9		粗	10YR7/4 にぶい黄橙色	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ミガキ、ケズリ→ナデ	ミガキ	ナデ、接合痕	ケズリ→ナデ			古墳前	赤彩2.5YR4/8赤褐色
	11		SD103	X251Y99	土師	甕B2c	15.6	(14.8)	19.8		粗	7.5YR6/3 にぶい褐色	ナデ	ヘラナデ	ハケ	ヘラナデ	ナデ、指おさえ、接合痕	ナデ、指おさえ、接合痕	○		古墳前	
	12		SD103		土師	甕Ab	18.2	(17.5)	21.4		粗	2.5Y7/3 浅黄色	ナデ	ハケ	ハケ	ナデ	ヘラナデ、接合痕	ヘラナデ	○		古墳前	
	13		SX160	X260Y105	土師	甕 a		(20.5)	23.1		やや粗	10YR7/3 にぶい黄橙色		ハケ	ハケ		ハケ	ハケ、コゲの為不明瞭	○	○	古墳前	
	14	81	SX160	X252Y102	土師	甕 a		(12.5)		5.0	粗	10YR7/2 にぶい黄橙色			ハケ			ハケ、ナデ			古墳前	
	15		SX160	KNOD3区1T	土師	甕 b		(22.6)	22.2	2.4	粗	10YR6/2 灰黄褐色		ハケ	ハケ→ナデ、一部ケズリ		ナデ、指おさえ	ナデ、指おさえ、ハケ、接合痕	○	○	古墳前	試掘出土
	16		SX160	KNOD3区1T	土師	甕 d		(23.1)	24.3		やや粗	10YR7/3 にぶい黄橙色		ケズリ	ケズリ		ハケ→ナデ	ハケ→ヘラナデ、ハケ、接合痕	○	○	古墳前	試掘出土
	17		SX160	X261Y103	土師	甕 c		(20.4)	24.1	3.4	粗	10YR6/4 にぶい黄橙色		ケズリ	ケズリ		ヘラナデ、接合痕	ヘラナデ、接合痕	○	○	古墳前	
95	18	77	SX160	X260Y104～105	土師	甕B2b	18.1	27.4	22.1	2.7	粗	10YR6/3 にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ	ハケ、ナデ	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	ハケ→ヘラナデ、接合痕	○	○	古墳前	
	19		SX160	KNOD3区2T	土師	甕B2b	18.1	(22.5)		4.8	やや粗	10YR6/2 灰黄褐色	ナデ	ハケ	ハケ	ハケ→ナデ、接合痕	ナデ、接合痕	ハケ？	○	○	古墳前	試掘出土
	20	77	SX160	KNOD3区2T	土師	甕B2a	15.4	(18.6)	21.3		やや粗	10YR6/3 にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ	ハケ、一部ケズリ	ナデ、接合痕	ハケ	ハケ→ヘラナデ	○	○	古墳前	試掘出土
	21		SX160	X257Y101	土師	甕B2b	17.3	(21.4)	25.7		やや粗	10YR7/4 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ	ハケ→ケズリ	ナデ	ナデ、指おさえ、接合痕	ナデ、接合痕	○		古墳前	
	22		SX160	X260Y102	土師	甕B2a	23.4	(19.1)			やや粗	2.5Y7/4 浅黄色	ナデ	ハケ		ナデ	ハケ		○		古墳前	
	23		SX160	X260Y102	土師	甕B2b	18.2	(15.4)	24.2		やや密	10YR7/4 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ、接合痕	ハケ、接合痕	ナデ、指おさえ、接合痕	ケズリ	ケズリ？接合痕	○	○	古墳前	
	24		SX160	X252Y100	土師	甕B2c	18.4	(9.8)			やや粗	10YR7/2 にぶい黄橙色	ハケ→ナデ			ナデ、接合痕					古墳前	
	25	77	SX160	X260Y105	土師	甕B2c	15.3	25.8	20.2		密	7.5YR8/3 浅黄橙色	ナデ、一部ハケ	ハケ→ヘラ、ナデ	ハケ	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ、接合痕	ケズリ→ハケ	○	○	古墳前	
	26		SX160	X257Y102	土師	甕B2c	16.6	(15.1)	22.7		粗	7.5YR8/4 浅黄橙色	ハケ→ナデ、指おさえ	ケズリ		ハケ、指おさえ	ナデ、指おさえ、接合痕				古墳前	
	27		SX160	X250Y97, X253Y101	土師	甕B2c	18.0	(9.2)			粗	10YR7/4 にぶい黄橙色	ナデ、ハケ→指おさえ	ケズリ		ナデ	ヘラナデ、接合痕				古墳前	
96	28	75	SX160	X264Y106	土師	甕B1a	17.0	24.2	22.4	3.3	密	10YR7/4 にぶい黄橙色	ハケ、口唇部キザミ？	ヨコハケ	ハケ	ハケ	ハケ→ナデ、指おさえ	ハケ→ナデ	○	○	古墳前	
	29	75	SX160		土師	甕B1b	17.5	22.5	20.8	3.3	やや密	2.5Y5/2 暗灰黄色	ナデ	ハケ	ハケ	ナデ、ハケ、接合痕	ケズリ	ケズリ、ハケ	○	○	古墳前	
	30	75	SX160		土師	甕B1b	17.6	(23.4)	21.2		やや粗	10YR6/2 灰黄褐色	ナデ	ハケ	ハケ	ナデ、ハケ	ハケ→ケズリ	ケズリ	○	○	古墳前	

第19表　黒河中老田遺跡古墳時代土器一覧（2）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	器種	法量（cm）				胎土	色調（記号）	調整						煤		時期	備考
							口径	器高	胴径	底径		色調（和名）	外口頸	外胴上	外胴下	内口頸	内胴上	内胴下	外	内		
96	31		SX160	X255Y104	土師	甕B1b	18.6	(13.8)			やや密	10YR7/4 にぶい黄橙色	スス	ハケ	ハケ	ナデ	ケズリ	ケズリ	○		古墳前	
	32	75	SX160		土師	甕B1c	16.7	29.2	25.0	3.8	粗	10YR7/3 にぶい黄橙色	ナデ	ナデ、接合痕	ハケ、ケズリ→ ナデ、接合痕	ナデ	ハケ→ナデ、 接合痕	ハケ	○	○	古墳前	
	33	75	SX160	X250Y99	土師	甕B1b	17.0	25.2	23.3	3.3	粗	10YR6/4 にぶい黄橙色	ハケ→ナデ、 指おさえ	ヨコハケ	ハケ	ナデ	ヘラナデ、接合痕	ヘラナデ	○	○	古墳前	
	34		SX160	X262Y104	土師	甕B1a	18.0	(11.5)	21.6		やや粗	10YR7/3～6/3 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ、指おさえ、 接合痕		ヘラナデ	ハケ→ナデ、 接合痕				古墳前	
	35		SX160	X267Y105	土師	甕B1b	15.2	(9.4)	19.0		やや密	10YR5/2 灰黄褐色	ナデ、ハケ	ハケ→ナデ		ナデ、ケズリ	ケズリ				古墳前	
	36		SX160	X262Y106	土師	甕B2b	17.0	(9.4)	23.8		やや密	10YR8/4 浅黄橙色	ナデ	ハケ		ナデ、接合痕	ケズリ		○		古墳前	
97	37	73	SX160		土師	甕Aa	15.6	25.0	21.3	2.6	やや密	10YR6/2 灰黄褐色	ハケ→ナデ	ハケ	ハケ	ハケ→ナデ、 接合痕	ナデ→ハケ、 接合痕	ナデ	○	○	古墳前	指おさえで底部形成（平底ふう）、受口状
	38	73	SX160	X253Y103	土師	甕Aa	17.8	24.5	23.4	2.7	やや粗	10YR5/3 にぶい黄褐色	ナデ	ヨコハケ	ハケ	ナデ	ハケ	ヘラナデ、不明瞭	○	○	古墳前	
	39	73	SX160	X262Y104	土師	甕Aa	17.6	25.4	22.5	3.2	やや粗	2.5Y8/3 淡黄色	ナデ、ハケ	ハケ	ハケ、ケズリ	ナデ、ハケ	ハケ、指おさえ	ハケ	○	○	古墳前	
	40		SX160	X257Y105	土師	甕Ab	15.0	(12.3)	20.0		やや密	2.5Y7/3 浅黄色	擬凹線4条	ハケ		ナデ、接合痕	ケズリ		○		古墳前	
	41	73	SX160	X262Y104	土師	甕Ab	15.3	19.0	17.5	4.0	やや密	2.5Y8/3 淡黄色	ナデ	ハケ	ハケ→ケズリ	ナデ	ナデ	ナデ、指おさえ	○		古墳前	
	42	74	SX160	KNOD3区1T	土師	甕Ab	18.4	(13.9)	20.9		密	10YR8/4 浅黄橙色	ナデ	ハケ、指おさえ		ナデ、接合痕	ヘラナデ、指おさえ、接合痕		○		古墳前	試掘出土
	43	74	SX160	X265Y105	土師	甕Ab	13.3	16.3	14.0	3.4	やや粗	2.5Y6/3 にぶい黄色	ナデ	ヨコハケ	ハケ	ハケ→ナデ	ナデ	ナデ	○	○	古墳前	
	44		SX160	X261Y106	土師	甕Ae	16.6	(4.6)			粗	10YR7/3 にぶい黄橙色	ナデ、ハケ			ナデ			○		古墳前	
	45		SX160	X262Y102	土師	甕Aa	16.8	(9.1)			粗	10YR7/2 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ		ナデ、接合痕	ハケ→ヘラナデ、 接合痕		○		古墳前	
	46	82	SX160		土師	甕Fa	12.9	14.1	14.0		やや粗	2.5Y7/3 浅黄色	ハケ→ナデ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ、接合痕	ハケ、ナデ	○		古墳前	
	47	82	SX160	X249Y95	土師	甕Fc	14.4	12.5	14.4	2.3	粗	10YR8/2 灰白色	ナデ	ケズリ	ケズリ→ミガキ	ナデ、接合痕	ヘラ、ナデ	ヘラナデ	○		古墳前	
98	48	82	SX160	X253Y103	土師	壺B	15.4	(30.0)	23.6	6.8	密	10YR7/3 にぶい黄橙色	ナデ、ミガキ、 指おさえ	ミガキ	ミガキ、ケズリ →ナデ	ナデ、ケズリ、 接合痕	ヘラナデ	ナデ			古墳前	
	49	81	SX160	X270Y108	土師	甕B1a	20.0	(10.4)			やや密	10YR7/2 にぶい黄橙色	ナデ、接合痕	ハケ		ナデ	ハケ→ナデ？ （ケズリ）				古墳前	
	50		SX160	X267Y107, X269Y108	土師	甕B1b	17.8	(17.5)	23.4		やや密	2.5Y7/3 浅黄色	ナデ	ハケ	ハケ	ナデ、接合痕	ハケ→ナデ	ナデ、一部ケズリ	○		古墳前	
	51		SX160	X260Y103	土師	甕B1e	19.6	(6.2)			粗	10YR7/3 にぶい黄橙色	ナデ			ナデ、接合痕					古墳前	
	52	81	SX160	X265Y107	土師	甕Eb	14.0	(11.1)	22.4		粗	2.5Y8/4 淡黄色	ナデ	ハケ （タテ→一部ヨコ）		ナデ	ケズリ		○		古墳前	山陰系　肩部に刻み目
	53		SX160	X253Y100	土師	甕Cb	18.0	(5.3)			粗	10YR8/4 浅黄橙色	ナデ			ナデ、ケズリ					古墳前	
	54	78	SK152		土師	甕Cb	17.3	22.7	27.0		やや密	10YR8/4 浅黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ヨコハケ	ハケ	ナデ	ケズリ	ケズリ、指おさえ	○		古墳前	
	55		SX160		土師	甕Cb	17.8	(24.1)	21.8		粗	10YR6/2 灰黄褐色	ナデ	ハケ→ヨコハケ	ハケ	ナデ	ケズリ	ケズリ、指おさえ	○	○	古墳前	
	56	78	SX160	X252Y100	土師	甕Cb	20.0	(15.8)	23.5		やや密	10YR7/4 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ヨコハケ	ハケ	ナデ	ケズリ	ケズリ	○		古墳前	
	57	79	SX160	X257Y103, X258Y104	土師	甕Cb	19.0	(11.0)	22.0		粗	10YR7/4 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ヨコハケ		ナデ	ケズリ				古墳前	
	58	79	SX160	X260Y106	土師	甕Cb		(13.4)	20.4		粗	7.5YR7/6 橙色	ナデ？	ハケ→ナデ、 ヨコハケ	ハケ	ナデ	ケズリ	ケズリ、指おさえ	○		古墳前	
99	59	82	SX160	X253Y104, X258Y103	土師	壺A	16.8	27.4	22.9	6.0	密	10YR7/3 にぶい黄橙色	ナデ	ナデ→ハケ	ナデ→ハケ、 ケズリか	ナデ	ナデ、接合痕	ナデ、指おさえ	○	○	古墳前	
	60		SX160	X262Y104	土師	甕Cb	17.0	(20.2)	21.0		やや密	10YR8/4 浅黄橙色	ナデ	ヨコハケ	ハケ	ナデ	ケズリ	ケズリ、指おさえ	○		古墳前	

第19表　黒河中老田遺跡古墳時代土器一覧（3）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	器種	法量（cm）				胎土	色調(記号)	調整						煤		時期	備考
							口径	器高	胴径	底径		色調(和名)	外口頸	外胴上	外胴下	内口頸	内胴上	内胴下	外	内		
99	*61*		SX160	X250Y97	土師	甕B2b	18.2	(13.8)	22.9		粗	10YR7/3 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ		ナデ	ナデ、接合痕		○		古墳前	
	62		SX160	X260Y105	土師	甕B2b	20.0	(16.7)	24.7		粗	10YR6/2 灰黄褐色	ハケ→ナデ	ハケ、不明瞭		ハケ	ヘラナデ、接合痕		○		古墳前	
	63		SX160	X257Y105	土師	甕B2b	18.0	(15.4)	21.6		密	10YR6/2 灰黄褐色	ナデ、ハケ→ ナデ	ハケ（不明瞭）		ナデ	ヘラナデ		○		古墳前	
	64		SX160	X249Y97	土師	甕B2d	15.4	20.0	17.3		粗	2.5Y7/3 浅黄色	ナデ	ケズリ	ケズリ	ハケ	ハケ	ナデ→一部ハケ、 接合痕			古墳前	
	65	75	SK140		土師	甕B1a	19.6	30.5	25.8	5.1	やや粗	10YR6/2 灰黄褐色	ナデ、接合痕	ケズリ	ハケ、ケズリ	ハケ	ハケ、接合痕	ハケ→ナデ、接合 痕、一部ケズリ	○	○	古墳前	
	66	76	SK140		土師	甕B2b	17.8	26.9	23.2	1.6	やや粗	7.5YR7/3 にぶい橙色	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ、ナデ、 接合痕	ナデ	○	○	古墳前	
	67		SK203		土師	甕 a		(10.0)		2.9	やや粗	10YR6/2 灰黄褐色			ハケ			ハケ、接合痕	○	○	古墳前	
100	*68*	76	SK113		土師	甕B2b	18.2	24.5	24.3	3.2	やや粗	10YR5/2 灰黄褐色	ナデ	ハケ	ハケ、ナデ、 ケズリ	ナデ、接合痕	ナデ、一部ケズリ、 接合痕	ナデ、指おさえ、 接合痕	○	○	古墳前	
	69	76	SK113		土師	甕B2b	15.3	24.6	21.9	5.2	やや粗	10YR8/4 浅黄橙色	ハケ	ハケ	ハケ→ケズリ	ハケ、ナデ	ヘラナデ、接合痕	ケズリ	○	○	古墳前	
	70	79	SK120	X254Y100	土師	甕Cb	19.8	(7.7)			粗	7.5YR8/6 浅黄橙色	ナデ、ハケ→ ナデ	ハケ→ヨコハケ	ハケ	ナデ	ケズリ	ケズリ、指おさえ	○		古墳前	胴部破片あり
	71	79	SK125	X255Y103	土師	甕Cb	18.6	(8.4)			粗	10YR8/4 浅黄橙色	ナデ	ハケ→ヨコハケ		ナデ、指おさえ	ケズリ		○		古墳前	
	72		SK125		土師	甕B2c	18.5	(13.5)	23.7		粗	10YR7/3 にぶい黄橙色	棒ナデ	ケズリ		ハケ→ナデ	ケズリ		○		古墳前	
	73	81	SX161	X269Y107	土師	甕Eb	11.4	(19.6)	20.9		粗	7.5YR7/3 にぶい橙色	ナデ	ハケ→ヨコハケ、 ナデ	ハケ、ナデ	ナデ、指おさえ	ケズリ	ケズリ、ナデ	○		古墳前	山陰系
	74		SX161		土師	甕B2b	15.8	(13.1)	21.4		粗	10YR5/1～4/1 褐灰色	ナデ	ハケ		ナデ	ナデ		○		古墳前	
	75		SX161	X269Y107	土師	甕 c		(13.9)	19.6	3.0	粗	10YR6/3 にぶい黄橙色			ケズリ→ナデ			ナデ、接合痕	○	○	古墳前	
	76		SX161		土師	甕 d		(12.0)	23.1	5.9	密	10YR6/2 灰黄褐色			ハケ→ナデ			ハケ			古墳前	
	77		SK204	X240Y90	土師	甕B2b	18.0	26.2	23.5	2.6	粗	10YR6/3 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ	ハケ、ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	○	○	古墳前	
112	*78*		SK1		土師	甕B1b	19.2	(13.9)	18.4		やや粗	10YR7/3 にぶい黄橙色	ナデ	ナデ、ハケ、指 おさえ、接合痕		ナデ	ヘラナデ		○		古墳前	
	79		SK4		土師	甕B2c	15.9	(11.3)	19.0		粗	10YR8/4～7/4 浅黄橙色	ナデ、指おさえ	ケズリ		ハケ	ナデ、指おさえ、 接合痕				古墳前	
	80		SK4		土師	甕B1a	18.6	(17.3)	22.8		やや粗	10YR7/2～7/3 にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ、一部ナデ		ナデ、指おさえ	ハケ、ヘラナデ		○		古墳前	
	81	74	SK4		土師	甕Aa	15.0	(15.6)	28.2		粗	10YR7/3～7/4 にぶい黄橙色	ナデ、ハケ	ナデ		ハケ	ハケ		○		古墳前	
	82	78	SK6		土師	甕D	16.3	(16.4)	22.6		粗	10YR8/4～7/4 にぶい黄橙色	タタキ	タタキ→ケズリ	ケズリ	ナデ	ヘラナデ、ケズリ	ケズリ	○		古墳前	タタキ
	83		SK10		土師	甕B2c	23.0	(19.6)	24.7		粗	10YR5/3 にぶい黄褐色	ハケ	ケズリ	不明瞭	ハケ	ナデ、指おさえ、 接合痕	ハケ→ナデ	○		古墳前	
	84	73	SK10		土師	甕Ab	19.0	24.3	21.9		密	10YR6/2 灰黄褐色	ナデ、ハケ→ ナデ	ハケ	ハケ	ナデ、接合痕	ヘラナデ、工具痕	ケズリ→ナデ、 接合痕	○	○	古墳前	受口状
	85		SK14		土師	甕B2a	17.0	(13.0)	22.9		粗	10YR7/4 にぶい黄橙色	ハケ	ハケ	ハケ？	ナデ、接合痕	ハケ	ナデ？	○		古墳前	
	86	76	SK21		土師	甕B2c	15.8	24.6	22.2	2.7	やや粗	10YR8/4 浅黄橙色	ナデ	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	ナデ、指おさえ	ナデ	ナデ、ハケ、 接合痕	○	○	古墳前	
	87		SK24	X237Y92	土師	甕B2c	18.0	(13.2)	24.6		粗	10YR7/3～7/4 にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ナデ、 一部ケズリ		ナデ	ナデ、指おさえ、 接合痕		○		古墳前	
113	*88*		SK28		土師	甕B2c	17.6	(11.3)	24.0		粗	10YR7/4 にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ケズリ		ハケ、ナデ、 指おさえ	ヘラナデ、指おさ え、接合痕		○		古墳前	
	89		SK34		土師	甕B2a	19.0	(27.5)	24.6		密	10YR7/3 にぶい黄橙色	ナデ、ハケ	ハケ→ケズリ	ケズリ	ハケ、接合痕	ハケ→ナデ、指お さえ、接合痕	ハケ、ナデ、 接合痕	○	○	古墳前	
	90		SK34		土師	甕B1a	18.6	(11.9)	22.2		やや粗	10YR7/4 にぶい黄橙色	ナデ、ハケ→ ナデ	ハケ		ナデ	ハケ、一部ナデ		○		古墳前	

第19表　黒河中老田遺跡古墳時代土器一覧（４）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	器種	法量（cm）				胎土	色調（記号）	調整						煤		時期	備考
							口径	器高	胴径	底径		色調（和名）	外口頸	外胴上	外胴下	内口頸	内胴上	内胴下	外	内		
113	*91*	79	SK36		土師	甕Cb	16.0	(13.1)	22.1		密	10YR7/2 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ→ヨコハケ		ナデ	ケズリ		○		古墳前	
	92	79	SK36		土師	甕Cb	19.0	(10.9)	22.0		やや粗	10YR7/3 にぶい黄橙色	ナデ	ナデ、ハケ		ナデ	ケズリ		○		古墳前	
	93		SK36・37		土師	甕B2b	18.1	(23.6)	23.6		密	10YR6/2 灰黄褐色	ナデ	ハケ	ハケ	ナデ	ケズリ→ナデ、接合痕	ハケ	○	○	古墳前	
	94	77	SK33		土師	甕B2b	17.4	25.8	21.4	2.8	やや粗	7.5YR6/6 橙色	ハケ→ナデ	ハケ→ケズリ	ハケ、ナデ	ナデ	ヘラナデ	ヘラナデ、ハケ	○	○	古墳前	
	95		SK38		土師	甕 a		(21.6)	21.6	3.2	やや粗	10YR6/1 褐灰色		ナデ、ハケ	ハケ		ハケ、接合痕	ナデ、ハケ、指おさえ、接合痕	○	○	古墳前	
	96	77	SK41		土師	甕B2d	15.6	(27.0)	26.8		粗	7.5YR7/4 にぶい橙色	ナデ	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	ナデ	ハケ	ハケ、接合痕	○	○	古墳前	
114	*97*		SK42		土師	甕B2a	16.6	(10.1)	20.4		やや粗	10YR6/3 にぶい黄橙色	ハケ→ナデ	ハケ、 一部ケズリ		ナデ、指おさえ	ハケ→ナデ		○		古墳前	
	98		SK45		土師	甕B2c	17.2	(10.9)	17.2		粗	10YR8/4 浅黄橙色	ナデ、接合痕	ケズリ		ハケ	棒ナデ		○		古墳前	
	99	80	SK44・45		土師	甕B2b	16.0	23.7	21.4	2.7	やや密	2.5Y7/3 浅黄色	ナデ	ケズリ→ハケ	ケズリ→ハケ	ナデ	ケズリ、接合痕	ケズリ、ハケ、指おさえ	○	○	古墳前	
	100		SK51		土師	甕B2e	16.2	(6.2)			密	2.5Y7/3 浅黄色	ナデ	ハケ		ハケ→ナデ	ナデ、接合痕		○		古墳前	
	101		SK52		土師	甕B2b	16.1	25.6	20.5	3.3	やや粗	10YR7/4～6/4 にぶい黄橙色	ナデ、ハケ→ナデ	ハケ	ハケ、ケズリ、ナデ	ナデ、接合痕	ヘラナデ	ハケ→ナデ、接合痕	○	○	古墳前	
	102		SK54		土師	甕B1b	19.2	(22.4)	21.7		やや粗	10YR7/3 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ	ハケ	ナデ	ハケ、ナデ	ナデ	○	○	古墳前	
	103		SK55		土師	甕B2b		(24.4)	23.0	2.6	やや粗	10YR7/3 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ	ハケ→ナデ、ケズリ	ナデ、接合痕	ナデ	ハケ→ナデ	○		古墳前	
	104		SK63		土師	甕B2e	29.7	(6.2)			やや密	10YR7/4 にぶい黄橙色	ハケ→ヨコナデ			ナデ	ハケ？		○	○	古墳前	
	105		SK40		土師	甕B1a	19.8	(27.2)	24.9		やや粗	10YR7/3 にぶい黄橙色	ハケ、ナデ、 一部ケズリ	ハケ	ハケ	ハケ	ハケ、一部ハケ→ナデ	ハケ	○	○	古墳前	
	106		SK112		土師	甕B2b	15.6	(14.9)	25.0		密	10YR6/2 灰黄褐色	ナデ、接合痕	ハケ		ハケ	ヘラナデ、接合痕				古墳前	
115	*107*	76	SK105		土師	甕B2c	17.9	26.2	23.4		やや粗	10YR7/4 にぶい黄橙色	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ハケ→ナデ	○	○	古墳前	
	108	77	SK142		土師	甕B2c	15.3	21.2	21.2		粗	2.5Y7/3 浅黄色	ハケ→ナデ、 指おさえ	ハケ→ケズリ	ケズリ	ハケ→ケズリ、 指おさえ	ハケ→ケズリ	ケズリ、ナデ、 指おさえ	○		古墳前	
	109		SX144		土師	甕B1a	19.2	(13.5)	22.1		粗	10YR6/2 灰黄褐色	ナデ	ハケ		ハケ	ハケ、接合痕		○		古墳前	
	110	81	SK165		土師	甕Eb	20.0	(20.9)	24.8		やや密	10YR6/3 にぶい黄橙色	ナデ	ハケ	ハケ	ナデ、ハケ、 接合痕	ケズリ→ナデ、 指おさえ	ケズリ→ナデ、 指おさえ	○	○	古墳前	山陰系 口縁内面二段ナデ
	111		SK170		土師	甕B2b	15.0	(9.0)	20.6		粗	10YR6/2 灰黄褐色	ハケ、指おさえ	ハケ		ナデ、指おさえ	ナデ、指おさえ、 ケズリ				古墳前	
	112		SK186		土師	甕B1c	18.0	(8.5)	23.1		やや粗	10YR6/2 灰黄褐色	ナデ	ハケ、不明瞭		ナデ	ヘラナデ		○		古墳前	
	113		SK186		土師	甕B1a	17.0	(24.9)	21.3		粗	10YR6/2 灰黄褐色	ナデ	ハケ、ナデ	ナデ、ハケ	ナデ、接合痕	ハケ、接合痕	ハケ→ケズリ	○	○	古墳前	
	114			X240Y94 I	土師	甕B1a	21.6	(16.8)	27.3		粗	10YR7/4 にぶい黄橙色	ハケ	ハケ		ハケ、ナデ	ハケ、接合痕		○		古墳前	
	115			X234Y89 I	土師	甕B2a	19.8	(5.1)			粗	10YR7/4 にぶい黄橙色	ハケ	ハケ、 一部ケズリ		ハケ、接合痕	ナデ、接合痕		○		古墳前	
	116			X241Y87 I	土師	甕 c		(22.9)	24.5	12.4	粗	10YR7/3 にぶい黄橙色		ケズリ	ケズリ		ナデ、指おさえ、 接合痕	ナデ、ハケ	○	○	古墳前	

※法量・器高欄の（　）付数値は現存高を計測したものを示す。
煤は外面及び内面に煤又はコゲが付着しているものを「○」で示す。

第20表　黒河中老田遺跡土器・土製品一覧（1）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	器種	法量(cm)				色調(記号)	色調(和名)	時期	詳細時期	備考
							口径	器高	底径	高台径					
120	136	88	SD131	X266Y97+X265Y98　I	須恵器	杯B	18.2	7.6		9.4	2.5Y6/1	黄灰色		8C第4	
	137	88	SD131	X274Y96	須恵器	杯B		(1.9)		7.0	2.5Y7/1	灰白色		8C第4	
	138	88	SD131	X274Y96	須恵器	杯B		(2.9)		7.0	N5/	灰色		8C第4	
	139	88	SD131	X275Y96	須恵器	杯	12.2	(4.0)			2.5Y6/1	黄灰色		8C第4	
	140		SD131	X253Y93	須恵器	短頸壺?		(6.0)			2.5Y5/1	黄灰色		8C第4	
	141		SD131	X272Y97	須恵器	高杯	20.7	(3.3)			2.5Y5/1	黄灰色		8C第4	
	142	88	SK193		須恵器	杯A	11.8	3.4	8.0		10YR7/2	にぶい黄橙色		8C第4	
	143	88	SK193		須恵器	杯A	12.6	3.2	8.2		2.5Y8/1	灰白色		8C第4	
	144		SK193		須恵器	杯A	12.8	3.6	9.0		5Y6/1	灰色		8C第4	
	145		SK193		須恵器	杯A	12.2	2.8	8.6		5Y7/1	灰白色		8C第4	
	146	84	SK193		須恵器	杯A	11.7	3.2	6.2		7.5Y6/1	灰色		8C第3	ヘラ記号
	147		SK193		須恵器	杯B	12.5	4.8		7.2	5Y6/1	灰色		8C第4	
	148		SK193		須恵器	杯B	12.0	3.7		7.6	2.5Y6/1	黄灰色		8C第4	
	149		SK193		須恵器	杯B	10.6	4.3		6.8	2.5Y6/1	黄灰色		8C第4	
	150		SK193		須恵器	杯B	10.8	3.9		6.0	5Y6/1	灰色		8C第4	
	151		SK193		須恵器	杯B	16.0	6.0		9.1	N6/	灰色		8C第4	
	152	88	SK193		須恵器	杯	15.0	(4.4)			2.5Y6/1	黄灰色		8C第4	
	153	84	SK193		須恵器	杯B	11.1	4.5		7.2	5Y6/1	灰色		8C第4	ヘラ記号、栃檀野窯産か?
	154	84	SK193		須恵器	杯B		(2.0)		6.7	5Y6/1	灰色		8C第4	ヘラ記号
	155		SK193		須恵器	杯蓋	13.2	3.3			5Y5/1	灰色		8C第4	
	156		SK193		須恵器	杯蓋	14.7	(1.9)			5Y6/1	灰色		8C後	
	157		SK193		須恵器	杯蓋	12.8	(1.1)			2.5Y6/1	黄灰色		9C第1	
	158		SK193		須恵器	杯蓋	12.0	(1.4)			5Y5/1	灰色		8C第4	
	159		SK193		須恵器	杯蓋	13.1	(2.2)			10Y5/1	灰色		9C第1	
	160		SK193		須恵器	高杯	18.6	(2.0)			2.5Y8/2	灰白色		8C第4	
	161	89	SK193	X275Y96	須恵器	鉢	24.2	(8.4)			2.5Y8/2	灰白色		8C後	
	162	85	SK193		須恵器	硯		(1.1)			2.5Y5/1	黄灰色		8C代?	円面硯
122	163	83	SE304		須恵器	杯A	12.0	3.1	10.1		N7/	灰白色		8C第4	
	164	83	SE304		須恵器	杯A	12.1	3.8	9.6		5Y6/1	灰色		8C第3	ヘラ記号
	165	88	SE304		須恵器	杯B	11.4	3.8		8.1	7.5YR6/1	褐灰色		8C第3	
	166	83	SE304		土師器	高杯	15.8	7.8	10.0		10YR7/3	にぶい黄橙色		8C第3	赤彩?5YR4/8赤褐色
	167	93	SX168	X271Y101	土師器	鍋	42.4	(13.2)			10YR8/4	浅黄橙色		8C前	非ロクロ
	168	90	SX168	X270Y101	土師器	高杯	22.9	(2.5)			10YR7/3	にぶい黄橙色		8C前	内面螺旋状暗文、赤彩5YR5/6明赤褐色
	169		SK180		須恵器	杯A	12.4	3.6	7.6		2.5Y7/2	灰黄色		8C第2	
	170		SK180		須恵器	杯A	12.8	3.4	7.3		2.5Y7/2	灰黄色		8C第2	
	171	88	SK180		須恵器	杯B	13.0	4.0		10.2	2.5Y6/1	黄灰色		8C第2	転用硯?
	172		SK180		須恵器	杯B		(3.7)		10.4	10YR8/3	浅黄橙色		8C第2	
	173	84	SK180		須恵器	瓶		(4.1)	8.65		2.5Y6/1	黄灰色		8C第2	ヘラ記号
	174		SK180		須恵器	杯蓋	16.5	(1.5)			10BG5/1	青灰色		8C第2	
	175	84	SK180	X270Y105	須恵器	杯蓋	16.6	1.8			5Y6/1	灰色		8C第2	ヘラ記号
	176	93	SK180		須恵器	鉢	11.8	10.0	7.8		2.5Y2/1	黒色		8C第2	
	177	90	SK180		土師器	皿?					10YR7/3	にぶい黄橙色		8C代	内面螺旋状暗文、赤彩5YR5/4にぶい赤褐色
	178	93	SK270		土師器	小甕	13.0	11.2	7.0		10YR6/4	にぶい黄橙色		8C後	
	179	91	SK296		土師器	高杯		(7.7)			5YR7/6	橙色	古墳?		混入品か?
	180		SK296		須恵器	杯蓋		(2.3)			7.5YR6/3	にぶい褐色		8C後	
127	185	88	SK241		須恵器	杯A	11.5	3.5	8.8		5Y6/1	灰色		8C第1	
	186	83	SK264		須恵器	杯B	15.5	3.9		10.6	5Y6/1	灰色		8C第1	
	187	83	SK264		須恵器	杯A	12.4	3.8	8.9		2.5Y7/2	灰黄色		8C第1	
	188	83	SK264		須恵器	杯A	11.9	3.6	8.9		7.5Y5/1	灰色		8C第1	
	189	88	SK306		須恵器	杯A	14.0	(3.5)	7.0		2.5Y7/1	灰白色		8C第3	
	190		SK306		須恵器	杯蓋	14.2	(1.5)			5Y5/1	灰色		8C第3	
	191			X265～266Y105～106　I	須恵器	杯A	12.2	3.4	9.1		10YR7/2	にぶい黄橙色		8C第3	
	192			X270Y98　I	須恵器	杯A	11.4	3.4	8.3		5Y6/1	灰色		8C後	
	193			X277Y96　I	須恵器	杯A	11.0	3.0	6.8		2.5Y8/2	灰白色		8C後	
	194	87		X273～274Y96～97　I	須恵器	杯A	11.4	2.9	7.6		5Y6/1	灰色		8C後	
	195			X279Y98　I	須恵器	杯A	11.0	3.4	7.0		5Y7/1	灰白色		8C後	
	196			X270Y106　I	須恵器	杯A	12.4	3.5	10.0		2.5Y7/2	灰黄色		8C後	
	197	87		X285Y101,X286Y101　I	須恵器	杯A	12.0	3.1	7.4		5Y6/1	灰色		8C後	
	198			X282Y96　I	須恵器	杯A	12.0	3.0	8.8		5Y7/1	灰白色		8C後	
	199	87		X273～274Y96～97　I	須恵器	杯A	11.4	3.1	7.4		5Y7/1	灰白色		8C後	

第20表　黒河中老田遺跡土器・土製品一覧（２）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	器種	法量(cm)				色調(記号)	色調(和名)	時期	詳細時期	備考
							口径	器高	底径	高台径					
127	200	83		X270Y107,X274Y106　I	須恵器	杯A	12.1	3.2	8.6		2.5Y7/1	灰白色		8C後	
	201	87		X286～287Y106　I	須恵器	杯A	11.0	3.2	7.8		2.5Y6/1	黄灰色		8C後	
	202	87		X291Y97　I	須恵器	杯A	11.0	3.2	8.0		10Y5/1	灰色		8C後	
	203	87		X261Y105,X265Y103　I	須恵器	杯A	13.0	3.1	9.5		2.5Y6/1	黄灰色		8C後	
	204	87		X262Y98　I	須恵器	杯A	11.4	3.5	9.0		5Y5/1	灰色		8C後	
	205			X280Y99　I	須恵器	杯A	10.2	3.1	7.8		7.5Y6/1	灰色		8C後	
	206			X276Y98　I	須恵器	杯B	10.3	4.0		6.8	5Y5/1	灰色		9C前	
	207			X272Y96,X273Y95　I	須恵器	杯B	10.6	4.2		7.5	2.5Y7/1	灰白色		8C後	
	208			X271Y100　I	須恵器	杯B	9.8	3.2		6.4	7.5YR6/3	にぶい褐色		8C第3	
	209			X271Y98,X272Y96　I	須恵器	杯B	10.4	3.2		7.8	N7/	灰白色		8C第3	
	210	88		X272Y96,X273Y96　I	須恵器	杯B	10.8	4.1		6.6	7.5Y6/1	灰色		9C第1	
	211	88		X270Y103　I	須恵器	杯B	11.4	3.9		7.8	N6/	灰色		8C前	
	212	83		X287Y101　I	須恵器	杯B	11.8	4.3		8.4	7.5YR6/3	にぶい褐色		8C第3	
	213			X286Y97　I	須恵器	杯B	11.6	3.6		8.6	5Y6/1	灰色		8C後	
	214	88		X282Y101,X284Y102　I	須恵器	杯B	13.2	3.4		8.6	5Y6/1	灰色		8C前	
	215			X295Y103,X300Y101　I	須恵器	杯B	12.2	3.7		7.2	2.5Y7/1	灰白色		8C後	
	216	83		X281Y103　I	須恵器	杯B	12.7	4.2		8.9	2.5Y7/1	灰白色		8C第3	
	217	88		X286～287Y106　I	須恵器	杯B	11.8	3.6		7.5	5Y6/1	灰色		9C第1	
	218	88		X282Y101,X286Y101　I	須恵器	杯B	13.2	4.1		7.0	2.5Y6/1	黄灰色		8C前	
	219			X283Y96,X286Y98　I	須恵器	杯B	12.8	4.7		9.1	2.5Y7/1	灰白色		8C第3	
	220	88		X278Y96　I	須恵器	杯B	14.4	5.4		9.2	10Y6/1	灰色		8C第3	
	221	88		X275Y99　I	須恵器	杯B	13.0	5.9		7.6	2.5Y6/1	黄灰色		8C第3	
	222			X299Y103　I	須恵器	杯B	15.2	4.6		10.6	2.5Y6/1	黄灰色		8C前	
	223			X284Y107,X286Y105,X289Y106　I	須恵器	杯B	15.8	6.0		10.8	5Y6/1	灰色		8C前～中	
128	224	88		X303Y103　I	須恵器	杯B	14.8	4.4		10.2	2.5Y7/1	灰白色		8C第2	
	225	88		X281Y103～104　I	須恵器	杯B	16.0	4.5		11.0	5Y5/1	灰色		8C第2	
	226	87		X258Y104　I	須恵器	杯	16.8	(4.6)			2.5Y7/1	灰白色		8C後	
	227	87		X240Y96　I	須恵器	杯	14.2	(5.6)			5Y5/1	灰色		9C前	
	228	87		X240～239Y90　I	須恵器	杯	14.7	(4.7)			5Y6/1	灰色		9C前	
	229	88		X281Y93　I	須恵器	杯B		(3.3)		7.3	10Y6/1	灰色		8C後	
	230	85		X276Y98　I	須恵器	杯B		(1.5)		6.9	7.5Y6/1	灰色	古代		高台裏漆?付着
	231	87		X281Y107　I	須恵器	Ⅲ		(1.9)	7.0		2.5Y5/1	黄灰色		10C代	底部糸切り
	232	85		X265Y101　I	須恵器	杯A		(2.4)	8.6		7.5Y6/1	灰色		8C後	墨書「弟主」
	233	85		X273Y98　I	須恵器	杯A	13.8	3.1	10.0		10YR7/2	にぶい黄橙色		8C後	墨書「大□」
	234	85		X296Y96　I	須恵器	杯A	11.6	3.1	7.6		5Y6/1	灰色		8C後	墨書「黒川」
	235	85		X271Y94　I	須恵器	杯蓋		(1.2)			2.5Y6/1	黄灰色		8C後	墨書「黒川」
	236	86		X264Y101,X266Y101　I	須恵器	杯蓋	12.1	3.3			N4/	灰色		8C後	
	237	86		X273～274Y96～97　I	須恵器	杯蓋	11.7	3.2			5Y6/1	灰色		9C前	
	238	86		X274Y102,X276Y102　I	須恵器	杯蓋	12.0	3.3			2.5Y5/1	黄灰色		8C後	
	239	86		X267Y104,X270Y103　I	須恵器	杯蓋	12.4	3.2			5Y5/1	灰色		8C後	
	240	86		X279Y95　I	須恵器	杯蓋	12.6	2.8			5Y5/1	灰色		8C前	
	241	86		X274Y106,X275Y95　I	須恵器	杯蓋	13.8	3.2			2.5Y6/1	黄灰色		9C前	
	242	86		X283Y104,X284Y103　I	須恵器	杯蓋	14.2	3.0			5Y6/1	灰色		8C後	
	243	86		X239Y89　I	須恵器	杯蓋	14.8	3.2			5Y7/1	灰白色		8C第3	
	244	86		X291Y99　I	須恵器	杯蓋		(3.0)			10YR5/1	褐灰色		8C第3	
	245	86		X272Y95　I	須恵器	杯蓋		(2.5)			7.5Y6/1	灰色		8C後	
	246	86		X280Y107　I	須恵器	杯蓋		(2.3)			N7/	灰白色		9C前	
	247	86		X288Y100　I	須恵器	杯蓋		(2.4)			5Y6/1	灰色		8C後	
	248	86		X275Y95　I	須恵器	杯蓋		(2.9)			2.5Y6/1	黄灰色		8C後	
	249	86		X260Y98～99　I	須恵器	杯蓋		(3.2)			5Y6/1	灰色		8C後	
	250	86		X267Y105　I	須恵器	杯蓋		(3.3)			10YR6/1	褐灰色		8C後	
	251			X275～276Y97～98　I	須恵器	杯蓋	12.4	(2.0)			2.5Y7/1	灰白色		8C後	
	252	87		X272～273Y95　I	須恵器	杯蓋	13.6	(1.8)			10Y6/1	灰色		8C第4	
	253	84		X290Y106　I	須恵器	杯蓋		(2.8)			2.5Y7/2	灰黄色		8C第3	ヘラ記号
	254	86		X267Y102　I	須恵器	杯蓋	13.0	1.7			5Y6/1	灰色		9C第1	
	255	86		X272～273Y95　I	須恵器	杯蓋	13.6	1.8			5Y6/1	灰色		8C第3	
	256	86		X282Y99,X285Y87　I	須恵器	杯蓋	13.6	1.6			2.5Y6/1	黄灰色		8C第4	
	257			X280Y98　I	須恵器	杯蓋	13.8	(1.3)			5Y6/1	灰色		8C第4	
	258	86		X286Y99　I	須恵器	杯蓋		(2.6)			5Y5/1	灰色		8C後	
	259	86		X284Y107　I	須恵器	杯蓋		(1.8)			10YR6/2	灰黄褐色		8C前	

第20表　黒河中老田遺跡土器・土製品一覧（３）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	器種	法量(cm)				色調(記号)	色調(和名)	時期	詳細時期	備考
							口径	器高	底径	高台径					
128	*260*			X270Y105　I	須恵器	杯蓋	15.0	2.9			N6/	灰色		8C第3	
129	*261*	87		X275Y97　I	須恵器	杯蓋	11.0	(1.8)			7.5Y6/1	灰色		9C第1	
	262	87		X262Y102　I	須恵器	杯蓋	12.6	(1.8)			N7/	灰白色		8C第4	
	263			X270Y101　I	須恵器	杯蓋	12.8	(1.7)			5Y6/1	灰色		8C後	
	264	87		X282Y101,X283Y103　I	須恵器	杯蓋	14.4	(1.8)			5Y6/1	灰色		8C第3	
	265			X291Y105　I	須恵器	杯蓋	13.8	(2.4)			2.5Y6/1	黄灰色		8C第3	
	266	87		X280Y98,X282Y96　I	須恵器	杯蓋	13.4	(1.9)			7.5Y6/1	灰色		8C第3	
	267			X273Y96,X276Y98　I	須恵器	杯蓋	13.8	(2.2)			5Y7/2	灰白色		8C後	
	268			X241Y89　I	須恵器	壺蓋	12.0	(2.5)			5Y7/1	灰白色		8C後	
	269	86		X299Y103　I	須恵器	杯蓋	12.0	2.0			2.5Y6/1	黄灰色		8C代	
	270	87		X273Y95,X276Y98　I	須恵器	杯蓋	15.4	(3.4)			5Y7/1	灰白色		8C第3	
	271	87		X285Y106　I	須恵器	杯蓋	15.8	(2.9)			5Y6/1	灰色		8C第4	
	272	87		X289Y103　I	須恵器	杯蓋	15.4	(1.7)			5Y6/1	灰色		8C第3	
	273	87		X265Y103,X269Y107　I	須恵器	杯蓋	16.0	(1.7)			2.5Y6/1	黄灰色		8C第4	転用硯?
	274	86		X270Y96,X273Y95　I	須恵器	杯蓋	16.4	3.0			2.5Y6/1	黄灰色		8C代	
	275	89		X263Y92　I	須恵器	鉢?	28.6	(5.3)			2.5Y8/2	灰白色		8C代	
	276	89		X262Y105　I	須恵器	鉢?	24.2	(4.9)			2.5Y7/1	灰白色		8C代	
	277	89		X280Y100～105　I	須恵器	鉢?	21.2	(8.6)			2.5Y7/1	灰白色		8C代	
	278	89		X238Y91　I	須恵器	鉢	16.9	(4.2)			5Y5/1	灰色		8C代	
	279	89		X277Y98～99,X280Y98　I	須恵器	鉢?		(9.6)			2.5Y8/2	灰白色		8C代	盤?
	280	89		X280Y100　I	須恵器	鉢?					2.5Y8/2	灰白色		8C代	盤?
	281	89		X284Y104,X286Y97　I	須恵器	甕	16.6	(7.3)			5Y6/1	灰色		8C代	
	282			X279Y101　I	須恵器	甕?	9.6	(4.6)			2.5Y7/1	灰白色		8C代	
	283	89		X311Y103　I	須恵器	甕?	14.4	(4.1)			10YR7/2	にぶい黄橙色		8C代	
	284	89		X290Y101　I	須恵器	甕?	22.4	(3.6)			2.5Y7/1	灰白色		8C代	
	285			X239Y89,X242Y96　I	須恵器	長頸瓶?		(11.0)			2.5Y7/1	灰白色		8C後	
	286			X276Y103　I	須恵器	甕					5Y5/1	灰色	古代		
	287	89		X265Y106　I	須恵器	甕					10YR7/2	にぶい黄橙色	古代		
	288	89		X279Y98　I	須恵器	甕					5Y6/1	灰色	古代		
	289	89		X260Y94　I	須恵器	甕					2.5Y6/1	黄灰色		9C代?	
130	*290*	90		X270Y105,X271Y107　I	土師器	盤?	19.4	2.1			10YR7/3	にぶい黄橙色		8C	内面螺旋状暗文、赤彩2.5YR5/6明赤褐色
	291	91		X281Y101,X282Y99～100　I	土師器	高杯		(4.9)			2.5Y7/3	浅黄色		8C	赤彩2.5YR7/4浅赤橙色
	292	91		X275Y95　I	土師器	高杯		(4.9)			10YR8/4	浅黄橙色		8C	
	293	91		X276Y105　I	土師器	高杯		(6.8)			10YR8/4	浅黄橙色		8C	赤彩2.5YR6/4にぶい橙色
	294	91		X272Y95　I	土師器	高杯		(6.6)			10YR8/3	浅黄橙色		8C	
	295	91		X291Y104　I	土師器	椀	13.4	(3.1)			10YR8/4	浅黄橙色		9C後	赤彩5YR6/6橙色
	296	94		X262Y98　I	土師器	椀		(1.5)	4.0		10YR7/3	にぶい黄橙色		8C代	赤彩2.5YR5/6明赤褐色
	297			X284Y106　I	土師器	椀	14.0	(1.8)			2.5Y8/3	淡黄色		10C	
	298			X270Y103　I	土師器	椀	12.0	(3.0)			2.5Y8/3	淡黄色		10C	
	299			X272Y105　I	土師器	椀?	12.4	(2.2)			10YR7/4	にぶい黄橙色		10C	
	300	91		X269Y102　I	土師器	椀	10.8	(3.1)			2.5Y8/3	淡黄色		11C	
	301	91		X264Y96　I	土師器	椀	14.2	(3.3)			2.5Y8/3	淡黄色		11C	
	302			X301Y104　I	土師器	椀	11.2	(2.8)			10YR8/3	浅黄橙色		10C	
	303			X271Y107　I	土師器	椀	13.6	(2.3)			10YR7/4	にぶい黄橙色		10C前	
	304	91		X252Y93　I	土師器	椀	16.3	5.0	7.0		10YR7/3	にぶい黄橙色		10C前	
	305	94		X264Y103　I	土師器	椀?		(2.0)	7.2		10YR7/3	にぶい黄橙色		10C	
	306	94		X287Y97　I	土師器	小甕		(1.7)	6.4		10YR6/3	にぶい黄橙色		10C代	
	307	94		X263Y104　I	土師器	小甕		(2.7)	6.2		10YR6/3	にぶい黄橙色		10C	
	308	94		X265Y102　I	土師器	椀		(1.8)	6.2		10YR7/3	にぶい黄橙色		11C～12C	
	309	91		X251Y99　I	土師器	皿?	11.4	(2.2)			10YR6/2	灰黄褐色		10C後～11C	
	310	91		X270Y106　I	土師器	内黒椀		(2.0)		7.0	10YR8/3	浅黄橙色		10C後	
	311	91		X284Y100～101　I	土師器	内黒椀		(2.7)		7.0	10YR6/4	にぶい黄橙色		10C後	
	312	91		X281Y100　I	土師器	椀		(2.1)		9.0	2.5Y7/2	灰黄色		10C後	内面漆付着
	313	91		X260Y100　I	土師器	椀		(2.4)		8.2	10YR6/3	にぶい黄橙色		11C	
	314	94		X259Y104　I	土師器	椀?		(2.9)	4.4		2.5Y7/2	灰黄色		12C後～13C	
	315	97		X277Y101　I	灰釉	椀	13.0	(2.7)			2.5Y6/2	灰黄色		11C代	釉2.5YR7/1灰白色
	316	85		X276Y103　I	灰釉	椀	16.0	5.1		8.4	2.5Y6/2	灰黄色		11C前	釉2.5Y7/1灰白色
	317	92		X300Y104　I	土師器	甕	19.8	(2.3)			10YR8/4	浅黄橙色		8C	
	318	92		X300Y102　I	土師器	甕	18.6	(2.0)			10YR6/3	にぶい黄橙色		8C	
	319	92		X270Y103　I	土師器	甕	16.1	(2.7)			10YR8/3	浅黄橙色		9C	

第20表　黒河中老田遺跡土器・土製品一覧（４）

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	器種	法量(cm)				色調(記号)	色調(和名)	時期	詳細時期	備考
							口径	器高	底径	高台径					
130	*320*	92		X284Y105　I	土師器	甕	16.0	(3.8)			2.5Y7/3	浅黄色		8C	
	321	92		X292Y101　I	土師器	甕	26.2	(6.5)			10YR8/3	浅黄橙色		8C	
	322	92		X273Y106　I	土師器	甕	24.2	(2.0)			5YR6/4	にぶい橙色		8C	
	323	92		X270Y105　I	土師器	鍋	36.0	(7.2)			10YR7/3	にぶい黄橙色		8C	
	324	93		X299Y100　I	土製品	不明	4.9	3.6	2.8	54.03	2.5Y8/2	灰白色	古代		
	325			X279Y101　I	土製品	土錘	6.6	3.0	1.3	47.01	2.5Y5/2	暗灰黄色	古代		
	326	63		X256Y102　I	土製品	土錘	6.2	3.3	1.5	68.6	2.5Y7/2	灰黄色	古代		
131	*327*	95		X232Y86　I	縄文土器	深鉢					10YR8/3	浅黄橙色	中期前葉		
	328	95		X276Y107　I	縄文土器	深鉢					10YR6/2	灰黄褐色	中期前葉	新保･新崎	
	329	95		X245Y98　I	縄文土器	深鉢					2.5Y8/2	灰白色	中期前葉	新保･新崎	
	330	95		X235Y95　I	縄文土器	深鉢					10YR7/3	にぶい黄橙色	中期前葉	新保･新崎	
	331	95		X237Y88　I	縄文土器	深鉢					10YR8/3	浅黄橙色	中期前葉	新保･新崎	
	332	95		X255Y98　I	縄文土器	深鉢					10YR8/4	浅黄橙色	中期前葉	新保･新崎	
	333	95		X236Y86　I	縄文土器	深鉢					10YR7/2	にぶい黄橙色	中期前葉	新保･新崎	
	334	95		X260Y101　I	縄文土器	深鉢		(3.4)	16.4		10YR7/3	にぶい黄橙色	中期前葉	新保･新崎	
	335	95		X277Y107　I	縄文土器	深鉢	29.6	(5.3)			10YR7/3	にぶい黄橙色	中期前葉	新保･新崎	
	336	95		X256Y90　I	縄文土器	深鉢					10YR7/4	にぶい黄橙色	中期前葉		
	337	96		X269Y107　I	縄文土器	深鉢					10YR6/3	にぶい黄橙色	中期中葉		
	338	96		X256Y95　I	縄文土器	深鉢					10YR6/2	灰黄褐色	中期中葉	上山田･天神山	
	339	96	SK34		縄文土器	深鉢					10YR7/3	にぶい黄橙色	中期中葉		
	340	96		X237Y89　I	縄文土器	深鉢					10YR7/2	にぶい黄橙色	中期中葉	古府	
	341	96		X288Y106　I	縄文土器	深鉢					10YR7/3	にぶい黄橙色	中期中葉		
	342	96	SK33		縄文土器	深鉢					10YR7/2	にぶい黄橙色	中期中葉	古府	
	343	96	SK1		縄文土器	深鉢					10YR8/3	浅黄橙色	中期中葉		
	344	96	SK34		縄文土器	深鉢					10YR6/2	灰黄褐色	中期中葉		
	345	96		X267Y100　I	縄文土器	深鉢					10YR8/4	浅黄橙色	中期中葉	古府	
	346	96	SK5		縄文土器	深鉢					7.5YR8/4	浅黄橙色	中期中葉		
	347	96		KKJ3区18T	縄文土器	深鉢					10YR5/2	灰黄褐色	中期中葉		試掘出土
	348	96		KKJ3区18T	縄文土器	深鉢					10YR7/2	にぶい黄橙色	中期中葉		試掘出土
	349	96		X257Y102　I	縄文土器	深鉢					10YR6/2	灰黄褐色	中期中葉		
	350	96		X274Y97　I	縄文土器	深鉢					10YR8/4	浅黄橙色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	351	96	SK40		縄文土器	深鉢					10YR6/3	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	352	96		X238Y87　I	縄文土器	深鉢					10YR7/3	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	353	96		X262Y99　I	縄文土器	深鉢					7.5YR7/4	にぶい橙色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	354	96		X263Y99　I	縄文土器	深鉢					7.5Y7/4	にぶい橙色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	355	96	SK54･55		縄文土器	深鉢					10YR7/3	にぶい黄橙色	中期後葉	串田新Ⅱ	
	356	96		表採	縄文土器	深鉢					10YR7/2	にぶい黄橙色	後期前葉	気屋	
	357	95	SK4		縄文土器	鉢		(3.4)	8.0		10YR7/2	にぶい黄橙色	後期前葉	気屋	
	358	95		X272Y105　I	土製品	土偶	3.0	3.1	2.5	19.27	2.5Y8/2	灰白色	中期前葉～		
135	*390*	94		X270Y107　I	土師器	皿	8.0	2.0	4.5		10YR7/3	にぶい黄橙色		12C前	
	391	94		X265Y101　I	土師器	皿	9.0	(1.1)			10YR7/3	にぶい黄橙色		13C後	
	392	94		X285Y103　I	土師器	皿	8.8	(1.5)			10YR8/3	浅黄橙色		13C後～14C	
	393	94		X283～284Y106　I	土師器	皿	9.7	(1.7)			2.5Y8/3	淡黄色		13C後～14C	
	394	94		X276Y98　I	土師器	皿	8.4	(1.2)			10YR6/2	灰黄褐色		13C後～14C	
	395	94		X272Y108　I	土師器	皿	9.8	(1.3)			7.5YR7/6	橙色		13C後	
	396	94		X259Y104　I	土師器	皿	16.1	(2.3)			10YR6/2	灰黄褐色		13C前	
	397			X278Y106　I	土師器	皿	14.8	(1.8)			10YR6/2	灰黄褐色		13C	
	398	94		X273Y106　I	土師器	皿	14.0	(2.2)			10YR6/3	にぶい黄橙色		13C前	
	399	94		X265Y106　I	土師器	皿	13.0	(2.3)			10YR7/3	にぶい黄橙色		13C前	
	400	97		X264Y104　I	白磁	椀	14.0	(3.3)			2.5Y7/1	灰白色		12C後～13C	釉5Y7/2灰白色
	401	97		X262Y98,X263Y92　I	白磁	椀?					5Y8/1	灰白色		12C後～13C	釉5Y8/2灰白色
	402	97		X264Y96　I	白磁	椀?					2.5Y7/2	灰黄色		12C後～13C	白磁V類､釉2.5Y8/3淡黄色
	403	97		X263Y93　I	青磁	皿	11.8	(2.0)			2.5Y8/2	灰白色		12C後～13C	釉5Y6/2灰オリーブ色
	404	97		X242Y95　I	青磁	椀	15.0	(4.2)			10YR6/2	灰黄褐色		12C後～13C	釉5Y5/3灰オリーブ色
	405	97		X269Y94　I	青磁	椀					2.5Y8/1	灰白色		12C後～13C	釉5Y6/3オリーブ黄色

※法量・器高欄の（　）付数値は現存高を計測したものを示す。
土製品の法量の数値は左から長さ・幅・厚さ・重さ(g) を示す。

第21表　黒河中老田遺跡木製品一覧

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	材質	規格(cm)			時期	備考
							長さ	幅	厚み		
116	*117*	100	SD65		板材	スギ	63.0	22.0	2.5	古墳	
	118	99	SD103	X251Y99	板材	スギ	141.0	9.0	3.1	古墳	
	119	100	SD103	X250Y101	板材	スギ	49.0	7.5	1.0	古墳	
	120	100	SX160	X257Y105	板材	スギ	49.0	12.0	1.8	古墳	
	121	100	SX160	X257Y105	板材	スギ	37.0	13.5	2.0	古墳	
	122	100	SX160	X261Y106	板材	スギ	53.5	9.0	3.5	古墳	炭化？
	123	100	SX160	X257Y102	板材	スギ	34.5	9.0	1.5	古墳	コゲあり
117	*124*	100	SK16		板材	スギ	53.5	8.0	1.5	古墳	
	125	100	SK16		板材	スギ	63.5	16.7	1.8	古墳	
	126	100	SK33		板材	スギ	37.5	9.0	1.3	古墳	
	127	99	SK38		板材	スギ	88.0	21.0	4.0	古墳	
	128	99	SK186		鍬？	クヌギ節	29.0	10.0	0.8	古墳	
123	*181*	98	SK180		叩き板	クリ	32.0	7.0	2.0	古代	
	182	99	SK180		掘り棒？	クリ？	67.0	5.5	4.5	古代	
	183	99	SK298		柱根	クリ	33.0	20.0		古代	
135	*406*	98		X276Y96　I	漆器（折敷）	ヒノキ亜科	10.0	7.0	0.3	古代以降	
	407	98		X240Y98　I	部材（雲形？）	スギ	11.0	8.0	2.0	古代以降	
			SK52		角材	スギ	55.0	5.0	3.5	古墳	年代測定資料1
			SK36・37		棒材	クヌギ節	51.0	5.0		古墳	年代測定資料2
			SK180		板材	スギ	19.2	5.5	1.7	古墳	年代測定資料3
			SK38		板材	スギ	12.3	1.6	0.6	古代	年代測定資料4
			SK264		板材	クヌギ節	16.0	3.1	0.7	古代	年代測定資料5

第22表　黒河中老田遺跡石製品一覧

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	石材	規格(cm・g)				備考
							長さ	幅	厚み	重さ	
118	*129*	103,104	SK3	X233Y88	磨製石斧	蛇紋岩	9.78	6.06	2.28	261.9	
	130	103,104	SK11		磨製石斧	砂岩	10.55	3.73	2.46	152.6	
	131	103,104	SK33		磨製石斧	蛇紋岩	9.60	5.09	2.57	201.2	
	132	101,102	SK34		打製石斧	凝灰岩	4.66	4.94	1.17	36.5	
	133	101,102	SK34		打製石斧	安山岩	17.51	8.34	4.76	710.0	
	134	61	SK54・55		剥片	砂岩	10.04	19.23	6.18	1020.0	打斧の素材？
	135	101,102	SK162		打製石斧	流紋岩	18.03	9.39	3.22	660.0	使用痕分析No.1
132	*359*	101,102		X279Y97　I	打製石斧	砂岩	12.72	4.59	1.86	138.7	
	360	101,102		X239Y89　I	打製石斧	安山岩	13.56	5.50	2.83	212.3	
	361	101,102		X280Y96～97　I	打製石斧	凝灰岩	12.30	5.18	2.08	136.1	
	362	101,102		X252Y102　I	打製石斧	安山岩	10.36	4.84	1.35	70.7	
	363	101,102		X273Y98　I	打製石斧	凝灰岩	7.17	4.80	1.91	61.5	
	364	101,102		X275Y105　I	打製石斧	安山岩	19.95	9.61	4.27	820.0	使用痕分析No.2
	365	101,102		X266Y101　I	打製石斧	安山岩	11.73	8.35	2.30	209.7	
	366	101,102		X239～240Y90　I	打製石斧	安山岩	12.65	6.30	2.43	215.7	
	367	101,102		X294Y99　I	磨製石斧	安山岩	6.77	5.17	2.11	99.2	
133	*368*	103,104		X237Y95　I	磨製石斧	蛇紋岩	9.89	4.80	2.37	222.4	
	369	103,104		X255Y100　I	磨製石斧	蛇紋岩	8.58	4.97	2.44	123.5	
	370	103,104		X233Y86　I	磨製石斧	蛇紋岩	8.49	4.60	1.89	119.1	
	371	103,104		X265～266Y105～106　I	磨製石斧	蛇紋岩	9.94	5.23	1.94	212.1	
	372	103,104		X257Y95　I	磨製石斧	蛇紋岩	6.54	5.53	2.17	118.2	
	373	103,104		X285Y102　I	磨製石斧	蛇紋岩	6.71	2.78	1.99	50.4	
	374	103,104		X282Y98　I	磨製石斧	緑色凝灰岩	10.44	5.84	2.23	251.3	
	375	103,104		X253Y98　I	磨製石斧	砂岩	5.91	4.18	2.23	97.7	
	376	103,104		X239Y95　I	磨製石斧	蛇紋岩	3.72	3.61	1.50	24.3	
	377	103,104		X256Y103　I	磨製石斧	蛇紋岩	2.81	2.74	0.78	9.9	
	378	103,104		X295Y100　I	磨製石斧	凝灰岩	6.52	5.79	1.96	113.9	
	379	103,104		X239Y98　I	磨製石斧	安山岩	13.04	4.95	2.77	289.7	
	380	103,104		X298Y104　I	磨製石斧	蛇紋岩	5.97	3.53	1.86	65.8	
	381	103,104		X277Y98～99　I	磨製石斧	蛇紋岩	7.51	5.80	2.63	181.7	
	382	103,104		X245Y98　I	磨製石斧	蛇紋岩	7.21	5.40	2.05	139.7	
134	*383*	60		X280Y105　I	礫核石器	赤珪岩	6.55	7.88	4.19	242.5	
	384	60	SD131	X267Y97	両極剥片	玉髄質頁岩	1.92	1.82	0.75	2.7	
	385	58		X238Y90　I	多孔石	安山岩	14.53	18.87	7.53	2120.0	蜂の巣石
	386	59		X252Y94　I	石錘	安山岩	10.62	5.91	1.85	170.8	
	387	59		排土	石錘	安山岩	7.40	7.04	1.76	105.6	
	388	59		X268Y105～106　I	石錘	安山岩	5.14	5.60	2.09	58.2	
	389	59		X265～266Y105～106　I	石錘	片岩	5.50	4.00	1.31	34.2	
135	*408*	61		X279Y105　I	砥石	凝灰岩	6.30	5.69	3.04	109.8	中砥

第23表　黒河中老田遺跡金属製品一覧

挿図番号	遺物番号	図版番号	遺構番号	座標	種類	規格(cm・g)				備考
						長さ	幅	厚み	重さ	
123	*184*	62	SK193		鉄滓	2.9	6.3	2.5	41.8	
135	*409*			X279Y104　I	椀形滓	7.3	7.9	3.9	264.7	
	410			X236Y98　I	椀形滓	5.0	6.1	3.0	88.0	
	411	63		X237Y95　I	椀形滓	7.1	8.6	3.2	199.7	
	412	62		X285Y105　I	鉄滓	4.7	4.7	1.4	54.2	
	413	62		X284Y106　I	鉄滓	3.2	4.0	2.3	41.6	
	414	62		X285Y99　I	鉄滓	1.8	2.7	1.3	9.8	

第Ⅴ章　考察

1　黒河尺目遺跡の掘立柱建物について

A　はじめに

黒河尺目遺跡の調査は1987年に始まり，過去６回の発掘調査が行われ，成果が報告されている[注1]。今回の調査は，これまでの調査のなかで最も遺構数が多く，新たに縄文時代中期の遺構を確認した。また古代～中世では掘立柱建物44棟を確認し，遺跡の内容が次第に明らかになってきた。確認した44棟の掘立柱建物（以下，建物とする）は調査区全体に広がっているが，数カ所において集中する地点がみられ，集落内での規則性が窺える。本稿ではこれらの建物について，時期的な変遷を検討する。さらに，大規模な柱穴と直列配置などによって，検出以来，際立つ存在であった倉庫群について，若干の考察を試みたい。

B　建物群の変遷

時期の設定

44棟の建物は，包含層のほとんどが削平され，全て同一面で検出したため，層位学的な新旧関係は不明である。また，出土状況の確かな遺物が非常に乏しく，遺物から時期を判断することは困難であった。よって建物の時期は，平面プラン，規模，配置のほか，建物以外の遺構との組み合わせや方位などをもとに設定したものである。

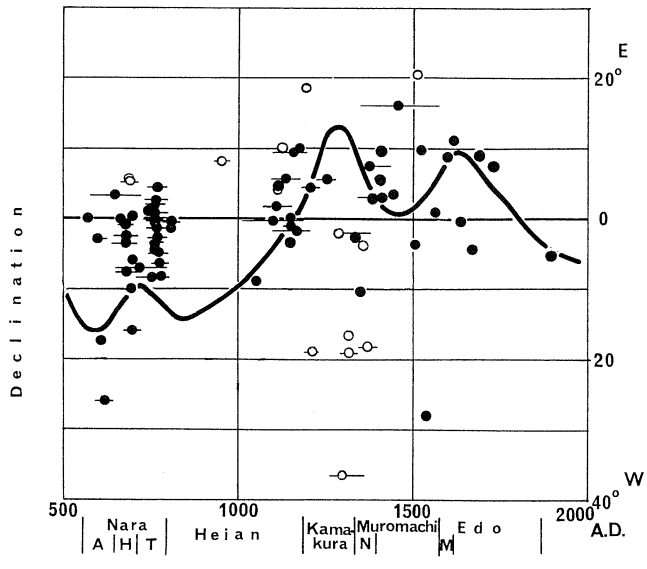
その根拠として最も重要視したのは建物の方位である。建物は６割以上が南北棟で，北を意識した配置をとると考えられる。また，年代によって地磁気が変化するという従来の指摘[注2]によれば，古代から中世にかけては，真北が西から東へ移動する時期に相当する（第24表）。これに併せて建物の軸方向が東傾していくと考え，Ⅰ～Ⅵ期を設定した。ただし同時期内で重複するものもあり，さらに小期の設定が可能である。以下，時期ごとに記述する。

Ⅰ期（ＳＢ１・２・３・４）

建物の方位が，北から16～21°東に振る一群で，倉庫と考えられる建物４棟がある。建物は４～５ｍの間隔で南北にほぼ直列するが，主軸方向は北を意識していると言い難い。ＳＢ１が２間×３間，それ以外は２間×２間の総柱建物である。柱穴は一様に規模が大きく，柱根の痕跡を留めるものもある。掘形は最大で径約90cm，最深で約50cmを測る。出土遺物がなく時期判断は難しいが，古代の遺物で主体となる８世紀第３四半期から９世紀第１四半期とみてよいと思われる。

Ⅱ期（ＳＢ８・10・16・21・29・33・36・38・39・40・42・43）

建物の方位が，北から17～24°西に振る12棟である。方位，切り合いなどから，さらに細かく３小期に分けることができる。



第24表　古寺伽藍の方位と考古磁気偏角（広岡1976）

Ⅱ－①期の建物はＳＢ８・10・16・21・29・33・36・38で，建物の方位が，より西に振る８棟である。ＳＢ10・16が側柱建物，その他は総柱建物で，柱穴は径30cm台が中心である。ＳＢ38は調査区外へ続き，３間～×２間，面積42㎡以上を測る，この小期内では最大とみられる。次に大きいＳＢ21は３間×２間，31㎡で屋内北西には井戸が伴うとみられる。ＳＢ38と比較すると，柱穴は小規模で，全体に貧弱な造りを思わせる。その他の建物は，ほぼ２間×２間，10～20㎡程度と小振りである。

Ⅱ－②期はＳＢ40・42で，先行の時期より方位が北に近づく。ともに総柱建物であるが，特にＳＢ42は４間×４間，84㎡を測り，Ⅱ期では最大である。柱掘形も最大径85cm，最深55cmと比較的規模が大きく，うち７基の柱穴では柱痕跡を確認し，柱根の直径を16～28cmと推定している。ＳＢ40は３間×２間，23㎡だが，柱穴の規模はＳＢ42に引けをとらない規模である。

Ⅱ－③期は切り合い等から，ＳＢ39・43の２棟がある。ＳＢ39は丘陵部の際に建てられた３間×１間の側柱建物とみられる。ＳＢ43はＳＢ42の建て替えと考えられ，規模が縮小している。

Ⅱ－①期に属する建物が圧倒的に多いが，３つの小期に大きな時期差はないと考えられ，切り合いのない建物については同時併存していた可能性もある。丘陵端の段に沿って，比較的，大型の建物が並列しており，それらの建物群を中心に，南には小型の建物が間隔を置きながら点在している。建物は丘陵端に集中しているが，これは丘陵段下からの景観を意識した配置と推測する。さらに，これらの段上に並ぶ建物では，頻繁な建て替えがあったとも考えられる。

また，調査区南端のＳＤ11は丘陵の段に平行し，建物の軸方向とは直交することから，同時期の区画溝と考えられる。これまでの調査において，溝以南では建物の分布が散漫であり[注3]，集落を区画するものとみられる。時期は10世紀～11世紀前半を想定しているが，新しい時期が主体とみられる。

Ⅲ期（ＳＢ６・７・28・32・37・41）

建物の方位が，北から10～15°西に振る６棟である。分布はⅡ期と重なる部分が多く，前の時期から継続する建物の建て替えとみられるものが多い。この時期にも丘陵端の段上を意識した配置が続き，ＳＢ37・41が並列する。ＳＢ37は総柱建物で３間以上×３間，48㎡以上で調査区外へと続く。丘陵部の際に位置するＳＢ41は３間×１間の側柱建物で，類似するⅡ期のＳＢ39が建て替えられた可能性がある。屋内北西隅には井戸を伴う。ＳＢ６は６間以上×５間の総柱建物で，全時期を通して最大である。建物内の土坑からは鉄滓や羽口などが多く出土し，鍛冶業との関わりが考えられる。

また，この時期にはＳＤ330・450が伴う。両溝は繋がらないがほぼ同じ方向で掘られ，区画溝として併存した可能性がある。またＳＤ11も継続していたとみられる。時期は11世紀末頃から12世紀前半代とみられるが，Ⅱ期との連続性が強く窺えることから，始まりは若干遡る可能性がある。

Ⅳ期（５・９・11・12・13・17・18・19・20・24・34・44）

建物の方位が，北から２～７°西に振る一群である。丘陵端への集中がなくなり，丘陵部全体に建物が拡散しているようである。限られた調査区の範囲では集落の全体像まで解らないが，建物の集中箇所がいくつかあり，それぞれが複数棟のセットで存在したと考えると，集落は東西方向にも広がっていると思われる。

ＳＢ17～20の重複から４小期を想定したが，遺構の切り合いがなく，また建物の部分的な確認であるため，新旧関係は明確ではない。また，この時期から建物は立地や方位などによって丘陵端のＳＢ44・34（ａ），当該期以降，建物が集中する西端のＳＢ24（ｂ），東端に集中するＳＢ17～20の４棟（ｃ），南に広がるＳＢ５・９・11・12・13（ｄ）の４群にグループ分けし，それぞれの変遷をみていきたい。

aは先行期に建物が集中していた場所に立地する。調査区東へと続くＳＢ44は４間以上×１間の，東西に長い側柱建物である。Ⅱ期のSB39，Ⅲ期のSB41と同様の建物とみられる。ＳＢ34はⅡ期のＳＢ33と重複するが，棟方向は東西である。ともにⅣ－①期と考える。

ｂはこの時期以降，建物が集中し，さらに西に広がると考えられる一群である。ＳＢ24は４間×３間，63㎡の総柱建物だが，さらに西に延びる可能性がある。柱穴は規模が大きく，最大径78㎝，最深52㎝を測り，10基の柱穴で柱痕跡を確認した。柱掘形には円形と楕円形のものが混在しており，建物構造に新しい様相がみられ始める[注4]。Ⅳ－①期とみられる。

ｃはこの時期，建物が集中する。ＳＢ17は２間×１間の側柱建物で，柱穴は楕円形である。ＳＢ18～20は東に延び，部分的な確認のため不明な点が多い。建物の方位が西から東へと変遷すると考え，ＳＢ19，20，18，17にそれぞれⅣ期－①～④が相当し，順に建て替えられたものと思われる。

ｄは先行期からのＳＤ450・11に区画された一群である。２小期が考えられ，Ⅳ－①期にＳＢ９・11・13，Ⅳ－②期にＳＢ５・12を想定した。Ⅳ－①期は４間×２間以上のＳＢ11と２間×２間のＳＢ９・13がセットになる。その後，Ⅳ－②期ではＳＢ11が３間×２間のＳＢ12に縮小し，ＳＢ５を伴うセットへと変遷したと考えられる。

また，これらの建物にはＳＤ669・795が伴うとみられる。ＳＤ669は道の側溝，ＳＤ795は区画溝と考えられ，丘陵の段に直交した配置が継続する。だが小規模ながらも道を設け，これに則した建物配置が始まって，集落の景観は少しずつ変化したものと思われる。時期は12世紀後半から13世紀前半を想定しており，遺物量から考えて集落の最盛期とみられる。

Ⅴ期（ＳＢ14・15・35）

建物の方位が真北を向くものである。属する建物は多くないが，前時期との方位差が僅かで，立地が共通することなどから，Ⅳ期の延長とみなされる。次第に東西を意識した建物が増え，景観の変化があきらかなものとなる。Ⅳ期で分けたグループでは，ｂ，ｄでの展開になる。

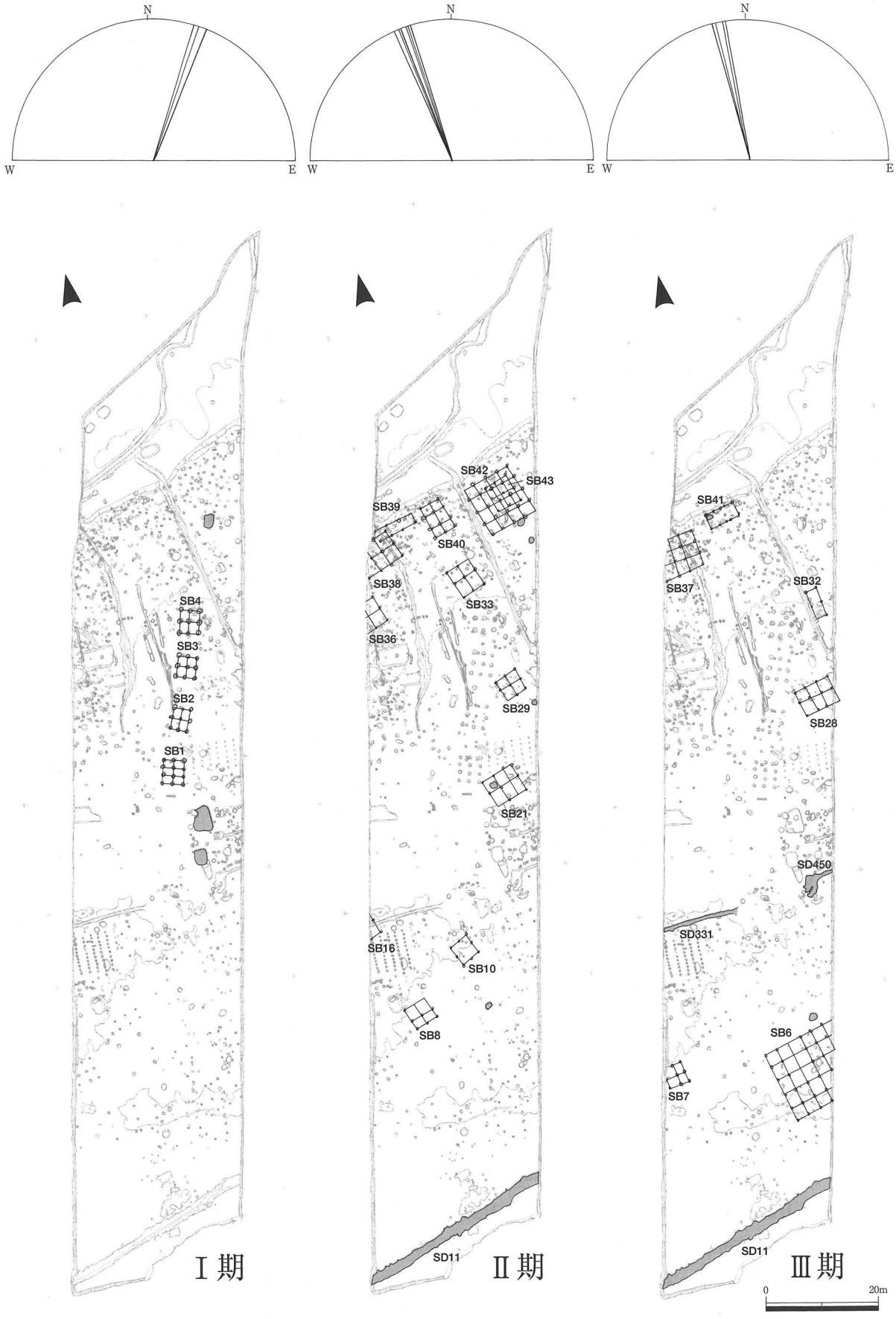
ｂではＳＸ1344にＳＢ35が付く竪穴状遺構があり，倉庫的な性格が想定されている[注5]。また，これに切られるＳＫ800は上屋の柱穴が確認できないが，同様の施設であった可能性が高い。両棟とも建物の南東脇に，柱間にして１間分ほどの小さな溝を伴うが，これは出入り口に関する遺構の可能性が考えられる。またこの建物の東には，道の側溝を造り替えたとみられるＳＤ751・772があり，この道に面して東西棟が建てられていた状況が想像される。

ｄではＳＢ14・15がある。この２棟は建て替えとみられるが，新旧関係は不明である。これらはＳＤ330を切ると考えられ，従来の区画が崩れたことを現す。また，同方位で建物に切られるＳＡ１がある。これは浅いピットが狭い間隔で直列する遺構で，並行する５列を確認したものである。東西の柱筋が揃っていないため建物とは考えにくく，柵列かと考えられるが，類例がなく不明な点が多い。時期はⅣ期から続くものとみられるが，13世紀中頃を中心とする。

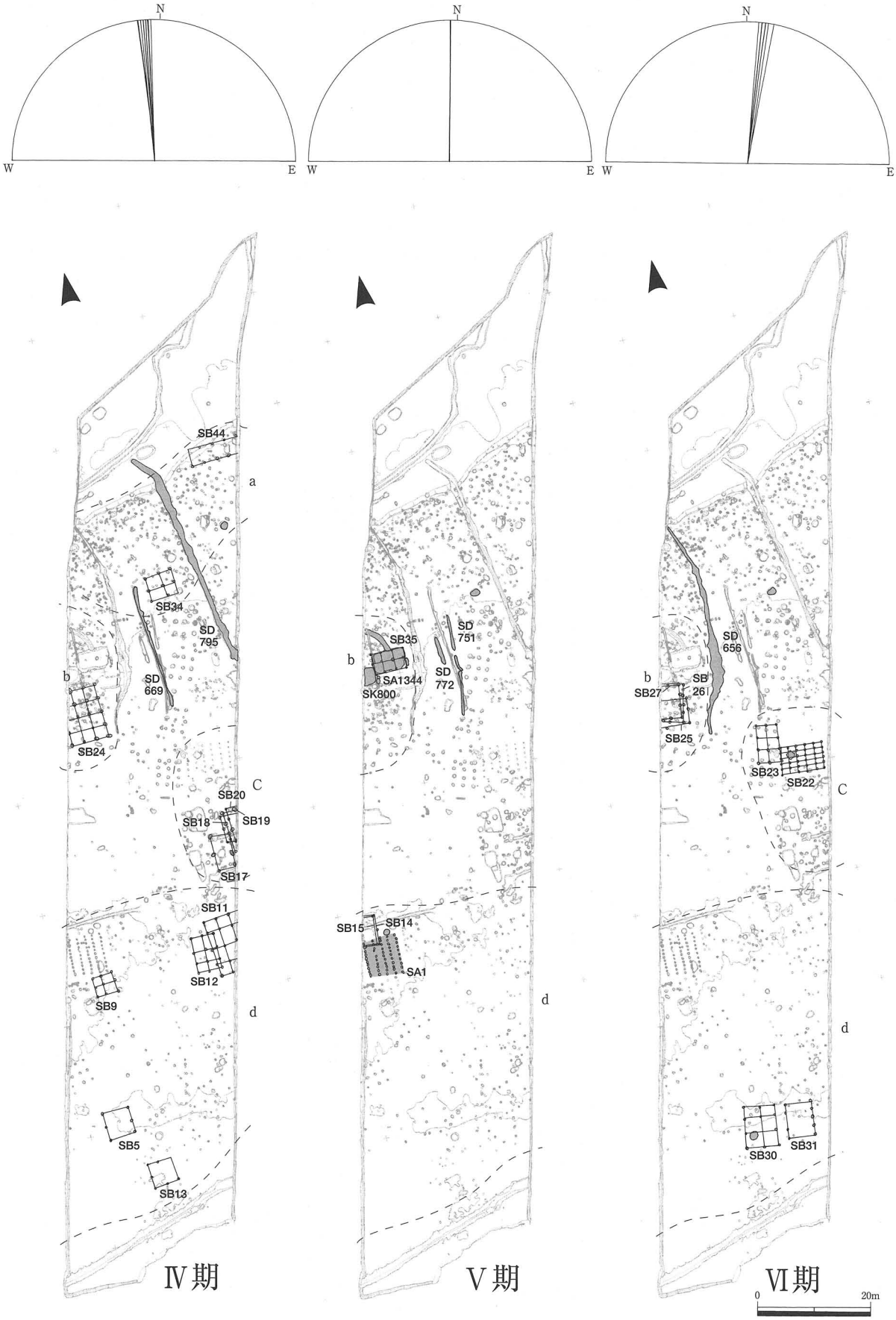
Ⅵ期（ＳＢ22・23・25・26・27・30・31）

建物の方位が，北から４～10°東に振る一群で，再び南北棟が増えている。重複から３小期が考えられる。以下，ｂ，ｃ，ｄのグループ別に展開をみていきたい。

ｂではＳＢ25・26・27が重複している。ＳＢ25はⅤ期に倣った東西棟であり，また先行するⅣ期のＳＢ24とは方位が同じことなどから，Ⅵ－①期と考えられる。この建物は２間～×２間の側柱建物であるが，桁方向の柱間は不均等である。続くＳＢ26は４間×２間～の側柱建物で，再び南北棟に戻るが部分確認のため詳細は不明である。Ⅵ－②期を充てる。最も新しいＳＢ27は３間×２間～の側柱建



第138図　掘立柱建物変遷図Ⅰ～Ⅲ期（1：1000）



第139図　掘立柱建物変遷図Ⅳ～Ⅵ期（1：1000）

物で柱穴が楕円形であるが，ＳＢ26と同様，部分確認に留まる。Ⅵ－③期を充てる。

ｃはⅣ期に比べ，建物が分散すると考えられ，やや北寄りにＳＢ22・23がある。切り合いからＳＢ23をⅥ－①期，ＳＢ22をⅥ－②期とする。ＳＢ23は３間×２間，24㎡の総柱建物で，Ⅰ期の建物群を切る。ＳＢ22は５間×５間，36㎡の総柱建物で，桁方向に比べ梁方向で柱間が狭い。

ｄではＳＢ30・31が並立している。ＳＢ30は３間×２間，40㎡の総柱建物で，屋内に井戸を伴うとみられる。ＳＢ31は４間×１間，28㎡の側柱建物だが，桁方向では柱が不揃いで，抜けもある。

この時期にはＳＤ656が区画溝として伴うと考えられる。時期は13世紀後半以降とみられるが，時代が降るに従って遺物が少なくなることから，集落は移動したと推測される。

集落の変遷

各時期ごとに概観したが，ここではまとめとして集落の変遷を考えたい。なお，限られた調査区内からの推論であることを予めお断りしておく。

黒河尺目遺跡で確認されている最も古い遺構は，縄文時代中期の粘土採掘坑とみられるが，以降，古代に至るまでの遺構は確認しておらず，本格的に集落を営み始めたのはⅠ期に前後する時期であろうと思われる。過去の調査でも，８世紀前半代の掘立柱建物や土坑群などがが確認されており，共伴する製鉄関連遺物などからは「単なる開墾集落ではなく技術的な要因を兼ね備えた集団の集落」[注6]との推測がある。過去の調査区は，今回の調査区から谷を挟んで南に立地しており，時期も若干遡ることから，そのまま同一集落とは考えにくい。しかし，背後の射水丘陵には古代のコンビナートとも称される生産関連遺跡がひしめき，今回の調査でも精錬鍛冶滓などがみつかっていることなどを併せて考えると，生産遺跡と繋がりのある集落が，拡散しながら連綿と営まれていた状況が想像される。

その後，集落は途絶え，10～11世紀代に入って再び展開し始める。Ⅱ～Ⅵ期は，ほぼ連続した集落と考えられるが，Ⅲ～Ⅳ期間に画期があるように見受けられる。建物数はⅡ期とⅣ期に増加し，出土遺物からはⅣ～Ⅴ期が集落のピークかと思われる。

Ⅱ～Ⅲ期においては，丘陵段上に並ぶ建物群に力点がおかれているような印象があり，前述したように，段下からの景観を意識して配置されていたと推測している。

Ⅳ期になると，先行期の名残を残しつつも，新たに区画溝や道が設けられ，集落の在り方に少なからず変化が現れているようである。建物は数回の建て替えを行ったものも存在し，立地に規則性が窺える。Ⅴ期になると東西棟の建物が増え，西側の未調査部分にも広がりが予想される。Ⅳ期以降は，大きな変化がなく建物が建て替えられたり，多少の移動がみられる程度であるが，Ⅵ期を最後に，この場所での集落展開は終息する。

Ｃ　古代倉庫群について

古代の倉庫についての研究は，文献資料をもとに建築構造や規模，収納物および収蔵量，その機能などについて数多く論考がある。文献にみられる倉庫とは「正倉」であり，いわゆる国家的な支配下にある倉庫を指す。

考古学における実際の倉庫遺構について，官衙と集落との判別を試みた松村恵司氏の論文[注7]は，倉の形態が，集落の性格についての判断材料として有効であることを提示したものであり，古代集落の解明に新しい道筋を開いたものである。また山中敏史氏による地方官衙遺跡についての多岐に亘る研究では，官衙遺跡の判定方法や特徴が細かく検討され，その構成要素の一つでもある正倉についても構造や規模のほか，機能について言及している[注8]。また，古代大型建物に関する研究集会や全国視野での郡衙正倉の集成などが進行しており[注9]，現在は資料の蓄積の一方で，その解明方法が築かれつつ

ある段階と思われる。

また建築学の分野では，富山博氏による正倉建築の研究が詳しく，文献の分析から上部構造の解明などを試みている[注10]。

前項でⅠ期としたＳＢ１～４は，４棟がほぼ同時期に存在したと想定している。近年，この倉庫群の規則的な配置や出土遺物などの要因から，当遺跡が官衙的性格をもつとの見解が示されている[注11]。当地は古来から交通の要衝とされていることもあり，この見解については安易に否定されるものではないと思われる。しかし，地方官衙の認定に至るには，数多くの条件をクリアせねばならず，しかもその条件は地方や時期によって内容が様々であるとも指摘されており[注12]，確定には慎重に論議を重ねる必要があると考える。

今回の調査では，この４棟以外には土坑を数基確認したのみで，集落の主体については未調査と考えられ，不確実な部分が多い。そこで倉庫に的を絞り，建物構造や集落での在り方など，近隣の遺跡との比較を通し，この倉庫群の意味を考えたい。

県内の遺跡類例（第140・141図，第25表）

古代の倉庫がある遺跡，となると多数の遺跡が存在する。ここでは一部の例外を除き，２間×２間，総柱構造の建物で，一般に高床倉庫と認識される遺構にほぼ限定し，県内の類例を掲載した。ただし，柱穴が揃わないものや，小規模なものについては除外している。

当遺跡以外で扱った遺跡は，古代において同じ射水郡内の北高木遺跡，長岡杉林遺跡，婦負郡の任海宮田遺跡，吉倉Ｂ遺跡，砺波郡の石名田木舟遺跡，桜町遺跡である。以下，簡単に各遺跡の概要を記述する。

黒河尺目遺跡（第140図）

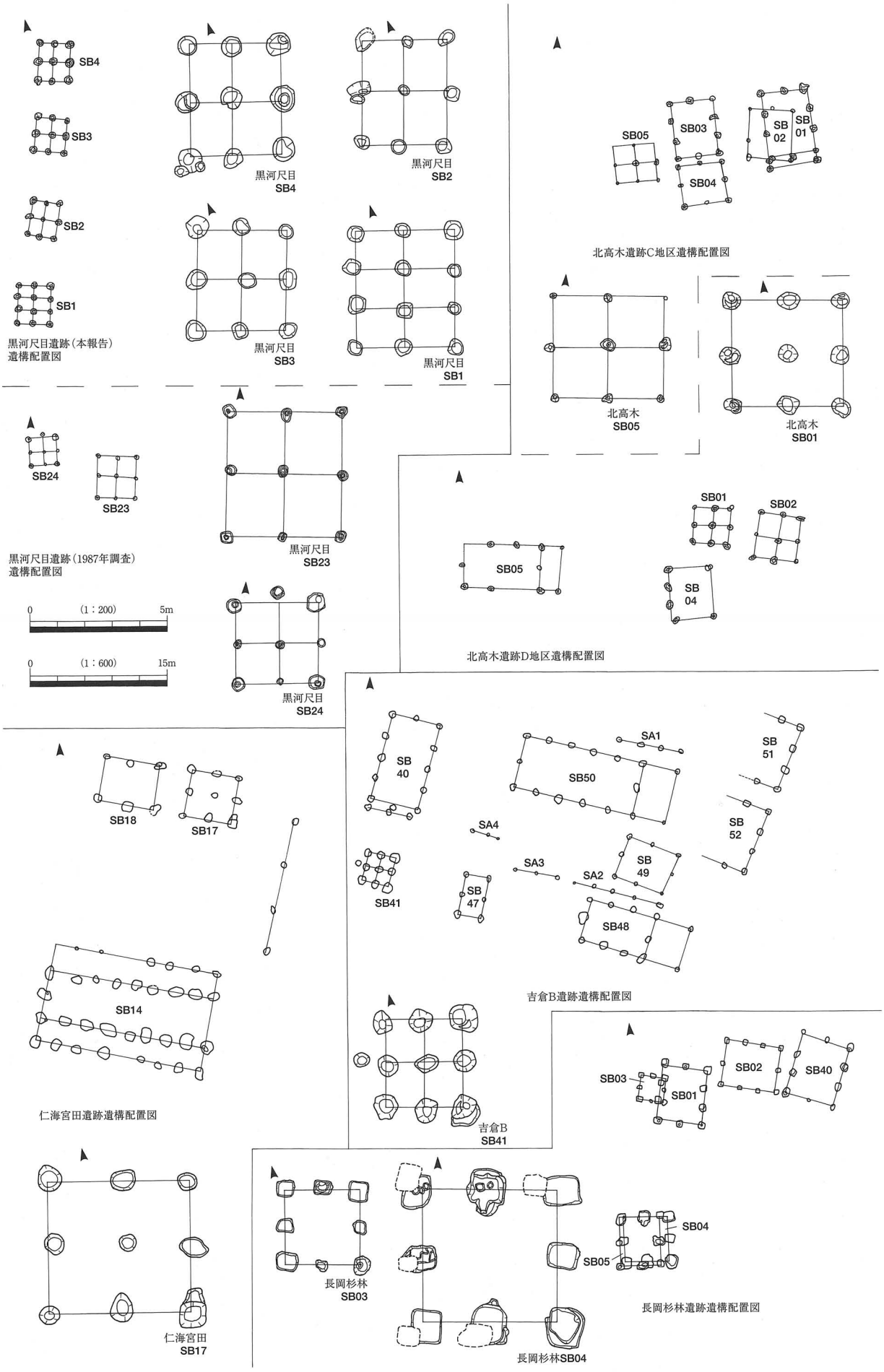
遺跡は南北に延びており，今回の調査は遺跡の北端にあたる。ＳＢ１～４のほか，1987年に調査された[注13]遺跡の南寄りに位置するＳＢ23・24を挙げた。面積はＳＢ23が18㎡，ＳＢ24はその半分の９㎡である。ＳＢ24は四隅の柱に限って規模が大きい。

北高木遺跡（第140図）

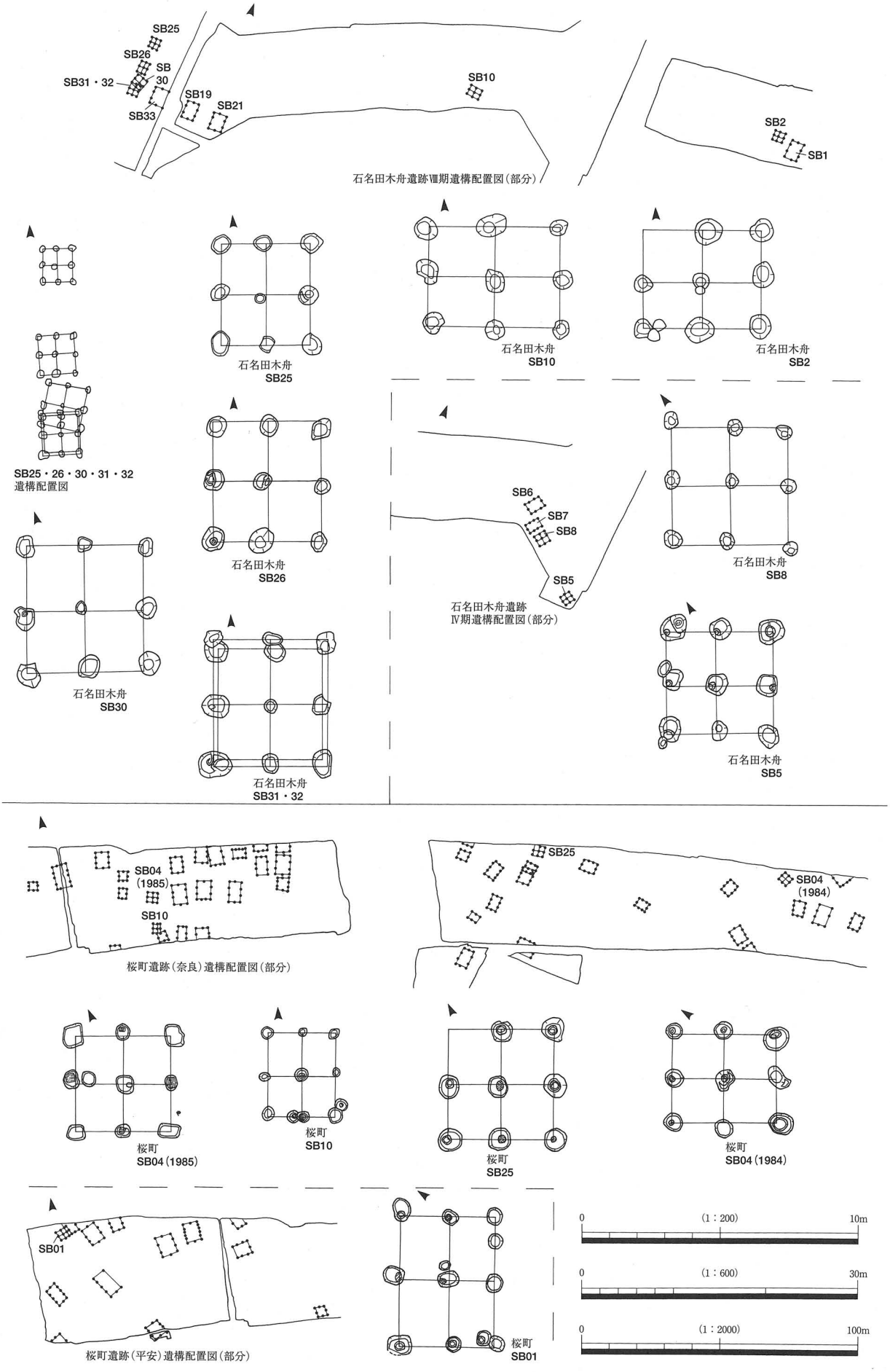
当遺跡の北西，約６㎞に位置する。大島町と新湊市にまたがる縄文～中世の遺跡で，荒畑遺跡が隣接する。沖積地にあり，標高は低く約３ｍである。古代では建物，土坑，溝が確認され，遺物は10点の木簡，墨書土器，人面墨書土器のほか，多量の木製品が出土した。なかには人形，斎串などの祭祀関連品，また全国的にも出土例の少ない版木状木製品があり，注目を集めた[注14]。Ｃ地区ＳＢ05は隣接する建物群のなかで唯一の総柱建物である。建物群は主軸が似た方位を向くことから，ほぼ同時併存と考えられる。Ｄ地区ＳＢ01は桁梁の長さが同じ，正方形である。東に隣接するＳＢ02は西に１間分延びるとみられ，除外した。建物配置には特別，規則性のようなものはみられない。

長岡杉林遺跡（第140図）

呉羽山丘陵の北西に位置する。縄文～古代の出土遺物があるが，遺構が伴うのは縄文時代後期，奈良時代（８世紀前葉），平安時代（９世紀後葉～10世紀中頃）である。この遺跡のＳＢ03・04は側柱建物であるが，ともに正方形のプランをもち柱穴の規模も大きいことから例外的に類例とした。なお図版の遺構配置図は奈良・平安時代を併せたものである。奈良時代に属するＳＢ04の柱穴は，一辺が0.9～1.3ｍの方形で，最深50㎝を測る。ＳＢ01・02の他，竪穴住居２棟，鍛冶関連の土坑などが伴う。平安時代に属するＳＢ03は柱穴の規模が大小２種類あり，四隅に大型を用いる。これは黒河尺目遺跡ＳＢ24と同様の構造である。ＳＢ05・40の他，井戸，溝などを伴う。両時代とも，遺構群のまとまり



第140図　県内の遺跡類例（その１） 建物平面図（1：200），遺構配置図（1：600）



第140図　県内の遺跡類例(その２)　建物平面図(1：200)，遺構配置図(1：600，1：2000)

がそのまま生活単位と考えられている。また，掘立柱建物の分類がなされており，ＳＢ03・04は平面形態から倉庫と考えられている[注15]。

任海宮田遺跡（第140図）

富山市南部の，神通川と熊野川に挟まれた複合扇状地に位置する南北約１km，東西約900ｍの広範囲に亘る遺跡である。古代～中世の集落が連綿と営まれていたとみられ，これまで膨大な数の竪穴住居や掘立柱建物のほか，土師器焼成遺構などが検出されている[注16]。周辺は古代～中世遺跡の密集地帯で，付近一帯に大規模な開発集落が展開していたと考えられている。遺物では墨書土器が大量に出土しており，なかでも「城長」「平」「貳」などの文字が特に多い。本稿では，2001年に調査されたＳＢ17を類例として挙げた。ＳＢ14は８間×２間の側柱建物の桁側両面に庇が付き，面積188㎡を測る大型掘立柱建物で，ＳＢ17・18と柵を伴う。ＳＢ17は柱穴の掘形約80cm，深さ約40cmで，底には礫が敷き詰められる。面積は25㎡で，今回扱った資料中では最大である。また除外したが，ＳＢ18も同様の構造をもち，類例としてよいものと思われる。

吉倉Ｂ遺跡（第140図）

前掲の任海宮田遺跡の南に位置する，同様に古代～中世の集落である。図示した９世紀後葉の集落は規則的な配置で，地方官衙との関連が考えられている。ＳＢ41は柱穴底に砂礫を充填しており，任海宮田遺跡の例と類似する。建物構造からＳＢ41は高床倉庫とされ，西に隣接するピットを梯子穴と想定している。この建物群はＳＢ40・48・49・51・52が倉庫，ＳＢ47が納屋のようなもの，ＳＢ50が住居または事務所的な建物であり，農業経営の拠点施設と推測されている[注17]。

石名田木舟遺跡（第141図）

県西部の小矢部市と福岡町にまたがり，南北約900m，東西約900ｍに広がると推定される。遺跡は小矢部川と岸渡川に挟まれた河岸段丘上に位置し，古墳時代～近世の遺構がある。遺跡内には木舟城が存在し，過去の調査で城下の町並み遺構や，多様な遺物が調査されている。古代では７世紀後半～９世紀の集落が確認されているが，これら建物群を４集団８ブロックに区分し，その変遷が９期に分類されている[注18]。本稿では類似遺構が伴うⅣ期とⅧ期を部分的に抽出した。Ⅳ期のＳＢ５・８はともに桁梁の長さが同じ，正方形である。ＳＢ５の柱穴掘形は一辺約70cmを測り，うち７基の柱穴は段掘されている。Ⅷ期ではＳＢ25・26・31・32（31と32は同一建物での建て替え）が並び，全体ではＬ字

遺　跡	遺　構	桁×梁(間)	桁行長(m)	梁行長(m)	面積(㎡)	軸方向	方　位	柱形式	時　代
黒河尺目	SB4（本報告）	2×2	4.1	3.4	13.94	南北	N−18°−E	総柱	Ⅰ期
	SB3（本報告）	2×2	3.8	3.3	12.54	南北	N−21°−E	総柱	Ⅰ期
	SB2（本報告）	2×2	3.3	3.1	10.23	南北	N−21°−E	総柱	Ⅰ期
	SB1（本報告）	2×3	4.3	3.8	16.34	南北	N−16°−E	総柱	Ⅰ期
	SB23（1987年調査）	2×2	4.5	4.2	18.9	南北	N−2.5°−E	総柱	８Ｃ前
	SB24（1987年調査）	2×2	3	3	9	南北？	N−2.5°−W	総柱	８Ｃ前
北高木	Ｃ地区ＳＢ０５	2×2	4.39	4.03	17.7	東西	N−2.5°−E	総柱	８Ｃ後～９Ｃ前
	Ｄ地区ＳＢ０１	2×2	4	4	16	南北	N−2°−E	総柱	８Ｃ後～９Ｃ前
長岡杉林	ＳＢ０３	2×2	2.7	2.7	7.3	東西	N−10°−E	側柱	８Ｃ前
	ＳＢ０４	2×2	4.8	4.8	23	東西	N−2°−E	側柱	９Ｃ後～10Ｃ前
任海宮田	Ｂ１地区ＳＢ１７	2×2	5.28	4.8	25.3	東西？	N−7.8°−E	総柱	９Ｃ初～前
吉倉Ｂ	ＳＢ４１	2×2	3.2	2.8	8.98	東西	N−14°−E	総柱	９Ｃ後葉
石名田木舟	Ｂ２地区ＳＢ２	2×2	4.2	3.5	14.7	東西	N−3°−E	総柱	９Ｃ中
	Ｃ地区ＳＢ５	2×2	3.7	3.7	13.69	南北	N−28°−E	総柱	８Ｃ中
	Ｃ地区ＳＢ８	2×2	4.2	4.2	17.64	南北	N−34°−E	総柱	８Ｃ中
	Ｃ地区ＳＢ１０	2×2	4.7	3.7	17.39	東西	N−7°−E	総柱	９Ｃ中
	Ｄ地区ＳＢ２５	2×2	3.6	3.4	12.24	南北	N−6°−E	総柱	９Ｃ中
	Ｄ地区ＳＢ２６	2×2	4.2	3.7	15.54	南北	N−5°−E	総柱	９Ｃ中
	Ｄ地区ＳＢ３０	2×2	4.2	4	16.8	南北	N−22°−E	総柱	９Ｃ前
	Ｄ地区ＳＢ３１	2×2	4.4	4.3	18.92	南北	N−6°−E	総柱	９Ｃ中
	Ｄ地区ＳＢ３２	2×2	4.5	4	18	南北	N−6°−E	総柱	９Ｃ中
桜町	産田ＳＢ０４（1984年調査）	2×2	3.8	3.2	12.1	南北	N−34°−W	総柱	８Ｃ前～後
	産田ＳＢ２５（1984年調査）	2×2	4	3.8	15.2	南北	N−24°−E	総柱	８Ｃ前～後
	産田ＳＢ０４（1985年調査）	2×2	3.6	3.6	12.9	南北	N−17.5°−E	総柱	８Ｃ中
	産田ＳＢ１０（1985年調査）	2×2	3	2.4	7.2	南北	N−6°−E	総柱	８Ｃ中
	中出ＳＢ０１（1987年調査）	2×2	4.7	3.4	15.9	東西	N−66°−E	総柱	９Ｃ前～中

第25表　県内の総柱建物類例一覧表

状配置をとることから，有力農民層の出現を示唆するものとしている。

桜町遺跡（第141図）

小矢部市の北部に位置し，前掲の石名田木舟遺跡からは約3㎞西方である。小矢部川と子撫川の合流部西側で，北西丘陵部下の谷から平野へと緩やかに傾斜する。高床建物の建築部材の発見を契機に，縄文遺跡として全国的に著名となったが，縄文時代の遺構・遺物は谷あいに集中し，平野部では古代～中世の集落のほか，古代北陸道，中世条里などがみつかっている。本稿では奈良・平安時代を部分的に抽出した。総柱建物は高床倉庫と考えられており[注19]，奈良時代で4棟，平安時代で1棟を挙げた。建物配置には特別，規則性はみられない。奈良時代のＳＢ04の柱穴底には礎板が敷かれているものがあり，四隅および中央の柱穴を除く，間の柱穴4基で確認された。

倉庫の在り方

扱ったのは僅か7遺跡26資料であり，倉庫についての一般的傾向を示すには至らないが，幾つかの共通点が存在する。

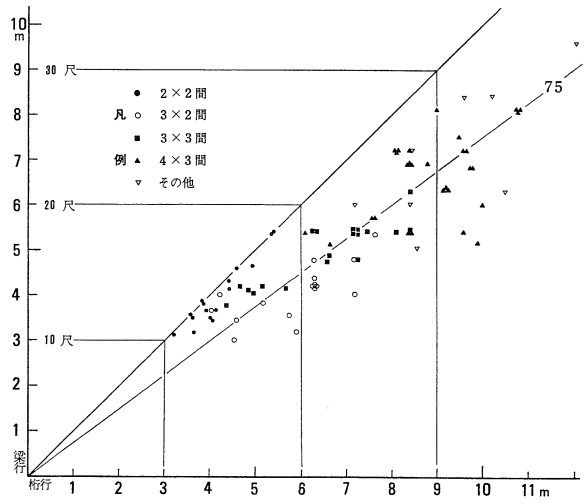
概観してみると，柱穴規模が全て同じ建物とそうでない建物に大きく分かれるようである。特に，黒河尺目遺跡ＳＢ24，長岡杉林遺跡ＳＢ03，桜町遺跡ＳＢ04（1985調査）では四隅の柱規模が大きい。さらに桜町遺跡の例では間の柱穴に限って底に礎板が敷かれており，全ての柱で床を支える構造ではないものと考えられる。こうした柱穴の形態差を上部構造の違いと解釈すれば，長岡杉林遺跡の例や，任海宮田遺跡ＳＢ18といった側柱建物も，ともに高床倉庫遺構と考えられる。

さらに配置については，当遺跡の類例に石名田木舟遺跡がある。Ⅷ期で3棟が直列し，隣接の建物と全体でＬ字状配置をとる。他のブロックではこうした規則的な配置はみられず，有力農民層の存在が考えられている。また任海宮田遺跡でも，大型掘立柱建物と主軸を揃えた倉庫2棟が並立しているとみられる。吉倉Ｂ遺跡の場合は，ＳＢ50以外全てが倉庫的な性格と考えられており，多様な倉庫が集中する様相は中核的な施設を彷彿とさせる。このように規則的な配置がとられる集落においては，概ね複数棟の倉庫が存在するようである。

Ｄ　まとめ

従来の研究からは正倉の平面形式は3間×4間が代表例で，規模についても今回扱った資料より広いことはあきらかである（第26表）。仮に，当遺跡の4棟が正倉だとすれば小型の部類に入るが，こうした小さい正倉が存在する理由には①収納物の形態が蓄積用の穀稲でなく運用目的の穎だった，②郡衙造成の際，資材・労働力・技術に限界があり一般集落と変わらない倉庫が造られた，③在地富豪層の施設を借りた，などが考えられている[注20]。穎とは穂先を束ねた状態の稲で，出挙といった運用の際，用いられた形態である。

9世紀初頭になると私出挙が行われ始めることから，農民の格差は広がる一方であったと思われ，なかには相当な権力をもつ富裕層が出現したとみら



第26表　官衙遺跡の倉の平面形態（松村1983）

れる。富裕層と官衙とがどのように関係していたかは解らないが，４棟の収納量は一般農民の程度を超えるものとみられ，正倉でないにしても富裕層の集落であったことは確実であろう。

また建物配置の位置関係から，倉庫は主屋の西に配される例が圧倒的に多いというデータ[注21]があり，集落の主体は東にあることがいっそう強く予想される。以上，消化不良のまま文章を書き進めてきた。多くの遺漏や誤解もあると思うが，今後の研究課題としたい。（町田尚美）

注１　富山県教育委員会　1987　『七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要（５）黒河尺目遺跡』
富山県教育委員会　1988　『七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要（６）黒河尺目遺跡』
小杉町教育委員会　1992　『小杉町黒河尺目遺跡発掘調査概要』
小杉町教育委員会　2002　『黒河尺目遺跡発掘調査報告』
注２　広岡公夫　1977　「考古地磁気および第四期古地磁気研究の最近の動向」『第四期研究』vol. 15
注３　前掲注１参照
注４　河西健二　1993　「越中における様相」『中世北陸の家・屋敷・暮らしぶり』北陸中世土器研究会
注５　三島道子　2001　「黒河尺目遺跡の竪穴状遺構について」『富山考古学研究』第４号
注６　富山県教育委員会　1988　『七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要（６）黒河尺目遺跡』
注７　松村恵司　1983　「古代稲倉をめぐる諸問題」『文化財論叢』奈良国立文化財研究所
注８　山中敏史　1994　『古代地方官衙遺跡の研究』
注９　日本考古学協会茨城大会実行委員会　1995　『地方官衙とその周辺』
奈良国立文化財研究所　1998　『古代稲倉と村落・郷里の支配』
(財)かながわ考古学財団　1999　『公開セミナー　古代の大型建物跡－役所か邸宅か－　記録集』
奈良国立文化財研究所　2000　『郡衙正倉の成立と変遷』など
注10　富山　博　2004　『日本古代正倉建築の研究』
注11　富山市教育委員会　2002　『富山市栃谷南遺跡発掘調査報告書Ⅲ』ほか
注12　井上尚明　1989　「古代集落遺跡の再検討－郡衙・郷家・一般集落－」『研究紀要』第５号　(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
注13　富山県教育委員会　1987　『七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要（５）黒河尺目遺跡』
注14　大島町教育委員会　1995　『北高木遺跡発掘調査報告書』
注15　富山市教育委員会　1987　『長岡杉林遺跡』
注16　(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所　2001　『埋蔵文化財調査概要』
注17　富山県埋蔵文化財センター　1994　『吉倉Ｂ遺跡』
注18　(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所　2002　『石名田木舟遺跡発掘調査報告』
注19　小矢部市教育委員会　2003　『桜町遺跡発掘調査報告書』弥生・古墳・古代・中世編Ⅰ
注20　前掲注７参照
注21　山中敏史・石毛彩子　1998　『古代稲倉と村落・郷里の支配』奈良国立文化財研究所

2　粘土採掘坑について

A　はじめに

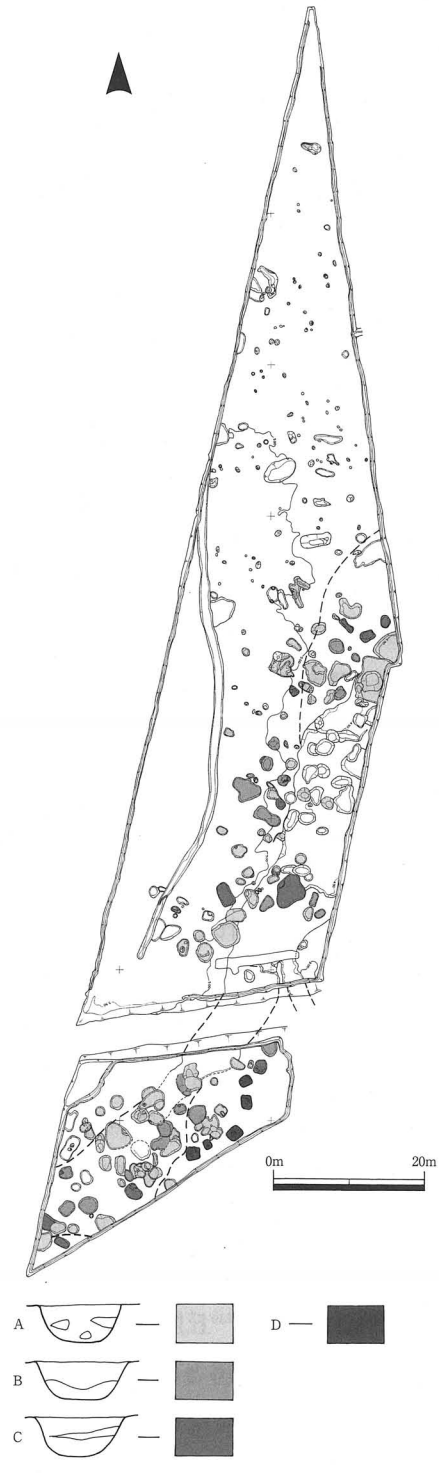
今回の調査では，黒河尺目遺跡で縄文時代36基，黒河中老田遺跡で古墳時代115基，古代３基の粘土採掘坑を検出した。ことに，黒河中老田遺跡の古墳時代のものは，約90mに渡って土坑が密集するものである。遺跡の位置する射水丘陵周辺では粘土採掘坑の確認された遺跡が19例あり，遺構の形態や埋土等が類似していたことから，調査中より「粘土採掘坑」として扱ってきた。しかしながら，一定地域に密集する土坑群については，「土坑墓群」とする見解もある。そこで，県内外の類例と比較することにより，黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡の粘土採掘坑について検討していきたい。なお，遺構の名称は，各報告書で異なるが，ここでは「粘土採掘坑」を用いる。

B　粘土採掘坑

黒河尺目遺跡　射水丘陵先端の舌状に延びた微高地上に位置する。粘土採掘坑は円形・楕円形の土坑が重複するもので，７群36基が検出されている。埋土は褐色シルト・黄褐色粘質シルトをブロック状に含む黒褐色シルトである。底面は粘土層を掘り抜き，下層の砂質シルト層との境目まで達している。遺物は，埋土中～上位にかけて土器・石器がみられ，大半は破片であるが，ＳＫ1530の底部からは，ほぼ完形の鉢が３個体並んで出土しており，「埋設」したものと考えられる。遺物からは縄文中期後葉～後期前葉を主体とする時期のものと考えられる。

黒河中老田遺跡　丘陵裾の低地部，旧扇状地端部に位置する。古墳時代の粘土採掘坑は埋没した旧河道上で，帯状に分布する円形・楕円形・不整形の採掘坑を115基検出している。これらの採掘坑は単独のものと，重複するものとがあり，後者は既存の採掘坑が掘り終わると壁を壊しながら横へ掘り広げたと考えられるものである。埋土はブロック土で，灰白色粘土と黒褐色粘土の混合土を主体としている。遺物は埋土下～中位にかけて土器・板材が出土している。土器は甕が９割をしめ，ほぼ完形で据え置かれたような状態のまま出土するものが多くみられた。また，「掘削具」として鍬と考えられる木製品や撥型の打製石斧が出土している。当初打製石斧は縄文の混入品かと思われたが，古墳時代前期頃[注1]まで「石鍬」としての打製石斧がみられることから，粘土採掘に伴うものと判断した。出土土器から粘土採掘坑の時期は古墳時代前期と考えられ，比較的短期間の間に採掘されたと想定される。

古代の粘土採掘坑は旧河道の肩部で３基検出された。古墳時代のものと同様に複数の坑が重複するものと単独のものが



第142図　黒河中老田遺跡埋土別遺構図

ある。埋土はブロック土である。にぶい黄色粘土を採掘しており，古墳時代のように集中的な採掘は行われず，採掘場を移動させたと想定される。遺物は土器・木製品があり，先端を刃状に加工した棒状のものは「掘り棒」と考えられる。また，須恵器制作に使用したと考えられる木製の叩き板が出土しており，須恵器制作に伴うものと推定している。

C　県内例

黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡の所在する射水丘陵周辺において，粘土採掘坑が確認された遺跡は19遺跡あり，時期は弥生～古墳時代３例，古代16例，中世・近世１例，不明２例である。

畑総No.15遺跡[注2]台地縁辺に位置する。古墳時代～中世の複合遺跡で，炭焼窯に隣接して２基の粘土採掘坑が検出されている。採掘された粘土は窯構築または補修材としての用途が考えられている。

塚越Ａ遺跡[注3]台地縁辺に位置する弥生時代・古代・近世の複合遺跡。弥生時代及び奈良時代の粘土採掘坑が約85基検出されている。弥生時代のものは埋没谷に面した斜面に位置し，白黄色粘土を採掘し，奈良時代のものは炭焼窯に隣接しており，黄褐色砂質粘質土を採掘している。遺物は弥生時代のものは完形に近い状態で散発的に埋土から出土し，器種は甕・壺に限られる。奈良時代のものは，埋土中～上位から須恵器・羽口・鉄滓等が出土している。いずれも短期間に営まれたものと考えられる。採掘された粘土は弥生時代は土器制作用に，奈良時代は製鉄炉炉壁材と想定されている。

石太郎Ｃ遺跡[注4]丘陵先端の台地上に位置する古代の生産遺跡で，炭焼窯・製鉄炉が検出されている。炭焼窯からやや離れて粘土採掘坑５基があり，採掘された粘土は炭焼窯の修復や製鉄炉の構築に使用されたと考えられている。

東山Ⅰ遺跡[注5]丘陵先端の台地上に位置する。奈良時代の製鉄炉に隣接して粘土採掘坑１基がある。採掘された粘土は製鉄炉炉壁材に使用されたと考えられる。

石太郎Ⅰ遺跡[注6]丘陵先端の台地上に位置する古代の生産遺跡。須恵器窯に隣接して１基，炭焼窯２基の奥壁に接して大型の土坑２基があり，粘土採掘坑と考えられる。

野田Ａ遺跡[注7]丘陵先端の台地上～裾部に位置する古代の生産遺跡。炭焼窯からやや離れて８基の土坑があり，粘土採掘坑と考えられる。

小杉丸山遺跡[注8]丘陵縁辺の樹枝状に入り込んだ谷に面した斜面に位置する弥生～古代の複合遺跡。谷筋及び斜面地に粘土採掘坑群が検出されている。弥生時代中～後期・古墳時代前期・飛鳥時代後期の各時期のものが確認されている。飛鳥時代のものは，粘土採掘坑のある斜面で同時期と思われる瓦陶兼業窯が検出されており，須恵器・瓦制作用の粘土採掘坑と推定されている。また，炭焼窯・製鉄関連遺構の他，竪穴住居跡が確認されており，丘陵上は須恵器・鉄などの生産遺跡とそれに伴う工人集落と考えられる。丘陵裾の谷部は弥生時代以降古代までの断続的な粘土の採掘場となっている。遺物は土器の他に弥生時代後期～古墳時代前期の粘土採掘坑に伴い，鋤・掘り棒などの掘削具，桶などの容器，竪杵などの木製品が出土している。

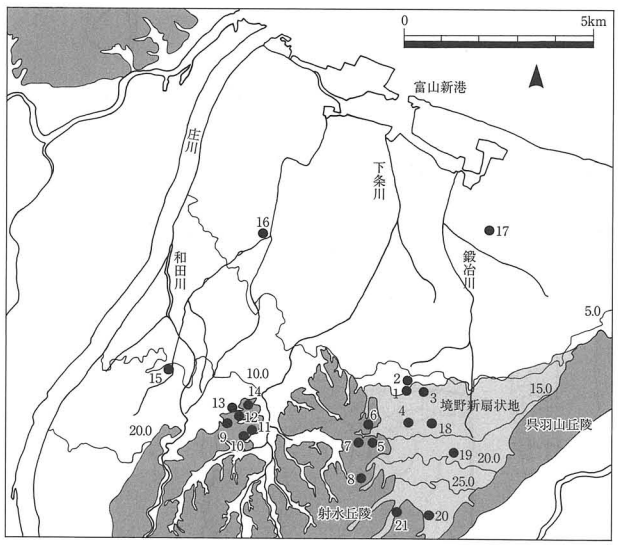
小杉流通業務団地内（以下流団）No.19遺跡[注9]丘陵縁辺の樹枝状に入り込んだ谷に面した斜面に位置する。縄文時代・奈良時代の複合遺跡で，竪穴住居跡・掘立柱建物からなる集落跡のある斜面上で，砂質粘土を採掘したと考えられる粘土採掘坑２基が検出されている。出土遺物はなく，時期不明。

流団No.18Ａ遺跡[注10]丘陵縁辺の樹枝状に入り込む谷に面した斜面に位置する古代遺跡。須恵器窯・土師器窯，住居・工房と考えられる集落跡が検出されており，須恵器窯に伴い粘土採掘坑３基がある。

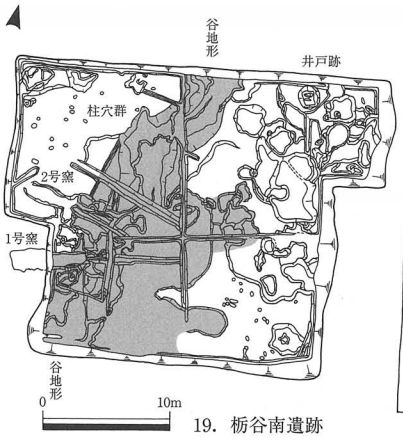
流団No.16遺跡[注11]丘陵縁辺の斜面～谷頭に位置する。須恵器窯３基と工房と考えられる集落跡を検出している。須恵器窯に隣接して粘土採掘坑６基があり，採掘した粘土は窯の構築材・補修材と考えられ

No.	遺跡名	所在地	時代	遺構	形態	断面	採掘土	文献	備考
1	黒河尺目遺跡	射水郡小杉町黒河	縄文(中～後)	粘土採掘坑　7群36基	不整形	円筒状？	灰褐色粘土		打製石斧、底面から完形の土器出土
2	黒河中老田遺跡	射水郡小杉町黒河	古墳前期	旧河道上に粘土採掘坑群	不整形・重複	円筒状、底面平坦	灰白色粘土		打製石斧、底面付近から完形の土器、板材出土
			古代	旧河道肩に粘土採掘坑　3基	不整形・単独	底面起伏	にぶい黄色粘土～粘質土		木製掘り棒、叩き板
3	畑総No.15遺跡	射水郡小杉町中老田新	古代	炭焼窯に隣接して粘土採掘坑　2基	楕円・不整形		灰黄色粘質土？	2000　塚越貝坪遺跡・畑総No.15遺跡発掘調査概要	
4	塚越A遺跡	射水郡小杉町塚越	弥生(中～後)	谷筋　粘土採掘坑　85基	円・不整形・重複	円筒状、フラスコ状、底面起伏	白黄色粘土	1992　古沢バイパス関連遺跡発掘調査報告	埋土中から完形に近い土器
			奈良	炭焼窯・製鉄炉に隣接	円・不整形・単独		黄褐色砂質粘土		埋土中～上、廃棄
5	石太郎C遺跡	射水郡小杉町黒河	古代	炭焼窯に隣接して粘土採掘坑　4基	方・不整形			1983　県民公園太閤山ランド内遺跡群調査報告(2)	
6	東山Ⅰ遺跡	射水郡小杉町黒河	奈良	製鉄炉に隣接して粘土採掘坑　1基	不整形・重複			1983　七美・太閤山高岡線内遺跡群	
7	石太郎Ⅰ遺跡	射水郡小杉町黒河	古代	須恵器窯に隣接して粘土採掘坑　1基、炭焼窯奥壁側に2基	不整形			1992　石太郎Ⅰ遺跡・石太郎Ⅰ遺跡	失敗品を廃棄
8	野田A遺跡	射水郡小杉町黒河	奈良	炭焼窯に隣接して粘土採掘坑　8基	円・楕円	底面起伏		1983　県民公園太閤山ランド内遺跡群調査報告(2)	
9	小杉丸山(流団No.21)遺跡	射水郡大門町水戸田 射水郡小杉町青井谷	古墳前期 白鳳	瓦陶兼業窯の斜面下の谷筋に粘土採掘坑　70基	円・楕円・不整形	円筒状、ロート状	灰白色～暗灰白色粘質土	1983　小杉流通業務団地内遺跡群第5次緊急発掘調査概要	
			飛鳥後(7C)	谷筋じ粘土採掘坑群　3箇所	不整形・重複			1984　小杉流通業務団地内遺跡群第6次緊急発掘調査概要	
			弥生(中～後) 飛鳥後(7C)	瓦陶兼業窯の東側斜面に粘土採掘坑群	円・不整形・重複		灰白色粘土	1985　小杉流通業務団地内遺跡群第7次緊急発掘調査概要	谷から鋤5、掘り棒6、桶状4他木製品多数
			飛鳥	炭焼窯前庭部に重複して粘土採掘坑　1基	不整形	底面起伏		1986　小杉流通業務団地内遺跡群第8次緊急発掘調査概要	
			古墳前期 飛鳥後～白鳳	炭焼窯・製鉄炉のある斜面下の谷筋に粘土採掘坑群	不整形	底面起伏	黄褐色粘質土？		底面付近から完形に近い土器出土
10	流団No.19遺跡	射水郡小杉町青井谷	不明	粘土採掘坑　2基	不整形		砂質粘土	1989　小杉流通業務団地内遺跡群第9次緊急発掘長砂概要	
11	流団No.18A遺跡	射水郡小杉町青井谷	奈良	土師器・須恵器窯のある丘陵斜面、須恵器窯に隣接して粘土採掘坑　3基	不整形			1993　小杉流通業務団地内遺跡群第10・11次緊急発掘調査概要	
12	流団No.16遺跡	射水郡大門町水戸田 射水郡小杉町青井谷	奈良(8C前)	須恵器窯に隣接して粘土採掘坑　6基	不整形	袋状		1984　小杉流通業務団地内遺跡群第6次緊急発掘調査概要	
13	流団No.7遺跡	射水郡大門町水戸田	古墳(6C末～7C)	住居跡に隣接して粘土採掘坑　6基	円形・重複	フラスコ状	白色砂質土	1982　小杉流通業務団地内遺跡群	
			奈良・平安	須恵器窯に隣接して粘土採掘坑　1基	不整形		灰白色粘質土	第3・4次緊急発掘調査概要	
14	石名山窯跡	射水郡大門町水戸田	奈良(8C前)	須恵器窯に隣接して粘土採掘坑　3基	不整形・重複	底面起伏		1986　石名山窯跡発掘調査報告	失敗品を廃棄
15	布目沢北遺跡	射水郡大門町布目沢、堀内	不明	溝の肩部落ち込み状の（粘土）採掘坑？　1基	不整形・重複？			1991　大門町企業団地内遺跡発掘調査報告(1)	
16	北高木遺跡	射水郡大島町北高木	古代	粘土採掘坑　15基	不整形			1995　富山県大島町　北高木遺跡発掘調査報告書	
17	下村加茂遺跡	射水郡下村加茂	中世(14C後～15C)	館跡内に粘土採掘坑　15基	方・円形・単独	円筒状、オーバーハング、底面平坦		1998　下村加茂遺跡	
			近世(17C)	道路跡の両側6ｍ幅で粘土採掘坑群（90基以上）	楕円・方形・単独	円筒状、底面平坦	砂・シルト質砂	1999　富山県射水郡下村　下村加茂遺跡発掘調査報告	
18	中老田C遺跡	富山市中老田	奈良	炭焼窯に隣接して粘土採掘坑　25基	円・楕円・不整形	フラスコ状、底面平坦・起伏	灰白色粘土	2000　富山市中老田C遺跡発掘調査報告書	鉄滓・不要な土器を廃棄
19	栃谷南遺跡	富山市栃谷	奈良	瓦陶兼業窯のある斜面を挟んだ谷筋(対岸)に粘土採掘坑　約30基	円・楕円・不整形	フラスコ状、底面平坦	灰白色粘土	2002　富山市栃谷南遺跡発掘調査報告書Ⅲ	失敗品を廃棄
20	御坊山遺跡	富山市平岡	奈良・平安	炭焼窯奥壁側に粘土採掘坑　2基	円形・重複		灰白色粘土～砂質粘土	2002　富山市御坊山遺跡発掘調査報告書	
21	開ヶ丘中山Ⅰ遺跡	富山市開ヶ丘	奈良(8C後)	炭焼窯奥壁側に粘土採掘坑　1基	不整形	円筒状、底面平坦		2002　富山市開ヶ丘中山Ⅰ遺跡・開ヶ丘中山、道跡・開ヶ丘中山中遺跡・開ヶ丘孤谷遺跡発掘調査報告書	

第27表　県内粘土採掘坑一覧（射水丘陵周辺）

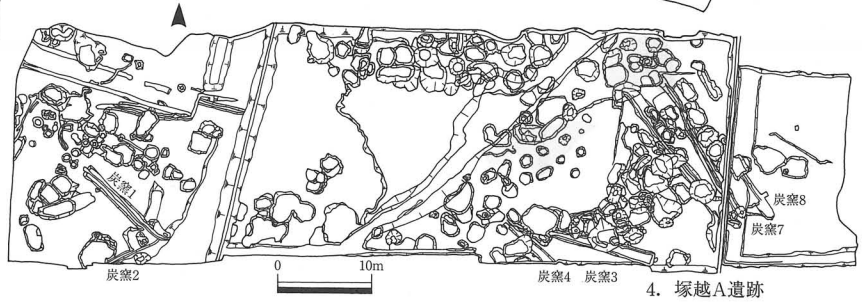


第143図　遺跡位置図



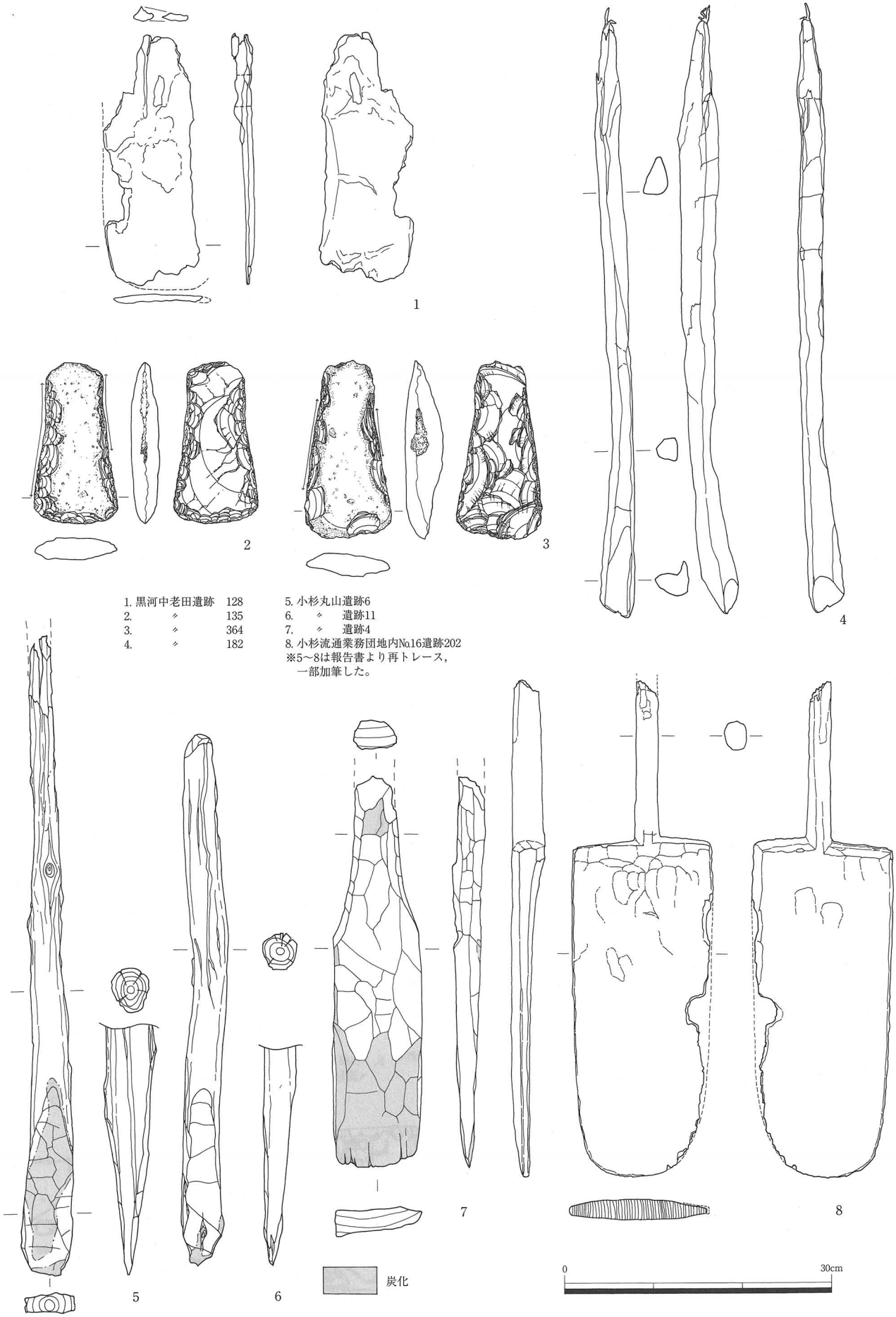
19. 栃谷南遺跡

9. 小杉丸山遺跡（流団No.21遺跡）



4. 塚越A遺跡

第144図　主な粘土採掘坑



1. 黒河中老田遺跡　128
2.　〃　135
3.　〃　364
4.　〃　182
5. 小杉丸山遺跡6
6.　〃　遺跡11
7.　〃　遺跡4
8. 小杉流通業務団地内No.16遺跡202
※5～8は報告書より再トレース，
一部加筆した。

第145図　掘削道具（1/6）

1．鍬状　2・3．石鍬　4～6．掘り棒　7・8．鋤

ている。遺跡内では須恵器の原料としての粘土採掘坑や粘土の集積場所と考えられる遺構が確認されておらず，須恵器の成形までは他所で行い，№16遺跡では焼成を中心とする作業が行われたと想定されている。窯や集落のある斜面下の谷底から鋤が出土しており，周辺斜面の住居等からの廃棄遺物の可能性が高いとされる。

流団№７遺跡[注12]丘陵先端の台地上に位置する縄文～古代の複合遺跡。尾根を挟んで西斜面に須恵器窯群，東斜面に古墳時代の集落跡が検出され，須恵器窯に隣接して１基，竪穴住居跡に隣接して６基の粘土採掘坑がある。古代のものは灰白色粘質土，古墳時代のものは白色砂質土を採掘している。

石名山窯跡[注13]丘陵縁辺に位置する須恵器窯跡。粘土採掘坑３基は並行する２基の窯の間で検出されている。採掘された粘土は窯の補修材として用いられたと推定されている。

布目沢北遺跡[注14]扇状地端部に位置する弥生～近世の複合遺跡。谷地形に並行する溝の先端にある落ち込み状の遺構１基が「土取り穴」と推定されている。時期は不明である。

北高木遺跡[注15]扇状地端部に位置する。古代を主体とする縄文～中世の複合遺跡。遺跡東端の川に面した地区で，（粘）土採掘坑と推定される土坑15基が検出されている。

下村加茂遺跡[注16]沖積平野のほぼ中央，海抜１ｍ以下の低湿地帯に位置する。弥生～近世の複合遺跡である。粘土採掘坑は中世は館跡内で15基，近世は道路跡に沿って約90基が検出されている。近世のものは，川に沿う幅２ｍの道路の両側に幅約６ｍ，長さ200ｍ以上に渡り整然と並んでいる。特定の土の採掘を目的としたものではなく，集落（宿場）の建設・街道の造成という大規模な土木工事のために大量の土砂を必要としたことから，組織的に行われたと推測されている。

中老田Ｃ遺跡[注17]扇状地端部に位置する古代の生産遺跡である。鋳造遺構・製鉄炉・炭焼窯等からなる製鉄遺跡で，炭焼窯に隣接して25基の粘土採掘坑が検出されている。灰白色粘土を採掘しており，炭焼窯の壁材として用いられたと考えられている。

栃谷南遺跡[注18]扇状地端部に位置する。谷地形を利用した瓦陶兼業窯・土師器焼成遺構・井戸の他，窯のある斜面から谷底を挟んで，約30基の粘土採掘坑が検出されている。灰白色粘土を採掘しており，胎土分析の結果，瓦の原料としていたことが明らかにされている。焼成失敗品が廃棄されている。

御坊山遺跡[注19]扇状地頂部付近の低丘陵に位置する縄文～古代の複合遺跡。炭焼窯２基・製鉄炉が検出され，炭焼窯の奥壁側に接するように粘土採掘坑２基がある。灰白色粘土～砂質粘土を採掘しており，炭焼窯の煙道・天井等の構築に使用されたと考えられている。窯の奥壁に接して粘土採掘坑を設けるタイプは，初期の炭焼窯構築に伴うものと捉えられている。

開ヶ丘中山Ⅰ遺跡[注20]丘陵縁辺に位置する古代の生産遺跡。炭焼窯の奥壁に接して粘土採掘坑１基が検出されている。採掘された粘土は炭焼窯の構築に使用されたと考えられている。

県内例の大半は古代に属するもので，須恵器・瓦窯または炭焼窯・製鉄炉等と同一の地形上であったり，窯跡群の位置する丘陵の縁辺に立地することから，須恵器や瓦生産及び窯・炉の構築のための粘土採掘坑と理解されている。これに対し，古墳時代以前のものは集落の縁辺に位置するものと，集落から離れて土坑群のみが検出されるものとがある。後者は塚越Ａ・小杉丸山遺跡があり，谷地形に不整形土坑が密集するものである。黒河尺目遺跡及び黒河中老田遺跡（古代）の例は調査地区内に同時期の遺構が検出されており，周囲に集落の存在が想定されることから前者に，黒河中老田遺跡（古墳時代）の例は旧河道上での土坑群のみの検出であることから後者にあたる。

Ｄ　県外例

富山県外において粘土採掘坑の確認された遺跡は，縄文時代から近世に至るまで多くの報告がある。

ここでは，主に黒河中老田遺跡（古墳時代）の粘土採掘坑にみられるような古墳時代以前のものについてみていきたい。

多摩ニュータウン遺跡群[注21]東京都の多摩丘陵西部では，縄文時代から近世に及ぶ多くの遺跡で粘土採掘坑が検出されている。この地域は古代の南多摩窯跡群に含まれており，縄文時代以来の粘土産出地に古代の窯跡群が位置している。このことから，時代を超えた粘土に対する遺跡の重層性が指摘されている。No.248遺跡は縄文中～後期の約5,500㎡に及ぶ大規模な露天掘りの粘土採掘坑群である。No.947・949遺跡は尾根を挟んだ東西両斜面を掘り抜いた古墳時代後期の粘土採掘坑群で，No.949遺跡では坑内より木製の鋤・掘り棒・ヘラ状木製品・藁製品が出土している。埋土下位からは完形に近い甕が多く検出されている。No.146遺跡は平安時代の粘土採掘坑群で，埋土の観察より採掘した粘土を溜め置く粘土土坑，また粘土の均質化を計る水簸を行った可能性が想定されている。

上信越自動車道関連遺跡群[注22]長野県北部の千曲川沿いに位置する高丘丘陵は古代の窯跡群の存在が古くから知られている地区である。この丘陵一帯で，縄文時代・古墳時代・古代の粘土採掘坑群が検出されている。沢田鍋土遺跡では谷に面した斜面で古墳時代前期の粘土採掘坑群が検出され，丘陵上では同時期の住居跡が確認されている。埋土から縄文土器や石器が出土することから，縄文時代の粘土採掘坑の存在が推定されている。沢田鍋土遺跡とは同一遺跡と考えられる清水山窯跡の粘土採掘坑群は縄文中～後期のもので，他集落の石器組成と比べ打製石斧が多く出土しており，周辺で住居跡が確認されていないことから粘土採掘のみに関わる空間であったとされている。

長原遺跡[注23]大阪府の大和川沿いの低地に位置する。弥生時代中期～古墳時代前期にかけての土坑204基が検出された。土坑は帯状の低地部に分布し，掘削深度は粘土層の深度や層厚に由来するものであること等から，粘土採掘坑と判断されている。出土遺物には甕が多く完形品に近いものがみられることについては，「採掘行為に伴う，あるいはこれに係わる祭祀行為」と考えられている。

筒江浦石遺跡[注24]兵庫県北部の円山川流域の谷に面した緩斜面に位置する。周辺には多くの古墳群が存在している。流路に挟まれた地点で粘土採掘坑182基が検出されている。出土遺物や他の遺構との関係から粘土採掘坑は古墳時代初頭の非常に短期間の間に営まれたものと推測されている。坑内からは完形に近い土器と板材を中心とした木製品が出土しており，土器の９割以上が甕である。

空港跡地遺跡[注25]香川県東部の高松平野に位置する。弥生時代後期～古墳時代前期にかけての400基余の土坑群が検出されている。強粘性の黄色系粘土の分布域と土坑群の分布域とはほぼ一致しており，土坑の掘削深度と粘土層の層厚との間に相関的関係が認められるとし，粘土採掘坑と理解されている。粘土採掘坑の半数近くから，甕を主体とした土器が出土しており，完形に近い土器がみられる。

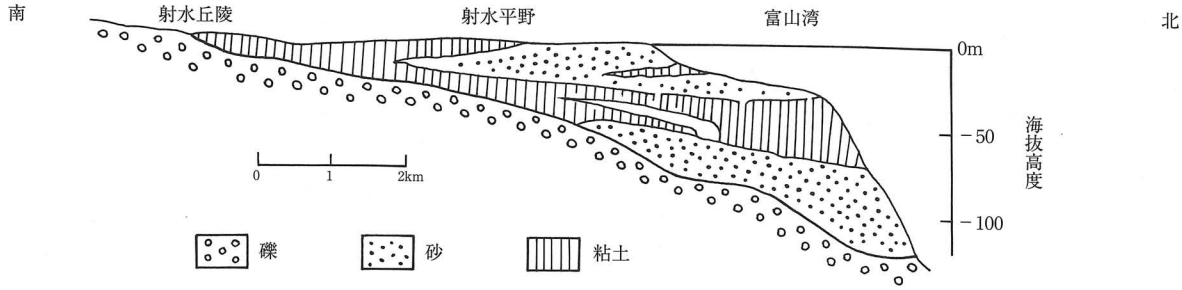
福岡遺跡[注26]鳥取県西部の淀江平野中央にあり，扇状地扇端部に位置する。自然流路と人為的な溝に囲まれるように粘土採掘坑313基が検出されている。弥生中期後葉を主体とするもので，一部古墳時代のものが含まれる。坑内から土器・木製品が出土しており，木製品には掘削具と考えられる鍬・掘り棒・掘削具に転用したと考えられる櫂があり，「壁体を突き崩し土坑を掘り広げる」使用方法が推定されている。また，編籠が採掘坑底部付近から出土している。

E　他遺跡との比較

発掘調査の対象が台地上に限定されず，谷部や低地にまで拡大されるようになった1980年代以降，粘土採掘坑は各地で確認されるようになり，特殊な遺構ではなくなってきている。これらの遺跡にみられる特徴には，地域や時代を超えて共通する点が挙げられる。そこで，粘土採掘坑が確認された各遺跡について，黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡の例と以下の諸要素について比較・検討してみたい。

立地　粘土採掘坑が立地する場所は，台地縁辺や開析谷の斜面地，沖積平野，扇状地扇端部など様々で遺跡によって異なっている。長原遺跡では微地形をコンターで示し，粘土採掘坑の分布は微地形の低地部を意図的に選択しており，類例との比較から「段丘上の谷地形などに堆積した粘土層の分布域や沖積地の比較的浅い位置で埋没する段丘粘土層が検出される地区にあることで共通」するとされる。粘土採掘坑の平面的な分布は，各遺跡における粘土層の分布域と密接な関係にあり，地形及び地質による選地が行われているといえる。

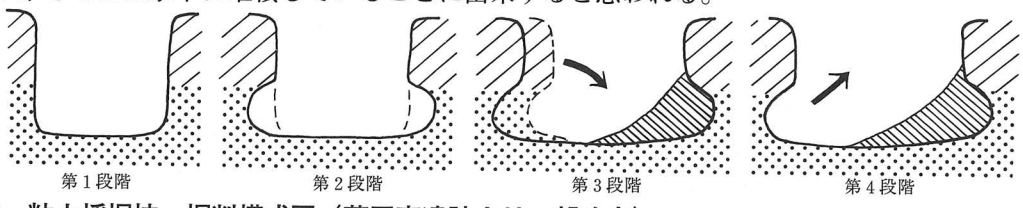
黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡も同様に，丘陵先端の微高地上から低地にかけて位置する。両遺跡周辺の射水丘陵先端部には境野新扇状地の上に第一礫層，下部砂層，中部泥層，上部砂層，最上部泥層の順で堆積しており，礫層より上は30～200cmの厚さの砂と泥（粘土）の互層となっている[注27]。両遺跡では，この最上部泥層にあたる粘土を採掘している。また，黒河中老田遺跡（古墳時代）は丘陵裾の低地に位置し，粘土採掘坑は旧河道（埋没谷）上に帯状に分布している。この旧河道左岸の自然堤防帯を境に粘土採掘坑は検出されず，粘土採掘坑の分布西端ラインは，基盤の灰白色粘土層と砂混じりの粘質シルト層の平面分布のラインと一致しており，灰白色粘土の分布域に規制を受けている。



第146図　射水平野断面模式図（10万1富山県地質図説明書より一部改変）

形態　粘土採掘坑の平面形態は円形・楕円形・隅丸方形・不整形と各遺跡とも様々である。平面規模は径１～２ｍ前後を平均とするが，５ｍを超える大型のものもあり一様ではない。また，単独のものと重複するものとがあり，後者には塚越Ａ遺跡のような４～５基を単位とするものから，多摩ニュータウンNo.248遺跡のように斜面地で露天掘りすることで500㎡を超える大規模な粘土採掘坑群を形成するものがあるが，大規模な群となるものも単独若しくは小規模な採掘坑の連続によるものである。断面形は円筒状・逆台形状・フラスコ（袋）状で，底面は起伏にとむものと平坦なものとがあり，空港跡地遺跡・上中遺跡[注28]などで底や壁に掘削具の痕跡が認められている。フラスコ状のものについては，粘土採掘坑とする根拠の１つに挙げられることが多いが，遺跡によっては確認されていない遺跡もある。掘削深度については，長原遺跡の分析で粘土層の層厚に由来するものとされている。

黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡の粘土採掘坑は平面円形・楕円形・不整形を呈し，規模は径0.8～４ｍで，１～２ｍ前後のものを主体としている。断面形は黒河尺目遺跡で円筒状・すり鉢状，黒河中老田遺跡（古墳時代）で円筒状を呈するものが多く，若干オーバーハングしているものがあるが，明確にフラスコ状となるものは確認されていない。掘削深度は，黒河尺目遺跡で0.3～0.8ｍ，黒河中老田遺跡で0.4～0.7ｍを測る。底面はやや起伏にとむが，大半は平坦である。これは，周辺の粘土層が0.3～２ｍの厚さでほぼ水平に堆積していることに由来すると思われる。



第147図　粘土採掘坑・掘削模式図（薮田東遺跡より一部改変）

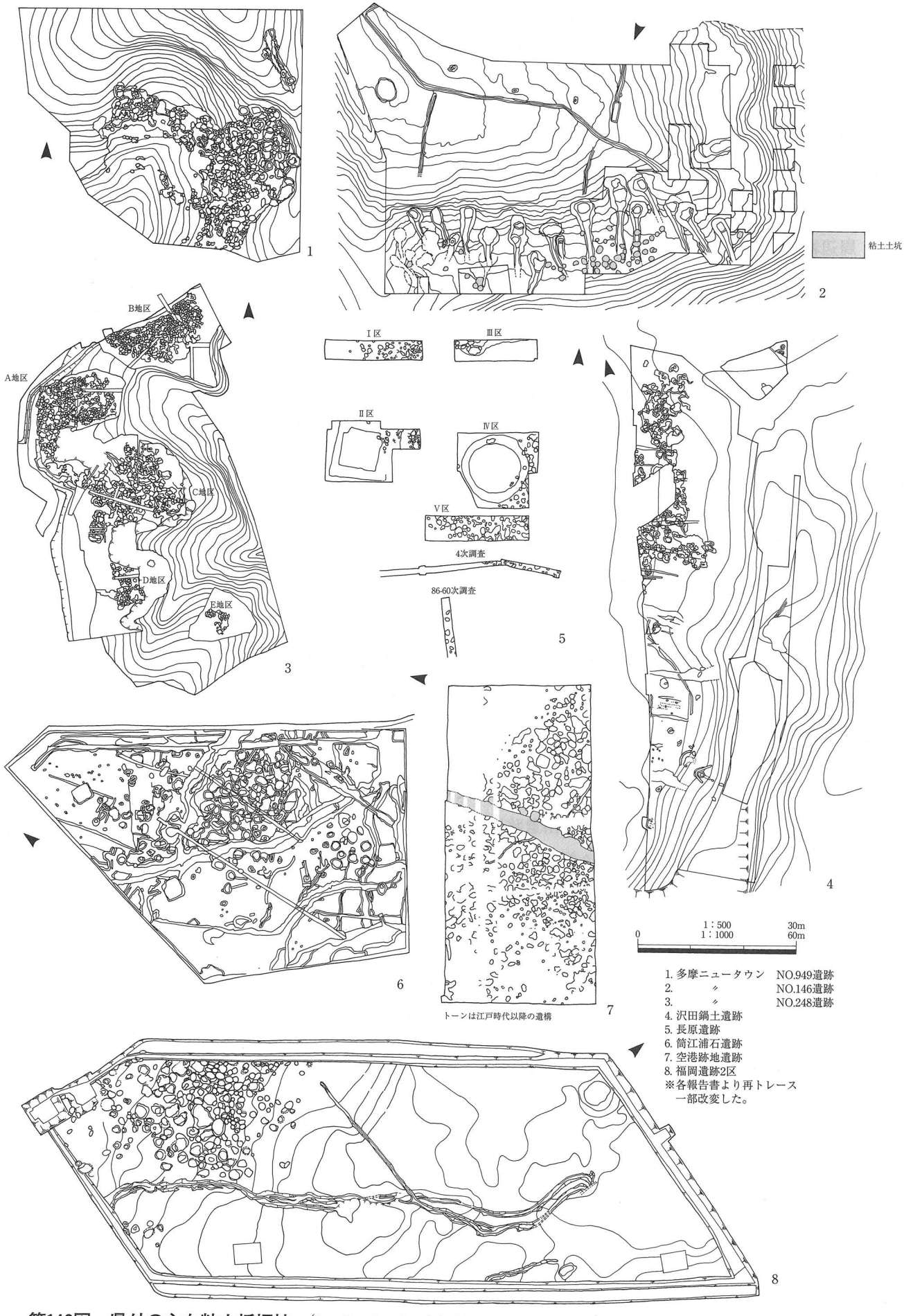
埋土　各遺跡において埋土は基盤層をブロック状に含むものが主体となっている。藪田東遺跡[注29]では粘土の採掘方法を「第１段階　縦坑の掘削の後，底部の粘土の採掘。第２段階　壁部分の粘土の採掘。第３段階　採掘坑の拡張及び旧坑の埋め戻し。第４段階　拡張部分の採掘。」の４段階で示しており，人為的な埋め戻しを想定している。これに対し空港跡地遺跡・多摩ニュータウンNo.146遺跡（以下，No.146遺跡）では，埋土は壁の崩落などによる自然堆積と考えている。自然堆積の場合，埋没状態について，徐々に埋没したとする（空港跡地遺跡・城山遺跡[注30]）見解と，比較的短期間の間に埋没したとする（No.146遺跡）見解とがある。また，No.146遺跡では粘土を溜め置く粘土土坑を検出している。これは採掘終了後に坑道部に集中的に作られ，規模や埋土においては他遺跡の粘土採掘坑と何ら変わりはみられないが，坑内の粘土が上層は粘土質，下層はシルト質と分層されるものがあり，粘土の均質化を図り，水簸を行ったものと理解されている。

黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡の埋土は，他遺跡と同様にブロック土を主体とし，自然堆積を成すものは少ない。藪田東遺跡で示された採掘方法が当てはまると考えられることから，人為的埋め戻しを想定しているが，壁の崩落によるブロック土の混入の可能性も否定できない。しかしながら，いずれにしても掘削後は一気に埋まった状態を呈するもので，比較的短期間の間に埋没したものと考える。また，黒河中老田遺跡（古墳時代）の埋土は以下の３パターンに分かれる。Ａ：灰白色粘土をブロック状に含む混合土。Ｂ：下層に灰白色粘土を主とする混合土，上層は黒褐色粘土の単層，または混合土。Ｃ：黒褐色粘土の単層または混合土の中位に帯状に灰白色粘土・砂が堆積する。Ｂ・Ｃは旧河道の肩部に多くみられ，No.146遺跡の粘土土坑の埋土と類似しており，粘土土坑の可能性があると考える。また，Ｄの平面方形で壁下に溝を巡らせるタイプのものは水簸を行っている可能性を想定した。

遺物　遺物は土器・木製品・石器が出土している。土器は大半が破片の場合と，坑内の底部付近から完形に近い土器が出土する場合とがあり，後者では据え置かれたと思われる状態のものがある。土器の器種は弥生後期以降の上中遺跡・寺岡遺跡[注31]・長原遺跡・筒江浦石遺跡・空港跡地遺跡などで甕が主体となる傾向が認められる。完形に近い土器の出土や，人為的埋め戻しは「土坑墓」とする見解[注32]の根拠の一つともなっている。弥生後期頃を境として土坑周辺出土の土器が甕を主体とするものになることの背景について，福永氏は埋葬に伴う甕を使用する儀礼という共通の習俗の存在を想定している[注33]。また，京嶋氏は弥生後期～古墳前期にかけて甕に限定される傾向は当該時期の供献土器には認められず，主体部（棺・墓坑）内への土器供献（または副葬）は一般的な行為ではないとし，土坑墓を否定した上で，採掘行為に伴う何らかの祭祀行為の存在を想定している[注34]。

木製品は掘り棒・鋤・鍬の掘削具，桶などの容器，板材が主である。掘り棒は小杉丸山遺跡・No.949遺跡・福岡遺跡で出土しており，先端を刃状に加工した棒状木製品で，福岡遺跡では「壁体を突き崩し土坑を掘り広げる」使用方法を推定している。石器ではNo.248遺跡・沢田鍋土遺跡・清水窯跡で多量の打製石斧が出土している。茨城県東大橋原遺跡[注35]は縄文時代の粘土採掘坑が検出されており，打製石斧は掘削具，坑内の土器は土掘り具に密着する土を洗うためのものであると想定している。

黒河尺目遺跡では土器・石器が出土しており，大半は破片で埋土中～上位で出土しているが，ＳＫ1530では鉢３個体が互い違いに並んだ状態で検出され，何らかの祭祀行為が想定される。また，石器では包含層出土も含めると縄文中～後期の他遺跡と比べ，打製石斧が多い傾向にあり，粘土採掘に伴う掘削具と考える。黒河中老田遺跡（古代）では須恵器・木製品があり，木製品は掘り棒と須恵器制作に用いたと思われる叩き板が出土している。（古墳時代）では土器・木製品・石器が出土しており，木製品には板材・掘り棒・鍬がある。石器は打製石斧で，撥型のもので石鍬と考える。この石鍬の刃



1. 多摩ニュータウン　NO.949遺跡
2. 〃　NO.146遺跡
3. 〃　NO.248遺跡
4. 沢田鍋土遺跡
5. 長原遺跡
6. 筒江浦石遺跡
7. 空港跡地遺跡
8. 福岡遺跡2区

※各報告書より再トレース
一部改変した。

第148図　県外の主な粘土採掘坑（1・2・6～8　1/500，3～5　1/1000）

部幅は約10cmで，他遺跡出土の木製鍬・鋤の身幅が10～15cmであるのとほぼ一致する大きさである[注36]。土器は埋土中～下位にかけて検出され，底面近くから完形に近い土器が据え置かれたような状態で出土している。これらの土器の器種は甕・壺に限られ，甕は9割を超えており，甕の全てに日常的に使用されたと思われる煤・コゲの付着が認められる。また，甕の口径は15～20cm台がほとんどで，17～18.5cm台に集中することから，器種だけでなく法量的な選択も行われているといえるだろう。この甕の選択は何によるものであるかを検証するのは難しいが，東大橋原遺跡の縄文時代の粘土採掘坑で，土器は土掘り具に密着する土を洗うためのものと想定されている。黒河中老田遺跡の灰白色粘土及び周辺粘土は粘性が強く，調査時にはスコップを濡らして使用しないと粘土が密着して剥がれないという状態であった。甕の口径は17～18.5cm台が40%で主体を占め，掘削具の身幅が10～15cm台であるので，採掘時に掘削具を水に漬けるには調度良い大きさといえないだろうか。また，甕は完形のものの他に，縦半分の破片・胴部下半等の大型の破片でも出土しており，掘削具を濡らす，あるいは洗うために用いたという実用性もあるのではないかと思われる。採掘終了後，使用していた道具を廃棄したのか，何らかの祭祀行為により埋設したのかは，現時点では不明である。しかしながら，黒河中老田遺跡だけでなく，各時代・各地域の粘土採掘坑で埋土中から完形に近い土器や掘削具を含む木製品が出土するのは共通してみられる現象であり，そこに何らかの慣習が存在するのであろう。

F　まとめ

これまで，立地・形態・埋土・遺物等の諸要素から黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡の粘土採掘坑について，県内外の類例と比較・検討を試みた。その結果，黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡例を粘土採掘坑と理解することに整合性があると思われる。黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡（古代）は，同時期の遺構が検出されており，集落の縁辺部に位置すると推定され，土器及び須恵器制作用の粘土採掘と考えられる。黒河中老田遺跡（古墳時代）は調査区内で同時期の他の遺構が検出されず土坑群のみの検出であるが，粘土層の分布する低地に立地すること，鍬・掘り棒等の掘削具が出土していること等から，粘土採掘に伴う作業場（採掘場）と理解した。また，黒河中老田遺跡では水簸を行ったと思われる土坑が検出されており，粘土の精製も行っていたと思われる。

最後に，黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡は周辺遺跡との係わりの上で，どのように位置付けられるのかをみてみたい。両遺跡のある射水丘陵先端部及び，丘陵からの河川により開析谷の発達した境野新扇状地端部では，多数の粘土採掘坑が確認されている。射水丘陵周辺では地質的に良質な粘土が堆積しており，古代以降，須恵器・瓦などの窯業が発展する大きな要因となっている。今回，黒河尺目遺跡で縄文時代，黒河中老田遺跡で古墳時代・古代の粘土採掘坑が確認されたことは，丘陵北部を中心とする一帯が良質な粘土の産出地として，時代を問わず粘土採掘が行われてきた地域であることを示しているといえる。古代の大規模な窯跡群中で，縄文時代，古墳時代と時代の異なる粘土採掘坑が確認されている遺跡は，多摩丘陵西部（東京），高丘丘陵（長野）などが知られており，これらはいずれも縄文中期，古墳時代前期の時期のもので，射水丘陵における黒河尺目遺跡，黒河中老田遺跡の粘土採掘坑の時期とも一致している。射水丘陵及び射水平野一帯では，気候の寒冷化と共に陸化が進む縄文海退の始まる縄文中期，及び低湿地（ラグーン）の陸地化が安定する弥生時代後期～古墳時代前期に掛けての頃は急激に遺跡数が増加している[注37]。黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡はこうした遺跡の増加期の粘土採掘坑で，各集落の土器作り用粘土の需要に応えるための採掘場であったと思われる[注38]。以上，県内外の類例との比較・検討を行ったが，先入観のため客観的な検討ができなかった所もある。粘土採掘坑の廃棄の理由や在地の土器生産との係わり等，再度検討したい。　（金三津道子）

遺跡名	所在地	遺　構	形　態	断　面	文　献	備　考
藪田東遺跡	群馬県月夜野町大字月夜野字藪田	台地縁辺～低地	平安		藪田東遺跡　1982（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団	甕多い
藪田遺跡	群馬県月夜野町大字月夜野字藪田	台地縁辺～低地	平安	粘土採掘坑群 11	藪田遺跡　上越新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告第４集 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団	
多摩ニュータウンNo.146 遺跡	東京都八王子市南大沢	谷戸に面する斜面	平安	粘土採掘坑群 28, 粘土土坑 54	多摩ニュータウン遺跡 昭和56年度（第１分冊）　1982 （財）東京都埋蔵文化財センター	木製足掛け具，鉄斧
多摩ニュータウンNo.947 遺跡	東京都町田市小山	谷戸に面する斜面	古墳後期	粘土採掘坑群 2	多摩ニュータウン遺跡　先行調査報告９　1998　東京都教育委員会・東京都埋蔵文化財センター	
			中近世	粘土採掘坑群 1		
多摩ニュータウンNo.949 遺跡	東京都町田市小山	谷戸に面する斜面	古墳後期	粘土採掘坑群		甕多い，鋤，掘り棒，藁製品
多摩ニュータウンNo.248 遺跡	東京都町田市小山	尾根と谷に挟まれた斜面	縄文中～後	粘土採掘坑群 6	多摩ニュータウン遺跡 No.247・248 遺跡　2000 東京都埋蔵文化財センター	丘陵斜面での露天掘り
			古代			
御殿・二之宮遺跡	静岡県磐田市御殿・二之宮	段丘微高地	弥生後～古墳前	粘土採掘坑群	御殿二之宮遺跡発掘調査報告 1992　磐田市教育委員会	甕多い，二叉鍬，多叉鍬，狭鍬，一木鋤，
沢田鍋土遺跡	長野県中野市大字立ヶ花字鍋土	丘陵縁辺	古墳前期	粘土採掘坑群 6	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 13　1997　長野県教育委員会・（財）長野県埋蔵文化財センター	甕多い
清水窯跡	長野県中野市大字立ヶ花字清水	丘陵上	縄文中～後	粘土採掘坑２基		打製石斧多い
池田端窯跡	長野県中野市大字立ヶ花字清水山裏	谷に面した斜面	縄文	粘土採掘坑９基		
			奈良・平安	粘土採掘坑 82 基		横瓶多い
上中遺跡	京都府北桑田郡京北町	台地縁辺	古墳前期	粘土採掘坑 38 基	京都府遺跡調査概報第 20 冊 1986　（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター	甕多い，板材
寺岡遺跡	京都府与謝郡野田川町	谷平野（沖積地）に張り出した段丘	弥生後～	粘土採掘坑 21 基	寺岡遺跡　京都府野田川町文化財調査報告第２集 野田川町教育委員会	甕多い
長原遺跡	大阪府大阪市平野区長吉長原	低地	弥生中～後	粘土採掘坑 204 基	長原遺跡発掘調査報告、　1991 （財）大阪市文化財協会	甕多い
東安堵遺跡	奈良県安堵町	沖積平野	弥生後～	土坑 228 基	東安堵遺跡　奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第 46 冊　1983 奈良県橿原考古学研究所	甕多い，鋤 粘土採掘坑？
筒江浦石遺跡	兵庫県朝来郡和田山町	谷に面した斜面	古墳初頭	粘土採掘坑 182 基	荒木幸治　2002「古墳時代初頭における粘土採掘坑とそれに伴う具体的活動」兵庫県埋蔵文化財研究紀要　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所	甕多い，鋤，板材
空港跡地遺跡	香川県高松市林町	沖積平野	弥生後	粘土採掘坑 400 基余	空港跡地遺跡発掘調査概報平成４年度　1993　香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財センター	甕多い
福岡遺跡	鳥取県西伯郡淀江町福岡	扇状地・扇端部	弥生前・中・古墳	粘土採掘坑 313 基	福岡遺跡　1992・福岡遺跡（６区）1993　（財）鳥取県教育文化財団	甕多い，鍬，掘り棒，掘削具に転用された櫂，編籠

第28表　主な県外粘土採掘坑一覧

注１　河合忍・安英樹　1999「石鍬雑考」『石川県考古資料調査・集成事業報告　農耕具』石川考古学研究会

注２　原田義範　2000『塚越貝坪遺跡，畑総No.15遺跡発掘調査概要』小杉町教育委員会

注３　越前慶祐他　1992『古沢バイパス関連遺跡発掘調査報告　黒河中老田Ｃ遺跡　塚越Ａ遺跡』富山県埋蔵文化財センター

注４　関　清　1983「石太郎Ｃ遺跡」『県民公園太閤山ランド内遺跡群調査報告（2）』富山県教育委員会

注５　神保孝造他　1983「東山Ｉ遺跡」『都市計画街路　七美・太閤山・高岡線内遺跡群発掘調査概要』富山県教育委員会

注６　池野正男　1992『ジャパンエキスポ関連遺跡群発掘調査報告書Ⅱ　石太郎Ｉ遺跡　石太郎Ｊ遺跡』富山県埋蔵文化財センター

注７　関　清　1983「野田Ａ遺跡」『県民公園対応山ランド内遺跡群調査報告（2）』富山県教育委員会

注８　小杉流通業務団地内遺跡群No.21遺跡を昭和59年に小杉丸山遺跡と改名した。
斉藤隆他　1983～1986『小杉流通業務団地内遺跡群第５～８次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会

注９　酒井重洋他　1989『小杉流通業務団地内遺跡群第９次緊急発掘調査概要』富山県埋蔵文化財センター

注10　池野正男他　1993『小杉流通業務団地内遺跡群第10・11次緊急発掘調査概要』富山県埋蔵文化財センター

注11　斉藤隆他　1984『小杉流注業務団地内遺跡群第６次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会

注12　上野章他　1982『小杉流通業務団地内遺跡群第３・４次緊急発掘調査概要』富山県教育委員会

注13　池野正男他　1986『石名山窯跡発掘調査報告』大門町教育委員会

注14　山本正敏他　1991「布目沢北遺跡」『大門町企業団地内遺跡発掘調査報告（1）』大門町教育委員会

注15　安念幹倫他　1995『北高木遺跡発掘調査報告書』大門町教育委員会

注16　久々忠義他　1999『下村加茂遺跡発掘調査報告』下村教育委員会

注17　古川知明　2000『中老田Ｃ遺跡発掘調査報告書』富山市教育委員会

注18　鹿島昌也　1999『富山市内遺跡発掘調査概要Ⅲ　栃谷南遺跡』富山市教育委員会
2002『富山市栃谷南遺跡発掘調査報告書Ⅲ』富山市教育委員会

注19　古川知明　2002『富山市御坊山遺跡発掘調査報告書』富山市教育委員会

注20　近藤顕子　2002『富山市開ヶ丘中山Ｉ遺跡　開ヶ丘中山Ⅳ遺跡　開ヶ丘中遺跡　開ヶ丘狐谷遺跡発掘調査報告書』
富山市教育委員会

注21　多数の粘土採掘坑が確認されている。下記の報告書はその代表的なものである。
斉藤進他　1982『多摩ニュータウン遺跡　昭和56年度』第１分冊　(財)東京都埋蔵文化財センター
宇佐美義春　1998『多摩ニュータウン遺跡　先行調査報告９』東京都教育委員会・(財)東京都埋蔵文化財センター
及川良彦他　2000『多摩ニュータウン遺跡　№247・248遺跡』　(財)東京都埋蔵文化財センター

注22　鶴田典昭他　1997「沢田鍋土遺跡・清水山窯跡・池田端窯跡」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書13』
長野県教育委員会・(財)長野県埋蔵文化財センター

注23　永島暉臣慎編　1991『長原遺跡発掘調査報告Ⅳ』(財)大阪市文化財協会

注24　荒木幸治　2001「古墳時代初頭における粘土採掘坑とそれに伴う具体的活動　兵庫県朝来郡和田山町筒江浦石遺跡の調査」
『兵庫県埋蔵文化財研究紀要』創刊号　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

注25　蔵本晋司他　1993『空港跡地遺跡発掘調査概要　平成４年度』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター

注26　西川徹他　1992『一般国道９号米子道路埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ　福岡遺跡』(財)鳥取県教育文化財団
太田正康　1993『一般国道９号米子道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ　今津塚田遺跡　福岡遺跡（６区)』
(財)鳥取県教育文化財団

注27　藤井昭二他　1992『１０万１富山県地質図説明書』富山県

注28　増田孝彦　1986「上中遺跡第３次」『京都府遺跡調査概報　第20冊』(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

注29　原雅信他　1982『藪田東遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

注30　阿部幸一他　1987『近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書　城山（その３)』
(財)大阪文化財センター

注31　奥村清一郎他　1988『寺岡遺跡』野田川町教育委員会

注32　多数の論考がある。
西口陽一　1990「畿内の群集土坑墓」『考古学研究』145号　考古学研究会
竹原一彦　1993「三宅遺跡の土壙群について」『京都府遺跡調査報告書　第18冊』(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
市本芳三　1994「大庭寺遺跡検出の『密集型土壙群』について」『大阪文化財研究』第６号　(財)大阪文化財センター

注33　福永伸哉　1989「古墳時代の共同墓地　密集型土坑群の評価について」『待兼山論叢』23号　大阪大学文学部

注34　京嶋覚　1991「群集土壙の性格と意義」『長原遺跡発掘調査報告Ⅳ』(財)大阪市文化財協会

注35　川崎純徳　1978～1980『石岡市東大橋原遺跡第１～３次調査報告』石岡市教育委員会

注36　鍬は身幅15cm前後を目安に「狭鍬」「広鍬」の二種に分けられるが，区別の目安はそれほど明確な基準は設けられていない。
黒崎直　1996『日本の美術№357　古代の農具』至文堂

注37　楠瀬勝　1997『小杉町史　通史編』小杉町役場

注38　各遺跡出土の土器の胎土分析及び，黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡の粘土の分析を行うことで，証明できると思われるが，今回の調査では，残念ながら土壌サンプルの採取をしておらず分析を行うことができなかった。